

化學的検査

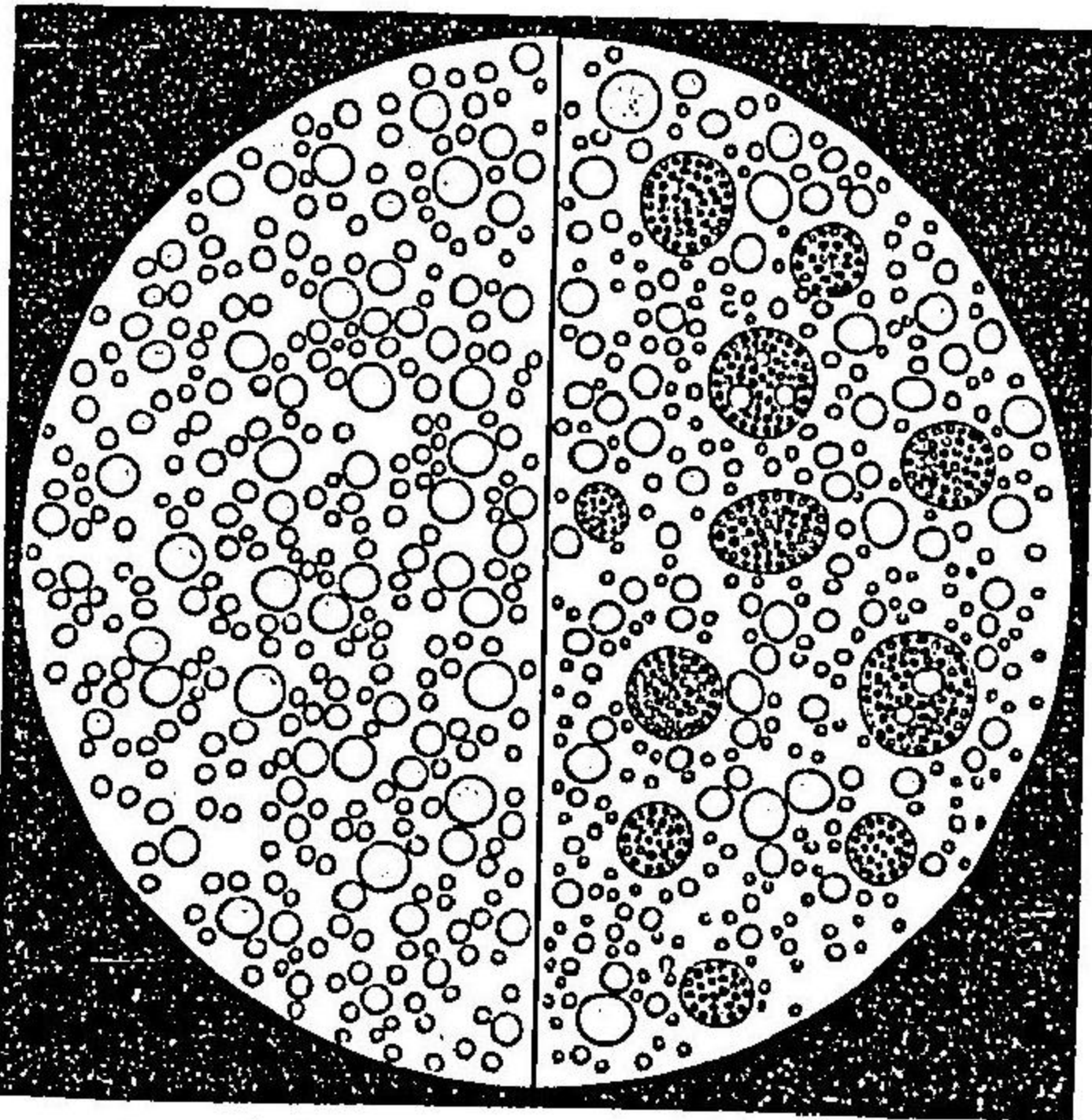
顯微鏡的検査

少スルキハ降テ一〇二〇若クハ其以下ト爲リ該成分増加スルキハ一〇四五或ハ其以上ニ上ル

化學的検査ニ於テハ主トシテ脂肪及乳糖ノ含量ヲ測定ス善良ナル乳汁ハ平均三・九%ノ脂肪及平均六%ノ乳糖ヲ含有セザル可カラズ但其檢定法ハ茲ニ之ヲ略ス

顯微鏡的検査ニ於テ證明スル者ハ赤血球(正常ナル乳汁中ニハ之ヲ見ズ)白血球(常乳中ニハ稀少ナリ其多量ナルハ炎症ノ徵ナリ)上皮細胞(稀有)脂肪及植物性寄生物ニシテ脂肪ハ之ヲ二種ニ區別ス即チ(一)ハ初乳小體 *ostrum körperchen* トシテ來ル大⁺三〇乃至四〇密倫ノ細胞ニシテ大小種々ナル

第四百七十一圖
初乳及乳汁ノ顯微鏡的所見



右半側ハ初乳ヲ示シ
左半側ハ尋常乳汁ヲ示ス

右半側ハ初乳ヲ示シ
左半側ハ尋常乳汁ヲ示ス

大⁺三〇乃至四〇密倫ノ細胞ニシテ大小種々ナル

多數ノ透明若クハ稍黃色ヲ帶ブル脂肪小滴ヲ含有シ(ニハ逆離^oノ脂肪小滴^o *freie Fettöpfchen* ナリ此者タル其大⁺極小ナル者ヨリ一〇密倫大ニ達スル者ニノ尋常ノ乳汁中ニハ主トシテ中等大ノ脂肪小滴ヲ含有セザル可カラズ若シ其甚⁺大ナル者若クハ甚⁺小ナル者ヨリ成ルキハ多クハ乳母ニ疾患アルノ徵候ト爲ス可シ(第四百七十一圖)植物性寄生物ハ只乳腺ノ炎症ニ來ル者ニシテ殊ニ化膿球菌ヲ見ルヲ多シトスルモ結核性婦人ニ在テハ又乳汁中ニ結核桿菌ヲ見ル⁺有リ

男女生殖器官ノ重要ナル疾病ニ於ケル症候ハ本編附録「應用診斷法」ニ就テ觀ル可シ

第六篇 神經系統診法

以上述べ來リタル諸器系統ノ診法ニ在テハ其診斷ノ眼目タル主トノ各臟器ノ解剖的變化ニ在リテ其變化ハ多クハ理學的検査ニ由テ之ヲ認識スルヲ得可ク只胃若クハ腎臟ノ如キ證明シ得キ一定ノ官能ヲ有スル者ニ在テハ胃液若クハ尿ノ化學的或ハ顯微鏡的検査ヲ行ヒ以テ其官能ノ障礙如何ヲ認識シ得可シト雖神經系統ノ診法ニ在テハ大ニ之ト其趣ヲ異ニシ該系統ニ在テハ臨牀上明白ニ區別セラル可キ特異ノ官能ヲ有スル組織交互相密集シ而シテ其解剖的變化ハ殆ド皆直ニ之ヲ診査スルヲ能ハズ其變化ハ主トノ官能障礙ノ如何ニ由テ之ヲ判定セザル可カラズ然レハ神經系統ノ診査ニ在テハ其解剖ニ精通シ且其生理的官能ヲ知悉スルヲ最モ肝要ナルヲ以テ茲ニ神經系統ノ診法ヲ論ズルニ當リ先之ニ要スル解剖及生理ノ梗概ヲ叙シ次デ腦髓及脊髓ノ局竈疾患ニ對スル局所的診斷ノ概要ヲ述ベントス

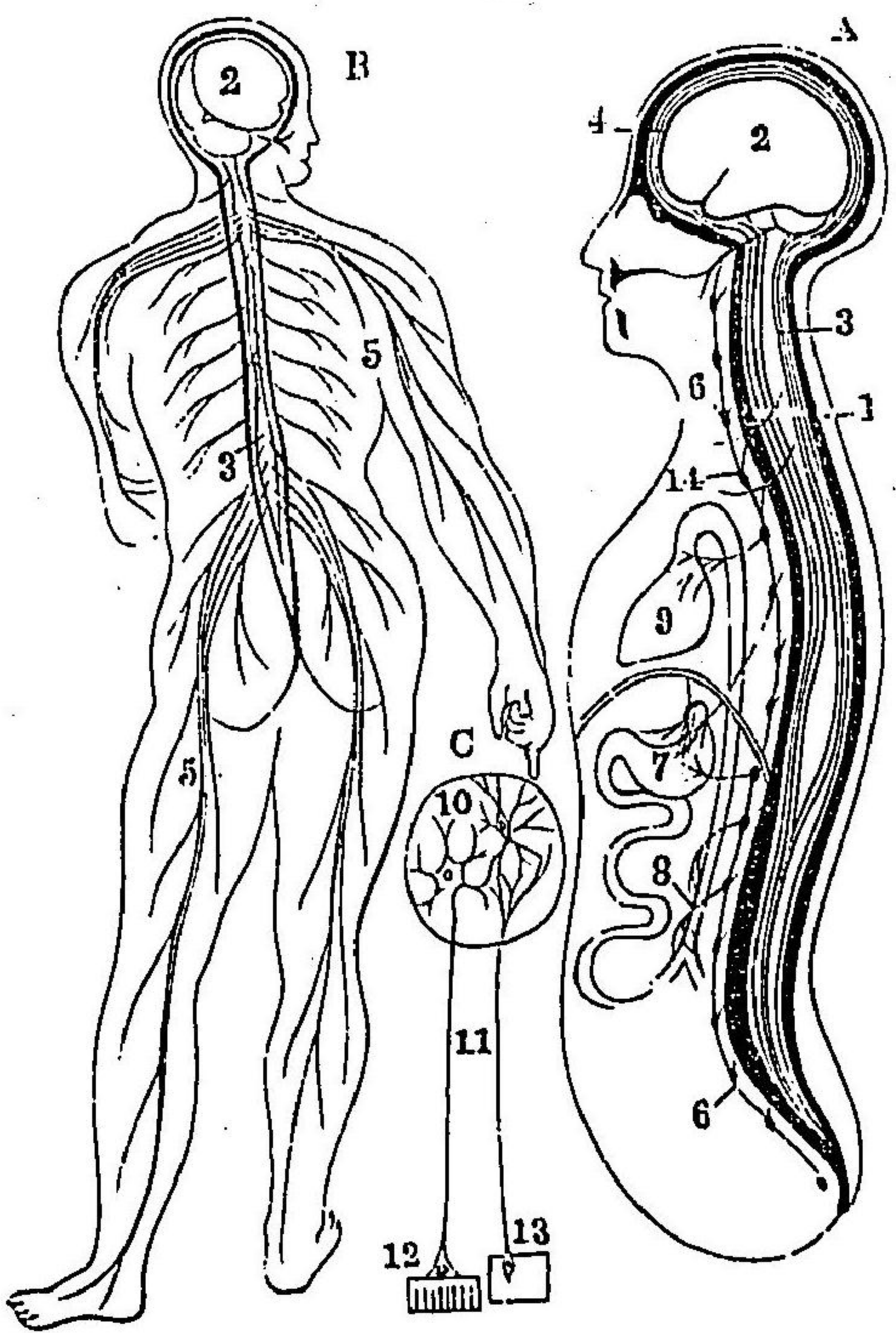
解剖及生理摘要

神經系統ノ解剖及生理ハ固ヨリ茲ニ詳論スルヲ能ハズト雖該系統ハ腦髓

神經系統ノ解剖及生理摘要

脊髓及末梢神經ノ三者ヨリ構成セラル、者ニ其疾患ヲ診斷スルニ當テハ殊ニ是等各部ノ生理的官能ヲ知悉スルヲ最モ緊要ナリトス今之ヲ區別シ

第四百七十二圖 神經系統ノ略圖



(1) 動物性神經 (2) 動物性神經 (3) 動物性神經 (4) 動物性神經 (5) 動物性神經 (6) 動物性神經 (7) 動物性神經 (8) 動物性神經 (9) 動物性神經 (10) 動物性神經 (11) 動物性神經 (12) 動物性神經 (13) 動物性神經 (14) 動物性神經

テ左ノ三部トス即チ(一)運動性徑路及中樞(二)知覺性徑路及(三)五官器ノ徑路及中樞是ナリ

(一) 運動性徑路及中樞

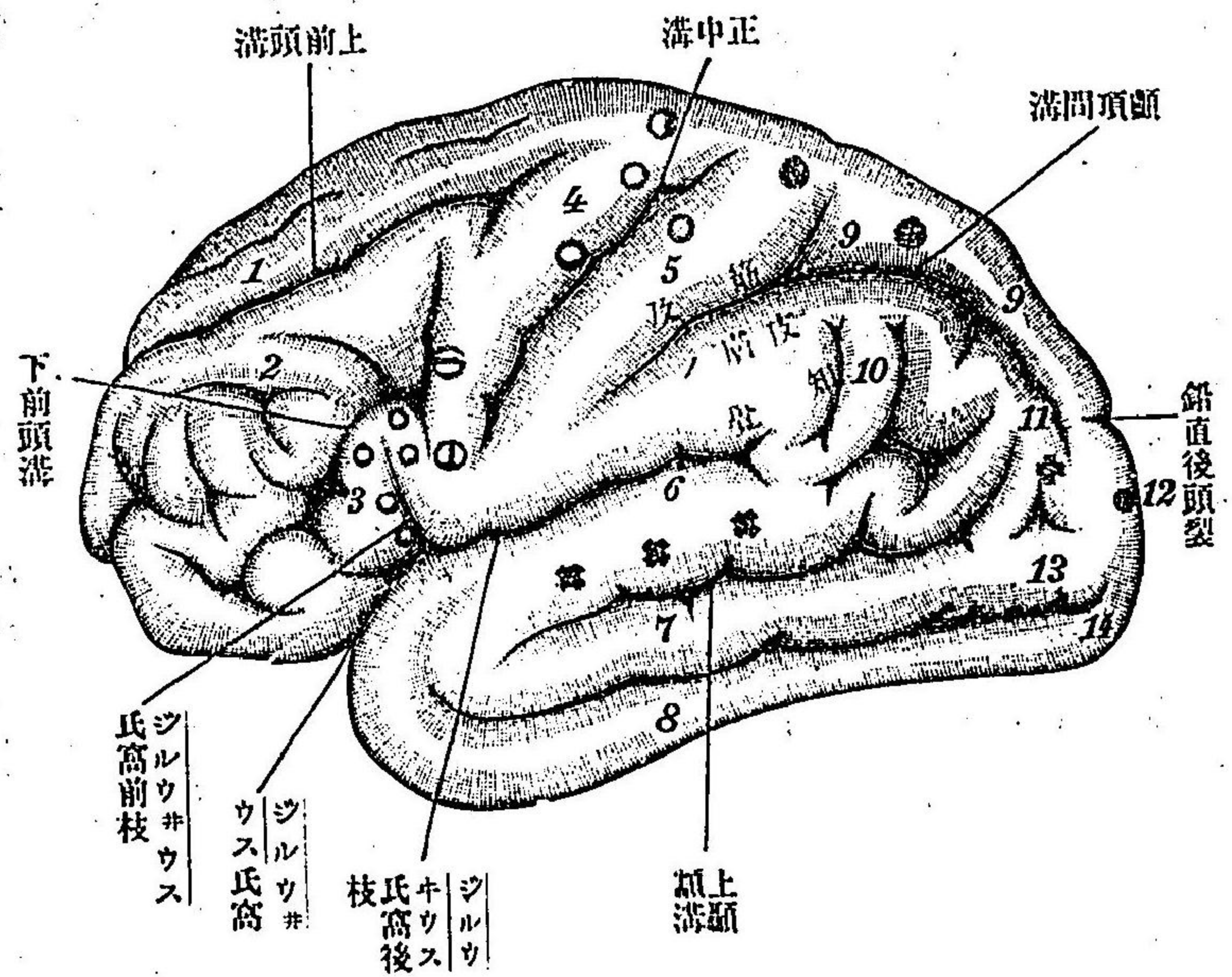
神經系統ノ解剖及生理摘要

運動性徑路 Die motorische Bahn ハ身體諸部ニ於テ中樞性及末梢性ノ二種ニ區別セラル

中樞性運動徑路即錐狀體徑路 Die centrale motorische Bahn, die Pyramidenbahn ハ其源ヲ大腦皮質ノ運動中樞 Motorische Centren 即精神運動中樞 Psychomotorische Centrumニ發スル者ニシテ此運動性中樞ハ大腦兩半球ノ前後兩正中廻轉及副正中葉ニ在リ尙之ヲ細別スレバ喉頭舌及顔面ノ運動中樞ハ主トシテ前正中廻轉ノ最下部ニ在リテ一部ハ後正中廻轉ノ最下部ニ在リ上肢ノ運動中樞ハ前正中廻轉ノ中央部ニ在リ下肢ノ運動中樞ハ副正中葉及前後兩正中廻轉ノ最上部ニ在リ(第四百七十三圖)

是故ニ皮質ノ運動性中樞ハ互ニ相離隔スト雖之ヨリ末梢ニ至ルニ從ヒ漸次相接近スル者ニシテ其徑路ハ初冠狀房束ニ於テ扇狀ニ集合結束シテ内囊ニ入り其後脚即連斯核ト視神經牀トノ間就中其中央ノ後方ニ直接シテ緻密ニ集合シ次テ大腦脚底ニ至リ殆ド其中央ヲ走リワロル氏橋ニ於テ横行纖維ノ爲ニ分離セラレ再ビ延髓ノ前側ニ於テ合ジテ錐狀體ト爲リ此所ニ於テ亦兩側ノ錐狀體徑路ハ互ニ密接ス而シテ其下端ニ於テ左右ノ錐狀體徑

第四百七十三圖
大腦皮質及其中心之想像圖

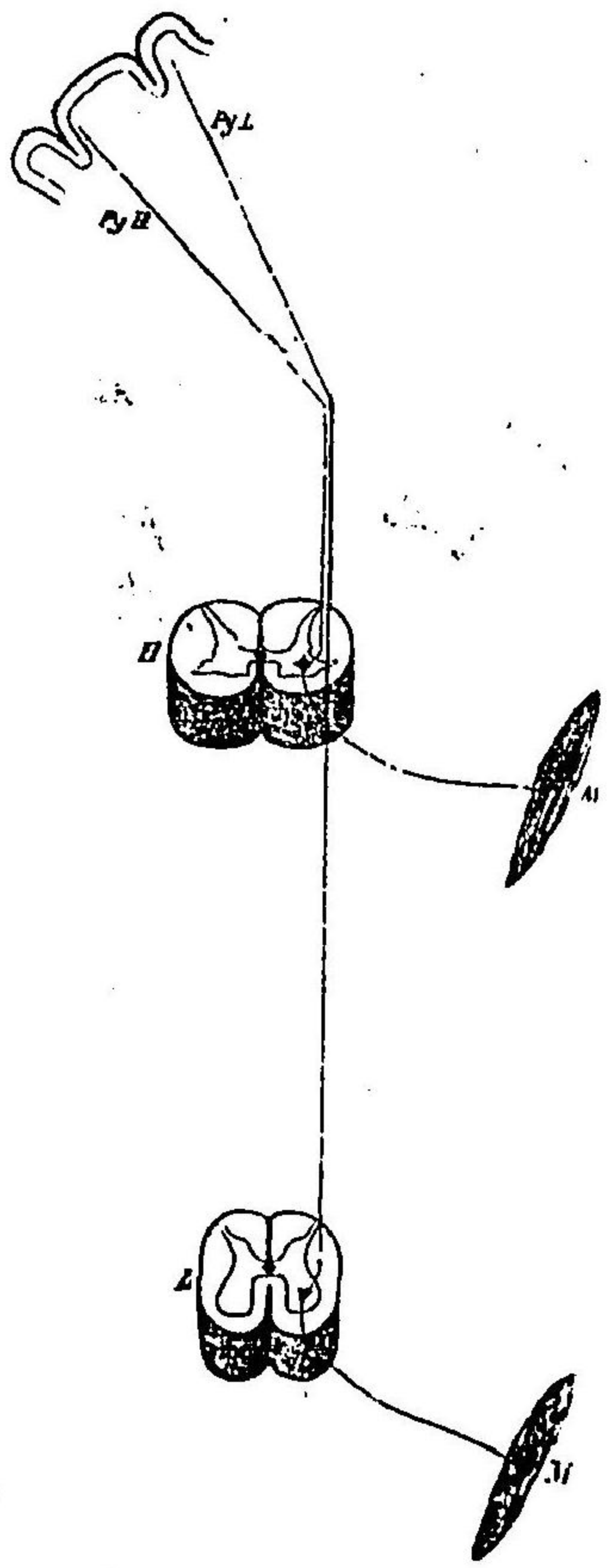


- (1)(2)(3)上(第一)中(第二)下(第三)前頭廻轉(4)前正中廻轉(5)後正中廻轉(6)上(第一)副頭廻轉(7)(第二)副頭廻轉(8)下(第三)副頭廻轉(9)上頭頂廻轉(10)下頭頂廻轉(11)隅角廻轉(12)上(第一)後頭廻轉(13)中(第二)後頭廻轉(14)下(第三)後頭廻轉
- 正中溝ノ兩側(ノ)及(5)ノ部ニシテ上肢ノ運動性皮質中樞有リ
- 一部ハ上肢、一部ハ下肢(脚趾)ノ運動性皮質中樞
- 下肢ノ運動性皮質中樞
- 舌下神經ノ皮質中樞
- 顔面神經ノ皮質中樞
- (3)運動性失語症
- ×(6)語彙ヲ兼タル感覺性(感覺性)失語症
- +(11)語言ヲ兼タル失語症
- (12)極(視領ノ部分ナリ)

路ハ對側ノ纖維ト交叉シ(錐體交叉。Decussatio pyramidalis)此處ヨリ過半ハ對側ノ脊髓側索(錐體側索徑路。Pyramidenstrangbahn)中ニ入り只其一小部分ノ纖維ノミ交叉セズン同側ノ前索(錐體前索徑路。Pyramidenorderstrangbahn)ニ於テ下行ス

神經纖維ハ錐體側索徑路ヨリ出デ、脊髓ノ各部ニ於テ絶エズ同側前角ノ神經節細胞群中ニ入り此神經節細胞ヨリ脊髓ノ前根ヲ生ズ而シテ前根纖維

第四百七十四圖
運動性徑路ノ略圖



PyL 頸髓ニ至ル錐體側索徑路
PyL 腰髓ニ至ル錐體側索徑路
PyL 頸髓(ノ)腰髓(ノ)筋(錐體側索徑路ヲ指シ)ハ腰髓ニ至ルマテ側索中ヲ下行スルヲ見ル可シ

維ハ後根纖維ト連合シテ混合性末梢神經ヲ作り以テ運動性徑路ハ筋中ニ達ス(第四百七十四圖)

皮質ヨリソロール氏橋及延髓ノ核ニ至ル運動性腦神經ノ徑路ハ只下部顔面神經ト舌下神經トニ就テ知ラル、ノミニ下部顔面神經ノ纖維ハ皮質中樞ヨリ横ニ韃斯核ヲ超エテ内囊ニ抵リ以テ錐體側索徑路ニ近接シ之ト共ニ大脳脚ノ足部ヲ通過スレドモソロール氏橋ノ上方ニ於テ之ト分離シ橋ノ下部ニ於ケル交叉セル顔面神經核ニ達ス』舌下神經ノ徑路ハ言語徑路ニ接近シテ亦内囊ニ至リ恐ク顔面神經纖維ト四肢纖維トノ間ニ來リソロール氏橋ニ於テ錐體側索徑路ト分離シ延髓ニ於テ他側ノ舌下神經核ニ入ル言語ノ徑路ハ只其一部分ノミ確知セラル、ノミニ第三前頭廻轉(言語中樞ノ在ル所)ヨリライル氏島ノ下方ニ於テ殆ド地平ニ内囊ニ至リ其膝狀部ニ接近シ之ヨリ大脳脚足ニ赴キ次デソロール氏橋ニ於テ錐體側索徑路ヨリ分離シテ他側ノ顔面神經核及舌下神經核中ニ終ル

末梢性運動性徑路 Die periphere motorische Bahnen ハ前角神經節細胞若クハ灰白橋核及延髓核ノ細胞ヨリ運動性腦及脊髓神經ヲ經テ筋肉終板ニ達スル部

圖 六 十 七 百 四 第

面側像想ノ根及核經神腦ル於ニ窩形菱及腦中

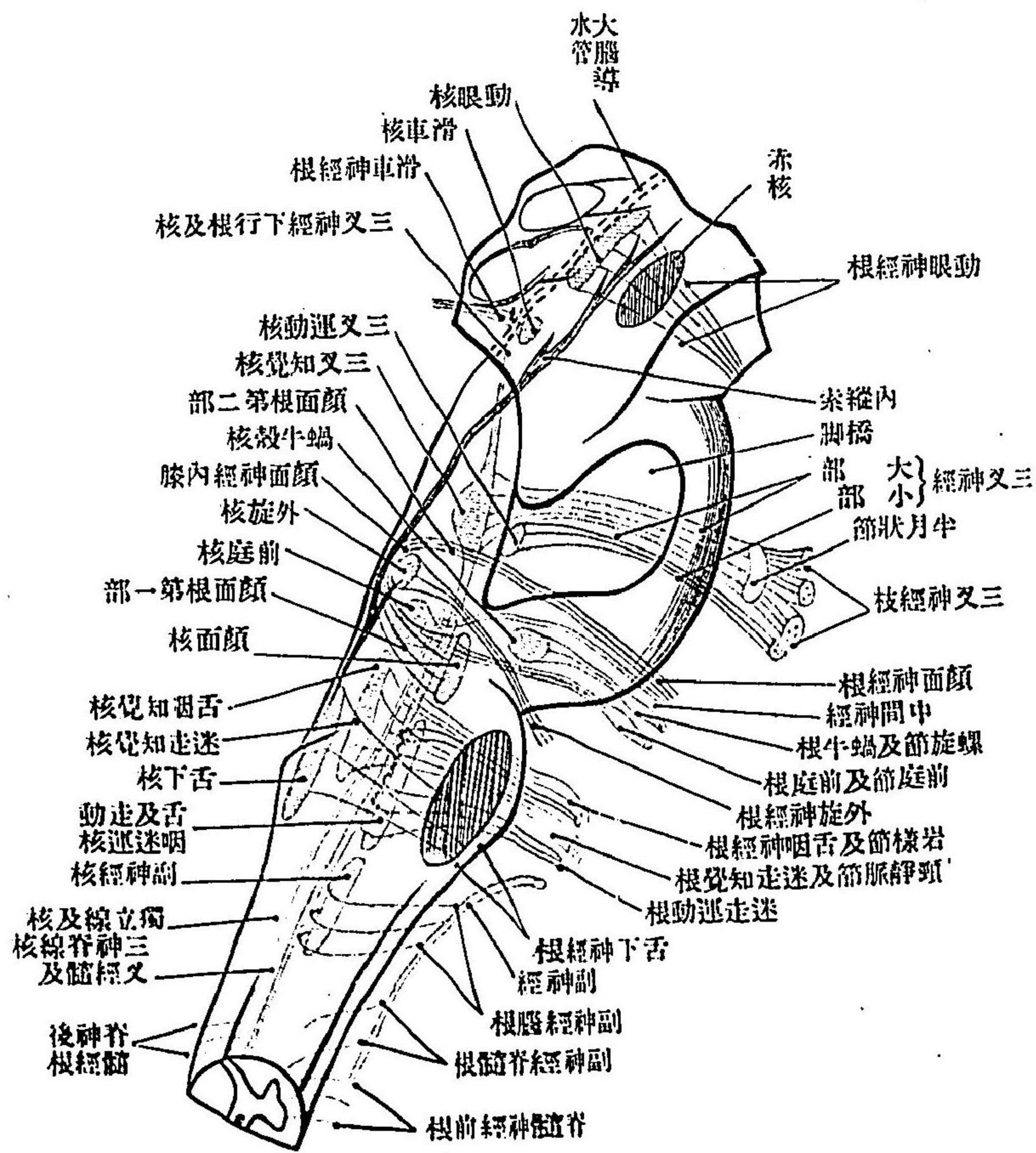
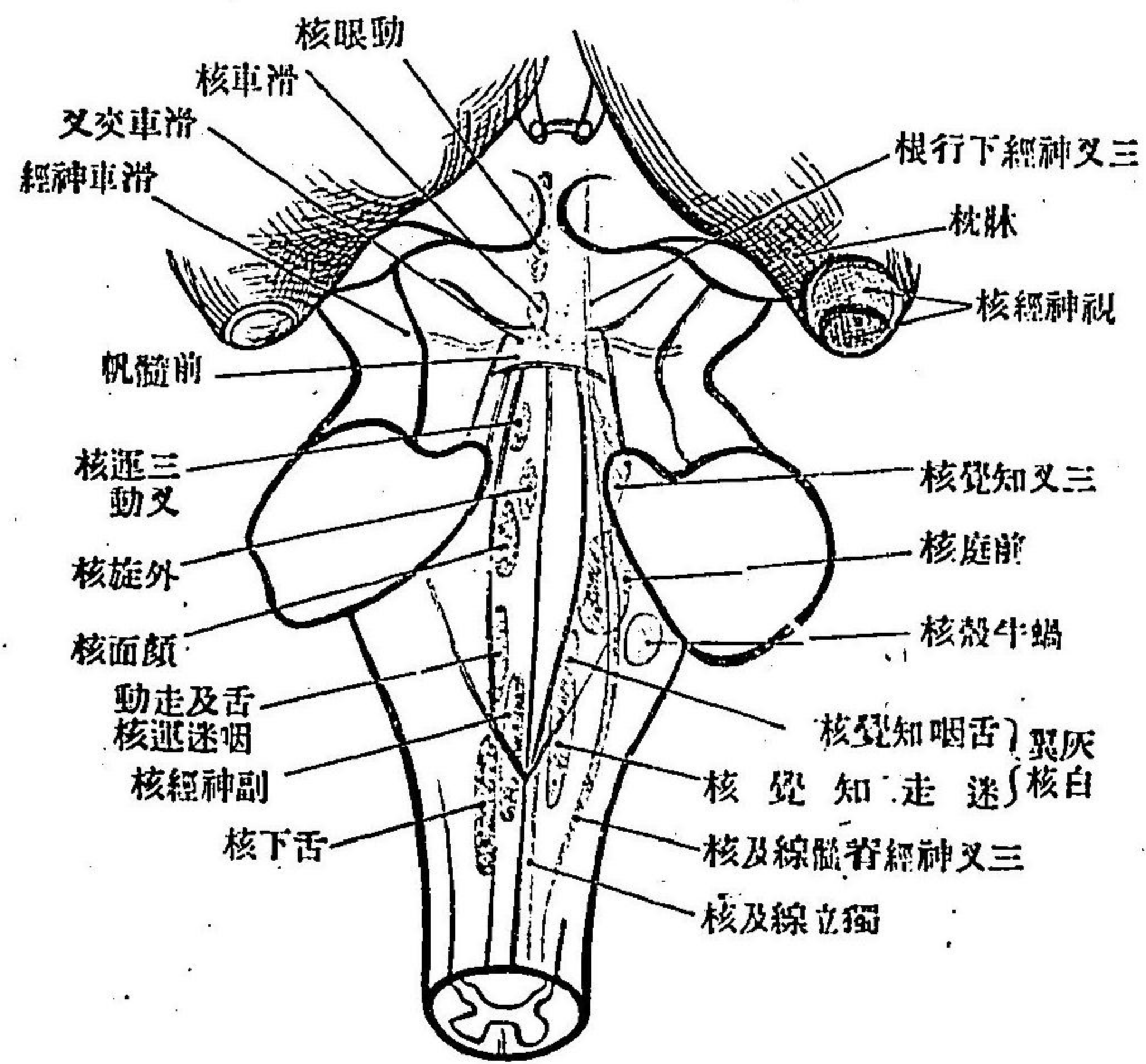


圖 五 十 七 百 四 第

核經神腦ル於ニ窩形菱及腦中



ヲ中樞性運動性單位又第一位運動性單位
schles *Neuron erster Ordnung* ト稱ス之ト均シク彼ノ神經核若クハ前角神經節
Centrales motorische Neuron oder motori-

分ヲ稱スル者ニノ腦
 及脊髓神經ノ核ト徑
 路トハ夙ニ知悉セラ
 ル、所ナリ (第百七十五
 及第百七十六圖)
 上來記述スルガ如ク
 運動性徑路ハ腦皮質
 ヨリ腦脚、ワロル氏橋
 延髓等ニ於ケル神經
 核若クハ脊髓ニ於ケ
 ル前角神經節細胞ト
 ノ間ニ相離ル可カラ
 ザル一體ヲ形成ス之

胞ヨリ末梢ニ向ヒ筋肉ニ至ル徑路ニモ亦一ノ神經單位有リ之ヲ末梢性運動性單位又第二位運動性單位 *Peripheres motorisches Neuron oder motorisches Neuron zweiter Ordnung* ト名ク

大脳皮質ハ中樞ハ則隨意運動ノ中樞ニ冠狀房束及錐狀體徑路ノ纖維ニ由テ運動刺戟ヲ延髓核若クハ脊髓前角ニ傳輸シ後者ハ更ニ其刺戟ヲ末梢神經ニ由テ筋肉ニ傳達ス然レ此際末梢性運動徑路ノ核ハ同時ニ反射中樞 *Reflexzentrum* タリ詳言スレバ該中樞ハ脊髓後根ヲ經テ末梢部ヨリ來リタル知覺刺戟ヲ受クルルハ之ヲ前根ニ傳達シテ運動刺戟ニ轉ゼシム加之此核ハ末梢性運動神經及筋肉ノ榮養中樞 *Trophische Centrum* ニ其榮養ヲ主宰スル者トス

是故ニ若シ腦皮質中樞ニ墜廢有ルカ或ハ之ニ屬スル中樞性運動性徑路斷絶スルルハ所屬筋肉ノ隨意運動不能ト爲ル即隨意運動ノ麻痺ヲ來ス然レ此際該筋肉ノ反射運動及榮養ハ殆ド妨ゲラル、一無シ是レ末梢性運動徑路ニ屬スル核ハ其官能ヲ障礙セラル、一無ケレバナリ加之此際筋ノ反射機及緊張力ハ却テ亢進スル一多シ故ニ斯ノ如キ麻痺ヲ痙攣性麻痺 *Synsische*

Tahmung ト名ク之ニ反シテ中樞性運動徑路ノ核破壞セラル、カ或ハ之ヨリ出ル纖維斷絶セラル、キハ之ニ屬スル筋肉ハ全然麻痺ニ陥ル詳言スレバ該筋ハ隨意的及反射的運動作用ヲ失却スルノミナラズ其緊張力亦忽チ消失シ以テ變性ニ陥ル是亦其榮養的刺戟ヲ失亡スレバナリ但シ纖維ヲ直接ニ侵ス所ノ器械的及電氣的(殊ニ瓦爾華尼的)刺戟ノミハ尙筋ニ緩慢ナル收縮ヲ起サシム此種ノ麻痺ヲ稱シテ弛緩性又變性的麻痺 *Schlaffe oder degenerative Tahmung* ト云フ

以上兩種ノ麻痺ハ診斷上頗ル肝要ナル者ナリ是レ之ニ由テ直ニ或ハ損傷若クハ疾病ノ中樞性或ハ末梢性運動性徑路ヲ侵シタルヤヲ判知スルヲ得レバナリ但シ或ハ疾患ノ所在部位ヲ確定センニハ尙先ッ麻痺ノ部位及之ニ合併スル知覺領域ニ於ケル障礙ヲ檢知シ又頭蓋脊柱及四肢等ニ於ケル諸症狀ヲ知悉セザル可カラズ

(二) 知覺性又求心性徑路

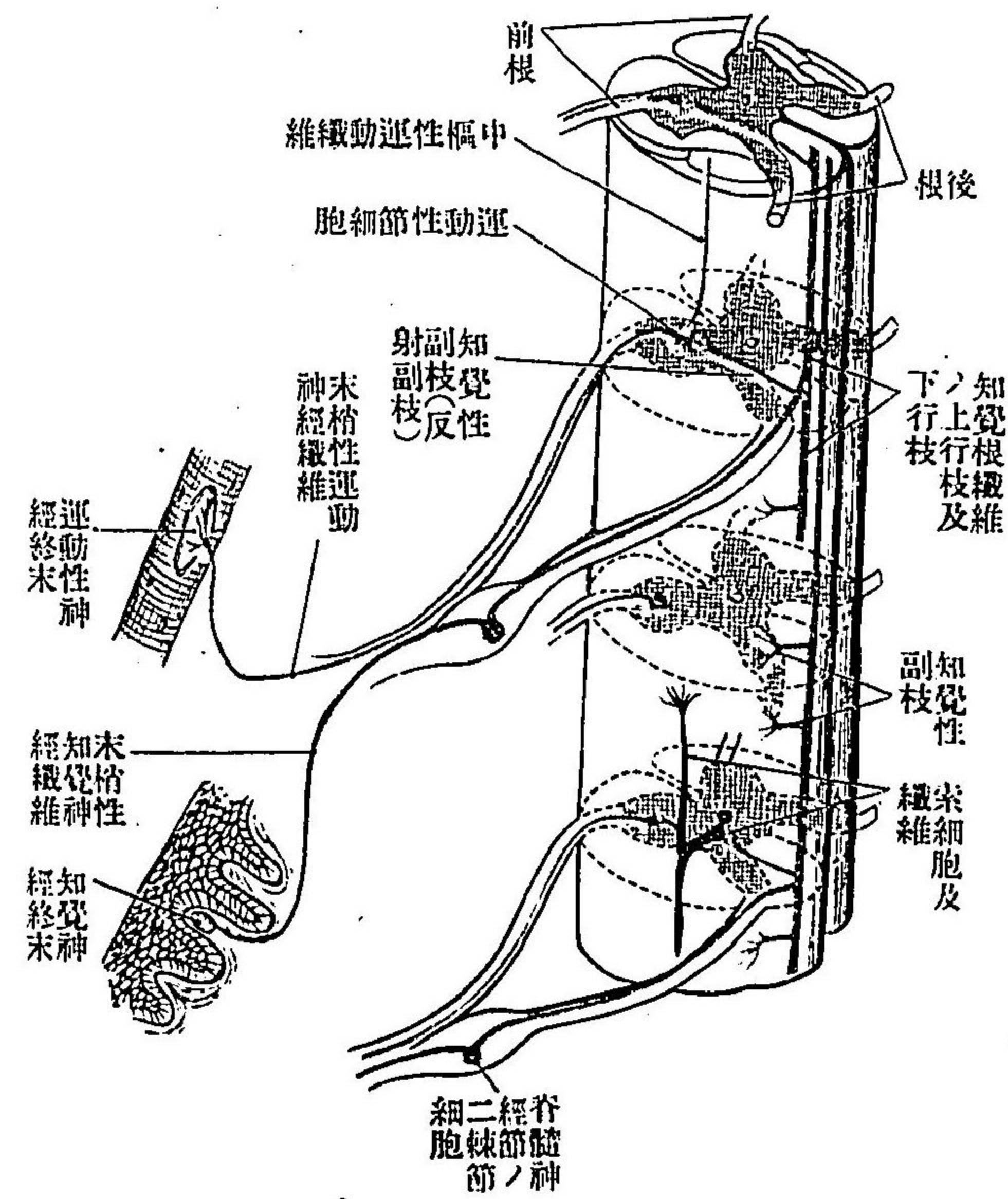
知覺性徑路又求心性徑路 *Die sensiblen od. centralen Bahnen* ヲ分テ左ノ二種ト爲ス

知覺性又求心性徑路

皮膚知覺機ノ徑路

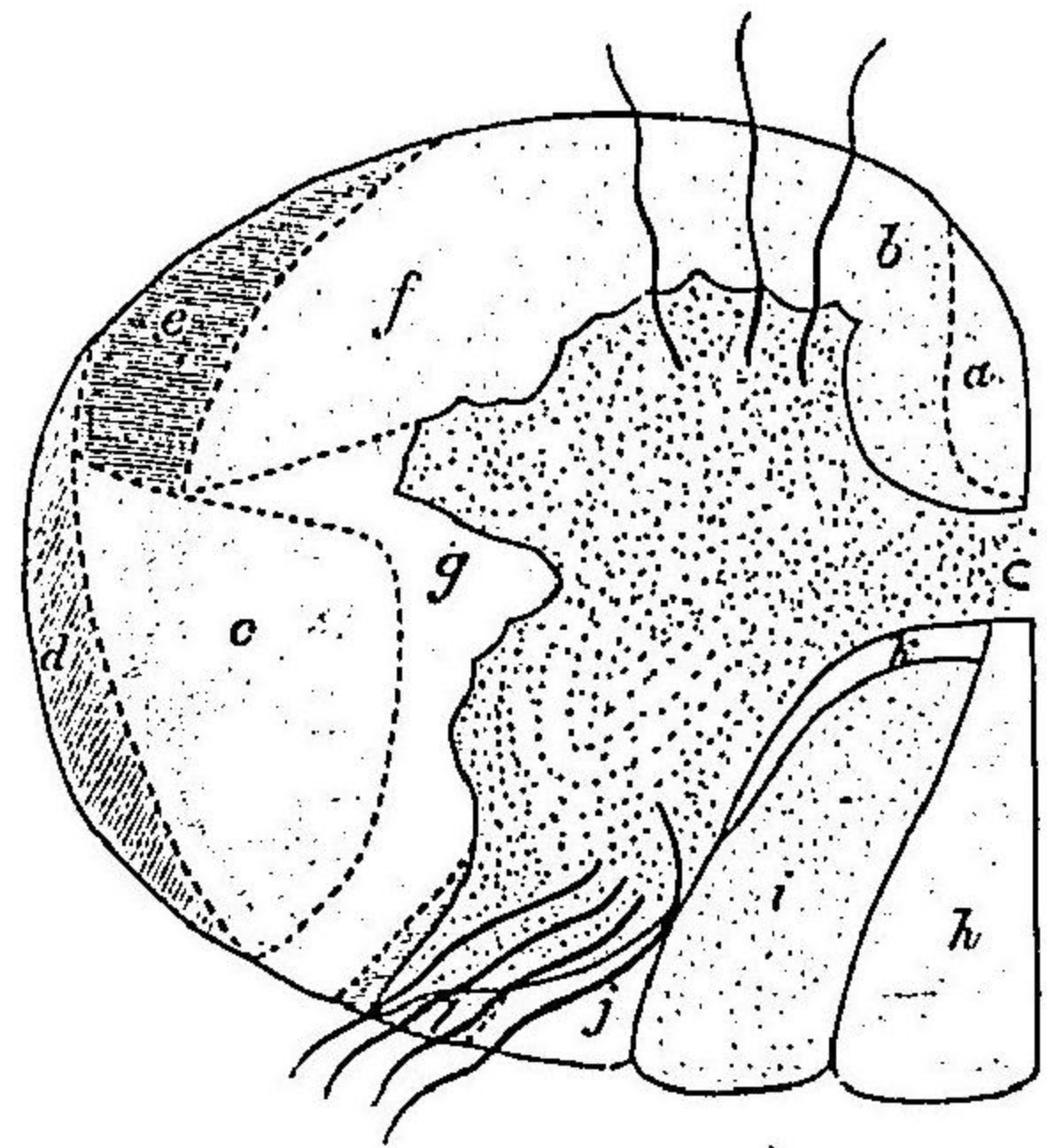
(一) 軀幹及四肢ノ皮膚知覺徑路 Die Bahn der Hautsensibilität
 器ヨリ混合神經ヲ經テ脊髓ノ後根ニ走リ之ヨリ脊髓ニ入ル而シテ之ヨリ上方ノ徑路ハ數年前ニ至ル迄尙甚不明ナリシモ近時ノ研究ニ憑レバ後根ニ

圖七十七百四第 圖像想ノ路徑性動運及性覺知



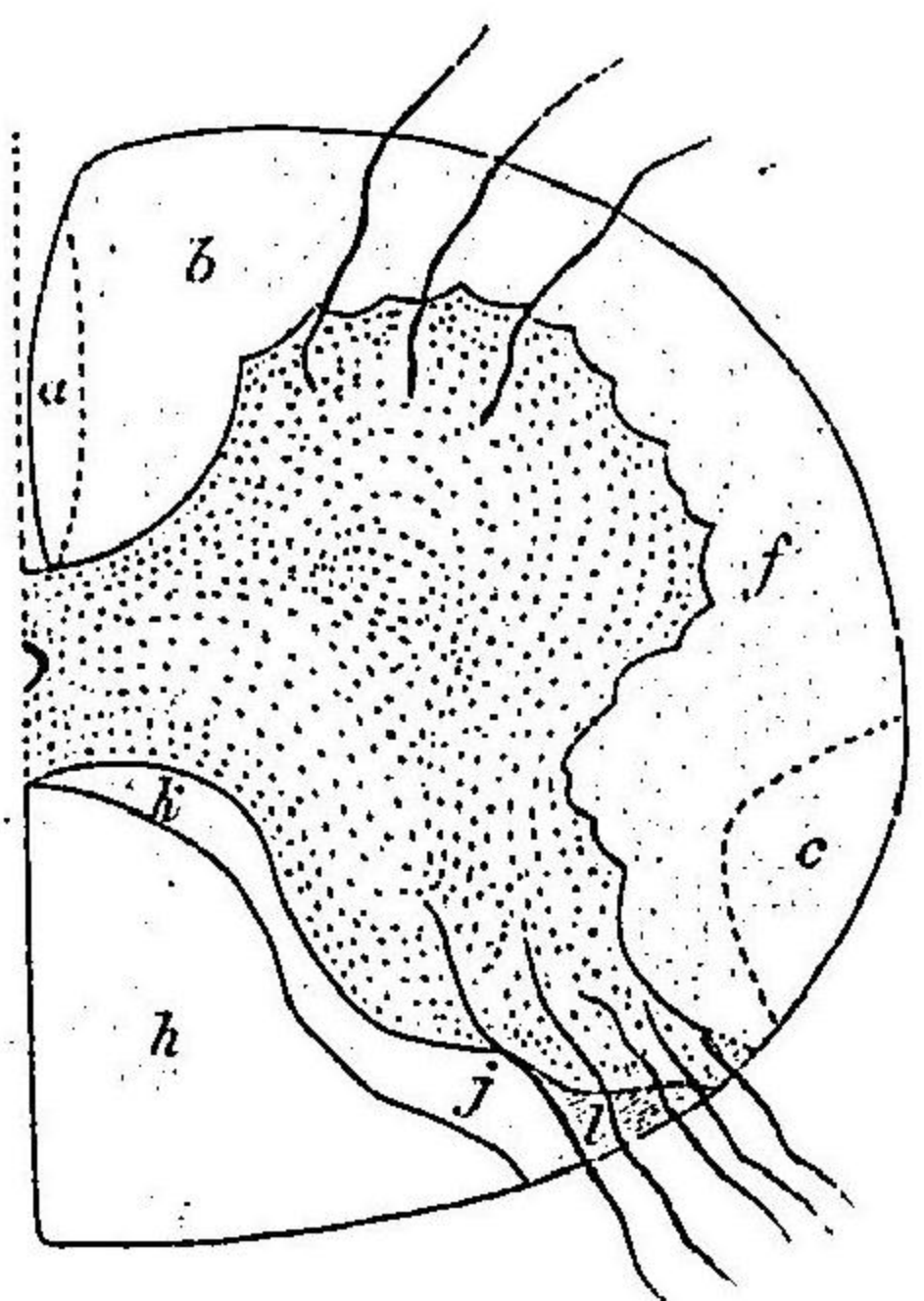
ハ二個(恐ク之ヨリ多數ノ連續物有ルヲ發見セリ即其一ハ後索中ニ於テ交叉セズノ延髓ニ上升シ茲ニ核(後索核)ヲ挾ンデ交叉蹄係中ニ入

圖八十七百四第 面斷橫髓頸側半左



(a) 錐狀體前索徑路 (b) 錐狀體側索徑路 (c) 錐狀體後索徑路 (d) 錐狀體後索徑路 (e) 錐狀體後索徑路 (f) 錐狀體後索徑路 (g) 錐狀體後索徑路 (h) 錐狀體後索徑路 (i) 錐狀體後索徑路 (j) 錐狀體後索徑路 (k) 錐狀體後索徑路 (l) 錐狀體後索徑路 (m) 錐狀體後索徑路 (n) 錐狀體後索徑路 (o) 錐狀體後索徑路 (p) 錐狀體後索徑路 (q) 錐狀體後索徑路 (r) 錐狀體後索徑路 (s) 錐狀體後索徑路 (t) 錐狀體後索徑路 (u) 錐狀體後索徑路 (v) 錐狀體後索徑路 (w) 錐狀體後索徑路 (x) 錐狀體後索徑路 (y) 錐狀體後索徑路 (z) 錐狀體後索徑路

圖九十七百四第 面斷橫髓腰側半右



(a) 錐狀體前索徑路 (b) 錐狀體側索徑路 (c) 錐狀體後索徑路 (d) 錐狀體後索徑路 (e) 錐狀體後索徑路 (f) 錐狀體後索徑路 (g) 錐狀體後索徑路 (h) 錐狀體後索徑路 (i) 錐狀體後索徑路 (j) 錐狀體後索徑路 (k) 錐狀體後索徑路 (l) 錐狀體後索徑路 (m) 錐狀體後索徑路 (n) 錐狀體後索徑路 (o) 錐狀體後索徑路 (p) 錐狀體後索徑路 (q) 錐狀體後索徑路 (r) 錐狀體後索徑路 (s) 錐狀體後索徑路 (t) 錐狀體後索徑路 (u) 錐狀體後索徑路 (v) 錐狀體後索徑路 (w) 錐狀體後索徑路 (x) 錐狀體後索徑路 (y) 錐狀體後索徑路 (z) 錐狀體後索徑路

リ之ヨリ更ニ四疊體ノ深キ髓質中ニ抵ル他ノ一ハ既ニ脊髓内ニ於テ灰白後角ノ核即末梢性知覺性徑路ノ核ニ到達スル者ニ此核ノ側傍ニハ中樞性知覺徑路有リ一部ハ直ニ一部ハ之ヨリ高ク脊髓ノ上方ニ於テ前連合ニ由テ交叉シ以テ他側ノ前索及側索ニ到達シ之ヨリ皮膚

深在知覺機ノ徑路

脊髓徑路トシテ蹄係ニ赴キ之ト共ニ四疊體ニ入ル。腦内ニ於ケル知覺性徑路ハ大脳脚頂ヲ經テ内囊就中錐狀體ノ後方即後脚ノ後三分一部ノ所ニ入ルモ之ヨリ以上ハ未ダ其關係ヲ審ニセズ

(一) 深在知覺機(通常筋神 *Muskelstim.* ト名ク)ノ徑路 *Die Bahn der tiefen Sensibilität* ハ恐ク上記ノ徑路ト同一ノ徑路ヲ取ル者ニシテ正中廻轉及副正中葉ノ運動性皮質帶ニ終ル者ナラト云フ)

此他尙後根ヨリ生ズル肝要ナル徑路即ゴル氏索有リト雖其官能ハ吾人ノ未ダ確認スルヲ能ハザル所ナリ又小腦側索徑路ハクラルク氏柱ヨリ出デ脊髓ノ上部ニ於テ小腦ニ達スル求心性徑路ナレトモ其官能亦全ク明晰ナラズ(恐ク身體ノ平衡ヲ保ツニ要スル者ナラト云フ)

末梢神經或ハ脊髓或ハ又内囊内ニ重症ノ疾患有リテ皮膚知覺徑路全ク斷絶セラル、キハ皮膚ニ全ク知覺脱失ヲ起セトモ疾患重症ナラザルキハ只知覺諸機ノ減弱或ハ知覺機一部ノ消失局所的知覺麻痺ヲ起ス後者ハ殊ニ脊髓諸病ニ多ク見ル所ナリ而シテ内囊或ハ脊髓ノ窳局疾患ニ因テ生ズル知覺脱失ハ患部ノ反對側ニ起ル者トス

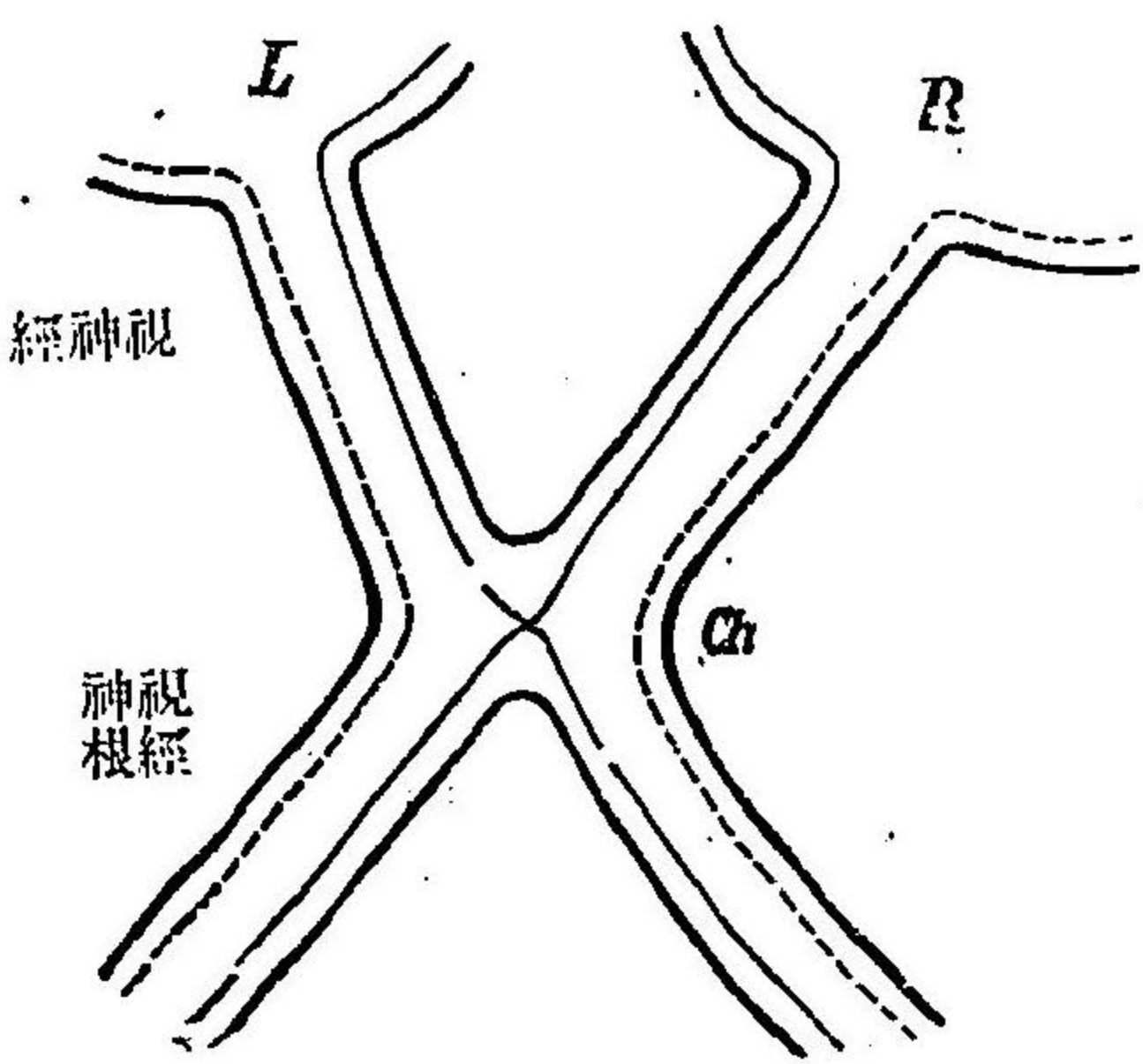
五官器ノ中樞及徑路
視官ノ中樞及徑路

(三) 五官器ノ中樞及徑路

五官器ノ中樞及徑路 *Centren und Bahnen für die Sinne* ヲ區別スルヲ次ノ如シ

(一) 視官ノ中樞及徑路 *Centren und Bahnen für den Gesichtssinn.* 此徑路ハ網膜ヨ

第四百八十八圖
視神經交叉ニ於ケル
視神經纖維ノ過略圖



(L) 左眼
(R) 右眼
(C) 視神經交叉

リ視神經ヲ經テ視神經交叉部ニ走ル而シテ神經纖維ハ此部ニ於テ只左右内側ノ纖維ノミ交叉スル者ニシテ(半交叉)外側ノ者ハ直ニ同側ノ視神經ニ移行シテ交叉セザル者トス(四百八十八圖)次デ該徑路ハ視神經根ニ於テ四疊體ノ前部ニ到

リ此所ヨリ内囊後脚後部ニ於テ視神經牀及外膝狀脚ニ抵リ次デ斜ニ後上方ニ向ヒ後頭葉ノ皮質中ニ放散ス而シテ其障礙ノ最主要ナル者次ノ如シ

(イ) 腦底内囊最後端同時ニ偏側知覺脱失ヲ起ス(視神經牀及後頭葉ニ於ケル

損傷ハ視力障礙ヲ來ス

(口)後頭葉ニ於ケル皮質中樞ノ全部損傷及之ヨリ視神經交叉部ニ至ル徑路ノ損傷ハ視力障礙ヲ伴ヒ半視症ヲ起ス是レ視神經纖維ハ其外部ニ於テハ同側ニ止マリ獨リ内部ニ於テノミ交叉スルニ因ル者ニ各神經ハ同側後頭葉ノ皮質ニ其中樞性末端ヲ具フルヲ以テ左側後頭葉ノ障礙ハ左眼ニ在テハ網膜ノ顛側、右眼ニ在テハ鼻側ニ視力ヲ脱失スルガ爲ナリ

聽官ノ中樞及徑路

(二)聽官ノ中樞及徑路 *Das Centrum und die Bahn für den Gehörssinn.* 聽神經ハ顔

面神經ト共ニ延髓ニ入り之ヨリ内囊ノ最後部ヲ經テ顛側葉ノ皮質中ニ放散ス此他該徑路ハ小腦ト聯絡ス

嗅官ノ徑路

(三)嗅官ノ徑路 *Die Bahn des Geruchsinnes* ハ亦タ内囊ノ最後部ヲ通過スル者ノ如シ

味官ノ中樞及徑路

(四)味官ノ中樞及徑路 *Das Centrum und die Bahn für Geschmackssinn* ハ口蓋及舌ノ後三分一部ニ於テハ舌咽神經ニ由テ延髓ニ傳達セラル、モ舌ノ前三分二部ノ徑路ハ稍複雑ナル者ナリ即該徑路ハ初鼓索神經ト爲リテ舌神經中ヲ走ルモ之ヲ去リテ顔面神經ニ入り次テ又膝狀神經節ニ於テ之ヲ去リ三叉

神經(第二枝)ニ入り之ト共ニ中樞部ニ至ル而シテ味官神經纖維モ亦内囊ノ最後部ヲ通過ス

是故ニ末梢性顔面神經麻痺或ハ三叉神經高部ノ疾患其他内囊最後部ノ損傷(半身知覺脱失)ハ味官ニ障礙ヲ來スコト有リ

(四) 腦ノ血管配布

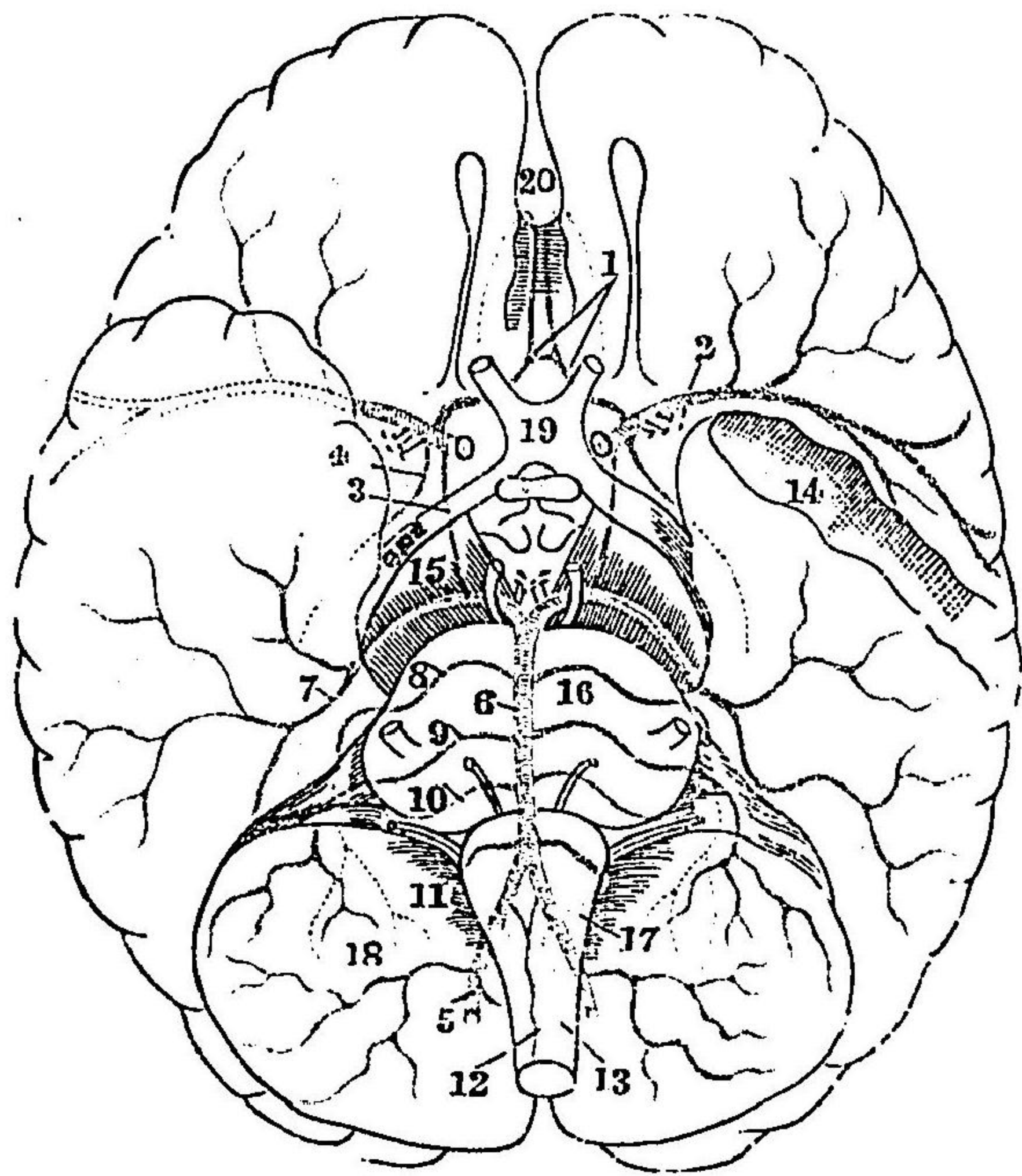
腦ノ血管配布

腦ノ血管配布 *Die Gefäßversorgung des Gehirns* ヲ知ルハ診斷上亦甚ク肝要ナリ吾人ノ知ルガ如ク腦ハ左右ノ内頸動脈及椎骨動脈ヨリ血液ヲ受クル者ニシテ左右ノ椎骨動脈ハワロル氏橋ノ腦底面ニ於テ合シテ基礎動脈ト爲リ該動脈ハ又橋ノ前下縁ニ沿テ兩側ノ深腦動脈ニ岐レ此動脈ハ前方ニ於テ後交通動脈ニ由テ頸動脈系ト連絡シ以テ所謂ウヰリジ一氏動脈環ヲ作ル又内頸動脈ハ眼動脈及後交通動脈ノ他ニ腓胝體動脈ヲ生ジ前交通動脈ニ由テウヰリジ一氏動脈環ノ前方ヲ閉ヅ次デ内頸動脈ヨリ最モ肝要ナル枝別ヲ生ズシルウヰリ氏溝動脈(中大腦動脈)即チ是ナリ

是等ノ諸動脈中最モ肝要ナル者ハワロル氏橋及延髓ニ循行シ又腦皮質ノ貴要ナル部位、中樞神經節及内囊ニ循行スル所ノ動脈トス

圖一十八百四第

別枝ノ脈動ルケ於ニ底腦

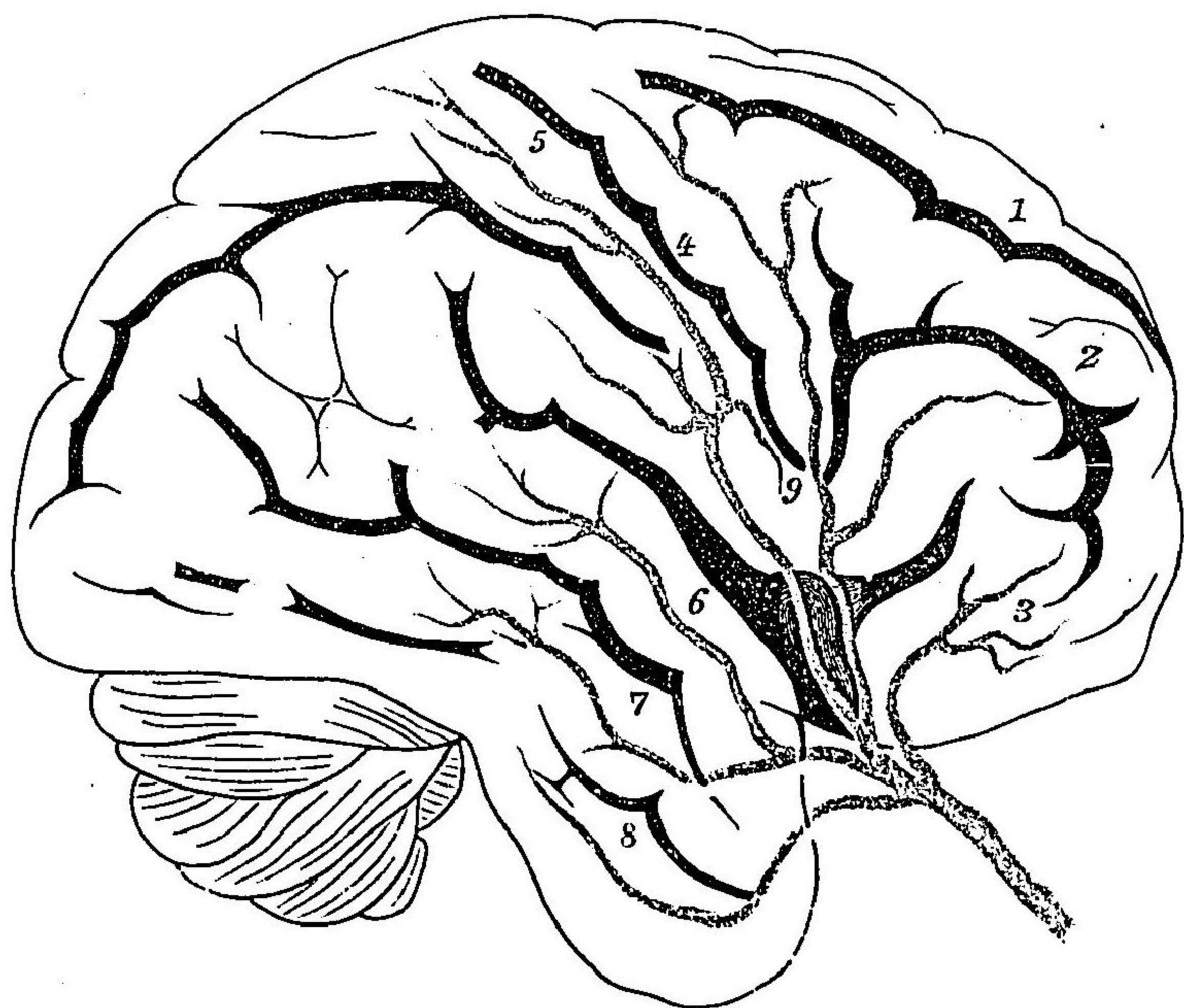


- (1) 前大脳動脈及前交通動脈
- (2) 中大脳動脈
- (3) 後交通動脈
- (4) 脈絡膜動脈
- (5) 椎骨動脈
- (6) 基礎動脈
- (7) 後大脳動脈
- (8) 上小脳動脈
- (9) 前下小脳動脈
- (10) 内聽動脈
- (11) 後下小脳動脈
- (12) 前脊髓動脈
- (13) 後脊髓動脈
- (14) 前類葉ノ一部ヲ除去ス
- (15) 大脳脚
- (16) ワロル氏橋
- (17) 延髓
- (18) 小脳
- (19) 視神經交叉
- (20) 大脳ノ縦裂

ワロル氏橋及延髓ハ主トシテ基礎動脈及椎骨動脈ノ養フ所ニシテ其末枝ハ所謂終枝ナルヲ以テ互ニ相吻合セズ又他ノ區域ノ動脈ト交通スルコト無シ故ニ今若シ例之基礎動脈ノ一部ニ血塞或ハ栓塞ヲ生ズルキハ忽チ其部ノ官能ニ障碍ヲ來ス者トス

圖二十十八百四第

狀ルニ分ニ質皮腦大ノ脈動溝氏ノワロルシ



- (1) 第一前頭動脈
- (2) 第二前頭動脈
- (3) 第三前頭動脈
- (4) 前正中中廻動脈
- (5) 後正中中廻動脈
- (6) 第一顳動脈
- (7) 第二顳動脈
- (8) 第三顳動脈
- (9) 竇

第二ノ貴要ナル區域ハシルウー氏滯動脈(中大脳動脈)ノ區域ニシテ此區域ニ於テハ血管亦正ニ二枝ニ分岐シテモ吻合スルコト無ク其一大枝ハ内部ニ循行シ他ノ一大枝ハ皮質部

ニ向フ而ノ起始部ノ諸枝ヨリ出ヅル所ノ中大腦動脈ノ内部諸枝ハ内囊其
 最後部ヲ除ク瓊核尾狀核ノ大部及視神經牀ノ一部ヲ養フ者ニ此内部
 諸枝ハ毫モ他側ノ腦動脈ト交通吻合スルコト無シ故ニ該動脈起始部久シク
 閉塞スルキハ上記ノ腦中樞諸部ニ軟化ヲ起スヤ疑ヲ容レズ』シルウヰ氏
 溝動脈ノ皮質領ハ第三前頭廻轉前正中廻轉(前大腦動脈ヨリ養ハル、其最
 上部ヲ除ク)後正中廻轉上及下顛頂葉シルウヰ氏溝ノ全圍竝ニ第二乃至第
 三顛顛廻轉ヲ養フ者ナレモ此皮質部ニ於ケル血管ハ之ニ隣接セル皮質部
 ノ血管ト吻合スル者有ルヲ以テ此部ノ血管ニ閉塞ヲ起スモ皮質ノ軟化ヲ
 來スコト少ナシ

後頭葉ノ視管中樞四疊體及内囊ノ最後部ハ後大腦動脈ノ養フ所ナリ

吾人ガシルウヰ氏溝動脈ニ就テ注意スル所以ノ者ハ唯其大脳ノ最貴要部ヲ養
 フガ爲ノミニ非ズ實ニ此部ニ於テハ出血或ハ栓塞ヲ起スコト最モ多キヲ以テナリ
 而ノ此兩障礙ハ多クハ内部動脈ニ來ル者ニ就中其出血ハ此部ニ於テ血壓最モ
 強キニ因ル又内部血管ニ於ケル栓塞ハ皮質部ニ比スレバ損害ヲ來スコト多シ是レ
 前者ニ在テハ全ク吻合ヲ缺如スルモ後者ニ在テハ否ラザレバナリ其他左側シ

腦髓及脊髓ノ
 竈局疾患ニ對
 スル局所診斷
 的要綱

腦髓ニ於ケ
 ル主要ナル
 竈局症候

竈局症候

ルウヰ氏溝動脈ハ右側ニ比シテ栓塞ヲ起スコト遙カニ多クハ左側内頸動脈ハ大動
 脈ヨリ銳角ヲ爲シテ分岐スルニ因ルナラム

吾人ハ之ヨリ神經系統ノ検査法ヲ論述スルニ當リ茲ニ尙腦髓及脊髓ノ竈
 局疾患ニ對スル局所診斷上ノ要綱ヲ敘述セントス

腦髓及脊髓ノ竈局疾患ニ對スル
 局所診斷的要綱

(甲) 腦髓ニ於ケル主要ナル竈局症候

腦髓ノ所謂竈局疾患 Die Herderkrankungen ナル者ハ其溢血軟化炎症腫脹膿瘍
 又ハ腫瘍ナルニ論無ク其症候ハ之ヲ二種ニ區別ス可シ即チ(一)竈局症候及
 (二)一般症候是ナリ前者ハ一定ノ限局セル腦部ニ病竈有リテ當該部ノ官能
 ヲ障礙スルニ由テ發スル者ヲ謂ヒ後者ハ全腦部ニ多少平等ニ來ル障礙ニ
 基ク者ニ殊ニ腦震盪症及腦壓迫症ニ於テ見ルガ如キ者ヲ謂フ
 (一)竈局症候 Herdsymptome ヲ分テ更ニ直接的及間接的ノ二種ト爲ス直接的竈

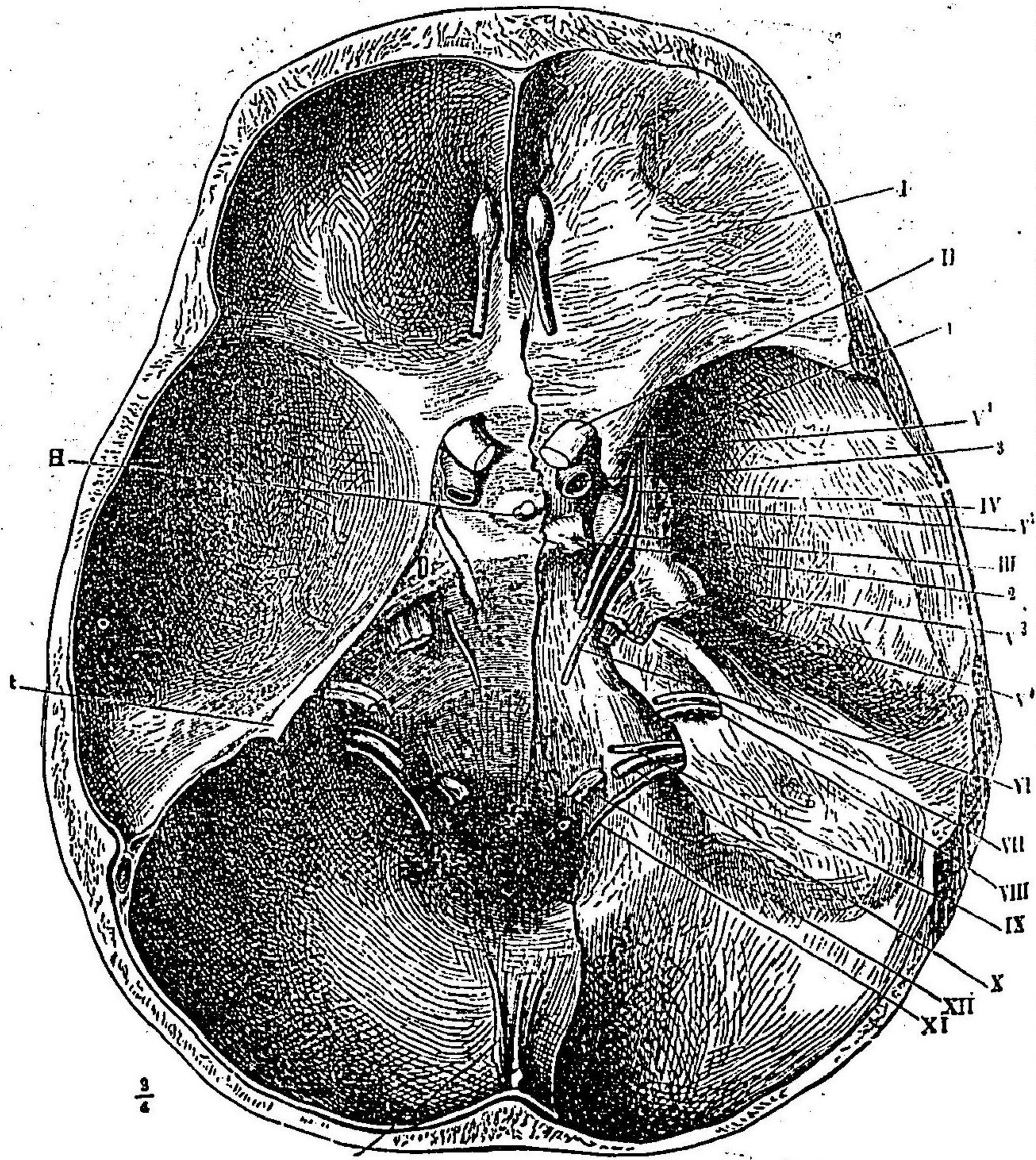
全身症候

局症候(即局所症候)ハ神經ノ官能ニ直接緊要ナル腦部ノ崩壞ニ由テ來リ他ノ官能ノ之ニ代ルコト能ハザル者ニ間接的竈局症候(即隣接症候)ハ病竈附近ニ存在スル組織ノ障礙ニ由テ發シ多クハ一時的ニ來リ又屢變化シ易キ者ニ例之腫瘍ニ於テハ充血狀態ト爲リテ現ハレ又病竈ノ性狀ニ依リ充血出血副行性水腫ト爲リテ來ル者ノ如シ然リ而シテ直接的竈局症候ハ常に永久的ニ隔離的痙攣或ハ神經痛ノ如キ刺戟症候ハ嚴重ニ言フキハ決メ直接的竈局症候ト謂フ可カラズ其常ニ只一時的ナルヲ以テ隣接症候ト謂ハザル可カラズ間接的竈局症候ハ一部ハ刺戟症候一部ハ墜廢症候ニ其全部或ハ一部消退スルコト有リ但斯ノ如キ病竈附近ニ於ケル變換シ易キ症候ヨリノ亦永久的症候ヲ發來シテ直接的竈局症候ニ變ズルコト有リ蓋斯ノ如キハ殊ニ腦髓ノ腫瘍ニ觀ル所ナリ

(二)全身症候 *Allgemeinsymptom* ハ卒中ニ於ケル急劇ナルしづく様狀態或ハ徐徐ニ發來スル壓迫症狀ニ其重要ナル者ハ神識障礙、眩暈、汎發性頭痛、記憶力減亡、言語障礙等ナリ此他癲癇様痙攣、嘔吐、脈搏緩徐、鬱血乳頭及之ニ繼發スル視神經萎縮モ亦之ニ屬ス

圖 三 十 八 百 四 第

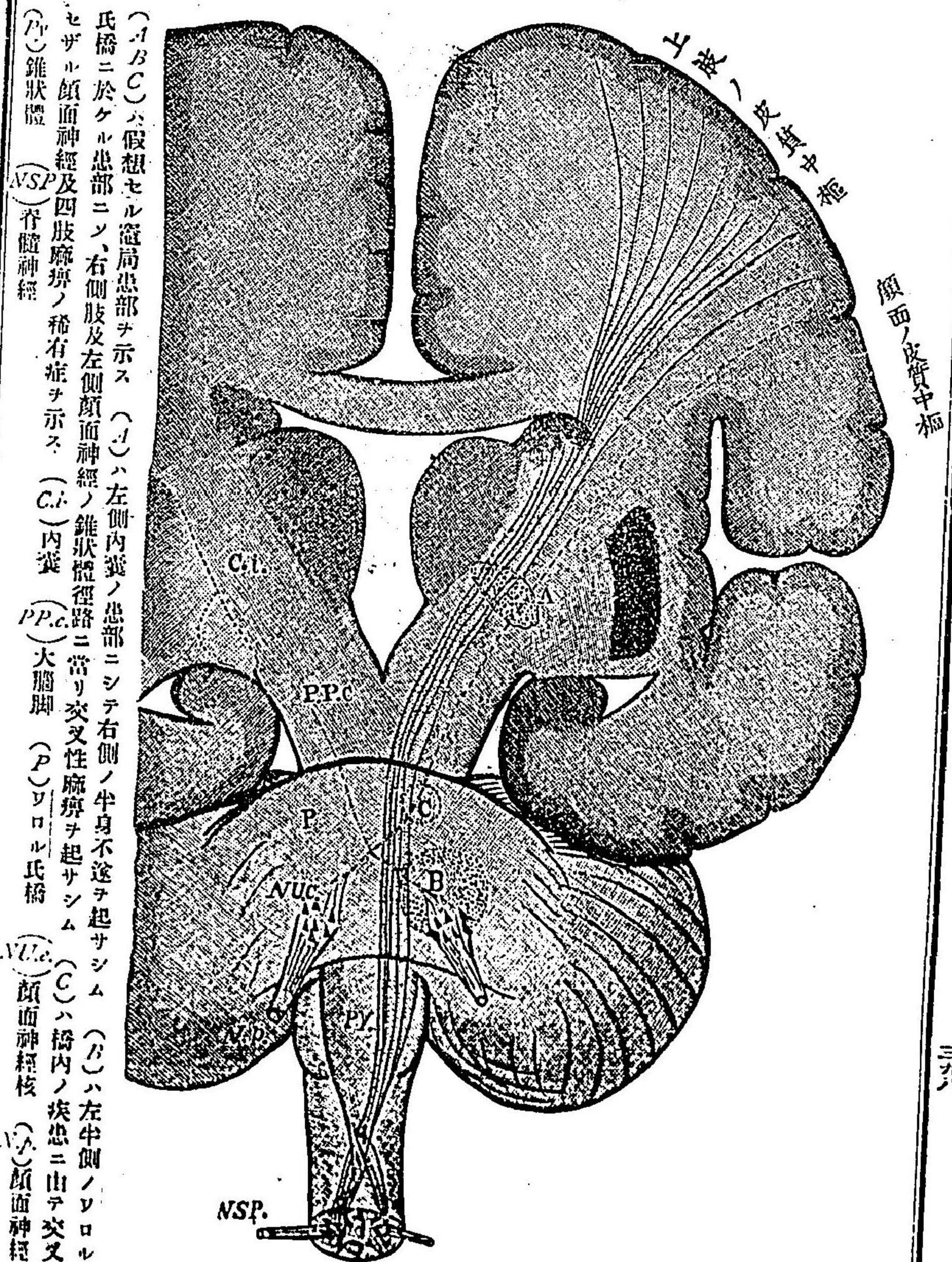
位部ルス出派リヨ底蓋頭ノ經神經



右半側ノ硬膜
膜ハ剝離セラ
ル
(I)ヨリ(VII)
ハ十二對神經
ヲ示ス
(VIII)ハ三
叉神經ノ第
一、第二、第
三枝ヲ示ス
(IX)ガツセリ
氏神經節

腦髓及脊髓ノ竈局疾患ニ對スル局所診斷的變網

圖四十八百四第
圖型模ノ路徑性動運ル対ニ經神肢四及經神面顔
(氏ルケンヤエ)



(A B C) 六假想セル窟局患部ヲ示ス (A) ハ左側内囊ノ患部ニシテ右側ノ半身不遂ヲ起サシム (B) ハ左側ノソロール氏橋ニ於ケル患部ニシテ右側肢及左側顔面神經ノ錐狀體徑路ニ當リ交叉性麻痺ヲ起サシム (C) ハ橋内ノ疾患ニ由テ交叉セザル顔面神經及四肢麻痺ノ稀有症ヲ示ス (C.L.) 内囊 (P.P.C.) 大脚脚 (P) ソロール氏橋 (Nuc.) 顔面神經核 (V.N.) 顔面神經 (V.S.P.) 脊髓神經

腦髓窟局症候ノ判定

交叉麻痺

腦髓ノ窟局症候ヲ判定スルニハ左ノ事實ヲ標準ト爲ス可シ
 (一) 病竈若シ中樞性運動性徑路ノ皮質中其交叉ノ上方ニ在ルキハ反對側ノ半身麻痺ヲ來セ之ニ反シテ患部若シ其交叉下部ニ在ルキハ同側麻痺ヲ來ス可シ而シテ茲ニ注意ス可キハ軀幹及四肢ノ中樞性運動性徑路ハ稍合シテ錐狀體交叉ニ於テ交叉スレモ運動性腦神經ノ徑路ハ之ヨリ高所ニ於テ交叉ス即チ顔面神經ノ徑路ハ大凡ソロール氏橋ノ中央ニ於テ交叉シ舌下神經ノ徑路ハ始テ延髓ニ於テ交叉ス是故ニソロール氏橋ノ下部ニ於テハ交叉セル顔面神經徑路ハ未ダ交叉セザル即チ他側ノ四肢徑路ト接近スルヲ以テ若シ橋ノ下部ニ於テ其半側ヲ侵ス所ノ傷害有ルキハ反對側ノ四肢麻痺ヲ起シ同時ニ同側ノ顔面神經麻痺ヲ起スリ有リ是レ所謂交叉麻痺 Hemiplegia craniata s. alternans ニソワロール氏橋ノ疾患ニ肝要ナル症候ナリトス(第四百八十四圖)
 (二) 病竈若シ皮質中樞ニ在ルカ或ハ腦髓橋延髓脊髓内ニ於ケル錐狀體徑路ノ一部ニ當該徑路ノ前角神經節内ニ入ル部位ノ上方ニ在ルキハ皮質中樞ノ主宰スル榮養作用上方ヨリ缺如スルヲ以テ該徑路ハ正ニ前角細胞ニ至

腦髓及脊髓ノ窟局疾患ニ對スル局所診斷的要綱

ル迄變質スレモ前角細胞及末梢神經並ニ筋肉ハ變質スルヲ無シ而シテ錐狀體徑路ニ前記ノ如キ變質ヲ起スモ毫モ他ノ臨牀的症狀ヲ呈スルヲ無シト雖患部若シ前角内ニ在ルカ或ハ其下方ノ運動性徑路中ニ在ルカハ患部以下ニ在ル所ノ神經及筋肉ニ變質ヲ來シ此變質ハ變質性萎縮ノ徵候ヲ呈スルヲ以テ之ヲ臨牀的ニ認識シ得可シ即弛緩性麻痺筋肉ハ瘦削ヲ來シ電氣的檢查上變性反應ヲ呈ス

(三) 中樞及徑路ハ或ハ互ニ相離隔シ或ハ又互ニ接近スルヲ以テ患部ノ大同

局所麻痺
隔離性麻痺

隔離性麻痺

一ナルモ其部位ニ由リ麻痺ノ廣狹ヲ異ニスルヲ左ノ如シ
(イ) 皮質内或ハ其直下ノ冠狀房束内ニ中等大ノ病竈有ルキハ多クハ只偏顏或ハ一腕或ハ一脚ノ麻痺ヲ來スノミ(局所麻痺 Monoplegic 隔離性麻痺 Dissociate Lähmung) 而シテ此際尙肝要ナル一徵有リ是レ皮質刺戟ニ固有ナル者ニシテ局部ノ麻痺スルニ先チ此所ニ痙攣ヲ來ス者是ナリ此痙攣ハ後亦麻痺ト共ニ存スル者ニシテ(隔離性痙攣 Dissociate Krämpfe) 亦廣ク身體ニ蔓延スルヲ有リ然レ其痙攣ノ本源ハ常ニ皮質患部ニ適合スル肢節ナリトス
(ロ) 患部若シ内囊ニ在ルキハ假令其部位ハ狭小ナルモ他側ノ全半身ヲ麻痺セ

半身不遂

シム(半身不遂 Hemiplegic) 腦脚及ワロル氏橋ニ於ケルモ亦然リ

(ハ) ワロル氏橋及延髓内ニ損傷有ルキハ其患部廣大ナラザルモ既ニ甚貴要ノ中樞(呼吸中樞心臟ノ迷走神經中樞)ヲ侵シ易キヲ以テ早ク死亡ヲ招キ又屢出血軟化ノ際直ニ死ニ至ラシム

(四) 或ル部位ニ於テハ一定ノ腦神經ト四肢ニ對スル錐狀體徑路ハ互ニ近接スルヲ診斷上注意ス可キ件トス就中腦脚基底ニ於テハ動眼神經ハ之ト反對側ノ腕及脚ニ對スル錐狀體徑路ニ接近シワロル氏橋ノ下部ニ於テハ錐狀體徑路ハ再ビ交叉又後顔面神經ノ徑路ニ接近ス(第四百八十四圖)故ニ偏側腦脚基底ノ腫瘍ハ同側動眼神經ノ麻痺及反對側ノ腕及脚ノ麻痺ヲ來スモ(交叉性動眼神經及四肢麻痺)之ニ反シテ橋下部ノ病竈ハ既ニ上文ニ述ベタルガ如ク同側ノ顔面神經麻痺及反對側ノ四肢麻痺ヲ來ス者トス(交叉性顔面神經四肢麻痺)

病竈高ク橋ノ上部顔面神經交叉ノ上方ニ在ルキハ反對側ノ顔面神經及四肢麻痺即チ真正ノ半身不遂ヲ起ス可キモ是レ絶對ナリトス(第四百八十四圖)近時ノ發見ニ恐レバ偏眼ノ動眼神經麻痺及反對側上肢ノ震戰若クハ共働機障

碍ハ小腦脚ノ疾患ニ因ル者ナリト云フ(ベチヂクト氏症候)

(五) 腦底ニ於ケル病竈ハ其部位ニ由リ諸種ノ腦神經ヲ侵ス即チ病竈若シ前頭蓋窩ニ在ルキハ嗅神經ニ障礙ヲ來シ中頭蓋窩ニ在ルキハ視神經、動眼神經、滑車神經、外旋神經等ニ障礙ヲ來シ時トシテ亦嗅神經ヲ侵スヲ有リ又病竈若シ後頭蓋窩ニ在ルキハ滑車神經、外旋神經、顏面神經、聽神經、舌咽神經、迷走神經、副行神經、舌下神經等ニ障礙ヲ來スヲ有ルガ如シ而シテ其障礙ハ或ハ偏側ニ來リ或ハ兩側ニ來ルヲ有リ(第百八十三圖)又之ト同時ニ腦脚、橋、延髓ニ病竈在ルキハ既ニ(三)項ニ述ベタルガ如ク錐狀體徑路ニ障礙ヲ起シ以テ四肢ノ麻痺ヲ來スヲ有レト該麻痺ハ腦底ノ疾患ニ在テハ腦神經麻痺ニ比スレバ多クハ僅少ナリトス

視神經牀ノ疾患ハ同名側ノ半盲症、偏側舞踏病、偏側あてミーゼ及偏側ノ震戦ヲ來スヲ有レト此症候ノ一部ハ視神經牀ニ密接スル内囊ノ疾患ニ因ルヤ否ヤ未ダ明カナラズ大腦脚ノ病竈ハ反對側ニ於ケル運動麻痺ノ外知覺麻痺及血管運動神經麻痺ヲ來スヲ稀ナラズ小腦ノ疾患ハ單ニ半球ヲノミ侵スルハ多クハ只不定ノ症候若クハ一汎症候ノ

呈スル者ニ診斷上肝要ナル竈局症候ハ蟲葉ノ侵サル、ト四體體橋及延髓若クハ其神經ノ隣接症候トニ由テ來ル即チ蟲葉ノ侵サル、ヤ小腦性運動失調、眩暈及強迫運動ヲ起シ其隣接症候トハ動眼神經及滑車神經麻痺(四體體)、顏面神經麻痺(橋及第四腦室ノ基底)、外旋神經麻痺、三叉神經痛ヲ來ス一汎症候中殊ニ掲グ可キハ通常早期ニ且強度ニ發來スル鬱血乳頭、後頭痛、嘔吐、痙攣及強迫的側位ナリ

(乙) 脊髓ニ於ケル限局症狀

脊髓ニ於ケル限局症狀 Die Localisation im Rückenmark ニ關シテハ先ノ頸部及腰部膨大竝ニ前角ニ於ケル其核堆ノ四肢末梢神經ノ主宰ニ係ル特別ノ價値ニ注意ス可シ該兩膨大内ニハ四肢筋ノ各部ニ對スル一定ノ局所有ルヲハ人ノ知ル所ナレト胸髓ノ種々ナル高ニ於ケル運動性核ノ官能ニ至テハ未ダ之ヲ精密ニ知ルヲ能ハズ但シ隨意的皮膚知覺機及脊髓ニ於テ反射ヲ來ス所ノ不隨意的皮膚知覺及深在知覺ノ局所ハ病牀上ノ實驗ニ由テ發見セラレタル者少カラズ然リ而シテ脊髓ニ於ケル病竈ノ部位ヲ其高ニ從テ診定セシニハ前根及後根進入部ノ高ニ憑據スルヲ以テ最單簡ナリトス左ニスタツ

脊髓ニ於ケル限局症狀

腦髓及脊髓ノ竈局疾患ニ對スル局所診斷的要綱

ル氏ノ表ヲ掲ゲテ讀者ノ理會ニ便セントス

脊髓ノ部位	筋	肉	反射	皮膚知覺部位
第二及第三頸髓	胸鎖乳嚙筋、僧帽筋、斜角筋及項筋、橫隔膜		季肋下ニ急壓チ加フルニ急進ナル吸氣ヲ爲ス	項部及後頭部
第四頸髓	橫隔膜、棘上筋及棘下筋、三角筋、二頭筋及烏喙筋、長廻後筋、菱形筋		項部第四乃至第七頸椎ヲ刺戟スルニ瞳孔散大ス	項部、上肩胛部、上肢ノ外側
第五頸髓	三角筋、二頭筋及烏喙筋、長及短廻後筋、胸筋ノ鎖骨部、大鋸筋、菱形筋、內膊筋、小圓筋		肩胛反射、所屬筋肉ノ腱反射	肩胛及上肢ノ背側、上膊及前膊ノ外側
第六頸髓	二頭筋、內膊筋、胸筋ノ鎖骨部、大鋸筋、三頭筋、手指伸筋、廻前筋		上膊及前膊伸筋腱ノ反射、手關節腿反射(第六乃至第八頸椎神經)	前膊ノ外側、手背及桡骨神經區域
第七頸髓	三頭筋長頭、手指伸筋、手ノ屈筋、手ノ廻前筋、胸筋ノ肋骨部、肩胛下筋、潤骨筋、大圓筋		手掌ヲ打ツニ手指ノ閉鎖ヲ來ス	手ノ橈骨神經區域
第八頸髓	手指屈筋、手ノ小筋		瞳孔反射	正中神經區域
第一胸髓	握指伸筋、手ノ小筋、拇指筋及小指球			尺骨神經區域

第二乃至第十二胸髓	背部及腹部諸筋、脊柱伸筋	上腹反射(第四乃至第八胸椎神經)、腹壁反射(第七乃至第十一胸椎神經)	胸部、背部、腹部及上臂部
第一腰髓	腸腰筋、縫匠筋、腹筋	提睾筋反射(第一乃至第三腰椎神經)	外陰部、陰囊前面
第二腰髓	腸腰筋、縫匠筋、四頭筋	膝蓋腱反射(第二乃至第四腰椎神經)	臀部及外側
第三腰髓	四頭筋、臀筋、張股鞘筋、內轉股筋		臀部前面及內側
第四腰髓	外轉股筋、內轉股筋、前脛骨筋、二頭股筋、半腱筋、半膜筋、閉鎖筋、梨子狀筋、四頭股筋	腎筋反射(第四及第五腰椎神經)	腎筋ノ内側、下肢内踝ニ至ル内側、足部内側
第五腰髓	腓腸筋、比目魚筋、二頭股筋、半腱筋、閉鎖筋、梨子狀筋、四頭股筋、足屈筋、趾屈筋及伸筋、腓骨筋	アヒルニス腱反射	臀部背面、大腿背面、足部外側
第一乃至第二薦骨	足屈筋、及趾伸筋、及屈筋、腓骨筋、骨間筋	足蹠反射	大腿背面、下腿外側、足外側
第三乃至第五薦骨	會陰筋、膀胱筋、直腸筋	膀胱及直腸反射、肛門反射	薦骨部、肛門、會陰、外陰部

腦髓及脊髓ノ電局疾患ニ對スル局所診斷的要綱

第一章 局所疾病検査法

凡^レ神經系統ノ諸病ハ患部所在ノ部ニ其症狀ヲ呈スル^レ少ク或ハ全ク之ヲ呈スル^レ無ク反テ遠ク之ヲ離ル、他部ニ於テ其症狀ヲ呈スル^レ多シ是^レハ腦及脊髓ハ骨壁ニ由テ圍擁セラル、ヲ以テ直達ニ之ヲ診査スル^レ甚^ク難ク或ハ全ク爲シ能ハザルト又一ハ其疾患ハ頗^ル著明ナル徵候ヲ呈スル^レニ拘ラズ其病竈ハ極^テ狭小ナル^レ有レバナリ是故ニ神經系統ノ諸病ニ於テハ局所的診査ヲ要スル^レ多カラズト雖亦其必要有ルヲ以テ茲ニ先^ク其肝要ナル者ヲ敘述セムトス

第一 頭蓋検査法

頭蓋検査法 Die Untersuchung des Schädels ハ腦及其被膜ノ疾患ニ於テハ甚^ク肝要ナラズ是^レ其疾患ハ多クハ皆頭蓋ニ其症狀ヲ呈スル^レ無ク^テ經過スレバナリ然^レモ若^シ之ニ多少ノ變常ヲ來ス^キハ是^レ或ハ内部ノ疾患ニ繼發スル者ナリ之ニ反シテ間、頭蓋ノ變常ニ由テ腦疾患ヲ惹起スル^レ有レル^レ也

頭蓋検査法

ナリトス
頭蓋ノ検査ハ視診觸診及測定法ニ據ル者ニ^{シテ}殊ニ注意ヲ要ス可^キハ其大小形狀及壓痛ナリトス

(一) 頭蓋ノ大小

頭蓋ノ大小 Die Grösse des Schädels ヲ檢スルニハ通常主トシ眉間及後頭結節上ニ於テ其周圍ヲ測定シ且腦頭蓋ト顔面頭蓋トノ間ノ對稱ヲ比較ス可シ頭ノ周圍ハ初生兒ニ在テハ三十九乃至四十仙迷ヲ算スルモ(之ヨリ稍小ナリトス)者有リ)第一年ヲ經過スル^レキハ大約四十五仙迷ニ増大シ之ヨリ第十二年ニ至レバ五十仙迷ニ達シ成人ニ在テハ大約五十五仙迷ヲ算ス

頭蓋ノ大小

大頭

第百四十八圖 腦水腫



然^レモ女子ニ在テハ男子ニ比スレバ稍小ナルヲ常トス
腦頭蓋ノ著大ナル者(大頭 Hydrocephalic)ハ殊ニ慢性腦水腫ニ於テ略ル所ニ^{シテ}多クハ先天的ニ來リ或ハ極^テ幼稚ノ時ニ發シ通常頭蓋ハ

頭蓋検査法○頭蓋ノ大小

四〇七

方頭

頭蓋癆

小頭

頭蓋ノ形狀

四方ニ等シク擴張シ就中前頭骨及顛頂結節最著シク突隆シテ額門及縫合廣ク哆開シ時トノ緊張隆起ス又頭部大ニシテ其重力ノ爲、常ニ前方ニ傾斜スル者ニ在テハ顔面小ニシテ老タルガ如キ容貌ヲ呈ス(第四八五圖)此他著シキ佝僂病性ノ小兒ニ在テハ前頭骨及顛頂骨肥厚シテ後頭骨扁平ト爲リ一種ノ方形ヲ有シ(方頭 *Caput quadratum*) 頭部亦異常ニ大ニシテ後頭骨部ノ毛髮發生稀粗ナリトス尙幼弱ナル小兒ニ在テハ時トノ後頭骨ノ一、二部菲薄ニシテ容易ニ之ヲ壓陷スルコトヲ得可シ(所謂頭蓋癆 *Cranioabs*) 而シテ通常第一年ノ終、或ハ第二年ノ始、ニ閉鎖スル所ノ大額門ハ第二年、第三年ニ至ルモ尙哆開シ其異常ニ大ナルヲ見ル可シ

頭部ノ異常ニ小ナル者(小頭 *Microcephalie*) ニ在テハ其腦モ亦固ヨリ異常ニ小ナルヲ以テ痴呆ヲ兼ザルヲ得ズ此場合ニ於テハ腦ノ發育異常ヲ以テ原發性ノ者ト爲ス可シ又頭蓋ノ小ナル者ハ其形ヲ異ニスルヲ常トス

(二) 頭蓋ノ形狀

頭蓋ノ形狀 *Die Form des Schädels* ニハ其全部ニ變化有ル者ト一部ニ變

長頭及短頭

頭蓋ノ左右不同

局所隆起及陷沒

化有ル者ト區別ス其全形ノ異常ニ屬スル者ニ長頭 *Dolichocephalie* 及短頭 *Brachycephalie* ナル者有リ又屢、腦ニ病的變常無キモ頭形ヲ異ニスル者有リ此他先天性ノ腦形成缺亡即痴呆ニ來ル所ノ頭形モ之ニ屬ス(頭蓋ノ左右不同 *Asymmetrie des Schädels* ナルハ亦是等ノ者ニ見ル所ナレモ亦全ク健常利發ナル人ニ之ヲ略ルコト有リ) 頭蓋ノ不等形ヲ檢スルニハ上方ヨリ之ヲ見ルカ或ハ頭蓋ノ形狀ヲ紙上ニ模寫ス可シ即恰モ胸廓ノ形狀ヲ模寫スルガ如ク骨盤計ヲ用キテ頭蓋ノ最大矢狀徑ト最大橫徑トヲ計測シ、後鉛線ヲ貼シテ其形狀ヲ模寫ス可シ

頭蓋ニ局所隆起及陷沒 *Unschriebene Vorwölbungen und Einsenkungen* 有ルハ臨牀上大ニ注意ス可キ者ナリ殊ニ後者ハ腦ニ關係セズ全身病ノ一徵ト爲ス可キコト有リ而シテ其隆起ハ頭蓋骨及硬腦膜ノ腫瘍ニ來ル者ニシテ就中護膜腫瘍及肉腫ニ於テ多ク見ル所ナリ其陷沒ハ外傷ニ因ルコト有リ頭蓋穹窿一部ノ缺損セル陷沒ニ在テハ之ヲ觸ル、ニ恰モ額門ノ如キ感ヲ起スコト有リ又柔軟ニシテ僅ニ陷沒セル圓形部ハ間、頭蓋ノ癌腫ニ因ルコト有リ此他甚ク肝要ナルハ圓形ノ癩痕性陷沒ニシテ其表面ニ頭皮癒著シ或ハ屢、癩痕ヲ存スル者ナ

頭蓋ノ形狀

リ是レ微毒性若クハ深キ潰瘍ノ治後ニ見ル所ナリ凡是等ノ症狀殊ニ外傷若クハ微毒ニ因ル骨ノ陷没ハ診斷上肝要ナル者トス但モ毛髮密生セル者ニ在テハ頗ル注意ヲ加ヘテ觸察スルニ非ザルヨリハ之ヲ發見スルコト能ハザルコト有リ

頭蓋下腦ト解剖的關係

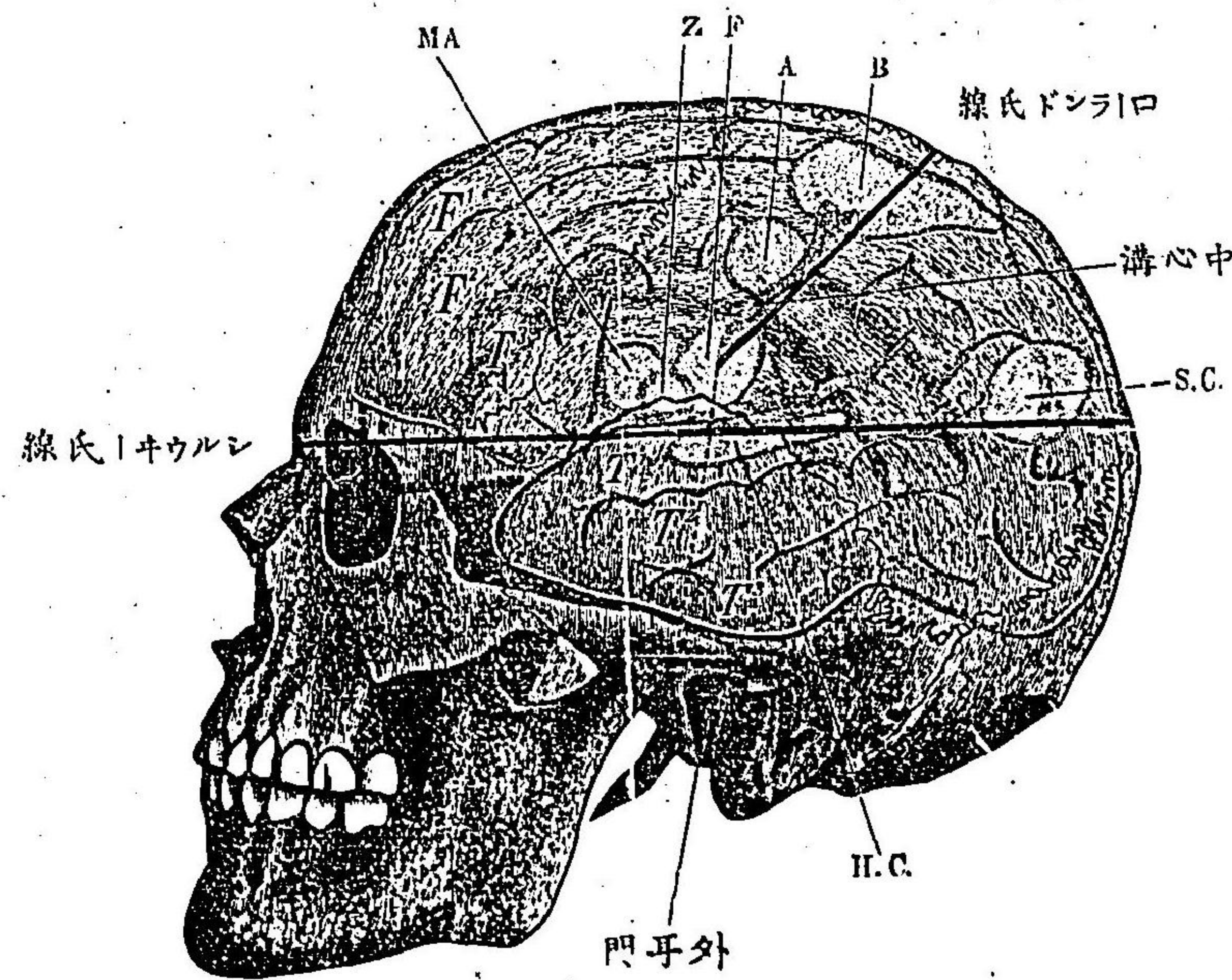
頭蓋下腦ト解剖的關係就中頭蓋ト其穹窿部ニ於ケル腦ノ廻轉及溝トノ位置上ノ關係ヲ知悉スルハ診斷上頗ル肝要ナリトス是レハ限局性ノ陷没ヲ來シ或ハ腫瘍ニ因ル隆起ヲ來シタル場合ニ於テ腦表面ノ何レノ部位ニ傷害ヲ來ス可キヤヲ察知シ又一ニハ腦殊ニ其皮質ニ病竈ヲ存スル場合ニ於テ其患部ハ何レノ頭蓋骨部ニ相當スルヤヲ推知スルニ要有レバナリ殊ニ最近腦外科ノ進歩スルニ從ヒ腦ノ限局性腫瘍及膿瘍ノ如キハ時宜ニ山リ手術的ニ除去スルコトヲ得レバナリ故ニ今左ニ腦表面ノ最貴要ナル部域ヲ檢索スルニ緊要ナル點ヲ略述ス可シ

ボアリエ氏ハ大人ニ於ケル頭蓋ノ部位ヲ定ムルニ次ノ二線ヲ以テセリ即チローランド氏線及シルウヰ氏線是ナリ(第四百八十六圖)

第四百八十六圖

腦及轉廻質中樞頭蓋下ノ解剖的關係

(氏 エ リ ア ヴ)



- (MA) 運動性失語(舌)
- (F) 顔面神經(上肢)
- (SC) 下肢(視官中樞)
- (MC) 聽官中樞(耳)
- 第一、第二、第三前頭廻
- 轉(第一、第二、第三)
- 第三前頭廻

頭蓋ノ形狀

(イ) ローランド氏線 *Rolando'sche Linie* を確定スルニハ先づ筆ヲ以テ額顛骨額骨突起ノ上縁ヲ標記シ次デ此顛骨突起線ニ向テ鉛直線ヲ引ク可シ此鉛直線ハ正ニ耳角ノ前部即チ之ト下顎關節後ノ線トノ間ニ在ル者ナリ今此線ニ沿ヒ耳孔部ヨリ上方七仙迷ヲ測ルルキハ其終點ハ即チローランド氏線ノ下端ニ當ル又該線ノ上端ヲ求ムルニハ矢狀正中線ニ於テ鼻前頭角ノ尖端ヨリ外後頭結節ニ至ル距離ヲ測リ次デ鼻前頭角ヨリ此距離ノ半ヲ取り之ニ尙ニ仙迷ヲ加フ可シ之ニ由テローランド氏線ト矢狀縫合トノ交叉點ヲ得可シ(ロ) シルウヰ氏線 *Sylvii'sche Linie* ハ鼻前頭角ト外後頭結節ノ上方八仙迷ノ部位トヲ連結スル者ヲ云フ

此兩線ト正中溝(ローランド氏溝)及シルウヰ氏溝トノ關係ハ第四百八十六圖ニ就テ觀ル可シ此他最貴要ナル皮質部域ト此兩線トノ部位的關係モ之ニ由テ明瞭ナリ即チ下肢ハローランド氏線ノ上三分一ノ所ニ適シ上肢ハ中三分一ノ所ニ適スルヲ見ル可シ運動性言語中樞ハ該線ノ稍下前方ニ在リ」額顛葉ハシルウヰ氏線ト外聽道ノ間ニ求ム可シ就中言語ノ理解中樞ハシルウヰ氏線ノ直下ニ在リ」皮質ノ視官中樞ハシルウヰ氏線ノ後端正中線

ノ側傍ニ在リ

外後頭結節ノ著明ナラザル者ニ在テハ(大人ニ就テ)鼻前頭角ヨリ後方十七乃至十八仙迷ヲ距ル所ヲ以テローランド氏線ノ上端ト爲ス可シ

(三) 頭蓋ノ壓痛

頭蓋ノ壓痛

頭蓋ノ壓痛 *Die Druckempfindlichkeit des Schädels* を検査スルニハ指壓ヲ施シ或ハ指頭若クハ打診槌ヲ以テ之ヲ輕打ス可シ其全部ニ互ル壓痛ハ機能神經症殊ニ神經性頭痛ニ來リ限局性ノ壓痛モ亦間機能神經症其他歇斯の里ニ來ル者ナレモ後者ハ時トシ主ニ腫瘍、腦膿瘍ニ起因スル限局性腦膜炎ニ見ルコト有リ

茲ニ注意ス可キハ中耳ノ化膿ハ屢、腦膜炎及腦膿瘍ノ原因タルコト有レモ外ハ膿ニ因ルハ罕ナリトス

第二 脊柱検査法

脊柱検査法 *Die Untersuchung der Wirbelsäule* ニ於テハ其形状運動

脊柱検査法

頭蓋ノ壓痛○脊柱検査法

及壓痛ニ注意ス可シ

(一) 脊柱ノ形狀

脊柱ノ形狀

脊柱ノ形狀 Die Form der Wirbelsäule ニ就テハ既ニ上章ニ述ベタリ(前四一六
六頁參照)即チ其形狀ノ變化ハ側彎 Scoliose 後彎 Kyphose 及前彎 Lordose ニシテ等ノ
彎屈ニシテ鈍角(弓)狀彎屈ナルキハ脊髓ニ傷害ヲ來ス(無シト雖角狀後彎ニ
在テハ之ヲ壓迫スルヲ以テ著シキ傷害ヲ來ス)有リ即チ脊椎體骨瘍及脊椎
骨折ニ於テ見ルガ如キ者是ナリ輕度ノ側彎ヲ檢査スルニハ皮膚ヲ移動ス
ル(無ク棘狀突起ノ尖端ヲ連結シテ墨線ヲ引ク可シ)偏側若クハ兩側ノ
背筋麻痺或ハ萎弱ハ往々脊柱ノ彎屈殊ニ側彎及前彎ヲ繼發セシム

(二) 脊柱ノ運動

脊柱ノ運動性

脊柱ノ運動性 Die Beweglichkeit der Wirbelsäule ハ間ニ其全部ニ互リテ減少
ス但シ其老人ニ見ル所ノ者ハ屢病的ニ非ザルモ全部ノ硬勁ハ殊ニ畸形性關
節炎ニ於テ見ル(多シ)又其硬勁一部ニ限局スル者ハ病的ニシテ常ニ骨

瘍ニ之ヲ見ル可ク此際往々脊柱ノ彎屈ヲ認メザル(有リ而シテ強テ之ヲ屈
曲セントスルキハ疼痛ヲ起ス)多シ此他幼年ノ者ニ在テ背部ノ伸筋或ハ
屈筋麻痺スルキハ脊柱ノ運動過度ヲ來ス(有リ其高度ノ者ハ少年性筋萎
縮症ニ觀ル所ニシテ屢習慣性彎屈ヲ合併ス

(三) 脊柱ノ壓痛

脊柱ノ壓痛

脊柱ノ壓痛 Die Druckenempfindlichkeit der Wirbelsäule ニシテ棘狀突起部ニ來ル
者ハ殊ニ骨瘍、脊椎及脊髓膜ノ腫瘍、脊髓膜炎、其他脊髓癆ニ來リ又脊髓過敏
症(本症ニ於テハ殊ニ項部及肩胛間部ニ於テス)及歇斯的里ニ來ル者ニシテ歇
斯的里ニ在テハ間ニ甚ク高度ナル(有リ而シテ)之ヲ檢スルニハ脊柱ヲ強ク壓迫
シ或ハ打擊シ或ハ溫メタル海綿若クハ瓦爾華尼電流ノ消極ヲ以テ之ヲ擦
過ス可シ

茲ニ尙注意ス可キ者ハ腦膜炎(殊ニ腦底腦膜炎)ニ於ケル項強直(著シク頭ヲ後方ニ屈ス)
及脊髓膜炎ニ於ケル脊柱全部ノ硬勁ニシテ前者ハ腦膜炎ノ診斷上主要ナル徵候ナリトス
又脊柱ノ後屈即チ後弓反張ハ發作性ニ破傷風痙攣性及殊ニ歇斯的里性痙攣ニ於テ見ル所

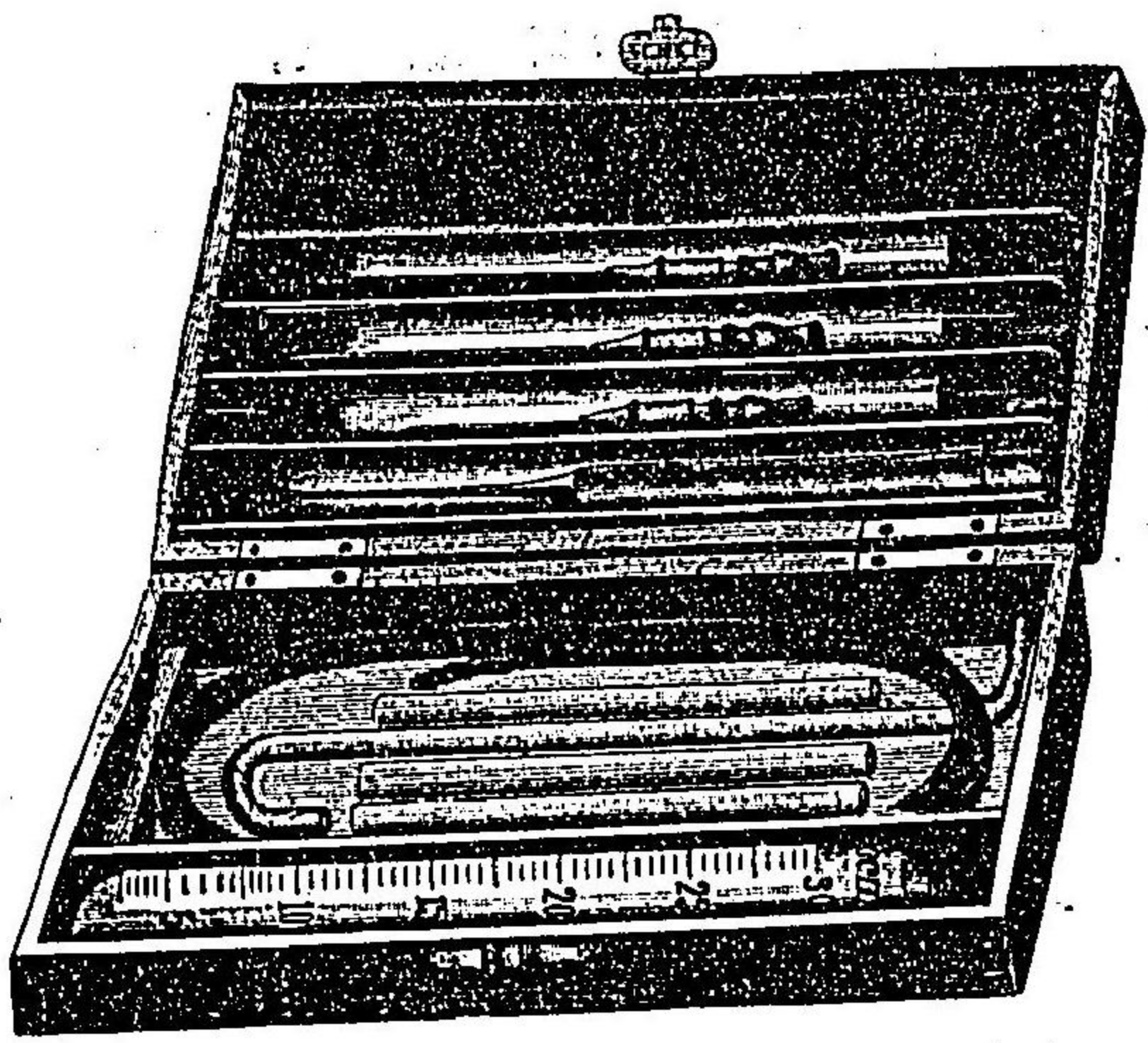
脊柱ノ形狀○脊柱ノ運動○脊柱ノ壓痛

ニノ後症ニ於テハ間、非常ニ轉振(所謂「輪狀弓」*arche de cerclé*)ヲ來ス、右リ
 脊髓ノ脊柱ニ對スル解剖的關係ハ左ノ如シ即頸部膨大ハ大約第三頸椎ノ
 棘狀突起ヨリ第一胸椎ノ棘狀突起ニ至ル高ニ適シ腰部膨大ハ大約第九胸
 椎ノ棘狀突起ヨリ第一腰椎ノ棘狀突起ニ至ル高ニ適シ終末錐體ハ第一乃
 至第二腰椎部ニ始マル

腰椎穿刺法

茲ニ尙脊椎管ノ穿刺法即「腰椎穿刺法」*Die Lumbalpunktion*ニ就テ一言ス
 可シ該法ハクケンケ氏ノ發案ニ係ル者ニ元來主トシ治療ノ目的ニ用キ
 ラル、者ナリシモ從來ノ經驗ニ憑レバ治療上ヨリモ寧ろ診斷上ニ應用セラ
 ル、一多キニ至レリ今此法ヲ行ハントスルニハ先ツ患者ヲ側臥セシメ上
 體ヲ強ク前方ニ屈曲シ兩脚ヲ腹部ニ接近セシメタル後第三腰椎ト第四腰
 椎トノ中間ニ於テ脊柱ノ正中線ヨリモ稍、側方ニ偏シテ嚴ニ殺菌シタル一
 定ノ穿刺器(第百八十七圖)ヲ用キテ穿刺ス可シ穿刺ノ深サハ小兒ニ在テハ約二
 仙迷大人ニ在テハ六乃至七仙迷ヲ極度トス此際麻醉ヲ要スルヲ無ク多少
 練習スルルハ馬尾ノ起始部ニ於ケル蜘蛛膜下腔ニ達シ得可シ然ルルハ腦

第百八十七圖 腰椎穿刺器



脊髓液ハ滴狀ヲ爲シ或ハ線狀
 ヲ爲シテ流出ス而シテ一定ノ計
 壓管ヲ護膜管ニ依リテ此穿刺
 針ニ連結スルルハ液體ノ其管
 内ニ上昇スル程度ニ由テ該液
 ノ壓力ヲ測定スルヲ得可シ
 腰椎穿刺ニ由テ流出スル所ノ
 液ハ純粹ノ腦脊髓液ニシテ健體
 ニ在テハ水様透明ニシテ纖維素
 ヲ析出スルルヲ無ク只僅ニ蛋白
 質ヲ含有スルルモ鹽類殊ニ食鹽

ハ多量ナリ而シテ診斷ノ目的ニ於テハ流出スル液體ノ壓力及性状ヲ檢スル
 者ナレバ其壓力ハ常體ニ在テモ不同ニシテ腦水腫、腦腫瘍ニ於ケルガ如ク腦
 壓ノ増加セル場合ニ在テモ其壓力却テ微弱ナルヲ有ルヲ以テ其診斷上ノ
 價值ハ多カラザル者トス之ニ反シテ液體ノ性状ハ診斷上其肝要ナル者ト

ス即チ腦膜炎及間腫瘍ニ於テモ其中ニ纖維素ヲ含有シ蛋白質ノ含量ハ常態及腫瘍ニ於ケルヨリ多キモ腫瘍ニ於テハ糖ヲ檢出スルコト有リ但シ之ヨリ著明ナルハ他ノ混和物ニシテ腦溢血ノ側室中ニ穿破セル者ニ在テハ血液ヲ含有シ諸種ノ化膿性腦膜炎ニ在テハ膿ヲ含有シ又結核性腦膜炎ニ在テハ其中ニ結核桿菌ヲ證明スルコト有リ此他化膿性腦膜炎ニ在テハ連鎖狀及葡萄狀球菌ヲ認メ流行性腦脊髓膜炎ニ於テハ細胞内性腦膜炎球菌ヲ發見スル等ハ共ニ診斷上甚ク肝要ナル者トス

第三 末梢神經検査法

末梢神經検査法

Die Untersuchung der peripheren Nerven 諸般ノ末梢性麻痺及神經痛(其他殊ニ反射癱瘓)ニ施サル、所ニシテ神經幹ヲ検査スルニハ能ク其經過及分佈ノ狀況ヲ明カニシ又其周圍諸器ノ状態ヲ審ニセンコトヲ要ス蓋シ神經ノ疾患ハ其周圍諸器ノ障礙ニ起因スルコト多クレバナリ而シテ該疾患ハ其解剖的状況ニ由リ自ラ明カナル者ニシテ神經稍平等ニ肥厚スルキハ其神經炎若クハ神經周圍炎タルヲ識ル可ク其肥厚中等ナラザルカ或

ハ之ニ腫瘤ヲ存スルキハ神經纖維腫或ハ神經腫タルヲ識ル可シ其他腫瘍ニ由テ其疾患ヲ知ルコト有リ即チ神經炎ニ在テハ其患部神經ヲ壓迫スルニ疼痛ヲ起スガ如シ(但シ全ク疼痛ヲ起サザルコト有リ)神經痛ニ於ケル痛點モ亦之ニ屬ス(下文ニ詳ナリ)

末梢神經ハ其一定ノ部位ニ由リ殊ニ疾患ニ侵サレ易キヲ以テ之ヲ精査スルヲ緊要トス即チ身體表面ニ接近スル所ノ神經ハ外傷ヲ被ムルコト多ク又骨折(殊ニ四肢骨)ニ在テハ假骨ノ發生ニ由テ神經幹ヲ壓迫シ或ハ腺腫(腋窩腺、頸腺、大動脈瘤、歇爾尼亞股神經)等ニ由テモ亦之ヲ壓迫シ時トシテ其炎症ヲ起スコト有リ此他顛顛骨岩様部ノ骨瘍ニ由テ顔面神經ノ麻痺ヲ來スコト屢之有リトス

末梢神經ノ疾患ニ在テハ其局部ノ疾患ヲ檢出スルコト甚ク難キコト多シト雖各症ニ於テ宜シク之ヲ精査スベシ

第四 精神機能検査法

Die Untersuchung der psychischen Thätigkeiten

精神機能検査法

末梢神經検査法 精神機能検査法

詳密ナルコトハ精神病學ノ論ズル所ニ固ヨリ本書ノ能ク悉ヌ所ニ非ズ故ニ茲ニハ唯一般診斷學上ニ關スル者ノ梗概ヲ敘述スルノミ

(一) 意識障礙

意識障礙
昏睡
嗜眠
昏愒
精神朦朧
意識障礙ヲ將來スル者

意識障礙 *Störungen des Sensoriums* ハ諸般ノ病態ニ來ル者ニシテ其輕重固ヨリ甚クニ様ナラズ即チ意識全ク失亡シテ強劇ノ刺戟ヲ與フルモ患者迄モ其感應ヲ呈セザルホハ之ヲ昏睡 *Coma* ト云ヒ高聲ニ患者ヲ喚起シ或ハ動搖スルホハ一時之ヲ識得スルガ如キモ直ニ復シ睡眠ニ陥ル者之ヲ嗜眠 *Sopor* ト云フ又意識殆ド消失シ患者睡眠ニ類似セル状態ニ在ル者之ヲ昏愒 *Somnolens* ト云ヒ其更ニ輕度ニシテ意識消失セズ醫問ニ對シテ尙徐々ニ應答シ得ル者之ヲ精神朦朧 *Bewusstlosigkeit* ト云フ蓋シ是等諸般ノ状態ハ元ト是レ同一状態ノ只其輕重ヲ異ニセル者ニシテ之ヲ來スヤ或ハ原發性腦疾患ニ因リ或ハ他ノ疾患ニ伴フ所ノ繼發性疾患ニ因ル即チ之ヲ將來スル者次ノ如シ

(イ) 急性傳染病 是レ殊ニ腸室扶斯ニ來ル者ニシテ該患者ニ於ケル精神昏愒ハ診斷上肝要ノ件ナリトス

眩暈

(ロ) 急性中毒症 亞爾個保兒酸化炭素莫兒比涅等ニ於ケルガ如シ

(ハ) 尿毒症 糖尿病 癩腫等

(ニ) 癩病 癩病後ノ昏睡ハ甚ク短ク長キモ數時間ニ過ギズ又歇斯的里性癩病發作後ニ於テモ通常多少意識ノ障礙ヲ來スト雖全ク之ヲ亡失スルコト無シ

(ホ) 卒中發作後 腦出血或ハ腦動脈ノ栓塞或ハ血塞ニ由テ來ル者はナリ

(ヘ) 腦膜炎 就中流行性腦脊髓膜炎

(ト) 腦腫瘍及慢性腦水腫 該病ニ在テハ腦内ノ壓力漸次増加スルニ隨ヒ意識障礙ヲ來スト雖真正ノ昏睡ヲ來スハ只瀕死ノ際ニ於ケルノミ

(チ) 高度ノ失血

(リ) 各疾病ノ轉歸ニ於ケル死前即チ死戰期 死ハ精神官能ノ消滅ニ外ナラザルヲ以テ人ノ死スルヤ先チ意識ニ變常ヲ起スヤ明カナリ

此他一時經過的ニ意識ノ濁濁ヲ來スコト有リ即チ失氣 *Chinuch*, *Syncope* 又眩暈 *Schwindel*, *Vertigo* 是ナリ而シテ該障礙ハ甚ク良性ナルコト有レモ(貧血及萎黃病) 機能神經症強劇ノ刺戟其他劇痛ニ因ル者) 又頗ル惡徵タルコト有リ即チ老人ニ在テハ重症卒中ノ前驅症トシテ來リ腎臟病ニ在テハ尿毒症ノ徵候トシテ來リ又

視眩暈

癲癇發作前或ハ慢性ノ腦疾患ニ依ル者ノ如キ等是ナリ
眩暈ハ多クハ一時輕度ノ意識障礙ト看做ス可キ者ニシテ只身體平衡ノ感覺
ニ障礙ヲ來ス者トス即チ其最純正ナル者ハ複視ノ際來ル所ノ視眩暈 *Augen-
schwindel* ニシテ患者物體ノ位置及高低ヲ正視スルコト能ハザル者是ナリ其他眩
暈ハ腦腫瘍多發性腦硬化症胃疾患貧血腦神經衰弱症等ニ來ル者ニシテ耳疾
患ニ於テモ亦屢之ヲ見ルコト有リ所謂耳眩暈 *Ohrschwindel* 是ナリ

耳眩暈

(二) 智力障礙

智力障礙

魯鈍及癡狂

智力障礙 *Störungen der Intelligenz* ハ意識ニ異常無キ際ニ來リ或ハ其障礙
ト同時ニ來ル者ニシテ智力減亡シ又思慮ノ異常ナル者ヲ謂フ
智力障礙ノ輕重ニ從ヒ魯鈍 *Stupor* 及癡狂 *Bödsinn* ナル名稱ヲ用ユ前者ニ在
テハ患者痴騷ノ容貌ヲ呈シ記憶力減損スルモ其行爲ヲ觀ルニ尙未ダ思慮
ヲ失フニ至ラズト雖癡狂ニ在テハ患者全ク思慮ヲ喪失ス是或精神病ニ特
有ノ徵候ニシテ魯鈍ハ殊ニ徐々ニ増息スル腦腫瘍及慢性腦水腫ニ多ク觀ル
所ナリ

譫妄

茲ニ尙智力障礙ニ屬ス可キ一種ノ顯象有リ譫妄 *Delirium* 卽是ナリ是病的
ニ思慮ノ變調セル者ニシテ恰モ狂人ニ於ケルガ如ク患者妄語ヲ放テ屢甚高
聲ヲ發シテ靜謐ナラズ或ハ叫喚シ臥褥ヲ脫出セント欲シ多クハ同時ニ意
識常ナラズ又時トシテ全ク昏睡ニ陥リ患者靜カニ病褥ニ就キテ低聲モテ喋々
喃喃解ス可カラザル語ヲ放ツコト有リ而シテ譫妄ハ多ク重症ノ熱性病就中腸
室扶斯(小兒ニ在テハ輕症ナルモ之ヲ發ス)腦膜炎及酒客ニ來ル者ニシテ後
ニ來ル者之ヲ特ニ酒客譫妄 *Delirium potatorum* ト名ク是慢性亞爾爾保兒中毒
症ノ急劇ニ發來スル者ニシテ殊ニ酒客ノ一朝外傷ヲ蒙リ或ハ急性熱性病
ニ罹リタル際頓發ス斯ノ如キハ所謂外傷性譫妄 *Delirium traumaticum* ニシテ該
症ハ通常幻覺殊ニ幻視ヲ有シ且手及舌ノ震顫ヲ兼ヌ故ニ又震戰譫妄 *Delirium
tremens* ノ名有リ

外傷性譫妄

震戰譫妄

第二章 知覺機檢查法

第一 末梢性刺戟ノ知覺

智力障礙○知覺機檢查法○末梢性刺戟ノ知覺

末梢性刺激ノ知覺

末梢性刺激ノ知覺 Die Empfindung peripherer Reize 即、幣士ヨリ與ヘラレタル刺激ヲ知覺スルハ患者ノ陳述ヲ以テ根據ト爲サ、ル可カラザルヲ以テ之ヲ判定スルハ頗ル難事ニ屬ス是、其知覺ハ各人其程度ヲ異ニスル者ニシテ遲鈍ノ者及老人ニ在テハ其知覺減少シ殊ニ精神昏聩セル者ニ在テハ殆ド知覺ヲ感ゼザルコト有レバナリ又知覺ノ異常ハ患者間、隱蔽シ其真ヲ告ゲザルコト有リ是亦大ニ注意ヲ要ス可キ者トス

末梢性刺激ノ知覺ハ高等感覺ヲ除クノ外之ヲ皮膚知覺機及深在知覺機ノ二種ニ區別ス可シ

(一) 皮膚知覺機

皮膚知覺機 Hautsensibilitaet ニ諸種ノ別有ルヲ以テ之ヲ檢スルニハ其各種ノ知覺ヲ各別ニ檢ス可シ何者諸種ノ知覺ハ悉ク同一ニ障礙ヲ被ムル者ニ非ズ、一、二ノ知覺障礙セラル、モ爾餘ハ全ク尋常ナルコト有レバナリ而シテ是等ノ知覺ヲ檢スルニ諸般ノ方法器具具有リト雖複雜ニ過ギ又實用ニ適スル者少キヲ以テ左ニ唯其二、三ノ簡便法ヲ述ブ可シ

皮膚知覺機

觸神

(一) 觸神 Tactum, Tastempfindung. 觸神ヲ檢スルニ最、單簡ナル法ハ患者ヲ兩眼ヲ閉サシメ指頭ヲ以テ體部ヲ輕觸シ之ヲ感觸セルヤ否ヲ陳述セシムルニ在リ此他帽針ノ頭或ハ尖端ヲ以テ體部ヲ觸レ其孰ヲ以テ觸レタルヤヲ判別セシメ又滑澤及粗糙ノ表面ヲ有スル物體ヲ用ユルコト有リ觸覺ノ殊ニ銳敏ナル手指ノ知覺ヲ檢スルニハ患者ヲ閉眼セシメ日常用ユル所ノ諸種ノ物品(例之、貨幣、鈕等)ヲ與ヘテ之ヲ識別シ得キヤ否ヲ檢ス可シ

偏側ノ疾患ニ在テハ健側ノ同部ト對照シテ檢査シ兩側ノ疾患ニ在テハ健者ノ同一部ト比較ス可シ

壓神

(二) 壓神 Drucksinn. 壓神障礙ノ稍、顯著ナル者ハ單ニ指頭ノ壓ニ由テ之ヲ知ル可シト雖之ヲ精密ニ檢査セント欲セバ皮膚上ニ種々ノ重物(金屬板貨幣)ヲ載セ其重量ヲ増減シテ患者ノ尙感知シ得キ最小壓重ノ差ヲ定ム可シ

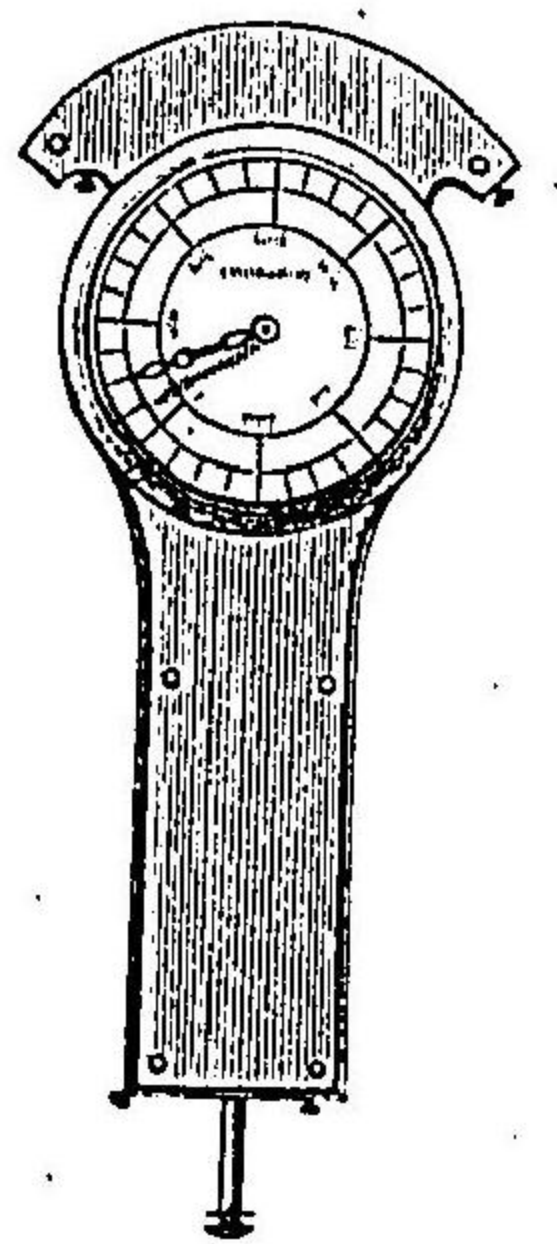
常態ニ在テハ原壓ノ二十分一乃至十分一ノ壓差ヲ明クニ辨知スルヲ得ル者ナリ而シテ此檢査ニ於テハ檢査ス可キ體部ヲ固定シテ皮膚及重物ノ間ニ不良導溫體(木小板ヲ最良トス)ヲ嵌入シ以テ筋神及溫神ノ感作ヲ避ク可シ

ア、オイレンブルグ氏ハ壓神ヲ檢査スルニ甚、便利ナル裝置ヲ製シ之ヲ壓神

壓神計

皮膚知覺機

圖八十八百四第
氏ケルブレンレイガ
計神壓



計。Pareshestimeter (四百八十八圖)ト名

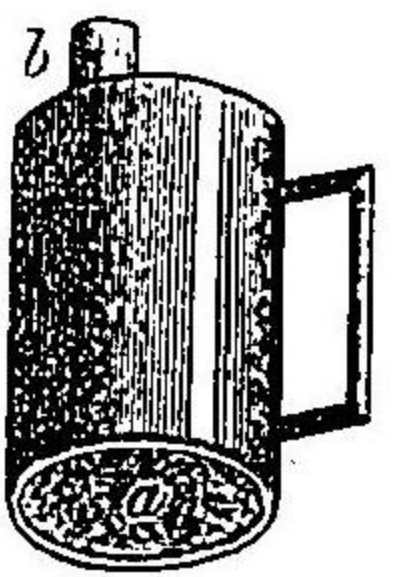
ケタリ此器ハ彈條ニ由テ移動ス
可キ小桿ヨリ成リ其移動ニ際シ
同時ニ劃度セル板上ノ示針ヲ運

溫神

轉セシムル者ニ板上ノ數字ハ直ニ小桿及示針ヲ移動シテ其數ニ至ラシ
メンガ爲ノニ要セシ壓力ノ度ヲ示スニ瓦羅謨ヲ以テス
局所の壓神麻痺ハ殊ニ脊髓癆ニ於テ屢認ムル所ナリ
(三)溫神 *Temperatursinn.* 溫神ヲ檢スルニ諸種ノ法有リ即チ吹氣シ(冷感ヲ覺ユ)
或ハ嘔氣シ(溫感ヲ覺ユ)或ハ寒冷ノ物體(金屬若クハ硝子ヨリ成ル者例之)
打診槌打診板及諸度ノ溫湯ヲ滿シタル試驗管ヲ以テ觸レ又患肢ヲ諸度ノ
溫湯中ニ涵入セシム可シ

溫神計

圖九十八百四第
氏ルゲイナトノ
計神溫



ノートナーゲル氏ノ使用スル溫神計 *Thermos-*

thesometer ハ圓筒形ノ木匣ニシテ其基底ハ銅版ヨ

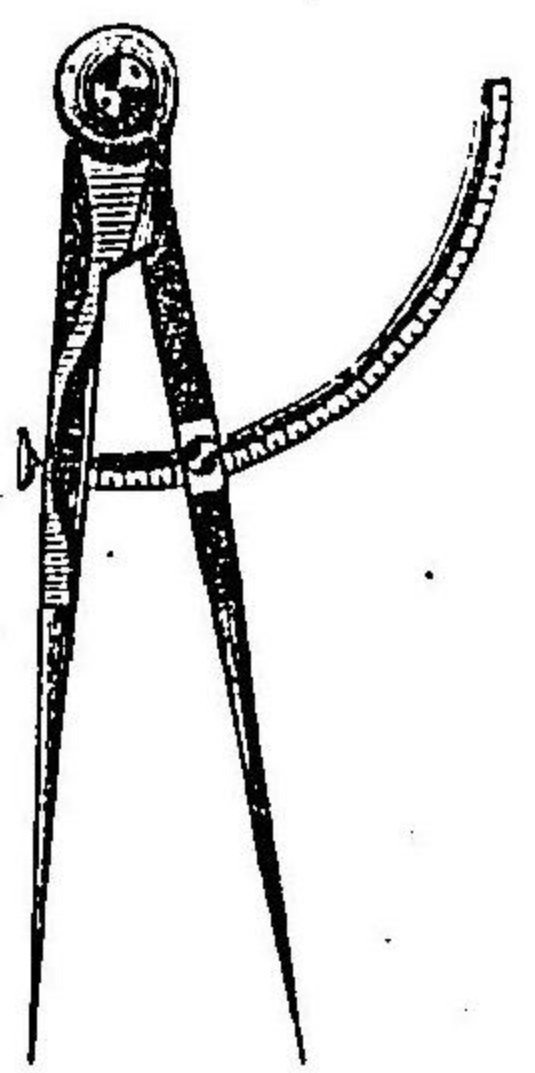
リ成ル者ナリ(四百八十九圖)今圓筒匣内ニ不同ノ
溫度ヲ有スル湯水ヲ盛リテナル護謨栓子ヲ

部位神

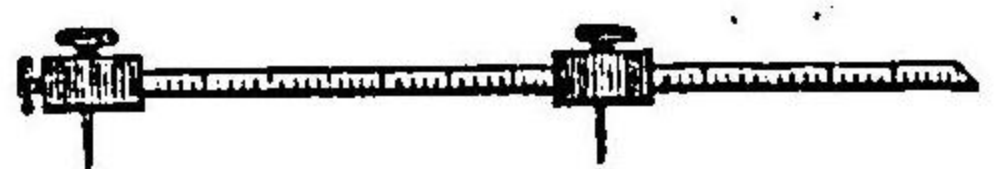
觸神規

知覺計

圖一十九百四第
規神觸



圖一十九百四第
計覺知氏ケンキユウイジ



ノ體部ヲ觸レ觸覺部位ヲ陳述セシメ或ハ之ヲ指示セシム可シ此際患者ヲ
シテ閉眼セシムルハ固ヨ
リ言ヲ俟タズ尙精密ニ之
ヲ檢セント欲セバ觸神規
Taststichel (四百九十圖)若クハ
ジーウエキング氏ノ知覺計
Aesthesiometer (四百九十一圖)ヲ
以テス可シ其法該兩器ノ

嵌入シテ其口ヲ密閉シ使用ノ際ニハ匣蓋ニ穿テル孔口ニ驗溫器ヲ插入シ
筒匣ヲ皮膚ニ觸接シテ溫神ノ差異ヲ檢ス

壓神及溫神ニ於テ感覺ノ差ハ共ニ皆比較的ニ算スル者ニシテ健常ノ溫神ニ
在テハ中溫度内(攝氏二十五乃至三十五度)ニ於テ半度ノ差ヲ明カニ辨別スル
ヲ得可ク顔面及手指ニ於テハ〇・二度ノ差ヲ辨知スルヲ得レモ背面ニ於
テハ大凡一度ニ至ラザレバ之ヲ判別スルヲ能ハザル者トス

兩尖端ヲ皮膚面ニ貼スルノ際初一個ニ感ゼシ時ヨリ漸次兩尖端ヲ開キテ之ヲ各別ニ感知シ得ル最小距離ヲ測定スルニ在リ即其成人ニ於ケル最小距離ノ平均數左ノ如シ

指頭 五—八密迷
手掌 八—一二〇〃
手背 三—
前膊及下腿 大約四〇〃
背部 四〇—七〇〃
上膊及大腿 大約七五〃

痛覺

(五)痛覺 *Schmerzempfindung*. 皮膚ノ痛覺ヲ檢スルニ最簡便ナル法ハ兩指端ヲ以テ皮膚ヲ強ク撮ムカ或ハ針尖ヲ以テ患部ヲ刺衝スルニ在リ此際常ニ同一ノ強度ヲ以テス可キヤ固ヨリ言ヲ俟タズ時トシ其觸覺ニ障碍ヲ認メザルモ痛覺ヲ脱失スルコト有リ之ヲ痛覺脱失 *Analgesie* ト云フ之ニ反シテ痛覺充進スルコトハ之ヲ痛覺過敏 *Hypalgesie* ト稱ス精神昏憒セル患者ニ在テハ皮膚知覺ハ只痛覺ヲ存スルノミナルコト有リ

痛覺脱失

痛覺過敏

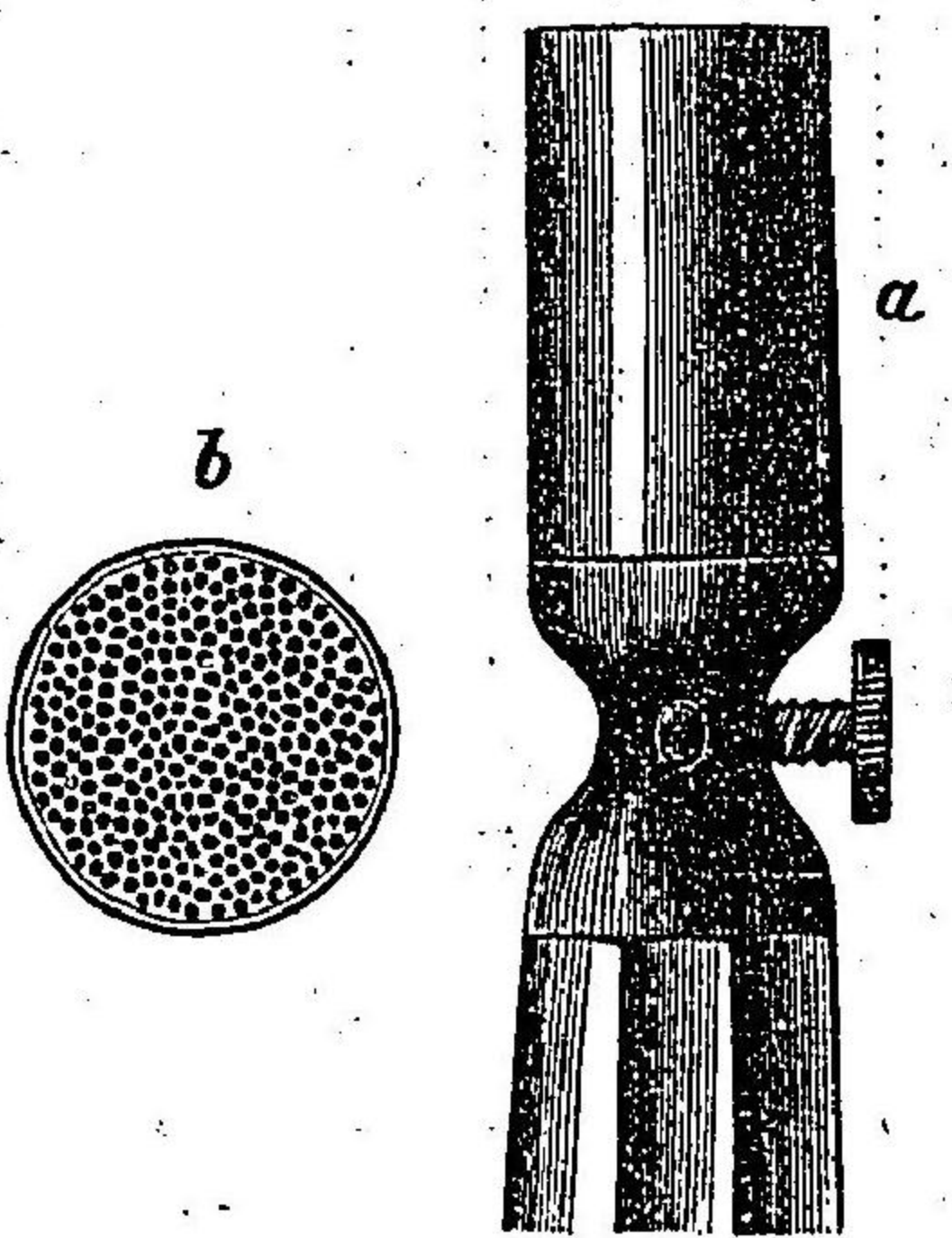
皮膚ノ電氣的知覺

(六)皮膚神經ハ電流ニ對シ一定ノ反應ヲ呈スル者ナリ之ヲ皮膚ノ電氣的知覺 *Electrische Sensibilität* ト稱ス之ヲ檢スルニ平流及感傳ノ兩電氣ヲ用ユレ

凡爰ニハ只皮膚ノ感傳電氣知覺 *Paradochane Sensibilität* ニ就テ略述セントス

皮膚ノ電氣知覺機ヲ檢スルニハエルブ氏ノ導子(第四百九十二圖)ヲ使用スルヲ最良トス該導子ハ直徑二仙迷ノ硬護膜製管内ニ四百個以上ノ相互ニ絶縁セル金屬細線ヲ充填シタル者ヨリ成ル者ニ其遊離端ハ平滑ニ琢磨セラル而ノ檢査ヲ行フニハ

圖二十九百四第
ルエ用ニ查檢氣電傳感ノ膚皮
子導氏アルエ



(a)硬護膜製管
(b)導子ノ遊離面

チユボア氏ノ機形裝置ヲ用井其開流ノ消極端ニ此導子ヲ附シテ皮膚ノ可檢部ニ貼シ他ノ濕潤セル大導子ヲ胸骨ニ貼シ以テ幾何ノ螺旋筒距離ニ於テ皮膚ニ知覺(即チ知覺ノ最小限)及疼痛ヲ喚起スルヤヲ記ス可シ此際又檢シタル皮膚ニ就テ平流電氣ハ傳導抵抗ヲ檢シ以テ上記ノ裝置ニ由テ通ジタル電流ガ身體(殊ニ

皮膚知覺機

皮膚各部ノ傳導抵抗ニ由テ減殺セラレタルヤヲ知ルヲ要ス而ノ通常此反應ヲ誘起スルニ足ル刺戟ノ定限ハ各人之ヲ異ニスルヲ以テ一般ニ確定スルコト能ハズト雖エルブ氏ハ數多ノ健體ニ就テ皮膚諸部ノ知覺最小限及痛覺最小限ヲ檢シタル成績ニ由リ次ノ如キ平均數ヲ得タリ此平均數ハ密迷ニノ知覺及痛覺ヲ起サシム可キ螺旋筒ノ距離ヲ示ス

刺戟部位	知覺最小限	痛覺最小限	八電源、百五十傳導抵抗ニ於ル針傾斜度
頰部	1.20-1.30	1.20	1.6度
頸部	1.80-2.00	1.20	2.2度
上膊	1.00	1.20	2.2度
前膊	1.20	1.15	1.8度
手背	1.15	1.10	1.2度
指端	1.15	1.05	2.2度
腹部	1.20	1.20	2.0度
大腿	1.20	1.15	2.2度
下腿	1.15	1.10	1.9度
足背	1.15	1.10	1.5度

足趾	1.10	1.05	1.5度
----	------	------	------

知覺鈍麻
知覺脫失
知覺過敏

上記ノ諸知覺検査ニ由テ皮膚知覺ノ減弱ヲ認ムルキハ之ヲ知覺鈍麻 *Hypoesthesia* ト稱シ強劇ノ刺戟ヲ加フルニ毫モ知覺セザルトキハ之ヲ知覺脫失 *Anaesthesia* ト稱ス之ニ反シテ知覺ノ亢進セル者之ヲ知覺過敏 *Hyperaesthesia* ト稱ス但後者ハ只溫神及痛覺ニ來ル者ナリ

末梢神經ノ疾患ニ在テハ諸種ノ知覺平等ニ變調シ又或脊髓病腦性知覺脫失或ハ又間歇的里症ニ於テハ局所的知覺麻痺ヲ起スコト有リ而シテ其最多ノ症ハ痛覺ノ減弱或ハ缺如ニシテ(即チ痛覺脫失)脊髓病(就中脊髓癆)竝ニ末梢神經ノ疾患ニ在テハ知覺傳導緩慢ト爲ルコト有リ是即チ刺戟ノ後數秒時ヲ經テ始テ知覺ヲ起ス者ニシテ其最多キハ痛覺傳導ノ緩慢ナリ然レテ此際觸神ニ異常無キ者ニシテ斯ノ如キ患者ハ刺戟ノ際直ニ之ヲ觸知スルモ數秒時ノ後痛覺ヲ感ズ此他又唯一トビ針ヲ以テ刺衝スルモ暫時灼熱スルガ如キ感覺ヲ起シ或ハ最初ノ痛覺速ニ消散スルモ次デ俄カニ數回疼痛ヲ感ズルコト有リ所謂後覺 *Nachempfindung* ナル者はナリ(ナウニン氏)

多覺

溫覺錯誤

他側知覺

知覺機障礙ノ部位

全身知覺

半身知覺

脫失

兩側知覺

脫失

脫失

脫失

時トノ觸神規ノ一尖端ヲ以テ觸ル、モ患者ニ乃至數尖端ヲ以テ觸ル、ガ如キ感觸ヲ覺ユルコト有リ是レ殊ニ脊髓癆ニ於テ多ク見ル所ニシテ多覺 *Polyaesthesia* ト云フ(フイツシエル氏)寒冷ノ者ニ觸レテ反テ溫暖ヲ感ズル者有リ之ヲ溫覺錯誤 *Reverse Temperaturempfindung* ト云フ(ストリウムベル氏)

又一側ノ肢節ヲ觸ル、ニ其刺戟ヲ他側ニ感ズルコト有リ是レ脊髓癆、脊髓炎、歇斯的里多發性硬化等ニ見ル所ニシテオーベルマイステル氏ハ之ヲ他側知覺 *Allochirie* ト稱セリ

知覺機障礙ノ部位ハ可及的精確ニ検査セザル可カラズ其障礙部ノ境界分明ナル者ハ之ヲ檢定スルコト固ヨリ容易ナレド亦其境界甚々分明ナラザル者有リ而シテ全身知覺脫失 *Totale Anaesthesia* ハ絶々稀有ナレド其半身ニ來ル者即チ半身知覺脫失 *Hemianaesthesia* ハ時トノ内囊ノ損傷及歇斯的里ニ於テ見ルコト有リ又兩側知覺脫失 *Paranaesthesia* トハ左右ノ上肢若クハ下肢ノ知覺脫失スル者ヲ云フ

知覺機障礙ハ身體ノ隨所ニ來ル者ニシテ其部狹小ナルキハ粗漏ノ検査ニ由テ往々看過セラレ易シ殊ニ四肢ニ於テ然リトス而シテ該部(間、軀幹)ニ於テハ

其知覺脫失ハ或ハ皮膚神經又ハ或ハ混合神經幹ノ領域ニ屬スルヤ或ハ斯ノ如キ領域ニ限局セズ瀰蔓性ナルヤヲ精細ニ檢知スルヲ要スル者ニシテ前者ノ場合ニ在テハ其知覺脫失ハ當該神經ノ分佈區域ニ限レル者タルヲ徵知ス可シ

又四肢ニ於ケル知覺脫失(痛覺脫失)ニシテ關節部ニ由テ境セラル、者即チ手關節若クハ肘關節ニ至ル皮膚全部ノ知覺脫失ハ或ハ官能的神經症殊ニ佛人ノ所謂「歇斯的里創傷性神經症」ニ於テ略ル所ナリ

(二) 深在知覺機

深在知覺機

筋神

深在知覺機即チ筋知覺機 *Die tiefe Sensibilitaet, Muskelsensibilitaet* ヲ區別シテ筋神及力神ノ二種ト爲ス

所謂筋神 *Muskelsinn* 又運動知覺 *Bewegungsempfindung* トハ視官ノ媒助ヲ藉ラズシテ四肢ノ各位置(位置ノ想像)及其行フ所ノ運動區域ヲ察知了得シ得可キ官能ニシテ該官能ハ雷ニ筋知覺ニ起因スルノミナラズ恐ク亦關節靱帶並ニ之ヲ圍擁スル所ノ皮膚ノ知覺ニ由來スル者ナリ病的ニ於テハ筋神多少減失

深在知覺機

ロムベルグ氏症候

力神

痙攣感覺

シ患者ヲ閉眼セシムルキハ患肢ノ位置ヲ辨知スルヲ能ハザルヲ有リ之ヲ檢スルニハ患者ヲ閉目シテ一定ノ運動ヲ行ハシメ或ハ他働的ニ患肢ヲ一定ノ位置ニ置キ患者ヲ其如何ノ位置ニ在ルヤヲ口述セシメ若クハ其腿肢ヲ之ト同一ノ位置ニ保タシム可シ

ロムベルグ氏症候 Romberg'sches Symptom トハ患者ヲ兩足ヲ閉合シテ直立シ閉眼セシムルキハ身體忽チ動搖シ或ハ跌倒セントスル者ヲ謂フ蓋シ此症狀ハ足趾ノ知覺脫失及兩脚筋神ノ障礙ニ因テ起ル者ニシテ其働機障礙ヲ存スルキハ益々甚シトス是ニ殊ニ脊髓癆ノ特徴ト爲ス所ナリ

力神 Kraftsinu トハ筋收縮ニ由テ營爲セル作業ノ度ヲ推測スル機能ヲ謂フ之ヲ檢査スルニハ患者ヲ重物ヲ提舉シ其重量ヲ推算セシム可シ此際壓神ノ作用ヲ避クルガ爲メ重物ヲ直接ニ皮膚上ニ置カズ布片ニ包ミ之ヲ提舉セシムルヲ要ス常態ニ在テハ通常原量ノ四十分一ノ差ヲ辨別スルヲ得ル者トス

痙攣感覺 Krampfempfindung トハ強制ノ痙攣ニ由リ筋肉ニ感ズル所ノ不快ノ感覺或ハ疼痛ヲ謂フ即チ腓腸痙攣ノ如キ是ナリ

神經ノ知覺的刺戟症狀及壓痛

知覺變常

帶狀感覺

筋知覺機ノ障礙ハ主トシテ脊髓癆ニ來リ其他一定ノ腦性麻痺及重症ノ歇斯的里性疾患ニ來ル者トス

第二 神經ノ知覺的刺戟症狀及壓痛

神經ノ知覺的刺戟症狀及壓痛 Sensible Reizerscheinungen und Druckschmerz der Nerven ニ就テ肝要ナルハ知覺變常及自發性疼痛ナリ

(一) 知覺變常

知覺變常 Parasthesie トハ諸種ノ自覺的觸覺ニシテ或ハ皮膚ニ蟻走様感ヲ起シ或ハ麻木シ又輕ク刺スガ如キ自覺的痛覺ヲ起シ或ハ時トシテ劇痛ヲ來シ又寒熱若クハ焦灼スルガ如キ疼痛ヲ感ズル者ヲ謂フ

脊髓癆患者ニ多ク來リ又脊髓或ハ脊髓膜ノ局所的疾患ニ來ル所ノ軀幹ノ胸椎部ニ最モ屢々發スル所謂帶狀感覺 Gürtelgefühl ハ之ニ屬スル者ニ多クハ緊張ノ感ヲ起スモ又眞ニ神經痛性疼痛ヲ起スル者ナリ

(二) 自發性疼痛

神經ノ知覺的刺戟症狀及壓痛 ○知覺變常 ○自發性疼痛

自發性疼痛

頭痛

自發性疼痛 Spontane Schmerzen ニ左ノ數種有リ

(一)頭痛 Kopfschmerz, Cephalaea. 頭痛ハ其發生ノ狀況ニ由リ甚ク其症狀ヲ異ニスル者ニ其主要ナル者次ノ如シ

(イ)腦膜炎並ニ頭蓋及腦疾患ノ腦膜ニ波及セル諸患ニ來ル頭痛」多ク夜間ニ發作スル所ノ微毒性頭痛モ亦之ニ屬ス

(ロ)神經衰弱症性頭痛ハ甚ク其發生ノ狀況ヲ異ニシ或ハ唯「頭重」, Kopfschwereニ止マルコト有リ或ハ劇痛ヲ發シ又全頭部若クハ一局部ニ來リ殊ニ顛頂部ニ來ルヲ多シトス」歇斯的里頭痛(Claust hysterics)ハ顛頂部ニ限局スルコト罕ナラズ

(ハ)偏頭痛ハ時々發作性ニ來ル所ノ偏側ノ頭痛ニ胃症、眼華閃發、耳鳴、瞳孔ノ縮小或ハ散大等ヲ兼發ス而シテ該頭痛ハ特發性ナルコト有リ或ハ症候的ナルコト有リ(殊ニ脊髓癆、腦腫瘍其他間、鼻ノ疾患等ニ之ヲ見ル)

(三)頭部ノ神經痛(下章ヲ看ヨ)

(ホ)中毒性頭痛ハ殊ニ鉛水銀、亞爾個保兒、ニコチン等ノ慢性中毒ニ來ル者ニノ尿毒性頭痛モ亦之ニ屬ス

(ヘ)急性傳染病ノ初期及經過中ノ頭痛ハ殊ニ腸室扶斯ニ於テ劇甚ニシ且持長ス

(下)貧血性頭痛、胃消化不良及諸種ノ下腹疾患殊ニ婦人生殖器病ニ因スル頭痛

(チ)所謂「習慣性頭痛」(Der habituelle Kopfschmerz)又精神及身體ノ過勞或ハ感冒等ニ因リ直ニ頭痛ヲ起ス遺傳性素因ヲ有スル者有リ

(ニ)脊背痛 Rückenschmerz ハ脊柱(慢性癱瘓質斯畸形性關節炎、骨瘍、背筋(筋)癱瘓質斯)脊髓若クハ其被膜(殊ニ脊髓膜炎、脊髓癆、腫瘍ニ於テス)ノ疾患ニ因ル者有リト雖亦神經衰弱症、脊髓過敏症等ニ於テ殊ニ多ク見ル所ナリ(上文脊柱検査ノ條ヲ參照セヨ)

神經痛

脊背痛

(三)神經痛 Neuralgie. 是、一個或ハ數多ノ知覺神經ニ互ル發作性ノ劇痛ニシテ或ハ特發シ或ハ感冒ニ由テ發シ又症候的ナルコト有リ而シテ其原因ノ主要ナル者ハ器械的刺戟(腫瘍、動脈瘤、骨膜炎等)ニ因ル神經ノ壓迫(他部炎症ノ蔓延、傳染毒(麻拉里亞、微毒)中毒(鉛、水銀、ニコチン等)全身病(糖尿病、痛風、結核症)トス故ニ神經痛患者ニ接スルハ須ク先其原因ヲ探求スベシ

神經痛樣

痛點

神經痛樣疼 *Neuralgiforme Schmerzen* トハ脊髓癆ノ初期ニ來ル電擊樣ノ鑽痛
 ニ本病ニ主要ノ一兆タリ而シテ該疼痛ハ下肢及軀幹(肋間神經)ニ來ル最
 多ニノ間、僕麻質斯ト誤診セラレ、一無キニ非ズ』又多發性神經炎ニ於テ
 其初期ニ當リ神經痛樣ノ疼痛ヲ發スル有レモ甚強劇ナラザルヲ常トス
 頭及脊柱ノ壓痛ハ既ニ上文ニ述ベタリ
 末梢神經ノ壓痛ハ神經炎及神經周圍炎ニ來リ殊ニ其劇甚ナル者ハ神經痛
 發作時ニ於ケル者ナリ但シ發作休歇時ニ於テモ僅ニ壓痛ヲ感ズ而シテ此壓痛
 ハ神經ノ一定部殊ニ其骨面ニ向テ壓迫セラレ得キ所ニ於テ最強シ之ヲ
 痛點 *Schmerzpunkt, point douloureux* ト稱ス該痛點ハ診斷上甚肝要ナル者トス
 三又神經痛ヲ診斷スルニ最モ主要ナル痛點ハ上眼窩孔部(上眼窩神經)：第一枝、
 下眼窩孔部(下眼窩神經)：第二枝、額骨顏面管ノ出口部(額骨神經ノ額骨枝)：第
 二枝及頤孔部(頤神經)：第三枝ニ在リ肋間神經痛ニ於ケル主要ノ痛點ハ殊ニ
 三所トス第一ハ脊柱ニ近接シテ椎間孔ヨリ出ヅル部脊柱點第二ハ胸側ニノ大
 約神經行路ノ中央ニ當リ側穿孔神經ノ胸側ニ分岐セル部(側點)第三ハ胸骨線ノ
 近傍(胸骨點)ニ在リ

皮膚知覺神經ノ分佈區域

頭ノ知覺神經

關節部ニ於ケル壓痛及自發性疼痛ニモ毫モ解剖的變常ヲ呈セズ且其疼痛
 ノ或ハ強劇ト爲リ或ハ緩解スル者ハ關節神經痛ニ特異ノ兆候トス

第三 皮膚知覺神經ノ分佈區域

皮膚知覺神經ノ分佈區域 *Verbreitungsgebiete der sensiblen Haut-*
nerven ハ第四百九十三圖ニ示スガ如シト雖茲ニハ臨牀上殊ニ肝要ト認ム
 ル所ノ二三ノ神經ニ就テ注意ヲ加ヘントス
 (一)頭ノ知覺神經 茲ニ注意ス可キハ三又神經ノ第一枝ハ亦結膜及鼻粘膜
 ノ一部ヲ主ドル者ニシテ其麻痺スルハ眼ニ重症ノ炎症及荒蕪ヲ來ス一是ナ
 リ即シ神經麻痺性眼炎ノ方今諸家ノ說ク所ニ憑レバ該症ハ塵埃ノ如キ異物ノ
 竄入ニ由テ生ズル者ナラムト然レモフールオルト氏ハ古說ノ如ク榮養障礙
 ニ基ク者ナラムト云ヘリ
 第二枝ハ上顎口蓋ノ一部及鼻ノ粘膜炎ニ上齒ヲ主ドル者ニシテ其幹ハ鼓索
 神經ト共ニ走ルヲ以テ時ニ舌ノ前部ニ於テ味覺障礙ヲ來ス一有リ』第三
 枝ハ舌及頰粘膜炎ノ一部ヲ主ドリ又唾液分泌ヲ主ドル者ニシテ該神經ハ運動

皮膚知覺神經ノ分佈區域

頸及軀幹ノ知覺神經ノ

肩胛及上肢ノ知覺神經

下肢ノ知覺神經

性纖維ヲ有シ其主ナル者ハ咀嚼筋(咬筋)頤筋及内外翼狀筋ニ分佈ス
(二)頸及軀幹ノ知覺神經ニ就テハ敢テ記述ヲ要スルコト無シ宜シク第四百九十三圖ニ就テ觀ルベシ

(三)肩胛及上肢ノ知覺神經 茲ニ殊ニ注意ス可キハ橈骨神經ノ前膊ノ背面ニ分佈スル皮膚面狹小ナルガ爲該部ノ知覺麻痺ハ往々看過サレ易キコト是ナリ其他手指ノ皮膚神經ハ互ニ交錯スル者有ルヲ以テ宜シテ注意スベシ」末梢性麻痺ヲ検査スルニ當リ知覺障礙ハ運動障礙ニ比スレバ其區域稍狹小ナルコトヲ發見スルコト屢之有リトス是隣接部ニ於ケル皮膚神經ノ代償作用ニ因ルナリ

エルブ氏點(電氣的検査ノ條ヲ看ヨ)ニ於ケル膊神經叢ノ麻痺ハ間正中神經ノ領域ニ於テ知覺麻痺ヲ起スコト有リ」橈骨神經其折轉部ニ於テ壓迫ヲ受ケ麻痺スルキハ唯手ニ知覺障礙ヲ來スコト有ルノミ是後下皮神經ハ該部ノ上方ヨリ派出スレバナリ然レモ橈骨神經若腋窩ニ於テ壓迫ヲ受クルキハ屢前膊ニ知覺麻痺ヲ來スコト有リ

(四)下肢ノ皮膚知覺神經分佈區域ニ就テハ宜シク第四百九十三圖ニ就テ觀

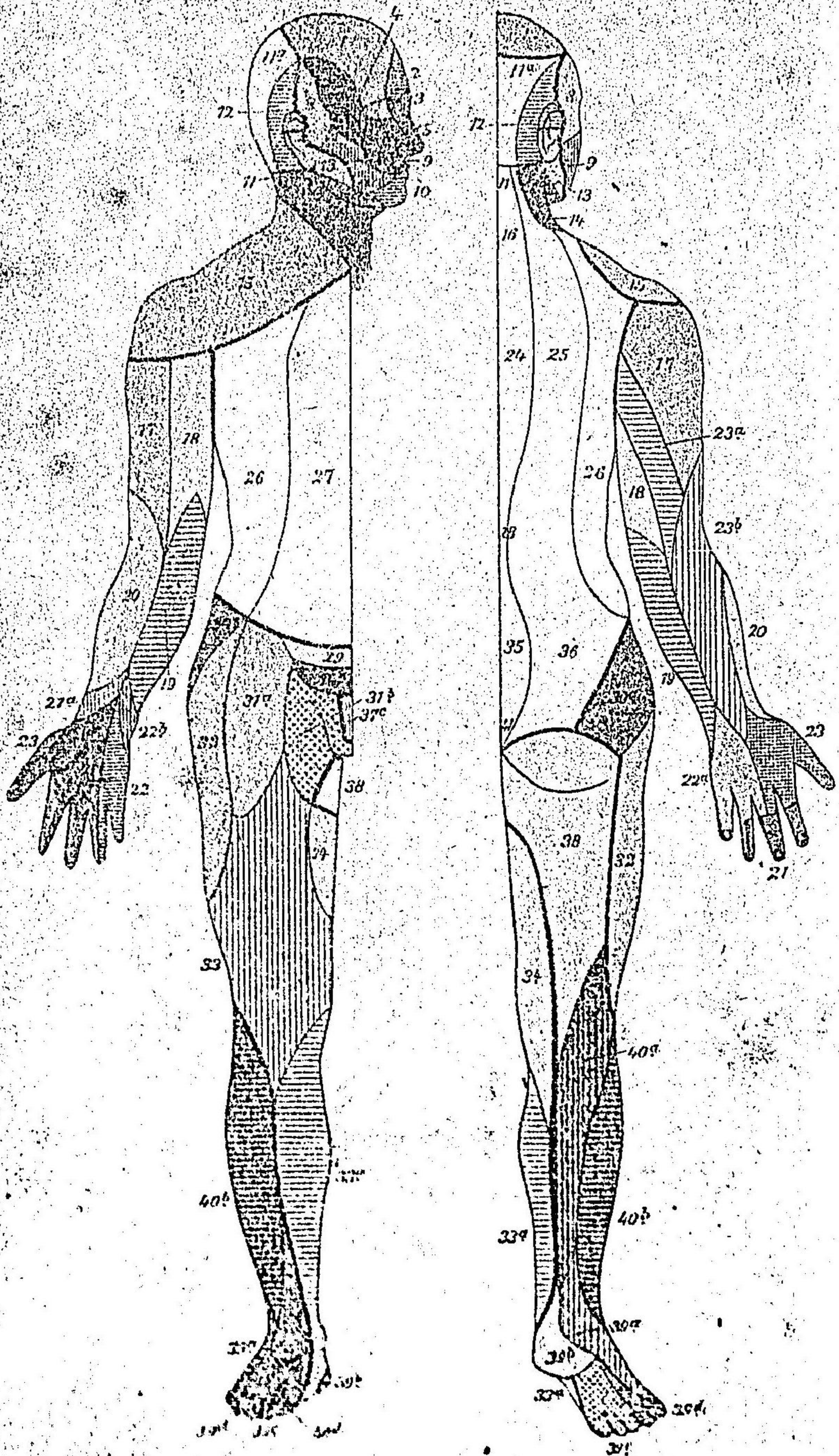


圖 三 十 九 百 四 第
 域 區 佈 分 ノ 經 神 覺 知 膚 皮
 (氏 ル 子 セ ヲ)

【三叉神經】第一枝ノ領域ハ赤色ニシテ(1)上眼窩神經(2)上滑車神經(3)下滑車神經(4)淚腺神經(5)篩骨神經。此他結膜及鼻粘膜ノ前部、第二枝ノ領域ハ青色ニシテ(6)下眼窩神經(7)顏骨皮下神經。此他鼻後部上顎ノ粘膜、上顎齒一第三枝ノ領域ハ黃色ニシテ(8)耳聾神經(9)顏神經(10)頤神經。此他舌及頬粘膜ノ一部、下顎ノ粘膜、下顎齒

【第一乃至第四頸神經】(11)後枝ノ領域ハ白色ニシテ(11a)大後頭神經(11b)前枝ノ領域(頸神經叢)ハ(12)小後頭神經(黑色線)(13)大耳神經(莖花色)(14)下顎皮下神經(青色)(15)上鎖骨神經(赤色)

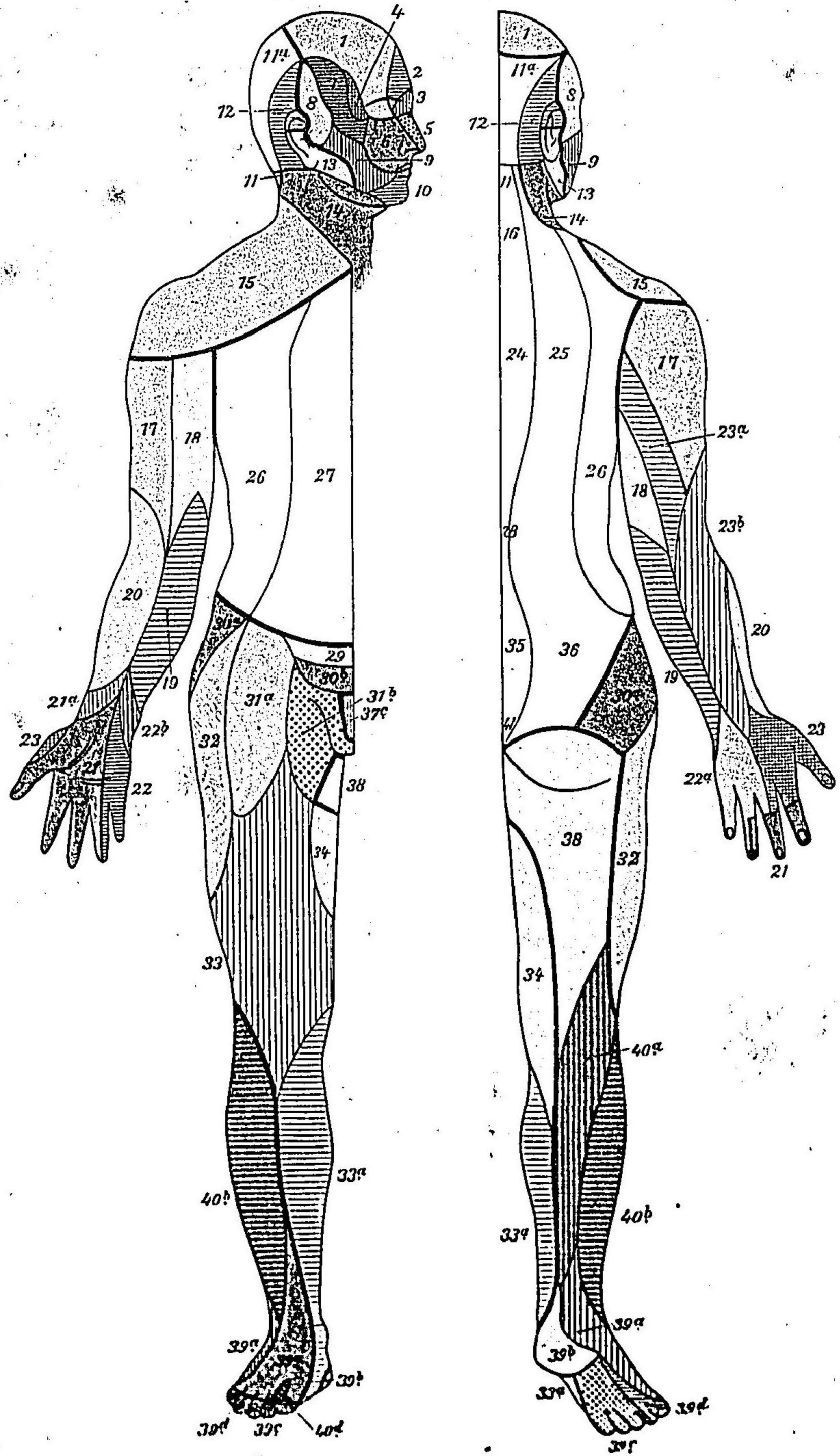
【第五頸神經乃至第一胸神經】(16)後枝ノ領域(白色)一前枝ノ領域(肺神經叢)ハ(17)腋窩神經(綠色)(18)腋中皮神經及(19)前腋中皮神經(莖花色)(20)腋外皮神經(黃色)(21)正中神經(掌枝)及(21a)正中神經掌面皮神經(青色)(22)尺骨神經(淺在掌枝)及(22a)尺骨神經背枝及(22b)尺骨神經掌枝(赤色)(23)橈骨神經(淺在枝)及(23a)橈骨神經上後皮枝及(23b)橈骨神經下後皮枝(黑色線)

【第十二胸神經】後枝ノ領域ハ白色ニシテ(24)內枝(25)外枝一前枝ノ領域ハ白色ニシテ(26)側穿孔枝(27)前穿孔枝

【第一乃至第四腰神經】(28)後枝ノ領域ニシテ白色一前枝ノ領域(腰神經叢)ハ(29)腸骨下腹神經(莖花色)(30)腸骨鼠蹊神經ニシテ(31)第一枝(32)第二枝(共ニ青色)(33)陰股神經ニシテ(34)鼠蹊神經(35)外精系神經(共ニ赤色)(36)側外大腿皮神經(綠色)(37)股神經及(37a)營養神經(黑色線)(37b)閉鎖神經(黃色)

【第五腰神經乃至第五薦骨神經】後枝ノ領域ハ白色ニシテ(38)內枝(39)側枝一前枝ノ領域(薦骨神經叢)ハ(37)陰痔神經ニシテ(40)外痔神經(38)後陰囊神經(41)陰莖背神經若クハ陰核神經(黑色線)(38)後大腿皮神經(莖花色)(39)薦骨神經ニシテ(42)交通枝(43)固有趾皮神經(44)中趾皮神經(45)側趾皮神經(共ニ赤色)(46)腓骨神經ニシテ(47)中後皮神經(48)交通神經(49)淺在腓骨神經(49)深在腓骨神經(共ニ青色)

【尾骶骨神經】(50)後枝ノ領域ハ白色



第三十九圖
皮膚知覺神經之分布區域
(氏ル子セウ)

【三叉神經】 第一枝ノ領域ハ赤色ニシテ(1)上眼窩神經(2)上滑車神經(3)下滑車神經(4)淚腺神經(5)鼻骨神經。此他結膜及鼻粘膜ノ前部。第二枝ノ領域ハ青色ニシテ(6)下眼窩神經(7)頰骨皮下神經。此他鼻後部上頰ノ粘膜、上顎齒一第三枝ノ領域ハ黄色ニシテ(8)耳聾神經(9)頰神經(10)頤神經。此他舌及頰粘膜ノ一部、下顎ノ粘膜、下顎齒

【第一乃至第四頸神經】 (11)後枝ノ領域ハ白色ニシテ(12)大後頭神經(13)前枝ノ領域(頰神經及)(14)小後頭神經(15)黑色線(16)大耳神經(17)黑色線(18)下顎皮下神經(19)青色線(20)上鎖骨神經(赤色)

【第五頸神經乃至第一胸神經】 (21)後枝ノ領域(白色)前枝ノ領域(胸神經及)(22)腋窩神經(綠色)(23)腋中皮神經及(24)前胸中皮神經(黑色)(25)腋外皮神經(黃色)(26)正中神經(紫枝)及(27)正中神經掌面皮神經(青色)(28)尺骨神經(淺在掌枝)及(29)尺骨神經背枝及(30)尺骨神經紫枝(赤色)(31)橈骨神經(淺在枝)及(32)橈骨神經上後皮枝及(33)橈骨神經下後皮枝(黑色線)

【第十二胸神經】 後枝ノ領域ハ白色ニシテ(34)內枝(35)外枝一前枝ノ領域ハ白色ニシテ(36)側穿孔枝(37)前穿孔枝

【第一乃至第四腰神經】 (38)後枝ノ領域ニシテ(39)前枝ノ領域(腰神經及)(40)腸骨下腹神經(黑色線)(41)腸骨肌腹神經(第一枝)(42)第二枝(共ニ青色)(43)陰股神經(第二枝)腰鼠蹊神經(4)外精系神經(共ニ赤色)(5)側外大腿皮神經(綠色)(6)股神經及(7)膝蓋神經(黑色線)(8)腓神經(黃色)

【第五腰神經乃至第五薦骨神經】 後枝ノ領域ハ白色ニシテ(9)內枝(10)側枝一前枝ノ領域(薦骨神經及)(11)陰痔神經ニシテ(12)外痔神經(13)後陰囊神經(14)陰囊背神經若クハ陰枝神經(黑色線)(15)後大腿皮神經(黑色線)(16)腰骨神經ニシテ(17)交通枝(18)固有趾皮神經(19)中趾皮神經(20)側趾皮神經(共ニ赤色)(21)腓骨神經ニシテ(22)中後皮神經(23)交通神經(24)淺在腓骨神經(25)淺在腓骨神經(共ニ青色)

第三章 運動機検査法

運動神經ノ徑路竝ニ之ト連結セル中樞部及末梢部ノ官能ニハ二様ノ變常ヲ來ス即チ一ハ中樞ヨリ筋ニ至ル運動神經ノ徑路ニ障礙有リテ其傳導遮斷セラレ爲ニ其官能減衰スルカ若クハ全ク消滅スル者ニ之ヲ麻痺ト稱シ一ハ神經ノ徑路ニ異常ノ刺戟有リテ其官能亢進スル者ニ之ヲ痙攣ト稱ス而シテ本章ニハ雷ニ狹義ニ於ケル筋運動ノ障礙ヲ論ズルニ止マラズ亦筋ノ榮養及其榮養狀態其他反射機電氣的検査器械的興奮性共働機及其障礙竝ニ隨意筋ノ痙攣等ヲ詳述ス可シ

第一 麻痺

麻痺 Die Lähmung (Akinesis) トハ隨意筋ノ隨意運動減弱シ或ハ全ク消尖スル者ヲ謂フ而シテ其度ニ從ヒ之ヲ二種ニ區別ス即チ筋ノ隨意的收縮全然

麻痺

痿弱又不全麻痺

缺如スル者之ヲ癱瘓又全麻痺 Paralysis ト稱シ其減弱スル者之ヲ痿弱又不全麻痺 Paresis ト稱ス

麻痺ノ症狀及其検査法

四肢諸關節ノ強直ニ因スル運動不能ハ固ヨリ麻痺ト關係有ルコト無シト雖若シ兩者ヲ合併スルキハ其判別ニ苦ムコト有リ又疼痛ニ因スル運動減少ニ患者肢節ヲ運轉スルニ堪ヘザル者ハ麻痺ト關係有ルコト無シト雖劇烈ノ疼痛ニ由リ限局性ノ運動制止ヲ來シタル者ハ麻痺ニ算入ス可シ
麻痺ノ症狀及其検査法 筋ノ全麻痺ハ其運營作用筋自己ニ就テハ視觸シ得可キ收縮ヲ全ク缺如スルニ由テ之ヲ識ル可シ而シテ麻痺部廣大ニシ且筋肉弛緩スルキハ患肢ハ特異ノ弛緩性位置ヲ保持スル者ニシテ之ヲ提舉シテ放離スルキハ忽チ墜落ス一ニ筋ニ麻痺ヲ起スモ他筋ノ力ニ藉リ運動ニ由テ之ヲ認知シ難キハ自働的運動ヲ行ハシメ該筋ヲ視察シ又之ヲ觸察ス可シ
不全麻痺ヲ檢スルニハ一定ノ抵抗物ニ向テ運動ヲ試行セシメ或ハ患者ヲ物體ヲ把握セシム(檢者ノ手ヲ握ラシム)又「粗大力」(Rohle Kraft)ノ減少ニ由リ或ハ運動作用ノ自在ナラザルニ由テ之ヲ識ル可シ此他不全麻痺ノ度

粗大力

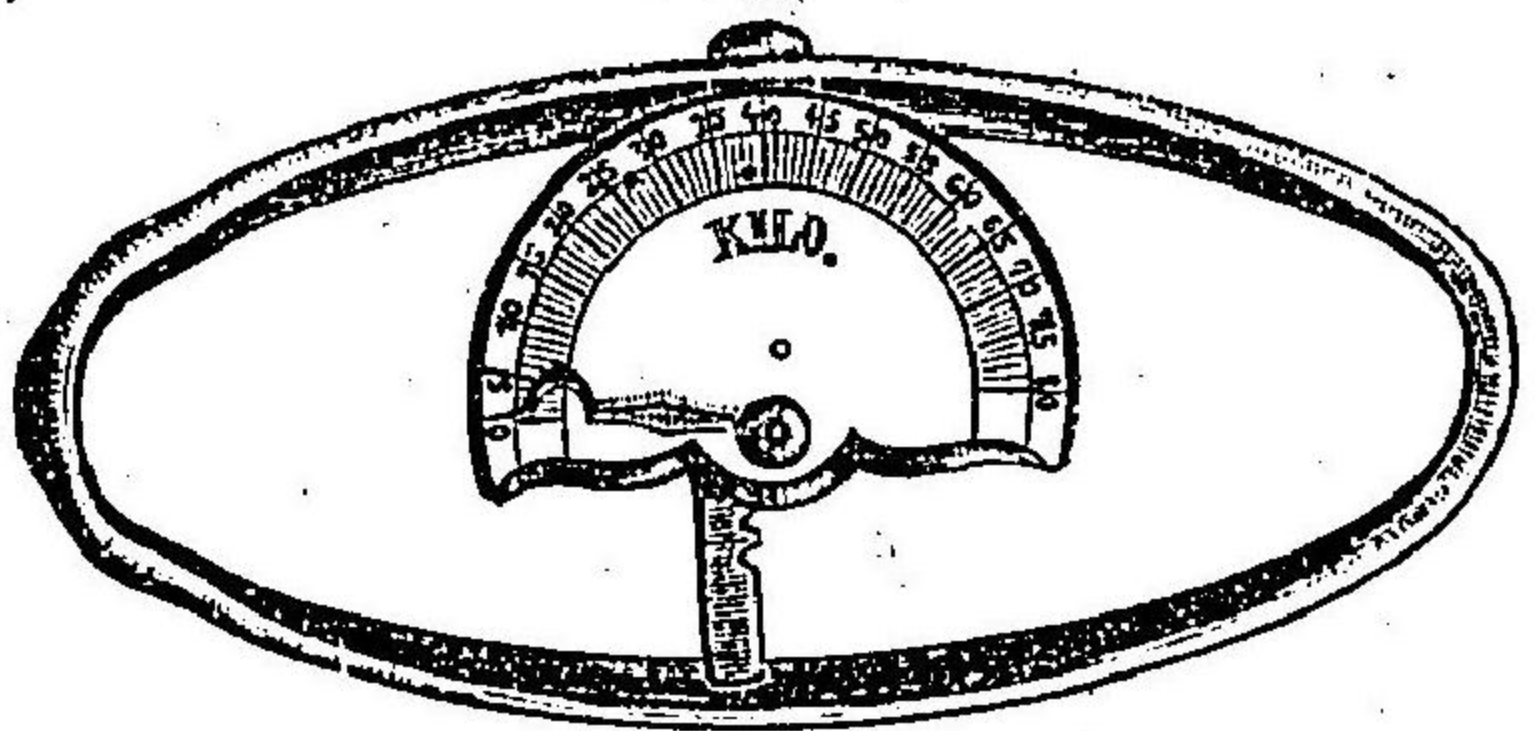
握力計

麻痺ノ廣狹

局癱

偏癱

第四百九十四圖 握力計 (大一分二)



ヲ檢スルニ握力計 Dynamometer (第四百九十四圖)ヲ應用スルコト有リ該器ハ握力量ノ大小ヲ基瓦量ヲ以テ示ス者ナリ但シ茲ニ注意ス可キハ通常右側ノ握力ハ左側ニ比スレバ多少強大ナルコト是ナリ
麻痺ノ廣狹 麻痺ノ廣狹ニ由リ之ヲ左ノ三種ニ區別ス
(一)局癱(局所麻痺) Monoplegia 是、一肢(半顔一腕或ハ一脚)若クハ一二ノ筋屬ニ限局スル麻痺ニシテ殊ニ大脳皮質及末梢神經ノ疾患ニ於

テ略ル所ナリ
(二)偏癱(半身麻痺) Hemiplegia 是、全半身即チ偏側ノ顔筋及上下兩肢ノ麻痺スル症ニシテ殊ニ内囊及腦脚ノ疾患(出血栓塞ニ於テ之ヲ見ル可シ)而シテ其麻痺ハ既ニ述ベタルガ如ク通常患部ノ反對側ニ在リ時トシテ脊髄半側ニ限局セル疾患モ亦半身不遂ヲ起スコト有リ

截癱

下部截癱

上部截癱

交叉癱瘓

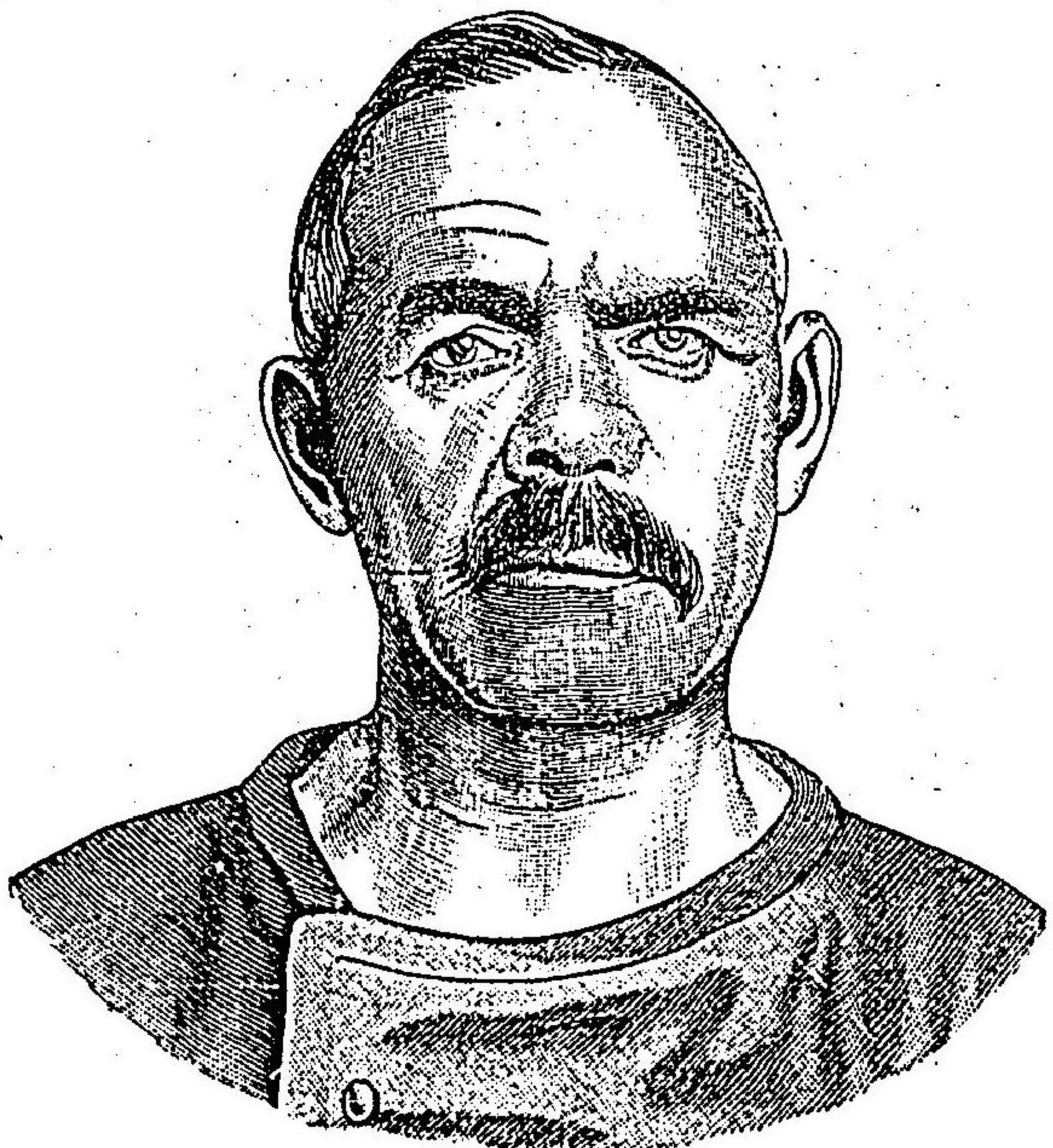
(三) 截癱(兩側癱瘓) Paraplegia. 是身體ノ左右同一部ニ來ル所ノ癱瘓ニノ主ト
 ノ脊髓疾患(脊髓壓迫脊髓炎等)ノ特徴ヲ爲シ多クハ脊髓ノ胸部及腰部ニ在
 ル所ノ疾患ニ因テ兩脚ニ癱瘓ヲ來シ(下部截癱 Paraplegia inferior) 若シ患部頸髓
 ニ及ボスキハ兩腕ノ癱瘓ヲ繼發シ(上部截癱 Paraplegia superior) 又頸髓ノ疾患
 ニ在テハ其癱瘓唯兩側上肢ニ限局スルコト有リ
 所謂交叉癱瘓 Hemiplegia cruciata s. alternans ニ就テハ既ニ上文ニ述ベタリ(本編
 三九九頁參照)

頭諸筋癱瘓
ノ検査

麻痺ノ廣狹ヲ知ルハ診斷上極テ緊要ナリ而シテ之ヲ精密ニ檢知セント欲セ
 バ身體各部ノ運動ヲ精細ニ検査セザル可カラズト雖茲ニハ煩雜ヲ省キ唯
 其梗概ヲ敘述セントス

- (一) 頭ニ就テハ左ノ諸筋ヲ檢ス可シ
- (イ) 眼筋ノ運動ハ五官器検査法ノ條下ニ説ク可シ
- (ロ) 顔面神經ヨリ主宰セラル、顔面諸筋ノ運動ヲ檢スルニハ患者ヲ種々
 ノ運動ヲ行ハシム可シ(前額及眉ヲ擡蹙セシメ、閉眼セシメ、口ヲ開閉セシメ
 笑ハシメ、肉笛セシメ、吹氣セシムル等) 偏側顔面神經ノ癱瘓ニ在テハ顔面ヲ

第四百九十五圖
 左側顔面神經麻痺
 患者ノ顔貌



兔眼

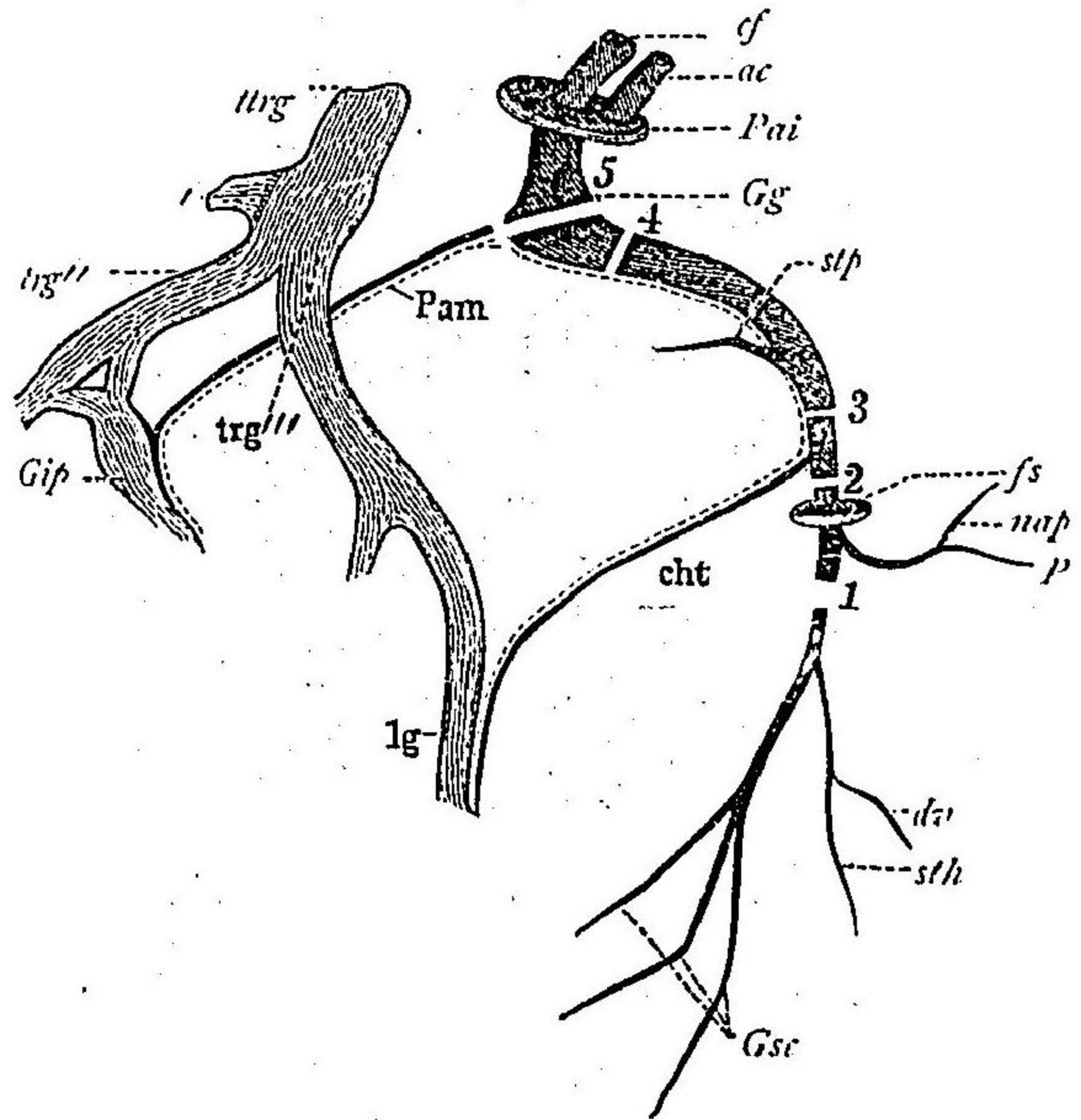
險ヲ下垂スルコト能ハザルヲ以テ眼險ヲ鎖スコト得ズ(兔眼 Lagophthalmus) 唯眼
 球ヲ内方ニ轉ジテ之ヲ掩ハント欲シ鼻翼上口唇共ニ低垂レテ頬ハ呼吸ノ
 際膨脹スルモ吸氣ノ際陷没シ口角下垂シテ屢唾液ヲ流洩シ全口吻健側ニ
 向テ牽引セラレ亦口唇運動ニ障礙有ルヲ以テ言語障礙ヲ來ス(第四百九十五圖)

運動セシメザル
 モ已ニ其特異ノ
 容貌ニ由テ之ヲ
 知ル可シ即チ癱瘓
 セル顔半面ハ弛
 緩シテ喜怒ノ容
 態ヲ現ハスコト
 無ク額皺消失シ
 一眼若シク開大
 シテ流涕シ閉眼
 セシムルニ上眼

顔面神經麻痺ノ検査ハ診断上甚々重要ナル者トス今該神經核ノ上部下部又ハ内部ニ麻痺ヲ起スニ從ヒ之ヲ核上性(中樞性)末梢性及核性顔面神經麻痺(Syphilitic, cerebrale), periphäre und nucleäre Paralyse)ヲ區別ス

末梢性麻痺ト中樞性麻痺トヲ鑑別スルニハ宜シク其主宰スル所ノ筋肉ノ萎縮

第四百九十六圖
顔面神經ノ路徑



(f) 顔面神經核(ac) 聽神經核
(Pai) 内耳門(Gg) 莖狀節(Pam) 幹
大岩様神經(st) 莖骨神經(cht)
鼓索神經(fs) 莖乳孔(nap) 耳後
神經(stn) 頭二腹筋及莖狀舌
筋ニ分佈スル神經(Gg) 三叉神
經幹(trg) 三叉神經ノ三枝
(Gip) 蝶竇口蓋神經(Gg) 顔面枝
(Gg) 舌神經(1) 單純ノ顔面麻
痺ヲ來ス部分(2) 顔面神經麻
痺ニ耳後神經麻痺ヲ併發スベ
キ部分(3) 顔面神經麻痺ニ鼓
索神經及耳後神經麻痺ヲ併發
スベキ部分(4) 顔面神經麻痺
ニ莖骨神經、鼓索神經及耳
後神經麻痺ヲ併發スベキ部分
(5) 顔面神經麻痺ニ淺大岩様
神經、莖骨神經、鼓索神經及耳
後神經麻痺ヲ併發スベキ部分

ノ存否及電氣的反應ニ注意スベシ中樞性麻痺ニハ筋ノ萎縮ト電氣的反應ノ障
碍ヲ缺如ス其他顔面神經ノ口鼻部ヲ侵スノミニノ所謂上顔面神經即眼及前額
枝ニ障碍ヲ見ズ之レモ極テ僅微ニノ且反射機ヲ保存ス是レ末梢性麻痺ト異ナ
ル所ノ要徴ナリ而シテ感冒ノ爲ニ末梢性麻痺ヲ起スルハ各枝共ニ麻痺ニ陥リ神
經幹ノ麻痺ニ陥ルハ脚氣癩病若クハ腫瘍ノ壓迫ニ因ル其他耳ノ症候ヲ併發ス
ル者ハ多ク岩様骨内ニ障碍有ルニ因ルナリ尙其解剖的關係ハ第四百九十六圖
ニ就テ觀ル可シ

(ハ) 舌筋(舌下神經)ノ自働的運動ヲ檢スルニハ患者ヲ舌ヲ挺出セシメ又之
ヲ上下左右ニ運動セシメ或ハ之ヲ上齒列ニ向テ壓抵セシム可シ輕度ノ麻
痺ハ此運動ノ緩慢ニシテ敏巧ナラザルヲ以テ之ヲ識ル可シ偏癱ニ於テ見ル
ガ如ク偏側舌下神經麻痺ニ於テハ舌ヲ挺出セシムルニ患部ニ向テ索引セ
ラル是レ一側ノ健全ナル頤舌筋ノ作用ニ因ルナリ其兩側舌下神經ノ全麻痺
ニ在テハ舌ハ口腔底ニ沈降シテ運動スルコト無ク又嚥下困難ヲ起シ或ハ之
ヲ行フコト能ハザルニ至ル

舌下神經麻痺ノ初期ニハ先ツ發音ニ障碍ヲ來スヲ以テ診斷上注意ス可キ件

發語失調

トス是蓋舌ニ大ナル運動障礙ヲ起スニ先チ通常發音ニ要スル所ノ微妙ノ運動ニ障礙ヲ蒙ルニ因ル者ニ爲、ニ舌音ニ障礙ヲ來スヲ以テ言語不明ト爲ルナリ之ヲ發語失調 *Alalie od. Anarthrie* ト稱ス

(一) 顏面神經ノ主宰スル軟口蓋筋ノ麻痺ハ嚙下困難ヲ來シ口蓋帆全ク鼻腔ヲ閉鎖スルヲ能ハザルハ屢鼻中ニ食物殊ニ液體ヲ漏出シ亦鼻聲ヲ發スルヲ有リ其偏側麻痺(偏癱)ニ在テハ患部ノ軟口蓋弛垂シ健側ニ向テ牽引セラルレモ懸壅垂ハ或ハ健側ニ或ハ患側ニ向フ

(二) 咬筋、嚼筋、嚼筋(即咬筋、嚼筋及內外兩翼狀筋)ニ麻痺ヲ來スハ咀嚼困難ヲ來シ或ハ之ヲ行フヲ能ハズ全然麻痺スルハ下顎弛垂シテ之ヲ側方ニ運轉スルヲ能ハズ(翼狀筋)半側麻痺ニ在テハ上下兩顎ヲ閉合スルニ咬筋及嚼筋弛緩シ下顎ヲ健側ニ向テ運轉スルヲ能ハズ又患側ニ於テ咀嚼スルヲ能ハザルナリ

此他頭自己ニ就テハ其屈伸廻轉側屈等ノ諸隨意運動ヲ檢ス可シ

頭ノ屈曲ハ兩側ノ胸鎖乳嘴筋(副神經)竝ニ前大及前小直頭筋(頸神經叢)ノ作用ニ由ル

喉頭筋ノ麻痺
頸ノ運動檢

脊柱ノ運動
檢査

其伸展ハ後大及後小直頭筋(第一頸神經)上斜頭筋(第一頸神經)錯綜筋(第一頸神經)二腹項筋(第一神經)及頸乳嘴筋(第二頸神經)ノ作用ニ由ル

其側屈ハ偏側ノ側直頭筋(第一頸神經)胸鎖乳嘴筋及頸乳嘴筋ノ作用ニ由ル

其廻轉ハ終ニ舉ゲタル兩筋ノ他ニ下斜頭筋(第一頸神經)及頭夾板筋(第一頸神經)ノ作用ニ由ル

(一) 喉頭筋ノ麻痺ハ喉頭檢査法(前編一三三頁參照)ニ就テ觀ル可ル

(二) 頸ニ就テモ亦其屈伸廻轉及側屈ヲ檢ス可シ

其屈曲ハ項長筋(頸神經叢)ノ作用ニ由ル

其伸展ハ橫項筋(頸神經)項棘筋(同上)及半項棘筋(同上)ノ作用ニ由ル

其側屈ハ偏側ノ橫項筋半項棘筋及不齊筋(頸神經叢)ノ作用ニ由ル

其廻轉ハ偏側ノ項長筋及半項棘筋ノ作用ニ由ル

(四) 脊柱ニ就テ檢スル所ノ運動モ亦其屈伸側屈及廻轉トス

脊柱ノ伸展ハ背長筋(肩胛下神經)及背神經(薦腰筋(腰神經)背棘筋(後胸廓神經)及斷裂筋(第二頸神經)及背神經)ノ作用ニ由ル

其屈曲ハ肋間神經ヨリ主宰セラル、所ノ腹筋(橫腹筋直腹筋斜腹筋)ノ作用

麻痺

四五三

上肢ノ運動
検査

ニ山ル
其側屈ハ背半棘筋(後胸廓神經)方腰筋(第一腹神經)竝ニ偏側ノ背長筋及斷裂筋ノ作用ニ由ル
其廻轉ハ亦斷裂筋及背半棘筋ノ作用ニ由ル
(五)上肢ニ於テハ各關節ニ於テ諸種ノ自働的運動ヲ行ハシメ其運動ヲ檢ス可シ其運動竝ニ之ニ與カル筋及神經次ノ如シ
(イ)肩胛板ノ運動
(1)肩胛板ヲ提舉スル者次ノ如シ
僧帽筋ノ中央部(副神經第三頸神經)―菱形筋(肩胛背側神經)―大胸筋ノ上部(前胸廓神經)―肩胛舉筋(頸神經)
(2)肩胛板ヲ低下スル者次ノ如シ
小胸筋(前胸廓神經)―潤背筋ノ下部(胸背神經)―大胸筋ノ下部(前胸廓神經)
(3)肩胛板ヲ脊柱ニ向テ近接セシムル者次ノ如シ
潤背筋ノ上部(胸背神經)―僧帽筋ノ下部(副神經第三頸神經)―菱形筋(肩胛背側神經)

(4)肩胛板ヲ脊柱ヨリ離隔セシムル者次ノ如シ
胸筋ノ上三分一部(前胸廓神經)―前大鋸筋(長胸神經)
(ロ)肩胛關節ノ運動
(1)上膊ヲ提舉スル者次ノ如シ
三角筋(腋窩神經)ハ之ヲ地平線ニ至ルマデ提舉ス之ヨリ以上ハ前大鋸筋(長胸神經)ノ作用ニシテ最モ力ヲ用ユルキハ僧帽筋(副神經第三頸神經)ノ中三分一ノ上部ノ作用ヲ藉ル
(2)上膊ヲ下降スル者次ノ如シ
(a)之ヲ前内方ニ下降スル者 大胸筋(前胸廓神經)
(b)之ヲ後内方ニ下降スル者 三角筋ノ後三分一部(腋窩神經)―大圓筋(胸背神經)―菱形筋(肩胛背側神經)―潤背筋(胸背神經)―長肘筋(桡骨神經)―烏喙膊筋(筋皮神經)
上膊ヲ後内方ニ牽下スルハ上記諸筋ノ共働作用ニ由ル者ニシテ後ニ舉ゲタル兩筋ハ只肩胛關節ヲ固定スルニ過ぎズ
(c)之ヲ直外方ニ下降スル者 大胸筋上三分一部ヲ除クノ外上文(a)及(b)

ニ舉ゲタル諸筋ナレモ三角筋弛緩スルキハ亦自ラ此作用ヲ致ス者ナリ

(3) 上膊ヲ内轉セシムル者 棘下筋(上肩胛神經)

(4) 上膊ヲ外轉セシムル者 棘上筋(上肩胛神經) 小圓筋(同上)

(八) 肘關節ノ運動

(1) 前膊ヲ屈曲スル者 二頭筋(筋皮神經) (該筋ハ之ト同時ニ前膊ヲ半外轉ス) 内膊筋(筋皮神經) 長廻後筋(橈骨神經) (前膊既ニ外轉位置ニ在ルキハ同時ニ之ヲ半内轉ス)

(2) 前膊ヲ伸展スル者 三頭筋(橈骨神經)

(3) 前膊ヲ廻前スル者 廻前圓筋(正中神經) (同時ニ前膊ヲ屈ス) 廻前方筋(正中神經)

(4) 前膊ヲ廻後スル者 短廻後筋(橈骨神經)

(三) 手關節ノ運動

(1) 手ヲ屈曲スル者 内橈骨筋(尺骨神經) 又前腕ヲ内轉ス 内尺骨筋(尺骨神經) 長掌筋(正中神經) 短掌筋(尺骨神經) 長外轉拇筋(橈骨神經)

(2) 手ヲ伸展スル者 外短橈骨筋(橈骨神經) 外長橈骨筋(橈骨神經) (同時ニ

手ヲ内轉ス) 外尺骨筋(橈骨神經) (同時ニ手ヲ外轉ス)

(3) 手ヲ内轉スル者 外長橈骨筋(橈骨神經)

(4) 手ヲ外轉スル者 外尺骨筋(橈骨神經)

(ホ) 指ノ運動

(1) 指ヲ屈曲スル者 淺屈指筋ハ第二及第三指節ヲ屈ス(正中神經) 深屈指筋モ同作用ヲ有ス(正中神經及尺骨神經) 骨間筋及蟲様筋ハ第一指節ヲ屈ス(尺骨神經及正中神經) 後者ハ始ノ三蟲様筋ヲ主ドリ前者ハ第四蟲様筋及總テノ骨間筋ヲ主ドル

(2) 指ヲ伸展スル者 總指伸筋示指伸筋小指伸筋ハ共ニ第一指節ヲ伸展ス(橈骨神經) 骨間筋及蟲様筋ハ第二節第三指節ヲ伸展ス(尺骨神經) 及正中神經

(3) 指ヲ内轉スル者 内骨間筋(尺骨神經)

(4) 指ヲ外轉スル者 内骨間筋(尺骨神經) 第一蟲様筋ハ示指ヲ外轉ス(正中神經)

(ハ) 拇指ノ運動

下肢ノ運動
検査

- (1) 拇指ヲ屈曲スル者 長拇指屈筋(正中神經)
- (2) 拇指ヲ伸展スル者 長拇指伸筋ハ兩節ヲ伸展ス―短拇指伸筋ハ第一節ヲ伸ス(共ニ橈骨神經)
- (3) 拇指ヲ内轉スル者 拇指内轉筋(尺骨神經)―短拇指屈筋ノ内部筋束(正中神經)
- (4) 拇指ヲ外轉スル者 長拇指外轉筋(橈骨神經)
- (5) 拇指ヲ對向スル者 對拇指筋(正中神經)―短拇指外轉筋(正中神經)―短拇指屈筋ノ外側筋束(正中神經)
- (六) 下肢ニ就テモ亦其各關節ニ就キ諸般ノ運動ヲ試ミ以テ麻痺ノ何レノ部位ニ在ルヤヲ檢ス可シ
- (イ) 膝關節ノ運動
 - (1) 大腿ヲ屈曲スル者 腸腰筋(亦後轉ス)―股神經―廣筋膜張筋(亦前轉ス)―上臀神經―直股筋(股神經)―縫匠筋(同上)
 - (2) 大腿ヲ伸展スル者 大臀筋(亦外轉ス)―下臀神經―二頭筋(坐骨神經)―半腱樣筋(同上)―半膜樣筋(同上)

- (3) 大腿ヲ廻前スル者 中及小臀筋(上臀神經)―廣筋膜張筋(同上)
- (4) 大腿ヲ廻後スル者 雙子筋(坐骨神經)―方股筋(同上)―内鎖筋(同上)―外鎖筋(閉鎖神經)―梨子狀筋(上臀神經)―腸腰筋(股神經)―大臀筋(下臀神經)
- (5) 大腿ヲ内轉スル者 内轉筋(亦後轉ス)―閉鎖神經―恥骨筋(亦屈筋(同上)―薄股筋(同上)
- (6) 大腿ヲ外轉スル者 中及小臀筋(上臀神經)
- (ロ) 膝關節ノ運動
 - (1) 下腿ヲ屈曲スル者 縫匠筋(亦内旋ス)―股神經―薄股筋(亦内旋ス)―閉鎖神經―半腱樣筋(亦内旋ス)―坐骨神經―二頭筋(亦外旋ス)―同上―膝關節筋(亦内旋ス)―脛骨神經
 - (2) 下腿ヲ伸展スル者 四頭股筋(股神經)
 - (3) 下腿ヲ内轉スル者 膝關節筋(脛骨神經)―縫匠筋(股神經)―薄股筋(閉鎖神經)―半腱樣筋(坐骨神經)
 - (4) 下腿ヲ廻後スル者 二頭筋(坐骨神經)
 - (ハ) 足關節ノ運動

(1) 足ヲ屈曲スル者(背屈) 前脛骨筋(亦足ヲ外轉シ其内縁ヲ舉グ) 深腓骨神經 | 總趾長伸筋(亦外轉ス) 深腓骨神經

(2) 足ヲ伸展スル者(蹠面屈) 腓腸筋及比目魚筋(亦足ヲ内轉シ其内縁ヲ舉グ) 脛骨神經 | 長腓骨筋(亦足ヲ外轉シ且其外縁ヲ舉グ) 腓骨神經

(3) 足ヲ内轉スル者 腓腸筋及比目魚筋(脛骨神經) | 前脛骨筋(深脛骨神經) 後脛骨筋(亦由伸兩位置ノ中間ニ於テ足ノ内縁ヲ舉グ) 脛骨神經

(4) 足ヲ外轉スル者 長腓骨筋(脛骨神經) | 短腓骨筋(亦屈伸兩位置ノ中間ニ於テ足ノ外縁ヲ舉グ) 腓骨神經 | 總趾長伸筋(深腓骨神經)

(5) 足ノ内縁ヲ舉グル者 腓腸筋及比目魚筋(脛骨神經) | 前脛骨筋(深腓骨神經) | 後脛骨筋(脛骨神經)

(6) 足ノ外縁ヲ舉グル者 長及短腓骨筋(腓骨神經)

(三) 趾ノ運動

(1) 趾ヲ屈曲スル者 長及短總趾屈筋(第二及第三節) 脛骨神經 | 骨間筋及蟲樣筋(第一節) 脛骨神經 | 短小趾外轉筋及屈筋(小趾ノ第一節) 脛骨神經

(2) 趾ヲ伸展スル者 長及短總趾伸筋(第一節) 深腓骨筋 | 骨間筋及蟲樣筋(第一節) 脛骨神經

二及第三節(脛骨神經) | 短小趾外轉筋及屈筋(小趾ノ第二及第三節) 脛骨神經

(3) 距ヲ内轉スル者 蹠側骨間筋(脛骨神經)

(4) 距ヲ外轉スル者 背側骨間筋(脛骨神經)

(ホ) 趾ノ運動

(1) 趾ヲ屈曲スル者 長趾屈筋(第一節) 脛骨神經 | 短趾屈筋(第一節) 同上 | 趾內轉筋(第一節) 同上 | 趾外轉筋(第一節) 同上

(2) 趾ヲ伸展スル者 長及短趾伸筋(第一節) 深腓骨筋 | 短趾屈筋(第二節) 脛骨神經 | 趾內轉筋(第二節) 同上 | 趾外轉筋(第二節) 同上

(3) 趾ヲ内轉スル者 趾內轉筋(脛骨神經) | 短趾屈筋ノ内筋束(同上)

(4) 趾ヲ外轉スル者 趾外轉筋 | 短趾屈筋ノ外筋束(脛骨神經)

尿管排泄時ニ於ケル筋作用

尿閉

終ニ臨ミ尙肝要ナルハ尿管排泄時ニ於ケル筋作用ニ注意スルニ在リ該諸筋ハ屢脊髓ノ疾患ニ由テ障礙ヲ蒙ル者ナリ

膀胱壓縮筋ノ麻痺ニ在リテハ始尿利困難ヲ起シ後放尿スルコト能ハザルニ至レモ(尿閉 Retentio urinae, Ischuria)之ニ反シテ膀胱括約筋ノ麻痺ニ在テハ患

麻痺

尿失禁
奇性尿閉
大便失禁

者始久シク膀胱内ニ尿ヲ留ムルヲ能ハズ終ニ不隨意ニ之ヲ漏洩スルニ至ル(尿失禁 *Incontinentia urinae*) 若シ又該兩筋共ニ麻痺スルキハ膀胱常ニ充滿シテ絶エズ尿ヲ淋瀝ス所謂奇性尿閉 *Ischuria paradoxa* 是ナリ
又肛門括約筋麻痺スルキハ不隨意ニ大便ヲ排泄ス之ヲ大便失禁 *Incontinentia aevi* ト稱ス

第二 筋ノ榮養及緊張障礙

(一) 麻痺筋ノ榮養狀態

筋ノ榮養及緊張障礙ノ榮養狀態
筋ノ萎縮
性萎縮
筋ノ肥大
及假性肥

麻痺筋ノ榮養狀態 *Der Ernährungszustand der gelähmten Muskeln* ハ麻痺ノ性質ニ從ヒ其狀況ヲ異ニシ診斷上亦甚ク肝要ノ件トス而シテ其榮養ハ筋ノ容積ニ由テ判定シ又其電氣ニ對スル現象ニ由テ之ヲ察知ス可キ者ニシテ一肢筋肉ノ稍々平等ニ容積ヲ減殺スル者之ヲ萎縮性萎縮 *Diffuse Atrophie* ト稱シ只一二ノ筋ニ瘦削ヲ來ス者之ヲ限局性萎縮 *Circumscribte Atrophie* ト稱ス之ニ反シテ筋肉ノ容積増大スル者之ヲ肥大 *Hypertrophie* 若クハ假性肥大 *Pseudohypertrophie* ト名ク

筋萎縮ハ視觸兩診及測定ニ由テ之ヲ知ル可キモ偏側ノ疾患ニ在テハ固クリ健側ト比較セザル可カラズ又患者ヲ自働的運動ヲ營マシムルキハ其筋肉收縮スルヲ以テ尙之ヲ明カニス可シ

四肢筋肉ノ容積ヲ測定スルニ通常測帶ヲ以テシ上膊ニ於テハ其最大部ヲ前膊ニ於テハ内踝下隅ノ下二乃至三仙迷ノ部ヲ大腿ニ於テハ膝蓋骨上緣ノ上方十五仙迷ノ部ヲ下腿ニ於テハ其最大部ヲ測ル可シ

筋萎縮ヲ分テ左ノ數種ト爲ス

筋萎縮ノ種別
不働性萎縮

變質性萎縮

(一) 不働性萎縮(廢用萎縮) *Die Inactinactrophie* 該萎縮ハ總テ麻痺セル筋肉及久時働作廢絶セル筋肉ニ來ル者ニシテ其萎縮著シカラザルモ其經過ハ甚ク緩慢ナリ而シテ該筋ノ電氣的興奮性(下條ニ詳ナリ)ハ其性狀ヲ變ゼザル者トス
(二) 變質性萎縮 *Die degenerative Atrophie* ハ所謂萎縮性麻痺(*Die atrophische Lähmung*)ニ略ル所ニシテ筋肉速クニ瘦削シ電氣的興奮性ノ變性(變性反應)ヲ來ス者ナリ而シテ此變質性萎縮ハ只筋ノ榮養ヲ主ドル所ノ中樞(即チ該筋ニ適スル前角ノ灰白質)毀傷セラレ或ハ筋ト絶縁セラレ、際ニ來ル者ナルヲ以テ前角ノ原發性及繼發性諸病前根或ハ末梢性神經ノ斷離若クハ傳道斷絶及末梢性神

筋ノ榮養及緊張障礙○麻痺筋ノ榮養狀態

經炎ニ於テハ皆此萎縮ヲ見ル可シ

變質性筋萎縮ヲ來ス所ハ疾患左ノ如シ即チ急性亞急性及慢性脊髓前角炎脊髓ニ因スル進行性筋萎縮症脊髓側索硬化症脊髓灰白質ヲ侵ス諸病(腫瘍出血軟化前根及末梢神經ノ壓迫外傷性斷離重劇ノ挫傷變質性神經炎等是ナリ)

損傷下部ヨリ筋ニ至ル運動神經ノ萎縮ヲ來スハ固ヨリ言テ俟タズ(本編四〇〇頁及電氣検査ノ條ヲ看ヨ)

然レテ前角神經節上部ノ運動性徑路ノ疾患ニ起因スル麻痺(即チ脊髓及腦ノ錐狀體徑路及腦皮質ニ於ケル疾患ニ因ル麻痺)ニ在テハ變質性萎縮ヲ缺如シ是等ノ症ニ於テハ只不働性萎縮ヲ來スノミ此他筋發性麻痺及官能性麻痺ニ於テモ變質性萎縮ヲ缺如スル者トス

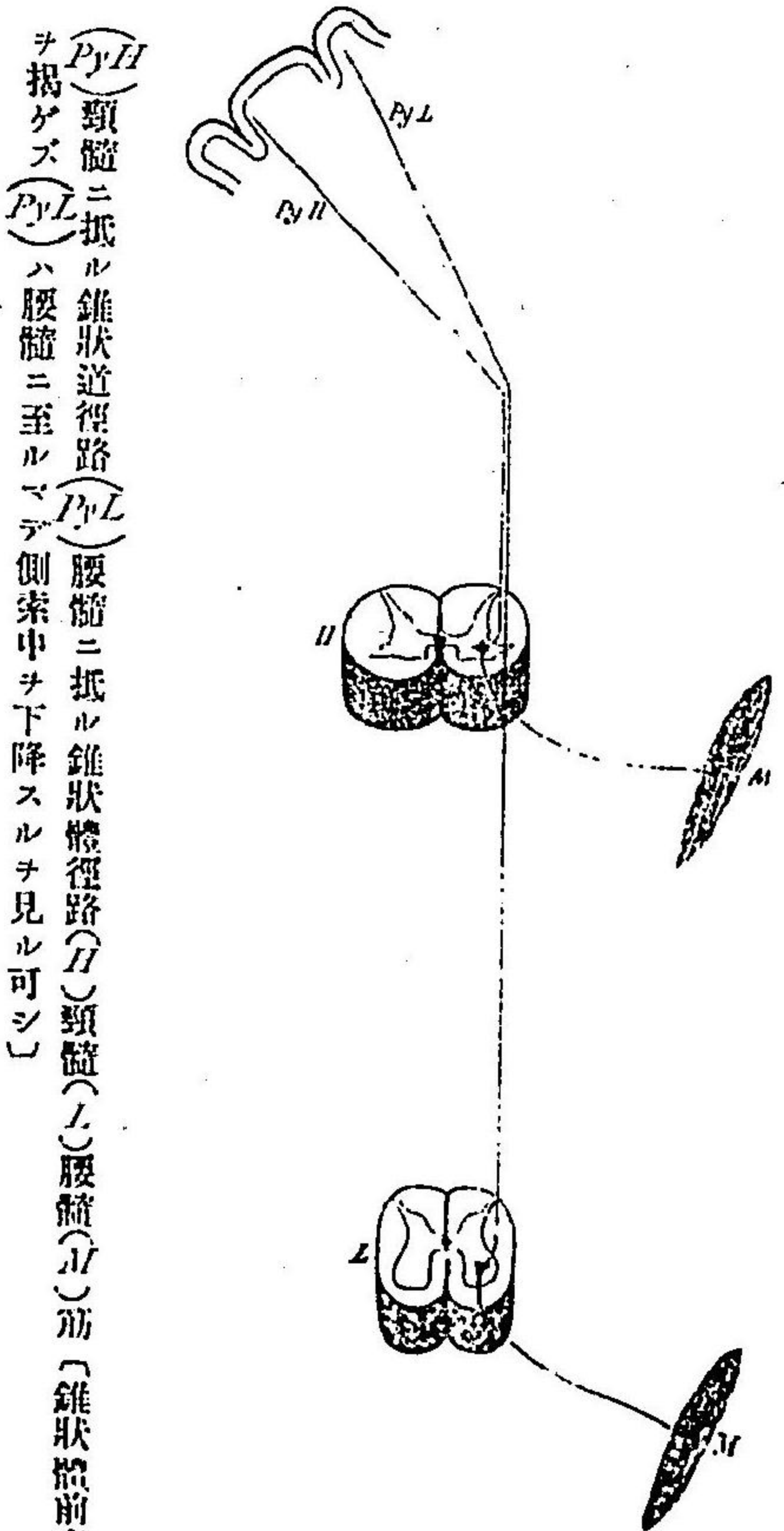
變質性萎縮ヲ發スルヤ臨牀上始之ガ判定ニ苦ムコト有リ而シテ或筋ノ急速(十四日以内)ニ其容積ヲ減ズルハ固ヨリ其全部或ハ其大部俄然殆ド同時ニ前角或ハ末梢神經ノ疾患ニ由テ全然麻痺スルニ因ル者ニシテ(急性脊髓前角炎神經ノ斷離、癱瘓、質斯性顔面神經麻痺等)數週或ハ數月ヲ閱シテ發スル疾患ニ在テハ隨テ萎縮ヲ起スコト徐々ニ且始ハ二三ノ筋纖維ニ散發スルモ漸次

全筋ニ互ル者ナリ又斯ノ如ク徐ニ發生スル所ノ變質性萎縮ニ在テハ變性反應(下章ニ詳ナリ)ヲ微知スルコト甚難シトス此他患部散在シ萎縮セル筋纖維束健全ノ者ニ夾雜スルハ之ヲ認識スルコト極テ難シ尙電氣検査ノ條下ニ再說ス可シ

茲ニ注意ス可キハ惡液質ニ於テハ全身ノ萎縮ニ伴ヒ亦筋ノ萎縮ヲ來スコト是ナリ又惡液質ノ者ニ在テハ變質性萎縮ニ非ザルモ筋麻痺ヲ有スルハ屢々甚高度ノ萎縮ヲ來スコト有リ例之脊髄橫徑炎及兩脚ノ單純不働性筋萎縮ノ患者ニ於テ惡液質ヲ起スルハ下肢ノ萎縮極テ著シキヲ略ルガ如シ然レテ電氣的變性反應ヲ呈セザルヲ以テ之ガ診斷ヲ下スコトヲ得可シ脊髄橫徑ノ疾患ニ在テハ灰白前柱ハ如何ノ關係ヲ有シ又如何ノ麻痺ヲ起スヤヲ明亮ナラシムルガ爲メ左ニ二例ヲ舉グ可シ

(一)重劇ナル頸髓ノ挫傷(例之頸椎骨折)ニ在テハ上肢筋ヲ主宰スル所ノ灰白前柱ノ全部毀傷セラレ且同時ニ兩下肢筋ノ錐狀體徑路ノ纖維斷絶セラル(第四頁七十四頁)故ニ上肢ニハ(變質性)萎縮性麻痺ヲ來シ兩下肢ニハ非萎縮性ノ單純(症性)麻痺ヲ來ス是後者ヲ錐狀體徑路ノ纖維ハ腰髓(E)ニ至ルマデ變質スレテ前角神經節ハ健全ナルヲ以テ末梢神經及筋ハ變化ヲ受クルコト無キニ因ルナリ

第七百九十四圖
皮膚筋路略圖



(Py II) 頸髓ニ抵ル錐狀道徑路 (Py L) 腰髓ニ抵ル錐狀道徑路 (Py II) 頸髓 (Py L) 腰髓 (Py II) 筋 (錐狀道前索道ヲ指ケズ) ハ腰髓ニ至ルマデ側索中ヲ下降スルヲ見ル可シ

(二) 胸椎ノ脊髓横徑炎ニ於テハ下肢ニ達スル錐狀道徑路斷絶セラレ以テ下肢ニ單純(痙性)麻痺ヲ起シ腰髓ノ同疾患ニ於テハ下肢ノ前角神經節毀傷セラレ、ヲ以テ此所ニ萎縮性麻痺ヲ起ス

(三) 筋原發性萎縮 *Primary-myopathische Atrophie*. 是、神經ニ異常無ク只筋ノ疾患ニ因テ發スル者ニ筋ノ容積縮減スルニ從ヒ麻痺ヲ増加シ遂ニ全然麻痺スルニ至ルモ毫モ變性反應ヲ呈セザルヲ其特徴トス而シテ此種ノ萎縮性麻

縮原發性萎

痺ハ二種ノ異ナル症ニ於テ之ヲ見ル即チ(一)筋榮養障礙即筋發性進行性筋萎縮(本症ニハ屢、肥大若クハ假性肥大ヲ合併スルコト有リ)及(二)重症ノ慢性關節疾患ニ於ケル者是ナリ

上記ノ萎縮及麻痺ノ並行ハ變質性萎縮性麻痺ニ在テモ亦其發生徐々ナル者(亞急性及慢性)ニハ屢、之ヲ見ル。萎縮及麻痺ノ著シク相背馳スルハ只急性變質性萎縮麻痺(急性脊髓前角炎、神經損傷、急性變質性神經炎)ニ於テ見ル所ニシテ是等ノ症ニ在テハ麻痺ヲ來スル速ナレモ萎縮ハ週餘ヲ經テ漸ク發生ス

官能性麻痺ニ著シキ萎縮ヲ有スルモ變性反應ヲ缺如スル者ハ近時シャルコー氏ガ或ハ創傷歇斯的里性麻痺ニ略タル所ニシテ該萎縮ハ變質性萎縮ノ如ク高度ナラズ恰モ之ト不働性萎縮ノ中間ニ位スル者ナリ

二三ノ大脳殊ニ皮質ノ疾患ニ於テ早期(間、既ニ麻痺ヲ發セザル前)ニ中等度ノ筋萎縮ヲ來シ變性反應ヲ缺如スル者ヲ目撃シタルコト有リ而シテ是等ノ症ニ於テハ間、全ク緊縮ヲ缺如シ髓反射ハ亢進セザリキ

筋肥大ノ真正ノ者ハトムセン氏病ニ來リ又間、二三ノ筋殊ニ腓腸筋ニ來ル(筋榮養障礙)其他偏脚ノ麻痺セル者(例之、陳舊ノ小兒麻痺)ニ於テ健脚ニ筋

麻痺筋ノ萎縮狀態

四七

ノ肥大ヲ來ス者モ亦之ニ屬ス而シテ真正ノ肥大症ニ於テハ筋肉肥厚シ強固ニシ筋力増加スルヲ常トスレモ之ニ反シテ假性肥大ニ在テハ容積増大スルモ筋力ハ却テ減弱スル者トス該症ハ筋ノ榮養障礙ニ起因スルコト多シト雖亦真正ノ肥大ヨリ之ヲ發スルコト有リ

脊髓及末梢麻痺ニ在テハ亦他組織殊ニ皮膚、爪、骨及關係ハ榮養障礙ヲ來ス者ナリ概シテ之ヲ榮養障礙 *Trophische Störung* ト稱ス即チ其主要ナル變化ハ皮膚滑澤ニシテ萎縮スルガ如キ、褥瘡ヲ生ズルガ如キ(殊ニ薦骨部及臀部)、爪甲ノ破碎シ易ク又肥厚スルガ如キ、骨ノ發育ニ障礙ヲ來スガ如キ等是ナリ

(二) 麻痺筋ノ緊張性

麻痺筋ノ緊張性 *Der Tonus der gelähmten Muskeln* ニ關シテハ左ノ諸項ニ注意ス可シ

(一) 筋ノ自働的痙硬即チ緊硬 *Aktive Spasmen, Rigidity der Muskeln* 前角上部ハ腦或ハ脊髓内ニ基因スル麻痺ニ特異ノ徵ハ麻痺筋ノ緊張増加トス然レモ亦間該徵ヲ缺如スルコト有リ而シテ此筋緊張ノ度ハ各異ニシテ或レ症ニ在テハ甚ク輕

榮養障礙

麻痺筋ノ緊張性

筋ノ自働的痙硬

度ニシテ檢者試ニ之ヲ運轉セシムルニ當リ稍抵抗ノ加ハルニ由テ之ヲ知ル可キモ或レ症ニ在テハ甚ク強度ニシテ安靜時ニ於テモ筋ノ硬キコト宛モ板ノ如ク毫モ患肢ヲ運轉セシムルコト能ハザルコト有リ例之四肢筋ニ緊硬ヲ起スルハ膝關節ノ屈曲ヲ妨グルガ如シ而シテ此緊硬ハ筋ニ存スル永久ノ解剖的變化ニ基因スル者ニ非ズ只其一時ノ收縮ニ基クコトハ其變換常ナラザルニ由テ之ヲ識ル可シ

麻痺筋ノ痙硬甚ク高度ナルモ屢久シク毫モ不働性萎縮ヲ來サザルコト有リ腦皮質ノ疾患ニ基因スル麻痺ニ在テハ痙硬ヲ來スコト甚ク早キヲ常トス其他歇斯的里ニ於テモ亦甚ク強劇ノ自働的痙硬ヲ來スコト有リ

弛緩性麻痺

(二) 弛緩性麻痺 *Die schlaffe Lähmung* ノ特徴ハ筋緊張力ノ減少若クハ缺亡ニシテ爲シ四肢ノ受働的運動甚ク容易ナルニ在リ而シテ弛緩ハ殊ニ新ニ發シ未ダ萎縮ヲ起サザル急性變質性麻痺(弛緩性萎縮性麻痺)ニ來ル者ニシテ慢性及陳舊ノ變性麻痺ニ於テモ亦之ヲ來スコト有リ其他腦性麻痺例之半身不遂ニ於テモ罕ニ著シキ弛緩ヲ呈スルコト有リ 麻痺ヲ缺如スル稍著シキ筋ノ弛緩

麻痺筋ノ緊張性

攣縮

ハ脊髓癆ニ於テ略ル可シ
 (III) 攣縮 Die Contractur. 痲痺ノ變質性ナルト單純性ナルトヲ問ハズ經久持續スルキハ痲痺セル肢節ノ筋肉ニ永ク解剖的短縮ヲ起ス就中痲痺性痲痺ニ在テハ屢主ニ痲痺ヲ起セル筋ニ短縮ヲ起スモ之ニ反シテ變質性痲痺ニ在テハ痲痺筋ノ對働筋ニ短縮ヲ起ス所謂「攣縮」是ナリ是殊ニ陳舊ノ半身不遂ニ於テ多ク見ル所ニ小兒ノ脊髓痲痺及腦痲痺ニ於テモ亦之ヲ略ルコト有リ而シテ攣縮ヲ起セル肢節ニ向テ反對ノ運動ヲ試ミ之ヲ伸展スルキハ疼痛ヲ發ス

第三 反射機

反射機

反射機 Die Reflexe ヲ大別シテ皮膚反射及腱反射ノ二種トス

(一) 皮膚反射

皮膚反射

皮膚反射 Hautreflexe ハ皮膚ヲ刺戟スルニ當リ一時速ク筋ノ收縮ヲ起ス者ヲ謂フ而シテ皮膚ヲ刺戟スルニハ通常之ヲ輕觸シ或ハ鉛筆ノ鈍端若クハ

足蹠反射

打診槌ノ柄ヲ以テ輕々擦過シ常ニ其法ノ同一ナルヲ良トス然レモ反射機ノ減却セルガ如キ場合ニ於テハ試ニ針ヲ以テ輕刺シ或ハ冰片ヲ以テ觸ル、
 「有リ」總テ皮膚反射ハ健體ニ在テモ各人甚之ヲ異ニスル者ナレモ(提舉筋反射ハ比較的其差最少シ)身體ノ各半側ハ必ず同強ナル者ナリ故ニ偏側ニ變狀有ルキハ他側ト比較對照セザル可カラズ而シテ兩側ニ於ケル檢査ノ成績同一ナルキハ診斷上ノ價值甚疑フ可キ者トス
 概スルニ皮膚ノ反射ハ顔面及上肢ニ於テハ微弱ニシテ診斷上全ク價值無キモ唯腋窩ニ於テハ顯著ナリ但シ下肢及腹部ニ於テハ強ク殊ニ其最銳敏ナル所ハ足蹠ニシテ就中左ノ三者ヲ最トス
 (一) 足蹠反射 Plantar- od. Fusssohlenreflex. ハ足蹠ノ皮膚ヲ刺戟スルニ由テ起ル者ニシテ健體ニ在テハ或ハ趾若クハ全足ノ背面屈曲ヲ來シ或ハ又脛關節膝關節ノ屈曲ヲ來ス者ナリ」病態ニ在テハ該反射缺如スルコト有リ(或ハ偏側ニ於テ減弱シ若クハ亢進ス)又亢進スルコト有リ或ハ徐々ニ來リ又再三刺戟ヲ與ヘタル後來ルコト有リ」足蹠反射ハ又脚筋ノ緊張ニ由テ影響ヲ受クル者トス例之伸筋ノ緊張甚シキハ一回ノ屈曲運動ニ代フルニ數回ノ震戰ヲ以

反射機○皮膚反射

提舉筋反射

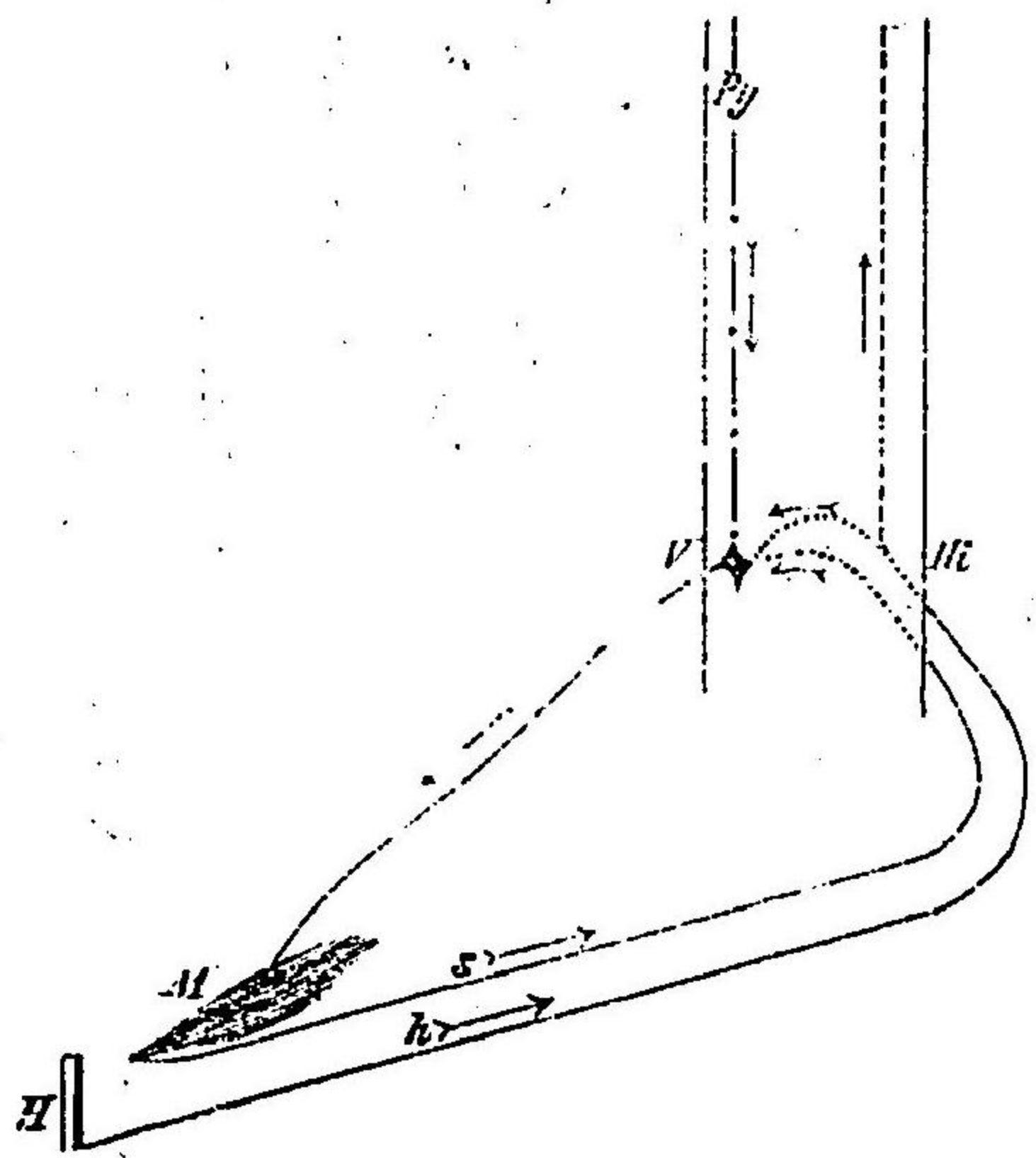
腹壁反射

テスルガ如シ
 (一)提舉筋反射 *Cremasterreflex* トハ大腿ノ内側ヲ刺戟スルニ當リ反射的ニ提舉筋收縮シテ當側若クハ兩側ノ辜丸上昇スルヲ謂フ而シテ該反射ハ宜シク陰囊筋膜ノ緩慢ナル收縮ト區別スベキ者ニシテ後者ハ稍後テ發スル者トス又提舉筋反射ハ間、横腹筋ニ波及スルコト有リ(此際下腹頓ニ陥入スルヲ見ル)
 (二)腹壁反射 *Bauchdeckenreflex* ハ偏側腹壁ノ皮膚ヲ刺戟スルニ當リ横腹筋ノ收縮スルニ由ル者ニシテ腹部ノ偏側若クハ兩側牽縮シ刺戟微弱ナルキハ臍ハ當側ニ向テ僅ニ偏倚ス
 上文ニ述ベタルガ如ク常態ニ在テハ皮膚ノ反射ハ各人甚之ヲ異ニスル者ニシテ之ヲ判定スルコト難シト雖通常其攣縮ハ只刺戟部ニ局限スル者ナリ然レモ其病的ニ充進セル者ニ在テハ微カニ一局部ヲ刺戟スルモ反射的攣縮ハ延テテ遠隔部ニ及ボシ時トシテ全身ニ互ルコト有リ是レ殊ニ歇斯の里、破傷風、斯篤里、幾尼涅中毒等ニ於テ見ル所ニシテ腦及脊髓ノ諸患ニ於テモ亦該反射ノ充進ヲ來スコト有リ
 皮膚反射ノ減弱乃至消失ハ末梢神經ノ疾患及脊髓灰白前柱ヲ侵ス所ノ脊

皮膚反射ノ機關

髓疾患ニ於テ見ル所ナリ又反射緩慢ニシテ二秒時間絶エズ刺戟ヲ與ヘタルノ後始テ反射攣縮ヲ起スコト有リ是レ刺戟ノ集積ニ因テ神經中樞ノ減弱セル反射機ヲ鼓舞スルニ因ルナリ
 皮膚反射ノ機關ハ第四百九十八圖ニ示ス所ニ由リ了解ス可シ即チ皮膚ヨリ發スル知覺的刺戟ハ脊髓ノ前角ニ於テ運動神經纖維ニ傳達セララル、モ前角自家ハ錐狀體徑路ヲ走ル所ノ反射制止纖維ニ由テ支配セララル故ニ反射道ノ一部斷絶セララル、カ或ハ皮膚ノ知覺機脱失スルカ或ハ筋發性麻痺有ルキハ皮膚ノ反射消失スルモ之ニ反

第四百九十八圖 皮膚及腿反射ノ略略路



(I) 皮膚
 (II) 前角
 (III) 後角
 (IV) 錐體
 (V) 錐體道
 (VI) 腿反射
 (VII) 皮膚反射

角自家ハ錐狀體徑路ヲ走ル所ノ反射制止纖維ニ由テ支配セララル故ニ反射道ノ一部斷絶セララル、カ或ハ皮膚ノ知覺機脱失スルカ或ハ筋發性麻痺有ルキハ皮膚ノ反射消失スルモ之ニ反

シテ前角ノ興奮性亢進スルカ或ハ腦ノ反射制止機能消滅スルカ若クハ皮膚知覺過敏ナルキハ反射亢進スルヤ明カナリ

近時セーリグミュレル氏ハ肋間神經痛ニ於テ偏側ノ腹壁反射亢進セル者ヲ嗜タルヲ有リト云フ

爾他ノ皮膚反射ハ緊要ナラザルヲ以テ茲ニ述ベズ

瞳孔反射及反射的眼瞼閉縮ハ視官検査ノ條下ニ説ク可シ

粘膜炎射

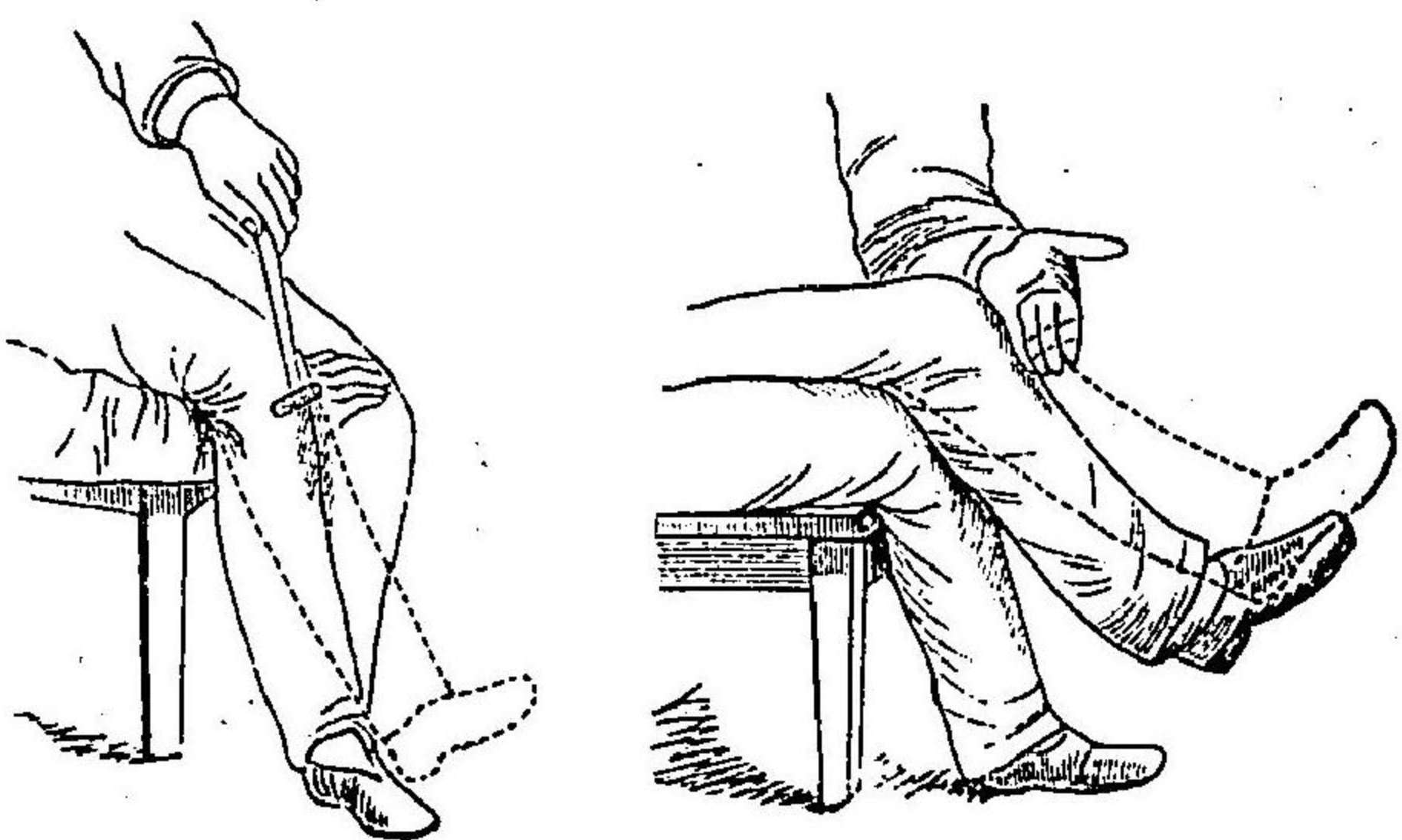
粘膜炎射 Schlemmhautefflex ニ就テハ口蓋咽頭粘膜炎ヲ刺戟スルニ當リ發スル所ノ嚙下反射ハ診斷上價値有ル者ニシテ其缺如ハ展歇斯の里(粘膜炎ノ知覺脫失ニ因ル)ニ來リ又球麻痺(核麻痺)ニ來ル者ナリ
反射機ニ就テ診斷上頗ル緊要ナル者ヲ腱反射ト爲ス

(二) 腱反射

腱反射

腱反射 Schenerefflex 竝骨膜及筋鞘反射 Perist- u. Fascicufflex モ亦短キ筋攣縮ニシテ筋腱骨及筋鞘ヲ打鼓シ或ハ一頓ニ受働的運動ヲ行ヒ(此際當該筋ハ亦伸展セラル)俄然腱ヲ伸張スルニ由テ發ス而シテ斯ノ如キ刺戟ヲ與フルキハ

第百九十九圖 膝蓋腱反射ノ検査法



一脚ヲ他脚ノ上ニ載スル法ナリ例之ハ左側ノ下腿ヲ殆ト直角ニ屈曲セル右側ノ膝頭ニ載テ手ノ尺骨側ヲ以テ拍打スレバ左脚反跳シテ點線ヲ以テ示ス狀ヲ呈ス
醫師其前脚ヲ患者ノ膝下ニ入レ手掌ヲ他側ノ膝上ニ貼シ患者チン上腿チンク手ニ支柱セシメ打診槌ヲ以テ四頭股筋ノ腱ヲ打ツレハ下脚ノ反振高舉スルコト圖ニ示スガ如シ

肢部ニ短キ運動ヲ起シ或ハ瞬間時筋ニ緊硬ヲ起ス(觸診ニ由テ之ヲ知ル可シ)者ニシテ共ニ診斷上ニ應用ス可シ
腱反射ヲ檢スルニハ檢肢ヲ全ク弛垂セシムルヲ要シ且患者ヲ心忍ヲ他

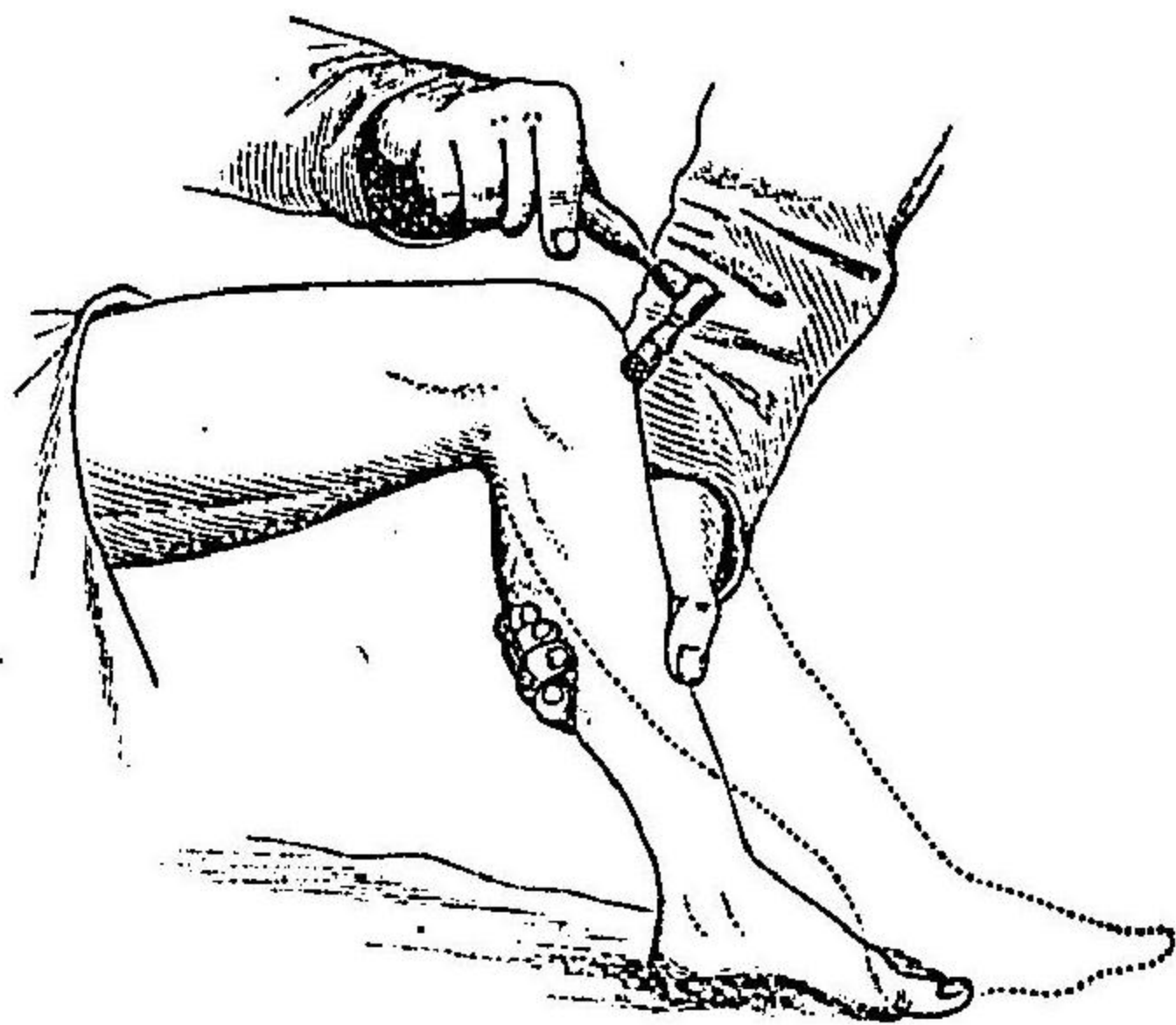
ニ傾注セシムルヲ肝要トス若シ筋肉全ク弛緩セザルハ往々反射機ノ缺亡ト誤認スルヲ有リ宜シク注意スベシ

腱反射ヲ檢スルニモ亦左右ヲ對照比較スルヲ要ス而シテ該反射ハ皮膚反射ニ於ケルガ如ク常態ニ在テモ各人甚ク之ヲ異ニセザルヲ以テ之ニ比スレバ診斷上遙カニ肝要ナリトス今其

膝蓋腿反射
(膝現象)

主要ナル順序ニ從ヒ諸種ノ腿反射ヲ列敘ス可シ
 (一)膝蓋腿反射 Patellarshnenreflex (エルプ氏) ハ四頭股筋ノ攣縮ニ因ル者ニシテ患者ヲソノ下腿ヲ弛垂セシメ打診槌ヲ彎屈セル指頭ノ手掌ノ尺骨側面若クハ聽診器ノ耳板ノ側面ヲ以テ膝蓋靱帶ヲ輕打スル際ニ生ズ(往々其最モ知覺敏捷ノ部ヲ搜索セザル可カラザルコト有リ)故ニ又之ヲ膝現象 Knieflexion ト稱ス(第四百九十九圖)

第五百圖 膝蓋腿反射ノ検査法



病褥上ニ於テ膝蓋腿反射ヲ檢スルニハ左手ヲ以テ膝ヲ少シク提舉ス可シ又患者ヲソノ足趾ヲ牀上ニ著ケテ大腿ト下腿間ニ百二十度ノ角度ヲ作ラシメ右手ニ打診槌ヲ取り膝蓋靱帶ヲ打搏ス可シ(第五百圖)此他下脚ノ筋ヲ弛緩セシムルニハ談話ヲ試ミテ患者ノ意向ヲ他ニ轉ゼシメ或ハ強ク兩手拳ヲ作ラシメ又ハ兩手ノ諸指ヲ相互ニ嵌

第五百圖 膝蓋腿反射ノ検査法



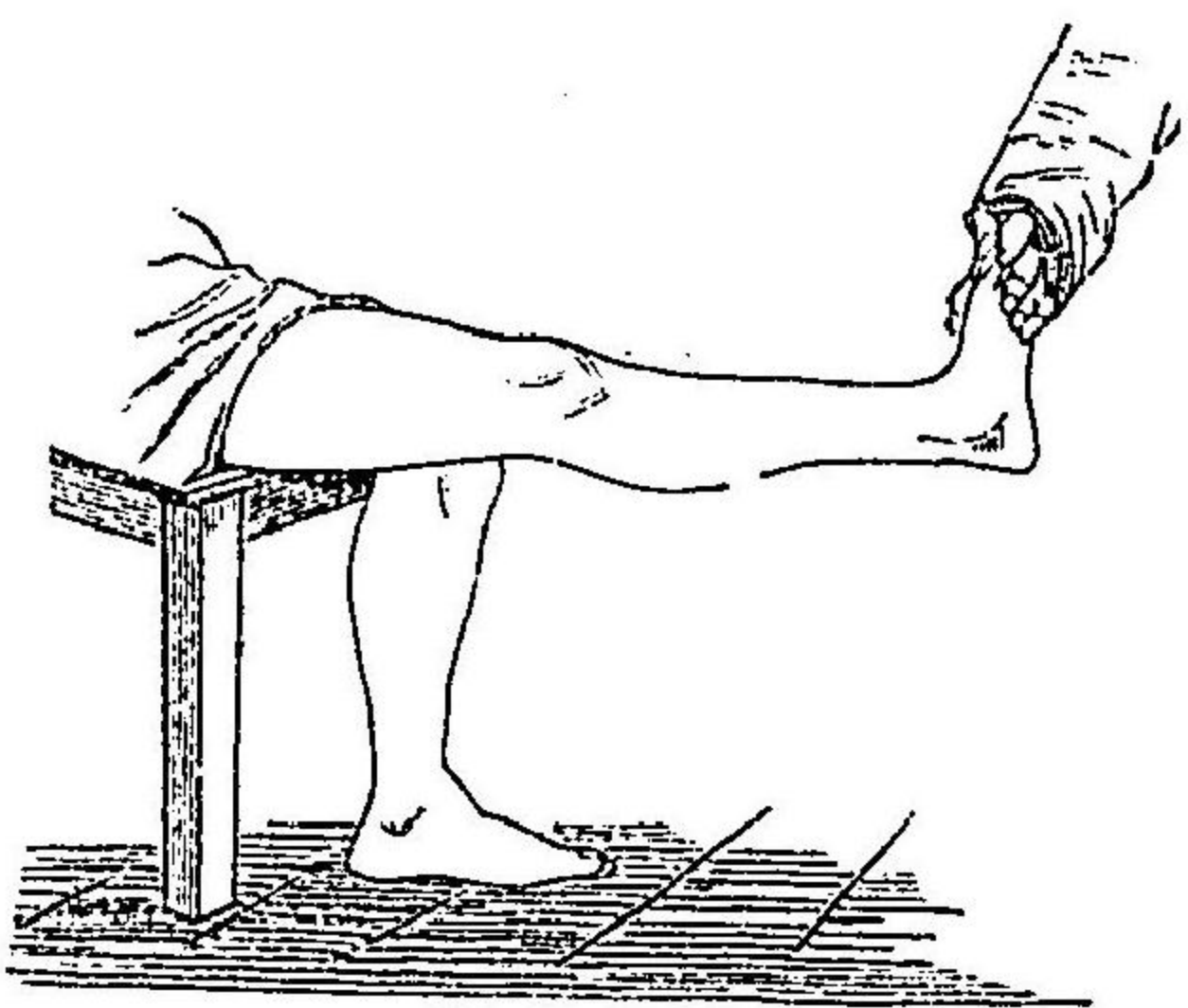
合シテ強ク之ヲ相牽引セシムルモ可ナリ(第五百一圖) 四頭股筋ノ自働的收縮ノミナラズ又其緊張増多スルコトハ共ニ反射ヲ

妨グル者ニソノ加之^{ラズ}病的ニ亢進セル膝蓋腿反射ハ痙攣ニ由テ妨ゲラル、者トス故ニ之ヲ檢スルニハ常ニ注意シテ受働的運動ニ由リ以テ可及的自働的痙硬ヲ減ズ可シ其他膝關節ノ畸形及強直ハ腿反射ヲ妨グルコト固ヨリ言ヲ俟タズ
 膝蓋腿反射ハ健態ニ在テハ(極^メテ少量ノ破格ヲ除キ)常ニ存スル者ナリ殊ニ其兩側同強ナルヲ常トス

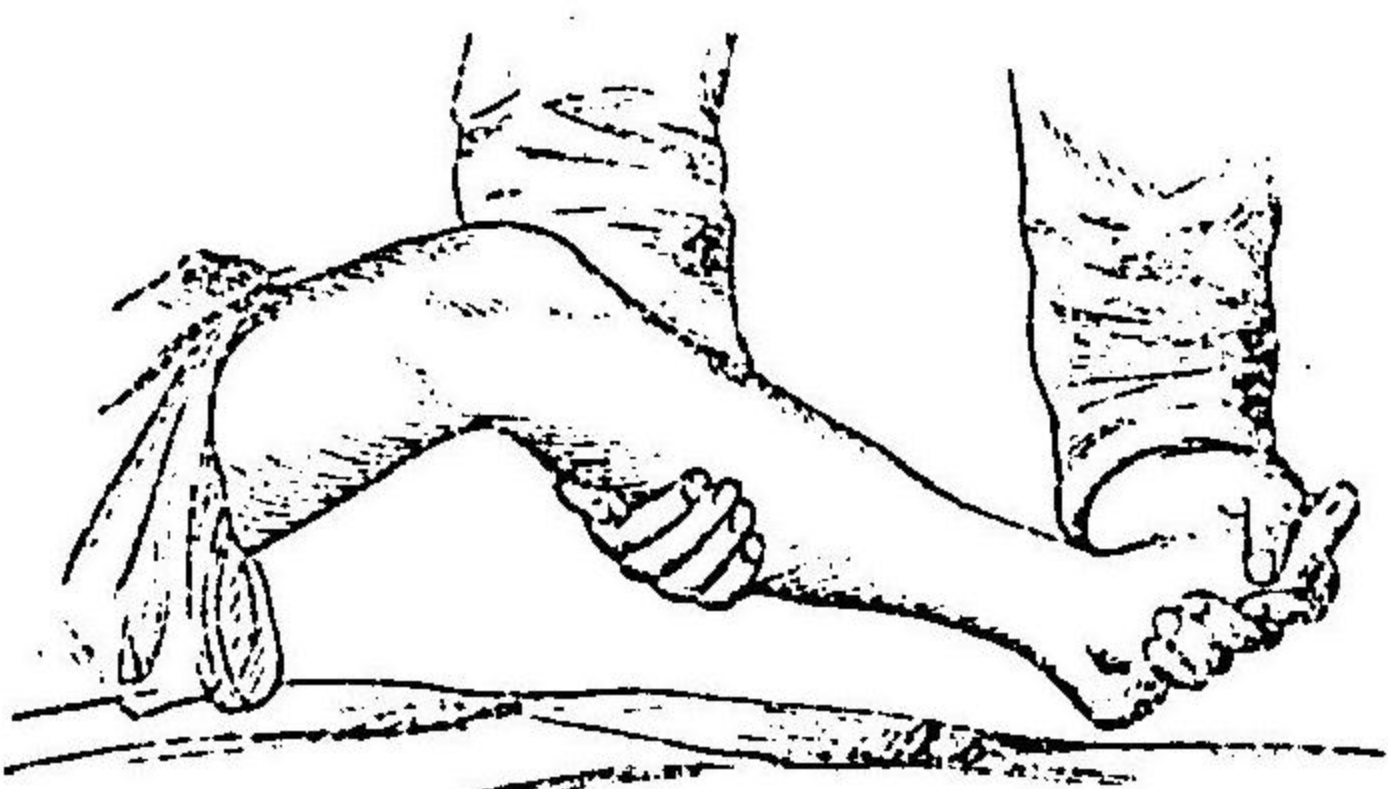
アヒル
腿反射及足
現象

(一)アヒル腿反射及足現象 *Achillessehnenreflex u. Fissphänomen* 前者ハアヒル
 レス腿就中多クハ只其一定部ヲ打撃スルニ當リ健態ニ在テハ腓腸筋(及比
 目魚筋)ノ反射的攣縮ニ由テ足部僅ニ足蹠ニ向テ屈曲スル者ヲ謂フ而之
 ヲ檢スルニハ左手ヲ以テ高ク足ヲ保持シテ下腿ト直角ヲ爲サシメ以テ腓
 腸筋ヲ緊張セシメ而シテ後腿ノ端部ヲ拍打ス可シ(第百四十四圖)足現象トハ反射機
 ノ亢進スル時ニ當リ受働的ニ一頓ニ強ク或ハ久シク足ヲ背面ニ向テ屈ス

第五百二圖
アヒル腿反射ノ檢査法



第五百三圖
足現象ノ檢査法



ル際(此際
 腿及筋ヲ
 伸展ス)發
 スル上記
 諸筋ノ攣
 縮ニ由テ
 生ズル者
 ニノ足部
 震動シ(足

足搖顛

上肢ニ於
テ腿反射

骨膜及腿鞘
反射

腿反射ノ機
關

搖顛 *Fisslonis* 時トシテ全脚ニ此震動ヲ波及スルコト有リ此現象ハ又往々患者
 ノ下腿ヲ他手ニテ支持シ僅ニ膝關節ヲ屈曲シテ足ヲ強ク背面ニ向テ屈曲
 スル際發スルコト有リ(第百三十四圖)加之ニ間、單ニ脚ヲ此位置ニ保持スルノミニ
 テモ之ヲ發スルコト有リ
 (三)上肢ニ於ケル腿反射ハ通常微弱ニシテ或ハ全ク缺亡シ唯病的ニ於テノミ
 強キ腿反射或ハ骨膜反射ヲ呈ス即チ橈骨及尺骨ノ下端ヲ打撃スルニ長外轉
 筋、二頭膊筋、三角筋等ニ反射的攣縮ヲ起シ又三頭膊筋腿ヲ拍打スルニ該筋
 ニ反射的收縮ヲ起スガ如シ
 (四)骨膜及腿鞘反射ハ骨膜或ハ筋鞘ヲ打撃スルニ當リ反射攣縮ヲ來ス者ニ
 シテ大腿ノ前面若クハ脛骨ノ前面ヲ打ツニ屢、四頭股筋ノ收縮ヲ來スガ如キ
 是ナリ該反射ハ屢、健體ニ來ル者ニシテ殊ニ腿反射ノ亢進セル者ニ來ルコ
 ト多シ
 腿反射ノ機關ハ第四百九十八圖ニ示シタル如ク之ヲ起スニハ反射機徑路
 ノ缺損無キヲ要ス即チ刺戟ハ腿ヨリ知覺(即チ求心性)神經ヲ經テ後根ニ入リ
 前角ヲ通シ運動神經ヲ經テ筋ニ達ス而シテ此反射機ハ錐狀體徑路中ニ在ル

腿反射

四七九

所ノ制止神經纖維ノ影響ヲ受クル者ニ該纖維ハ或ハ缺損シ或ハ又間一
 時刺戟セラル故ニ錐狀體徑路斷絶セラル、カ其前角ニ至ル迄ノ繼發性變
 質ニ於ケルガ如シ)或ハ原發性變質ニ由テ錐狀體徑路ノ缺損ヲ起スルハ腿
 反射ノ亢進ヲ來シ(腦性麻痺其他錐狀體徑路ノ疾患ニ因スル脊髓性麻痺例
 之脊髓橫徑炎筋萎縮性側索硬化癩性脊髓麻痺)脊髓自家即前角ノ興奮性
 増進ニ由テモ亦其亢進ヲ來スモ(斯篤里幾尼涅中毒破傷風恐水病機能性神
 經症殊ニ歇斯の里之ニ反シテ前角末梢神經後根或ハ之ト前角トノ連絡部
 ノ疾患ニ在テハ腿反射減少シ或ハ消失ス(脊髓前角炎脊髓性進行性筋萎縮
 末梢神經ノ諸患脊髓癆ニ本症ノ診斷ニ肝要ナリ其他脊髓炎脊髓ノ腫瘍或ハ出血ニ上肢
 若クハ下肢ニ對スル灰白質毀傷スル者ノ如シ)

第四 神經及筋ノ電氣的検査

神經及筋ノ電
 氣的検査

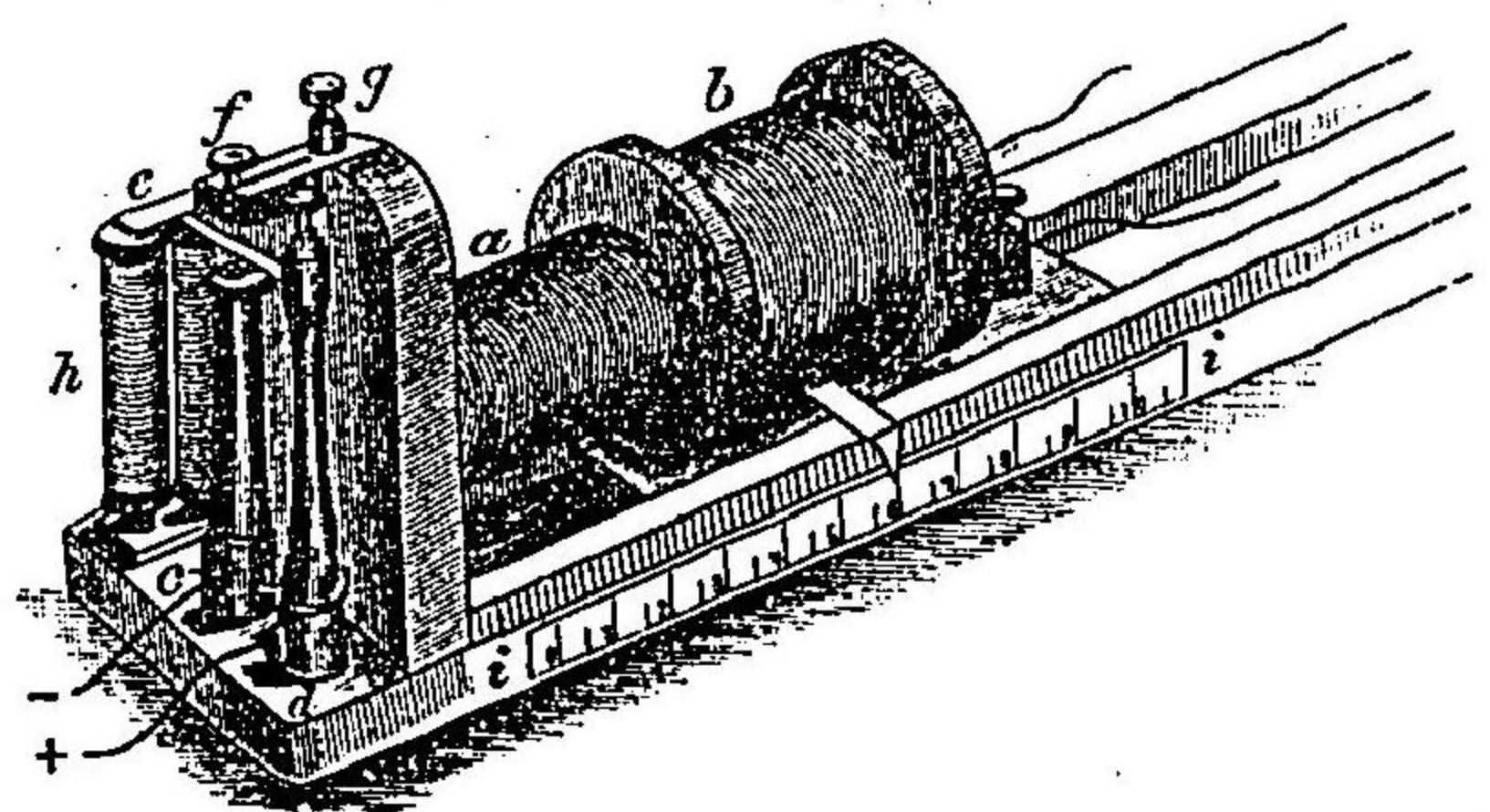
神經及筋ノ電氣的検査 Elektrische Untersuchung der Nerven und
 Muskeln ハ皮膚ノ直下ニ在ル所ノ此兩器官ニ電氣的刺戟ヲ施ス者ニ今
 此電氣的検査法ヲ説述スルニ當リ茲ニ先之ニ關スル理學的要領及一二ノ

器○品○ニ就テ其梗概ヲ述ブ可シ

電氣的検査ヲ施スニハデュボア・レ・イ・モ・ン氏ノ槓形裝置(第五百四圖)ニ於ケル第二螺
 旋ノ感傳電流即華羅臺感傳電流及瓦爾華尼電池ノ平流電流ヲ用ユ而ノ感傳電
 流ハ強度ヲ増減スルニハ内外兩螺旋筒ヲ移動シ其相隔ツル距離即螺旋筒距離

Rollenbahn ヲ以テシ平流電氣ノ強度ヲ變ズ
 ルニハ電源ノ數ヲ増減シ又時宜ニ由リ節電
 器 Rheostat ヲ用ユ可シ

身體ニ電流ヲ通ズルニハ豫メ温湯ヲ以テ温潤
 シタル導子 Elektroden ヲ用ユ之ニ二種有リ一ヲ
 不偏導子 Indifferente Elektrode ト稱シ一ヲ偏導
 子或検査導子 Differentielle Untersuchungslehende
 ト稱ス前者ハ可及的大ナル者ヲ良トス是レ其
 電流ハ抵抗尙大ナル部位ニ於テ可及的大ナ
 ル横斷面ヲ要スレバナリ(電流抵抗ハ横斷面
 ノ大ニ反比ストノ原則ニ由ル)是レ電流強度
 ヲ増加スルモ比較的微弱ナル電流密度ヲ得



第五百四圖
 デュボア・レ・イ・モ・ン氏ノ槓形裝置

ンガ爲ナリ而ノ此不偏導子ヲ貼置スルニ最適當ナル部ヲ胸骨部トス

検査導子ハ神經及筋ノ検査ニ供スル者ナルヲ以テ可及的小ナル者ヲ選用ス是レ
刺戟作用ニ肝要ナル最大密度ノ電流ヲ得ンガ爲ナリ故ニ感傳電氣検査ニハエ
ルプ氏ノ細小導子 *Fine Electrode* (第五百五圖)ヲ選用スルヲ最良トス然レ平流電氣ニ

在テハ斯ノ如キ小導子ヲ用ユルハ傳導ノ横断面減少シ電流ノ強度著シク減
殺セラル、ヲ以テ之ニ稍大ナル検査導子ヲ選用セザル可カラズ是故ニ導子
ノ大サハ電流ノ密度ニ大ナル關係ヲ

有スルヲ以テ可檢部ニ作用スル電
流ノ強度及密度ヲ檢知スルニハ一
定ノ横断面ヲ有スル検査導子ヲ用



第五百五圖
エールプ氏ノ細小導子
(自然大)

ユルヲ要スエールプ氏ハ之ニ十平方
仙迷ノ横断面ヲ有スル検査導子ヲ費用シ之レヲ正規導子 *Normalelektrode*ト稱ヒリ

而ノ其方形ノ者ハ縱横側ノ長三三仙迷ニ圓形ノ者ハ直徑三五仙迷ナリ又ス
チンチンク氏ハ圓形ニノ稍凸隆シ横断面三平方仙迷及直徑二仙迷ノ導子ヲ稱
川セリ

検査記録ニハ必ず先ツ検査導子ノ大サヲ記入スルヲ要ス

感傳電氣検査ニ於テ電流ノ強度ヲ知ルニハ螺旋筒距離 *Rollenabstand*ヲ以テスレ
ル其装置ノ構造ニ由リ電流ノ強度一定セザルヲ以テ感傳電流ニ對スル絶對的
ノ測定本位ハ未ダ之レラズ

然レ平流電氣ニ在テハ一定ノ測定本位有リありあり *Milli Amper = M.A. =*
1 Volt 是ナリ之ヲ測ルニハ平流電氣計 *Galvanometer*ヲ用ユ然レ其詳細ニ至
1000 Ohm テハ本書ノ能ク悉ス所ニ非ズ

平流電氣計ヲ以テ示セル電流強度ハ検査導子ノ横断面ニ分配ス可キ者ナリ例
之電流強度二五みありあむべしニシテ導子ノ横断面十二平方仙迷ナルトハ一
平方仙迷即チ皮膚ノ一平方仙迷上ニハ $\frac{25}{12} \text{ M.A.}$ ノ電流ヲ受ケタルナリ然レ検査
シタル神經ニ達スル電流密度ハ正ニ之ト比例ヲ爲サザルヲ以テ此分數ハ確實
ノ價値無キ者トス又正規導子ヲ用ユルハ之ヲ左ノ如ク記ス可シ

正規導子エールプ氏(十平方仙迷)ニ五みあむべし $\frac{25}{10}$ 正規導子エールプ氏
電流強度ノ全量ヲ測定スルハ最モ肝要ナリト雖亦全ク精確ノ成績ヲ得難キヲ有
リ即チ皮膚ノ傳導抵抗ノ如キハ諸般ノ原因ニ由リ減却シ從テ電流強度増多スル
ト有リ又吾人ノ甚々苦ム所ハ電流ヲノ検査ス可キ神經(筋)ニ集積セシムルヲ能
ハザルニ在リ是レ神經ハ共ニ良導性ノ組織中ニ在レバナリ故ニ皮膚上ニ於ケル

電流強度及電流橫斷面ヲ以テ直ニ神經(筋)ニ對スル電流ノ度ヲ確知スル能ハズ、今之ガ主因ヲ舉グレバ左ノ如シ即チ神經ノ皮膚ニ對スル解剖上ノ位置ハ各人異ナルヲ以テ神經ニ通ズル所ノ電流モ亦各異ナラザルヲ得ズ又神經ハ電流ヲ受クル方向ニ由テ抵抗ヲ異ニスル者ニノ橫徑ニ於テ電流ヲ受クルハ其縱徑ニ於ケルヨリ遙カニ大ナル抵抗ヲ呈ス故ニ神經ニ通ズル電流ノ方向ハ其強度ニ大ナル影響ヲ有スル者ナレバ其方向ノ角度ニ至テハ精密ニ測定スルヲ能ハザルナリ

電流ノ極及其速知法

電流ノ極及其速知法 電流ノ極ハ感傳電氣ニ在テハ第二螺旋ノ開流ニ於ケル消極ハ積極ニ比スレバ其刺戟作用稍強キニ過ギザレバ平流電氣ニ在テハ其作用各甚ク特異ナルヲ以テ電氣裝置ニ就テ之ヲ速知スルヲ肝要トス其最簡便ナル法ハ甚ク微弱ノ電流ヲ以テ兩導子ヲ兩頰ニ貼著スルニ在リ積極側ニ於テハ舌上ニ一種特異ノ名狀ス可カラザル味覺ヲ感じ又頰粘膜上ニモ此感覺ヲ起ス又兩極導線ヲ一仙迷ヲ隔テ、能ク濕潤セル青色らつくむす紙上ニ貼ス可シ積極端ニ於テハ赤色ヲ呈ス

瓦爾華尼流中ニ電流變向子ヲ嵌入スルハ導子ノ配置ヲ變セズノ電流ノ方向ヲ變換シ且隨意ニ電流ヲ開閉スルヲ得可シ即チ積極ヲ速カニ消極ト爲シ又消

極ヲノ積極ト爲サシムルヲ得可シ

*

*

*

*

生體ニ於ケル電氣的検査法及其生理學的成績

生體ニ於ケル電氣的検査法及其生理學的成績

神經及筋ノ電氣的検査ハ電流ヲ以テ筋ヲ收縮セシムルニ在リ之ニ二法有リ即チ一ハ筋ヲ主宰スル所ノ神經ヲ刺戟スル者ニシテ之ヲ介達刺戟ト稱シ一ハ直ニ筋ニ刺戟ヲ與フル者ニシテ之ヲ直達刺戟ト稱ス故ニ介達華羅臺流及瓦爾華尼流検査竝ニ直達華羅臺流及瓦爾華尼流検査ノ別有リ而シテ其刺戟ハ多少ハ上文述べタルガ如ク華羅臺流ニ在テハ螺旋筒距離ニ由テ之ヲ知リ瓦爾華尼流ニ在テハみりあむペー(ML)ニ由テ之ヲ識ル可シ即チ此検査ノ成績ニ由テ吾人ノ判定ヲ下ス可キ者次ノ如シ

神經若クハ筋ノ興奮性ノ度

(一)神經若クハ筋ノ興奮性ノ度即チ最初ニ顯ハル、所ノ最小收縮 *Minimum-tension* ヲ起サシムルニハ幾多ノ電流強度ヲ要スルヤヲ知ル可シ又平流電氣検査ニ於テハ一ツビ強直ヲ起スニハ幾多ノ刺戟強度ヲ要スルヤヲ知ル可シ

生體ニ於ケル電氣的検査法及其生理學的成績

電氣反應ノ性狀

然レ此最小收縮及殊ニ平流電氣の強直ハ檢者ノ所見ニ由リ多少ノ差異有ルヲ免カレズ是亦其精確ナラザル一原因ナリトス

(二)平流電氣ヲ以テ直接ニ筋ヲ刺戟シ其反應ノ性狀ヲ知ル詳言スレバ其縮ノ性狀及「攣縮定則」ヲ知ル可シ(後條ヲ看ヨ)

凡ソ電流ハ唯其俄然流通ヲ變換スルニ由テ刺戟ヲ與フル者トス(甚強キ電流ハ此例外ナリ)故ニ感傳電氣ノ如キ短時間ヲ隔テ、互ニ電流方向ヲ變ズル者ニ在テハ導子ヲ當テ電流ヲ閉合スル間ハ其神經ヨリ刺戟スルト直ニ筋ヲ刺戟スルトヲ問ハズ強直性收縮ヲ起サシム可シト雖之ニ反シテ平流電氣ニ在テハ其介達タルト直達タルトヲ問ハズ唯其發生ノ瞬間時(即チ閉時攣縮 Schliessungssuckung) 及其消失ノ瞬間時(即チ開時攣縮 Öffnungssuckung)ニ刺戟ヲ與フル者トス然リ而シテ露出セル神經ニ就テハ其消極ニ於テハ只閉時ニ攣縮ヲ起シ積極ニ於テハ只開時ニ攣縮ヲ起スト雖吾人ノ生體ニ於ケル神經及筋ニ就テハ之ト異ナル攣縮定則ヲ見ル可シ(其詳細ハ宜シク電氣療法書ニ就テ觀ルベシ)

平流電氣検査ニ就テハ尙左ニ詳述セザル可カラズ

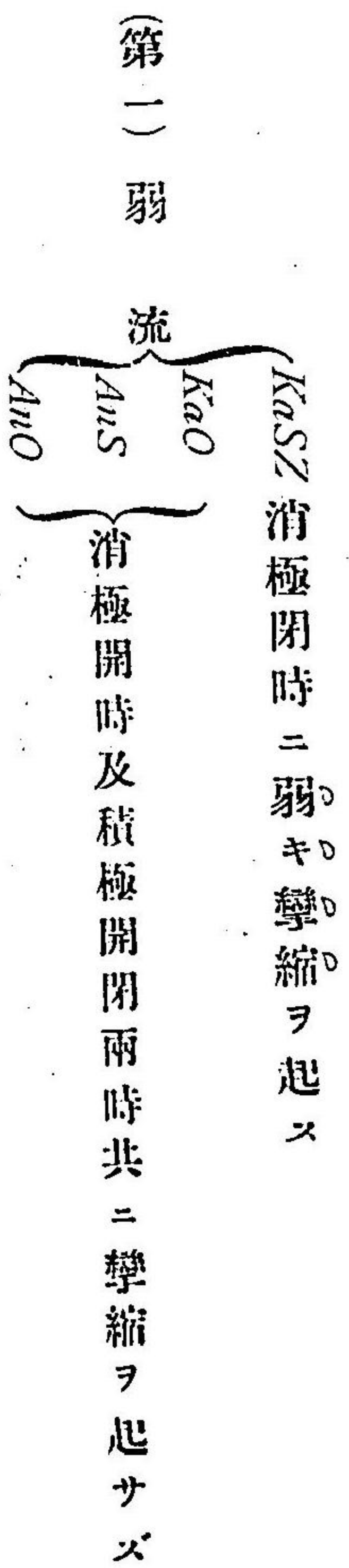
平流電氣検査ニ於ケル一般法則及記號ノ解説

尋常ノ攣縮定則

平流電氣検査ニ於ケル一般法則及記號ノ解説 此検査ヲ行フニハ不偏導子ヲ胸骨下ニ貼シ検査導子(正規導子)ヲ神經若クハ筋上ニ貼ス斯テ電流變向子ニ由リテ検査導子ヲ消極(Ka)ト爲ヌ即チ消極閉鎖(KaS)ヲ行フ是ニ由テ攣縮(Σ)ヲ起スキハ即チ消極閉時攣縮(KaSZ)ヲ得ルナリ然ル後電流ヲ開放スルキハ即チ消極開放(KaO)ヲ行フキハ時トシテ消極開時攣縮(KaOZ)ヲ得可シ次デ之ニ反シ検査導子ヲ積極(A)ト爲シ之ヲ閉鎖スルキハ(AS)時トシテ積極閉時攣縮(ASZ)ヲ得可ク又時トシテ積極開時攣縮(AOZ)ヲ得可シ 又電流甚強キキハ消極閉時ニ當リ電流閉合スルキハ強直(Te)ヲ來ヌ(KaSTe)

平流電氣ノ刺戟ニ因ル尋常ノ攣縮定則次ノ如シ

(甲) 神經



生體ニ於ケル電氣の検査法及其生理學的成績

(第二) 稍強流

KaSZ 消極閉時ニ強キ攣縮ヲ起ス
AoZ 消極開時ニ攣縮ヲ起サズ
AuSZ } 積極開閉兩時共ニ殆ド同強ノ攣縮ヲ起ス
AmOZ }

(第三) 甚強流

KaSTe 消極閉時ニ強直性攣縮ヲ起ス
KaOZ 消極開時ニ弱キ攣縮ヲ起セル必發ニ非ズ
AuSZ } 積極開閉兩時共ニ強キ攣縮ヲ起ス
AmSZ }

是等ノ攣縮ハ悉ク短ク迅速ナルト電光ノ如シ

(乙) 筋之ヲ刺戟スルニハ神經ヲ刺戟セザルカ若クハ可及的之ヲ刺戟

セザル部位ヲ撰ム可シ即チ運動點ヲ遠カル可シ

中 流 KaSZ

消極及積極閉時共ニ攣縮ヲ起ス

稍強流 AuSZ

筋ニ在テハ開時攣縮少ク屢全ク之ヲ缺如ス而ノ上記ノ閉時攣縮ハ短キモ神經ニ於ケルガ如ク電光ノ如ク峻速ナラザルト屢之有リトス

各部ノ検査法及其尋常所見

各部ノ検査法及其尋常所見

(注意) 各神經及筋ヲ検査スルニハ常ニ其方法ノ均一ナランヲ要ス而ノ神經ヲ検査スルニハ毎常エルブ氏ノ細小導子ヲ用キ(感傳電氣ニ於テス)或ハ必ズ常ニエルブ氏ノ正規導子ヲ用ユルカ或ハ必ズ常ニスチンチング氏ノ正規導子ヲ用ユ可シ(平流電氣ニ於テス)又殊ニ平流電氣検査ヲ行フニハ通常導子ヲバ毎ニ同強ノ壓ヲ以テ貼置ス可キモ助多キ者ニハ強壓ヲ加ヘ其少キ者ニハ壓ヲ減シ以テ其平衡ヲ保ツ可シ其他検査ヲ行フニハ常ニ左右同一ノ器管ヲ以テス可シ即チ右側ノ橈骨神經ヲ検査スレバ次テ左側ノ同神經ヲ檢シ又右側ノ正中神經ヲ檢スレバ次テ左側ノ同神經ヲ檢ス可シ又偏側ノ疾患ニ在テハ始ニ先チ健側ノ神經若クハ筋ヲ検査ス可シ

(一) 刺戟點

刺戟點

茲ニ先チ神經ノ刺戟點 Die Reizpunkte 及所謂筋ノ運動點 Die motorischen Punkte ヲ掲グ可シ是レヂュセンヌ、チーム、ゼン、エルブ等諸氏ノ専ラ研究セル所ニシテ次ニ掲グル圖(第五百六乃至第五百十一圖)ハエルブ氏ノ電氣療法書ヨリ描寫スル者ニ係ル但シ是等ノ諸點ハ皆神經ノ筋内ニ進入スル部位ヲ示ス者ニシテ元來「神經點」ト稱ス可キ者ナリ

各部ノ検査法及其尋常所見

ラズ

圖中最太キ點ハ興奮主部トス感傳電氣検査ニ在テハ意ヲ用キ神經ノ徑路ニ於テ其最興奮ス可キ部位詳言スレバ皮膚ニ最接近セル部位ヲ撰ム可シ第五百六圖ニ就テ注意ス可キ者ハ上中及下ノ顏面神經枝トス是顔面ニ於ケル三大點ナリ又膊神經叢ニ就テハエルブ氏點ニ注意ス可シ舌及軟口蓋ハ尖端ニ至ルマデ絶縁セル導子(例之單ニ絆創膏ヲ以テ糊包ス)ヲ以テ直接ニ刺戟スルヲ最良トス頭部ニハ強力ノ平流電氣ヲ通ズ可カラズ

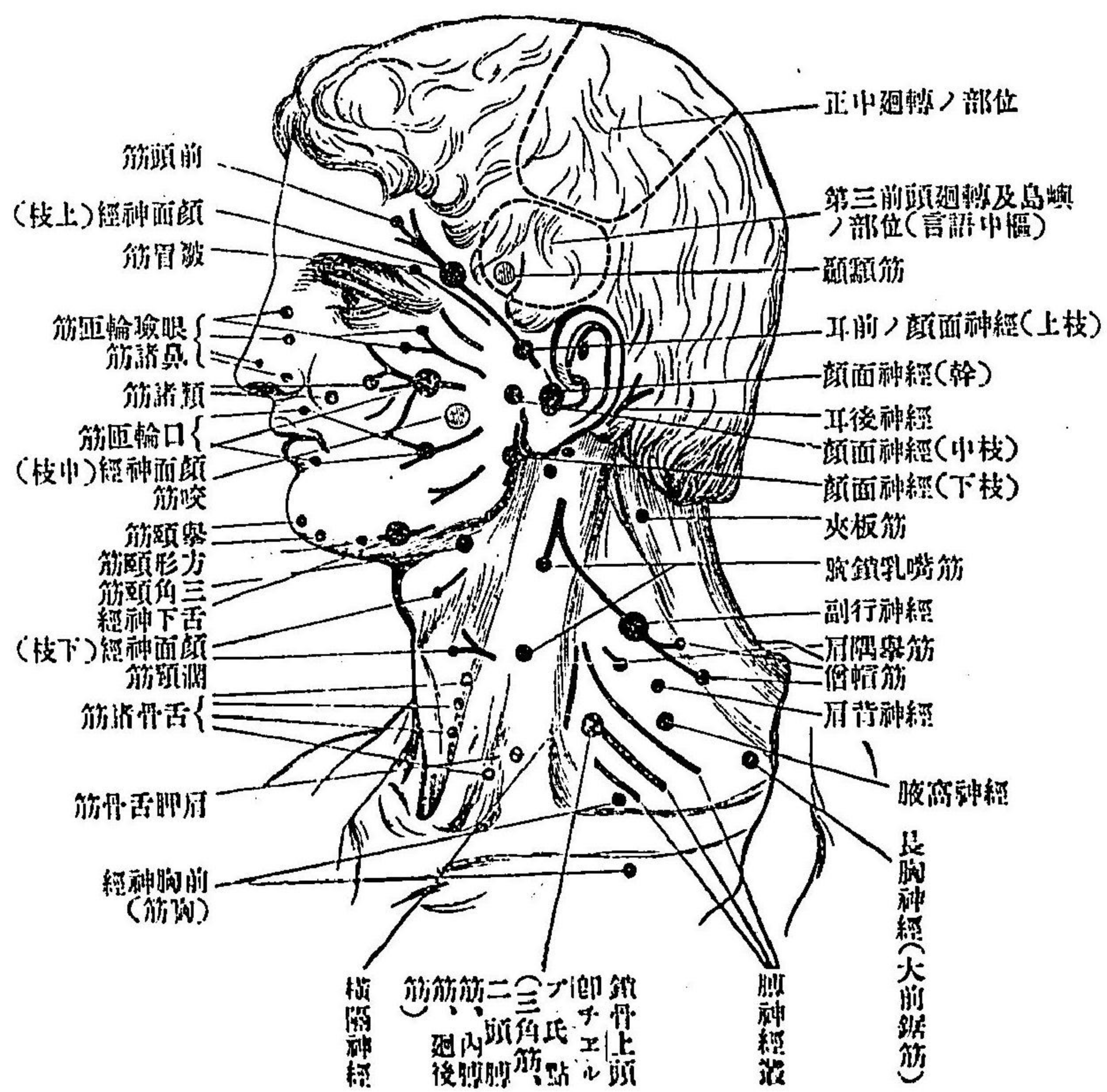
第五百七圖及第五百八圖ニ就テ注意ス可キハ上肢ヲ檢スルニハ之ヲ僅ニ屈曲シ且僅ニ前轉シ又筋肉ヲ弛緩セシムルニ是ナリ故ニ之ヲ支持スルヲ常トス

橈骨神經ハ深部ニ位ス殊ニ筋肉ノ發育強盛ナル者ニ於テ然リトス尺骨神經ハ上膊骨内髁溝ヨリ上方ニ向ヒ多クハ指モテ之ヲ接觸シ得ル者ナリ第五百九乃至第五百十一圖ニ就テ注意ス可キ點左ノ如シ

坐骨神經ハ導子ヲ深ク壓抵シ強流ヲ通ズルニ非ザレバ刺戟シ難シ

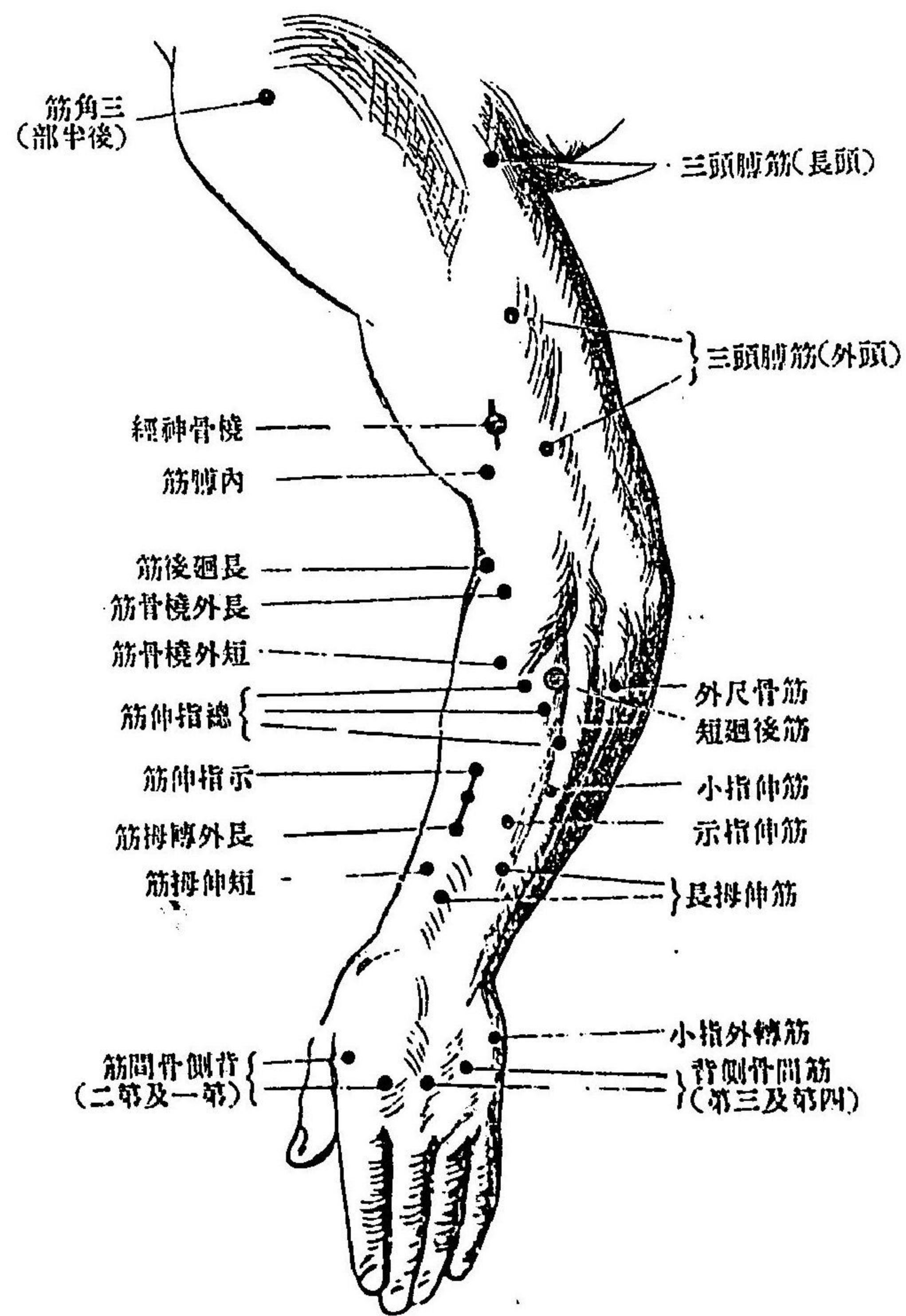
第五百六圖

神經刺戟點及筋運動點



各部ノ検査法及其尋常所見

圖八百五第
點動運ノ筋及點截刺ノ經神



圖七百五第
點動運ノ筋及點截刺ノ經神

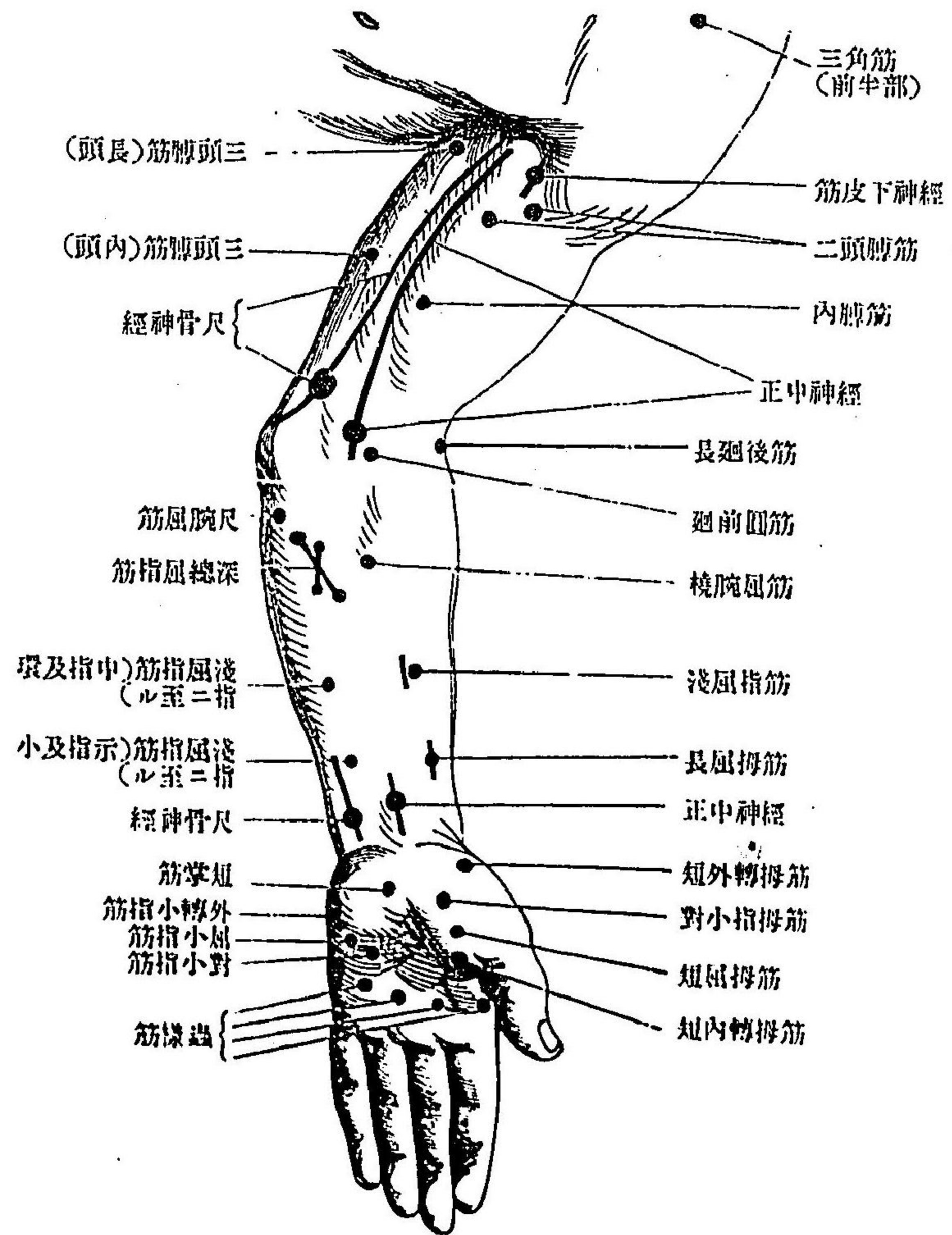


圖 九百五十五 筋及點刺之神經

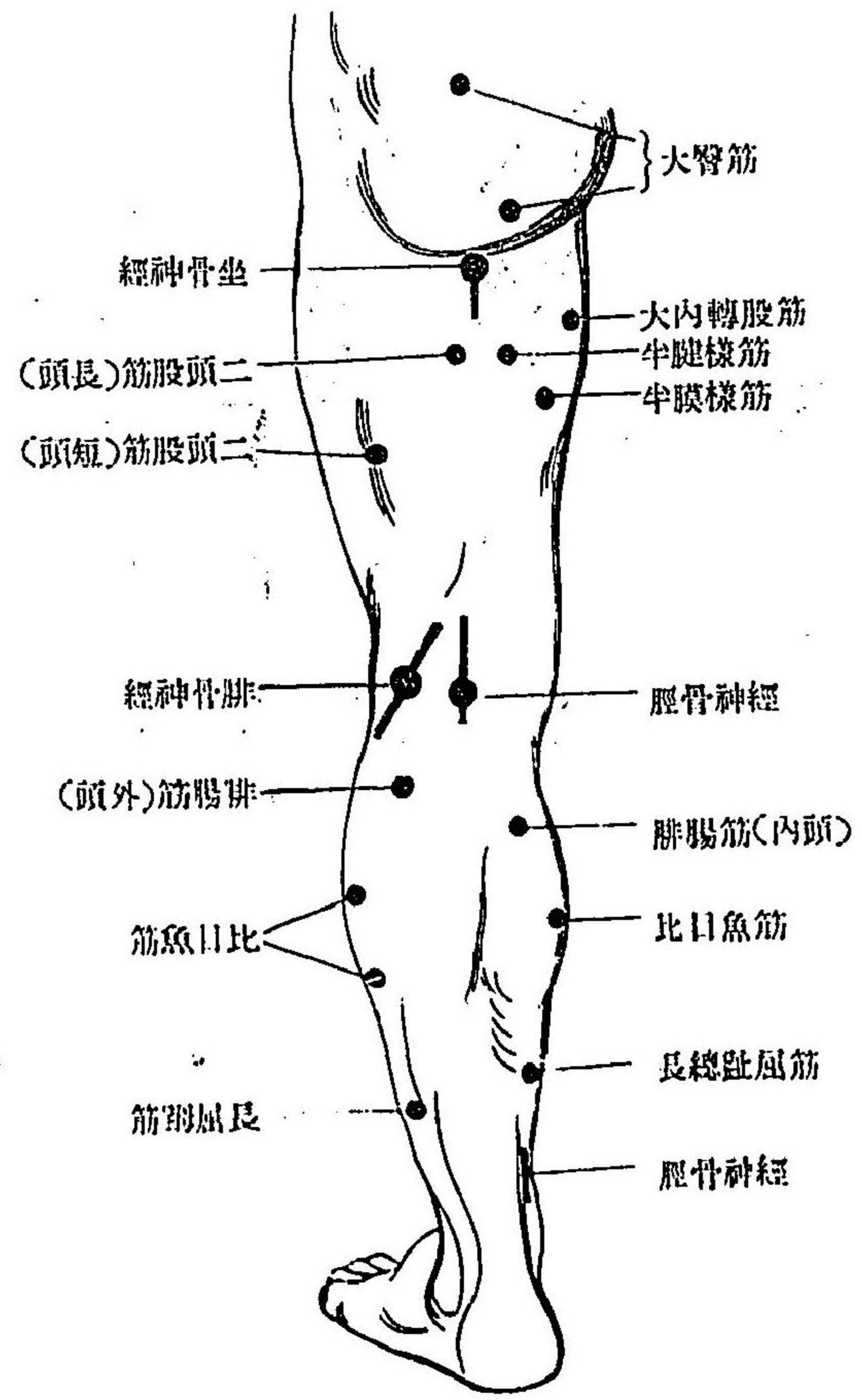
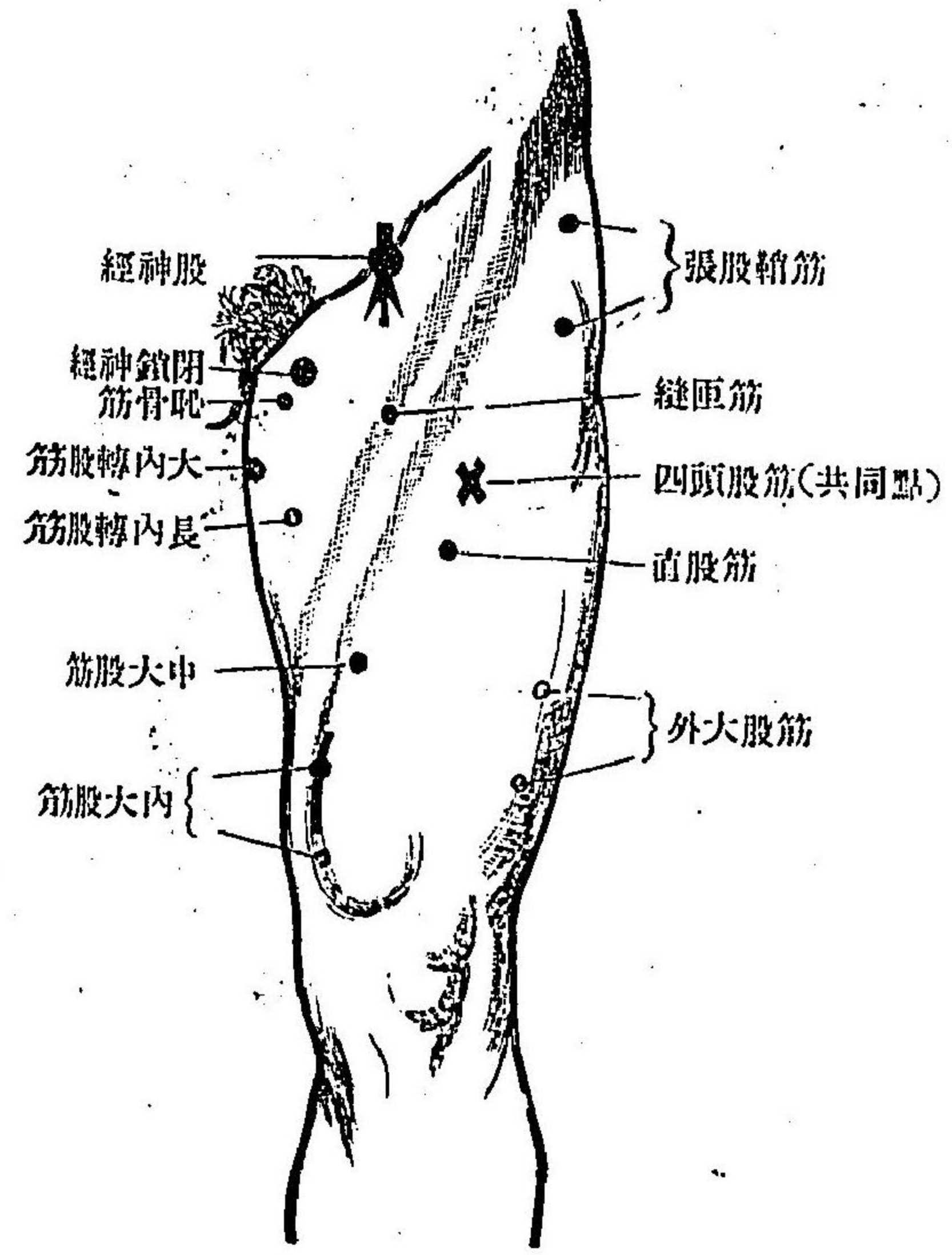
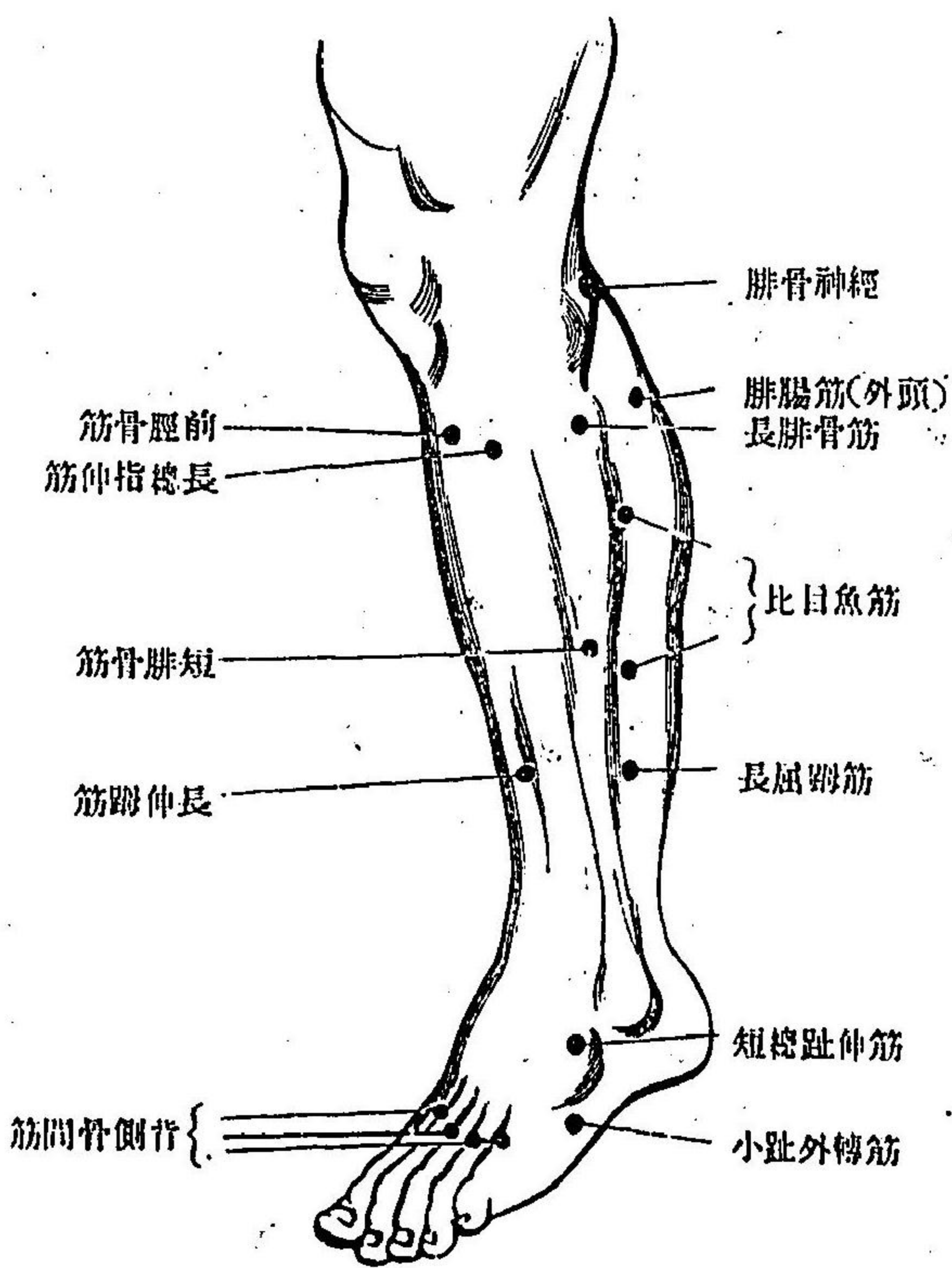


圖 九百五十六 筋及點刺之神經



第五百一十圖 神經刺戟點及筋運動點



腓骨神經ハ腓骨頭ヲ觸察シ之ヨリ内上方ニ向テ進ムルハ之ヲ見出スノ容易ナリ

軀幹ニ於テハ神經ハ表面ニ位セズメ介達的検査ニ適セザルヲ以テ主ラ直達ニ筋ヲ刺戟ス

(二) 検査法

吾人ハ茲ニ先ツ橈骨神經ニ就テ検査ノ法ヲ説ク可シ而シテ此検査ヲ行フニハ每常先ツ感傳電氣ヲ以テ始ムルヲ法トス

(甲) 感傳電氣検査

感傳電氣検査
 橈骨神經ノ検査 不偏導子ヲ胸骨ニ貼シ検査導子(エルブ氏細小導子)ヲ橈骨神經上ニ貼シテ之ヲ稍強ク壓著シ橈形装置ノ螺旋筒ヲ移動シテ其筋ニ最小攣縮ヲ起スニ至ル螺旋筒距離(C.M.)ヲ記入ス可シ次デ又該部ニ就キ平流電氣ヲ以テ傳導抵抗(L.M.)ヲ定ム可シ即チ能ク濕潤シタル正規導子ヲ貼用シ電池ノ一定數ノ電源ヲ嵌入シ平流電氣計ニ就テみりあむべし其ノ度ヲ檢シ之ヲ記取ス而シテ其度ヲ檢スル際ハ三十秒時間導子ヲ神經上ニ貼置スルヲ要ス

各部ノ検査法及其尋常所見

傳導抵抗ヲ検査スルニハエルブ氏ノ定メタル法ニ憑ルヲ肝要トス而ノ傳導抵抗並ニ電流強度ノ變動ハ検査ニ當リ甚ク僅少ナルヲ以テ(スチンチング氏)通常之ヲ省略シ得可シト雖亦二三ノ場合ニ於テハ可檢部ノ皮膚甚ク軟ナルカ成ハ非常ニ鞏固ナルヲ有ルヲ以テ同一ノ裝置ヲ用非螺旋筒距離同一ナルモ比較的強キ電流ヲ起シ或ハ比較的弱キ電流ヲ來スヲ有リ故ニ螺旋筒距離尙大ナルモ既ニ最小攣縮ヲ來シ或ハ其距離小ナルニ非ザレバ最小攣縮ヲ來サザルヲ有ルナリ是故ニ若シ此場合ニ於テ傳導抵抗ヲ検査セズノ皮膚ニ斯ノ如キ異變有ルヲ知ラザルハ以上ノ成績ヲ以テ單ニ神經ノ興奮性ニ増減有ルニ基因スル者ト推定スルヤ測ル可カラズ以テ毎ニ傳導抵抗ヲ檢定ス可キノ必要ナルヲ知ル可シ尙語ヲ換ヘテ之ヲ言ハバ電氣検査ヲ施スニハ每常電氣強度ノ全量ヲ知ラザル可カラズ然レモ感傳電流ニ在テハ直接ニ之ヲ檢知スルヲ能ハザルヲ以テ平流電氣ノ一定數(毎ニ同一)ノ電源ニ由テ生ジタル平流電氣全強度ヲ以テ感傳電流(一定ノ螺旋筒距離ニ於テ)ノ全強度ヲ判知スルヲ求メザル可カラズ

同時ニ數多ノ神經ヲ檢定スルハ先ツ各神經ニ就テ最小攣縮ヲ定メ次デ傳導抵抗ヲ定ム可シ尙又之ニ次デ筋ノ検査ヲ行フヲ得可シ

正規ノ如ク感傳電氣検査ヲ行ヒタル後直ニ平流電氣検査ヲ行フハ検査ニ然

橈骨神經ニ屬スル諸筋ノ検査

平流電氣検査
橈骨神經ノ検査

達ノ士ニ在テハ此經過中各神經ノ刺戟部ニ就テ傳導抵抗ノ關係ヲ判知シ之ニ由テ感傳電氣流ノ強度ヲ推測スルヲ得可シ此場合ニ於テハ平流電氣検査記録ノ上ニ電原數ト電流強度(アンペア)ヲ以テス(ト)ヲ記註セザル可カラズ

上文記述セルガ如ク平流電氣計ノ度ヲ見ルニ當リ導子ヲ三十秒時間貼置ス可キヲハ電氣診斷上ニ肝要ノ件ナリ是レ蓋シ導子ヲ貼置シタル直後ニハ始メ電流強度増加スルヲ有ルヲ以テ平等ヲ缺キ易キノ虞有レバナリ

(二) 橈骨神經ニ屬スル諸筋ノ検査 稍大ナル導子ヲ用キ各筋ノ筋腹ヲ刺戟シ時トノ亦最小攣縮ヲ検査ス但モ傳導抵抗ヲ定ムルノ必要無シ

往々介達的及直達的ニ施ス所ノ感傳電氣刺戟ニ當リ生ズル所ノ筋攣縮ノ性状ニ就テハ尙變性反應ニ就テ説ク所ヲ觀ル可シ

(乙) 平流電氣検査

(一) 橈骨神經ノ検査 不偏導子ヲ胸骨ニ検査導子ヲ(稍強壓ヲ加フ)橈骨神經上ニ貼置シ三ツビ消極閉鎖ヲ行フ反應無ケレバ電原數ヲ増加シ再ビ三ツビ消極閉鎖ヲ行フ之ヲ反覆施行シ最小攣縮ヲ起スニ至ル可シ是ニ於テ平流電氣計ヲ嵌入シ電流強度ノ全量ヲ測ル可シ次デ又同一ノ法ニ倣ヒ積極閉

各部ノ検査法及其尋常所見

機體神經ニ
筋ノ検査

時攣縮ノ最小限ヲ定ム可シ之ヲ施サ、ルコト有リ(通常之ヲ以テ足レリトス
レ、亦消極閉時強直(KASTA)ヲ定ムルコト有リ
反應ノ性狀ニ異變有ル者ハ變性反應ノ條下ニ述ブ可シ
(二)機體神經ニ隸屬スル諸筋ノ検査 検査ノ法ハ前記神經ニ於ケルト同一
ナルモ時宜ニ由リ不偏導子ヲ手腕關節、手背側ニ貼スルヲ良トスルコト有リ
(下條ニ詳ナリ)此検査ニハ每常最小限ノ消極閉時攣縮及積極時閉時攣縮ヲ
定ムルヲ必要トス又主トシ攣縮ノ性質(電擊狀ナリヤ緩慢ナリヤ)ヲ最モ精確
ニ檢知スルヲ肝要トス而シテ此際管ニ最小收縮ニ於テノミナラズ亦稍強流
及強流ヲ以テ検査スルヲ要ス

今上記検査ノ順序ヲ略記スレバ左ノ如シ

- (甲) 感傳電氣検査
- (一) 神經
- (二) 筋
- (乙) 平流電氣検査
- (一) 神經
- (二) 筋

電氣的反應
檢定ノ要點

興奮性ノ度

(三) 電氣的反應檢定ノ要點

概スルニ吾人ノ検査ス可キ者ハ左ノ二種トス即チ(一)神經及筋ノ興奮性ノ
度及(二)平流電氣刺激ニ於ケル筋ノ興奮性ノ性狀是ナリ
(一)興奮性ノ度 興奮性ノ最大減少即チ其消失ハ甚認知シ易シ而シテ此際幾何
ノ螺旋筒距離(ゾボア氏儀形裝置)若クハ幾何ノみりあひべーニ於テ興奮
性消失スルヤヲ附記セザル可カラズ』然レモ單ニ興奮性(殊ニ神經)ノ減少
シ或ハ增多セル者ニ在テハ其病的ナリヤ尋常ナリヤノ境界ヲ定ムルコト甚
難シ故ニ彼ノ如キ場合ニ於テハ諸種ノ法ニ由テ之ガ判定ヲ下サル可カ
ラズ其法即チ左ニ説述スルガ如シ
(イ)身體ノ兩側ヲ比較ス 是レ最モ確實ノ法ナレモ固ヨリ偏側ノ疾患ニ於テス
ルノミ、通常兩半身ノ差異ハ甚僅少ナル者ニノスチンチング氏ノ檢定スル
所ニ據レバ神經ニ對スル興奮性ノ最大差異(平流電氣ヲ以テス)ハ左ノ如ク
ナリト(五十八人ノ健體ニ就キ同氏ノ三平方仙迷大ノ正規導子ヲ以テ檢シ
タル者)

顔面神經ノ前額枝

〇七 分あ

各部ノ検査法及其尋常所見

副神經	〇・二	分
正中神經	〇・六	"
尺骨神經(鷲嘴突起ノ上部)	〇・六	"
橈骨神經	一・二	"
腓骨神經	〇・五	"
脛骨神經	一・二	"

感傳電氣興奮性ノ身體兩側ニ於ケル差(殊ニ顔面神經ノ前額枝、副神經、尺骨神經、腓骨神經ノ四者ニ就テ檢スル)多シハエルプ氏ニ從ヘバツボア氏檢形裝置ノ螺旋筒距離十密迷ヲ越ユルコト少シトスチンチング氏ニ據レバ檢査シ得可キ各神經ノ最大差ハ十五密迷ナリト云フ

是等ノ最大差ニ近キ差異ハ以テ病的ノ者ト看做サバ爾可カラズ殊ニ其差ノ著シキ者ニ在テハ確實ナリ然レモ茲ニ注意ヲ要ス可キコトハ兩側同名ノ神經ハ全ク同位置ニ在リヤ否是ナリ

(□)前額神經(顔面神經)、副神經、尺骨神經(肘)及腓骨神經ノ興奮性ハ各關係ニ注意ス可シ(エルプ氏ノ法)

是等ノ神經殊ニ尺骨神經及腓骨神經ハ健體ニ在テハ只些少ノ差ヲ示ス

次表ノ如シ(エルプ氏ニ憑ル)

華羅臺流

(一) 健全ノ男子(手工)三十八歲

前額神經	右	一・七	一・八度
	左	一・七	一・八度
副神經	右	一・六	一・六度
	左	一・六	一・六度
尺骨神經	右	一・五	一・五度
	左	一・五	一・五度
腓骨神經	右	一・四	一・四度
	左	一・四	一・四度

(二) 健全ノ男子(職工)二十四歲

前額神經	右	一・五	一・五度
	左	一・五	一・五度
副神經	右	一・四	一・四度
	左	一・四	一・四度
尺骨神經	右	一・三	一・三度
	左	一・三	一・三度
腓骨神經	右	一・二	一・二度
	左	一・二	一・二度

瓦爾華尼流

健全ノ男子數名三十八歲若クハ二十四歲

(十平方仙迷ノ正規導子ヲ用ユ)

各部ノ檢査法及其尋常所見

	消極閉時攣縮 (ASTC)ノ初發		消極閉時攣縮 (ASTC)ノ初發	
	右	左	右	左
前額神經	一〇・五	一〇・五	一〇・五	一〇・五
副神經	〇・五	〇・五	〇・五	〇・五
尺骨神經	〇・五	〇・五	〇・五	〇・五
腓骨神經	一・五	一・五	一・五	一・五

此表ヲ觀察スルルハ、詳ニ言ハ之ヨリ生ズル四神經ノ興奮性ノ度ノ關係ヲ觀ルルハ、兩側ノ差殊ニ尺骨神經或ハ腓骨神經ニ於ケル差ヲ知ルコト確實ナリ

(ハ)又スチンチング氏ハ五十八人ノ健體ニ就テ精確ノ法ニ據リ神經ノ興奮性ニ對スル定限界ヲ確定セリ(エーデルマン氏ノ平流電氣計ニテ三平方仙迷大ノ正規導子ヲ用ユ)然レ此限界ハ只スチンチング氏ノ正規導子ニ適スルノミ

- 顔面神經ノ前額枝……………〇・九—二・〇 小あ
- 同上ノ頰骨枝……………〇・八—二・〇 ”
- 同上ノ頸枝……………〇・一—〇・四 ”
- 副神經……………〇・一—〇・四 ”

- 正中神經……………〇・三—一・五 ”
- 尺骨神經(窩嘴突起ノ上部)……………〇・二—〇・九 ”
- 橈骨神經……………〇・九—一・七 ”
- 腓骨神經……………〇・二—〇・三 ”
- 脛骨神經……………〇・四—一・五 ”

筋ノ興奮性ノ度ハ(變性反應ヲ呈スル者ヲ除キ)神經興奮性ノ度ニ竝行スルヲ最多シ

瓦爾華尼性ノ筋興奮性ノ刺戟ニ對スル筋興奮性ノ性狀

(一)瓦爾華尼性刺戟ニ對スル筋興奮性ノ性狀 一般ニ神經ニ就テハ只消極閉時攣縮及消極閉時攣縮ヲ初發スルニ要スル電流強度ヲ検査スルニ過ギザレハ(是レ神經ニ就テハ攣縮定則ハ自ラ尋常ニ攣縮ノ性狀ハ殆ド皆電擊狀ナレバナリ)直達瓦爾華尼刺戟ニ在テハ二種ノ肝要ナル變常ヲ呈ス即チ攣縮ノ性狀(電擊狀ナリヤ或ハ緩慢ナリヤ蠕蟲様ナリヤ波濤狀ナリヤ)及攣縮定則是ナリ就中消極閉時攣縮ト積極閉時攣縮トノ關係ヲ主要トス然レ前考ヲ以テ遙カニ肝要ノ件ナリトス

病的ニ於ケル瓦爾華尼的筋反應ニ二種有リ(一)變性反應 (Entwürgungsveraktion)

各部ノ検査法及其尋常所見

變性反應

(EaR) 及 (二) 筋強直性反應 (Myotonische Reaction) 是ナリ前者ハ專ラ變質萎縮性麻痺ニ來ル者ニ後者ハ唯トムセン氏病ニ於テ睹ル所ナリ

(甲) 變性反應

變性反應 Die Entartungsreaction ニ又完全及不全ノ二種有リ

(イ) 完全變性反應 (Die complete EaR)

電氣的検査ノ成績次ノ如シ

華羅臺電流

神經 興奮性消失ス

筋 同上

瓦爾華尼電流

神經 興奮性消失ス

筋 緩慢強直性蠕蟲様ノ收縮

興奮性ノ度ハ大概尋常ナルカ或ハ増進シ或ハ減少ス而シテ積極閉時攣縮ハ消極閉時攣縮ニ比スレバ既ニ稍弱キ電流強度ニ於テ發シ兩者ノ共ニ發スル電流強度ニ在テハ積極

閉時攣縮ハ消極閉時攣縮ヨリモ大ナリ即チ

AnSZ > KaSZ.

(ろ) 不全變性反應 (Die partielle EaR)

華羅臺電流

神經 興奮性減少ス

筋 同上

瓦爾華尼電流

神經 興奮性減少ス

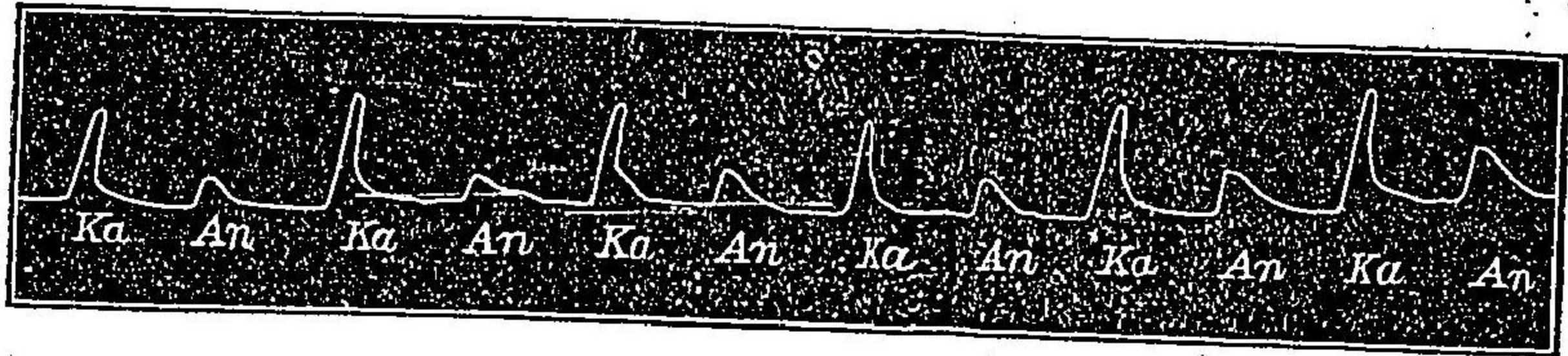
筋 變性反應ハ上記ノ如シ

尋常ノ筋收縮及變性反應ヲ一目瞭然タラシメンガ爲カスト氏ニ從ヒ二種ノ波線ヲ示ス(第百五十二及第百五十三圖)

變性反應ノ經過

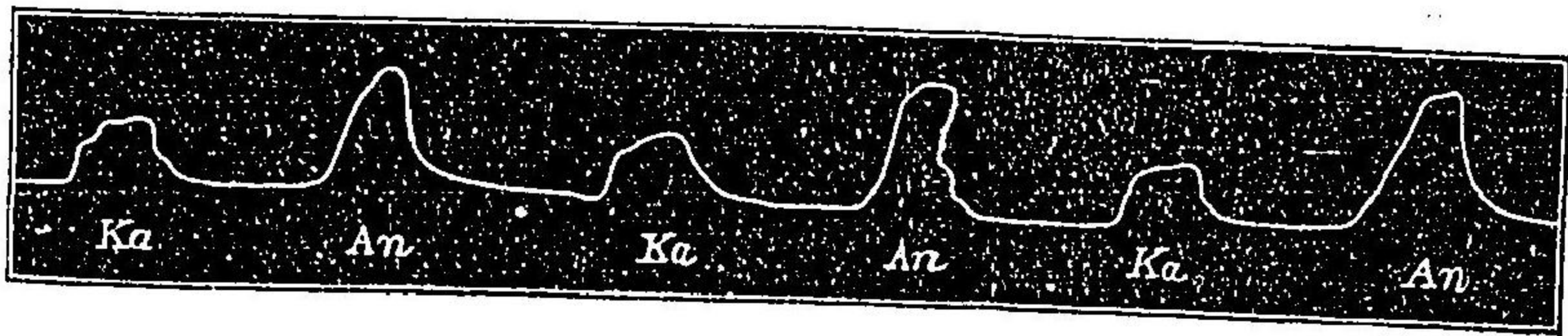
變性反應ノ經過 運動神經及筋ハ脊髓前角神經節ニ特有ノ榮養ヲ受クルモ若シ一朝其路ヲ斷絶セラル、キハ神經及筋ニ一定ノ變化ヲ來シ此變化ニ特有ノ徵候トシテ所謂變性反應ヲ呈ス而シテ此變化ハ則チ神經及筋ノ變性ニシテ又此變性ハ神經枝幹ノ一部俄然全ク斷絶セラル、キハ電氣的検査ニ由テ

圖 二 十 百 五 第
戰刺ノ筋諸ルス屬ニ領經神骨册
女處ノ全健
(氏トスカ)



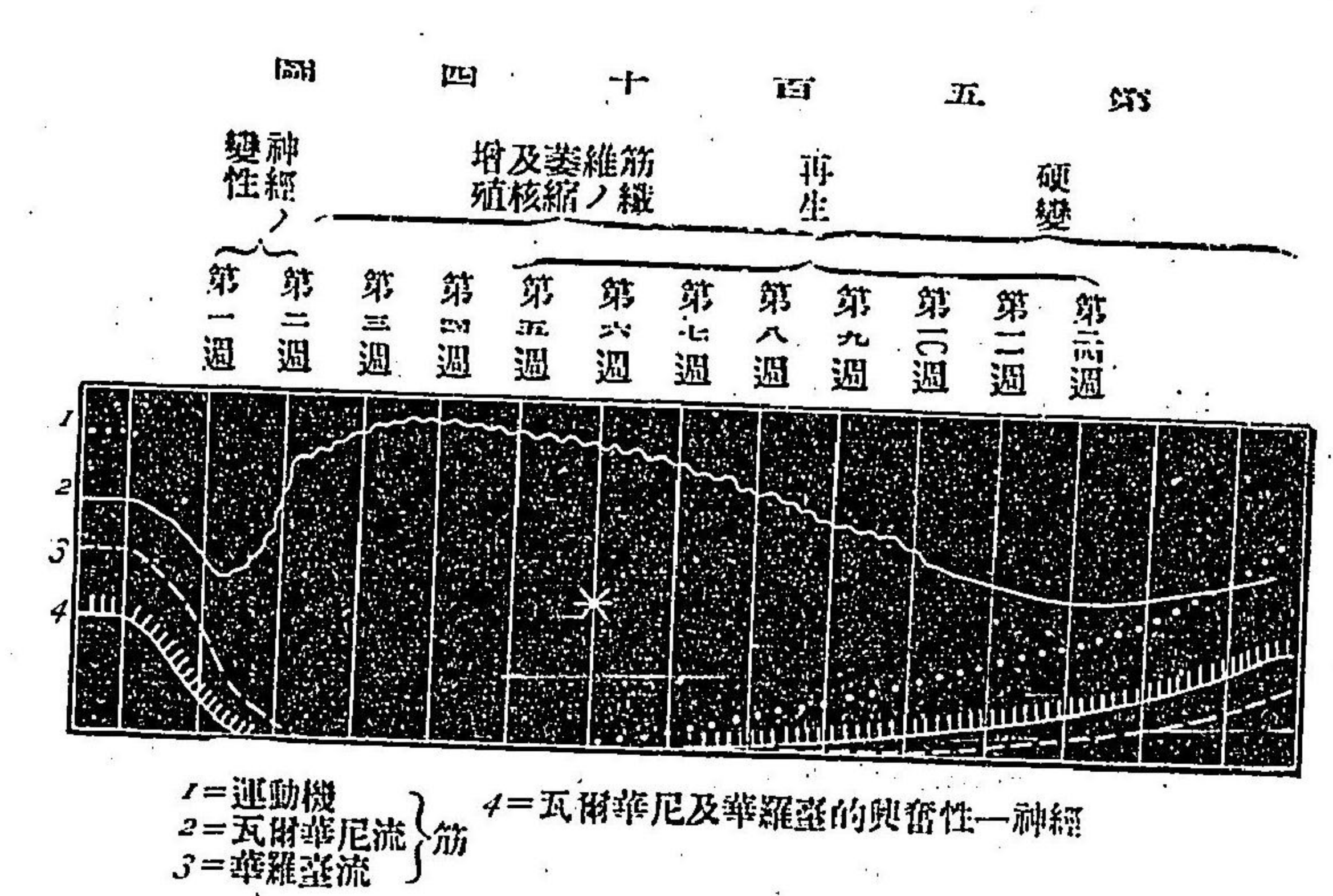
三十三電源
(Ka)ノ消極
閉時變縮
(An)ノ積極
閉時變縮

圖 三 十 百 五 第
(テ就ニ筋ノ上同)炎角前髓脊性慢
(氏トスカ)

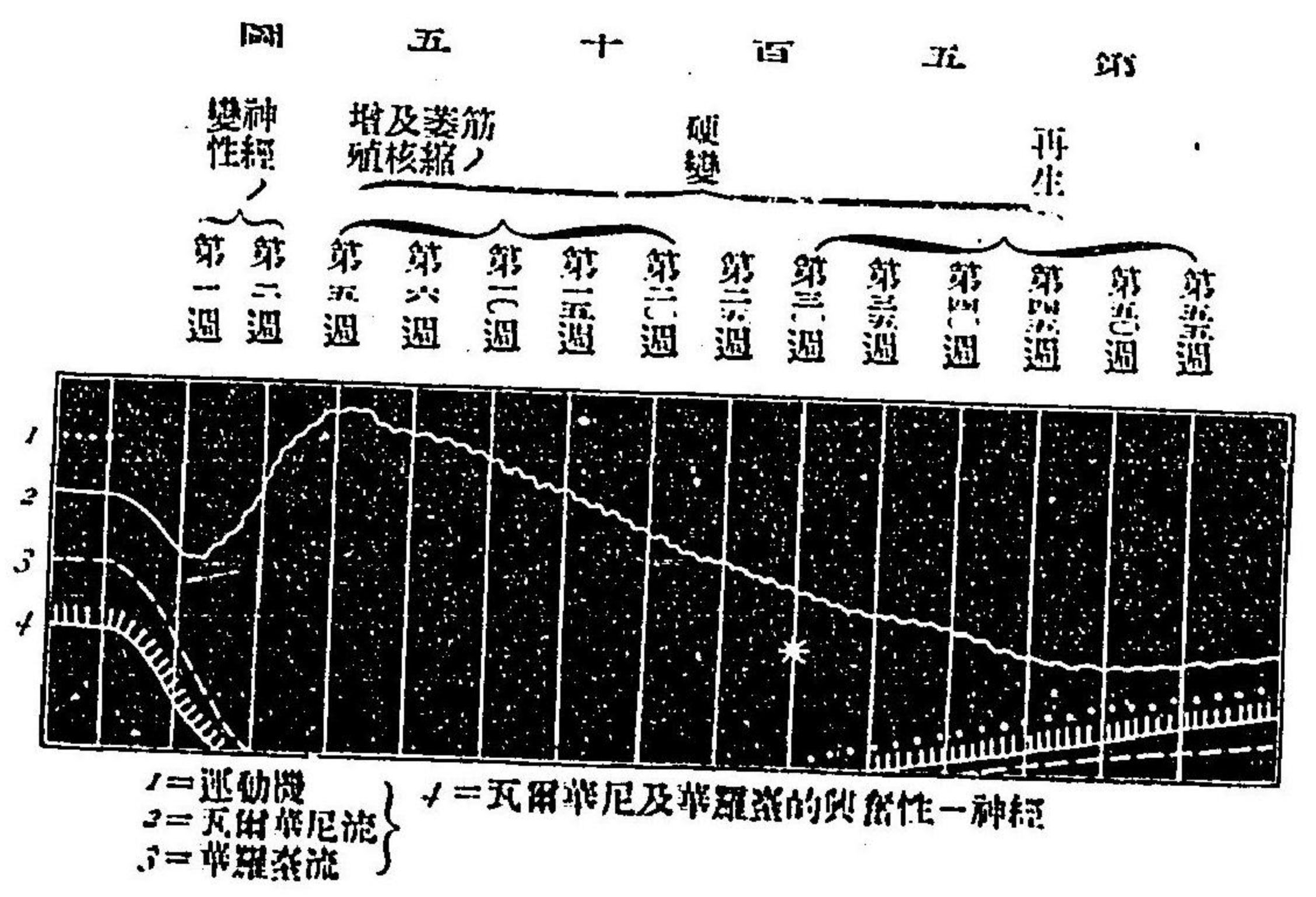


四十電源單
縮ハ緩慢ニ
ノ積極閉時
變縮ハ消極
閉時變縮ハ
リモ強シ
AnSZ > KaSZ

最モ明瞭ニ之ヲ識得ス可シ蓋スノ如キ斷絶ヲ來スルハ末梢性神經及筋ハ全ク前角ト分離セラル、者ニノ管ニ麻痺ヲ來スノミナラズ亦分離セラレタル部分ノ變性ヲ來スヲ以テ必ズヤ變性反應ヲ呈ス然レモ此分離ハ一様ノ經過ヲ取ル者ナリ即チ其斷絶永久ニノ恢復セザルハ神經及筋纖維全然消滅ニ歸ス可シト雖若シ其斷絶ニ一定時ヲ經テ恢復シ再ビ連續スルハ將ニ消滅セントスル所ノ神經及筋組織ハ再生ノ機能ヲ得テ其故態ニ復ス是故ニ神經及筋組織ニ變性ヲ起シ全ク消滅ニ至ルヤ否ニ由リ其時期ニ由リ亦該組織ニ變性反應ヲ呈スルノ狀況ヲ異ニス故ニ此反應ノ狀態及經過ニ由テ神經及筋ニ於ケル狀態ノ如何ヲ推定スルコトヲ得可シ
エルブ氏ハ此點ニ關シ慢麻質斯性顔面神經麻痺ニ就テ大ニ研究セラレタリ即チ左ニ掲グル圖表ハ同氏ガ本病ニ就テ其經過ヲ示シタル者ナリ
左ニ掲グル者ハ神經及筋ノ運動機並ニ華羅蓋的及瓦爾華尼的興奮性ニ係ル完全變性反應ノ模型ニシテ圖上ニ記セル者ハ其時期ニ發シタル組織的變化ナリ一瓦爾華尼的興奮性ヲ示セル線ハ興奮ノ性狀ニ變化(變縮ノ緩慢及積極閉時變縮ノ超過)ヲ呈スル間ハ波線ヲ以テ示セリ



1=運動機
2=瓦爾華尼流
3=華羅蓋流
4=瓦爾華尼及華羅蓋的興奮性—神經



1=運動機
2=瓦爾華尼流
3=華羅蓋流
4=瓦爾華尼及華羅蓋的興奮性—神經

(二)運動機ノ恢復比較の早キ麻痺(第百四十四圖)

運動機ハ尙完全變性反應ヲ存スル際既ニ其痕跡ヲ顯ス者ニノ(圖中*)之ヨリ一週日ヲ經レバ神經ノ華羅蓋的及瓦爾華尼的興奮性ヲ顯出シ以テ不全變性反應ヲ呈ス次デ三週日ヲ經ルルハ攣縮ノ緩慢始テ消散スルモ神經ノ興奮性及運動機ハ尙暫ク減退ス

(三)運動機恢復後ル、麻痺(第百四十五圖)

本圖ニ示セル者ノ時期的關係ハ殆ド第百四十四圖ニ示セル者ニ類似シ本症ニ於テモ暫ク不全變性反應ヲ呈シ諸他ノ恢復症狀ヲ來ス一週シ

(四)只不全變性反應ヲ起ス麻痺(第百四十六圖)

運動機神經ノ興奮性及華羅蓋的筋興奮性ハ全ク廢絶シ瓦爾華尼的筋興奮性ハ沈降シテ累月ノ後全ク消滅シ攣縮ハ之ヲ存スル間ハ緩慢ナリ

(五)只不全變性反應ヲ起ス麻痺(第百四十七圖)

神經ノ華羅蓋的及瓦爾華尼的興奮性並ニ筋ノ華羅蓋的興奮性ハ僅ニ減退スルノミニノ運動機ハ早ク恢復シテ速カニ全治ニ就ク者ナリ

此他變性反應ニ尙左ノ數種有リ

(1)介達のノ緩慢ナル攣縮ヲ有スル不全變性反應 Parallele ExR mit induceter Zuckungs

圖 六 十 百 五 第

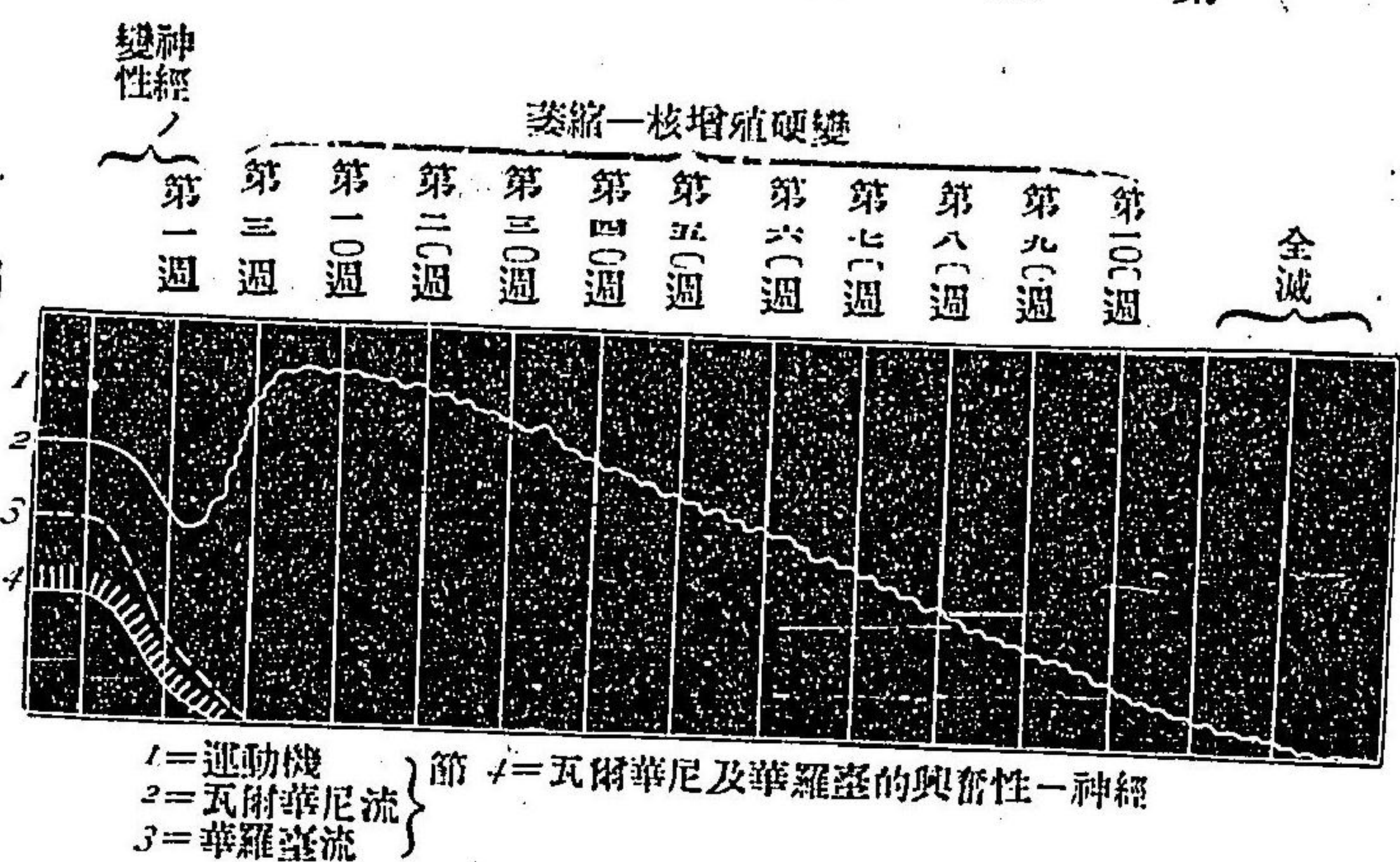
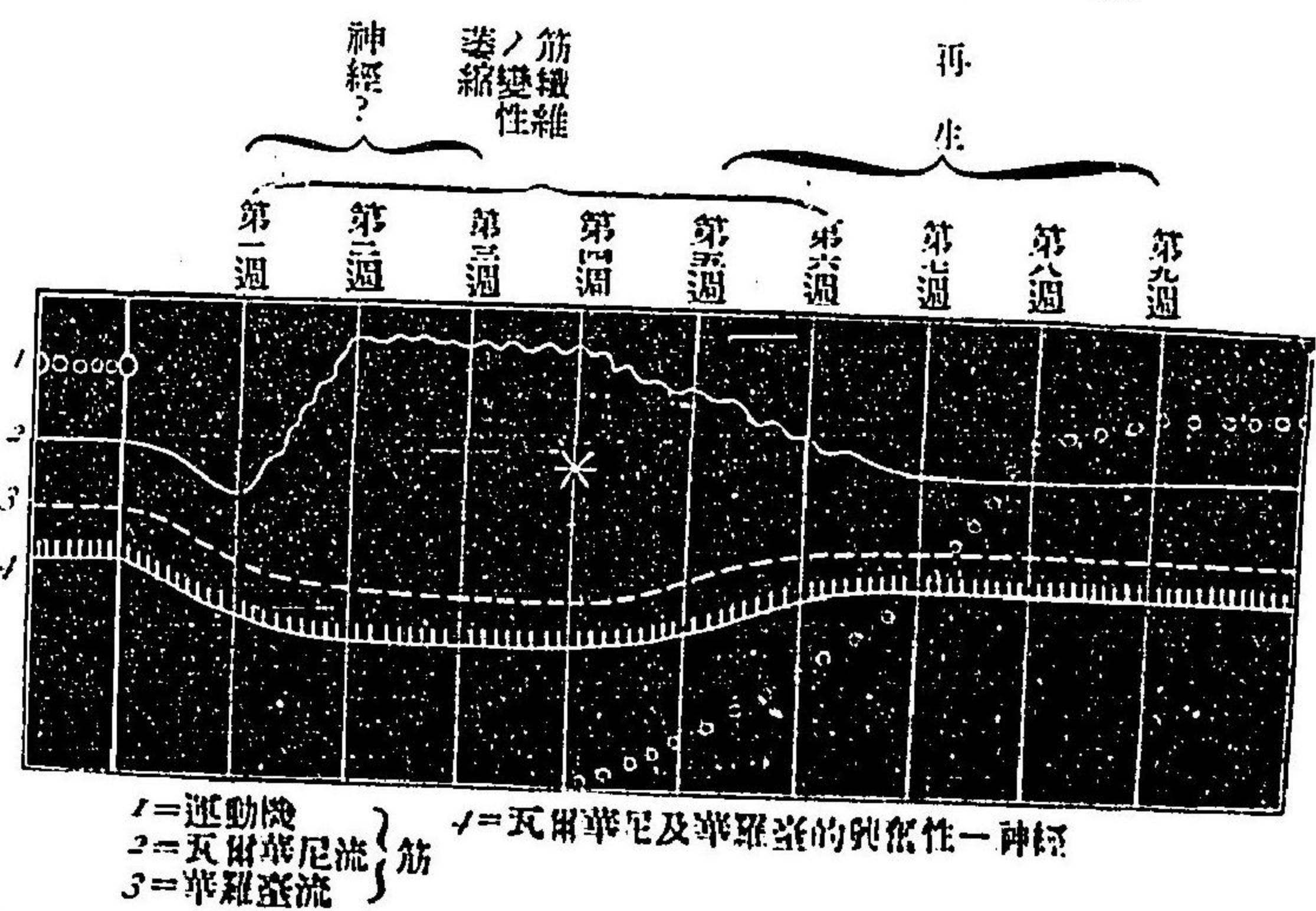


圖 七 十 百 五 第



Shiglatz 是營ニ直達的ノ平流電氣的筋刺激ニ由テ生ズル攣縮ノミナラズ諸般ノ攣縮ハ亦緩慢ナル性狀ヲ有ス即平流電氣的及感傳電氣的神經刺激及感傳電氣的筋刺激ニ於ケルガ如キ是ナリ(エルブ氏)

(口)神經ヨリスル積極閉時攣縮ハ緩慢ナルモ消極閉時攣縮ハ否ラザルコト有リ
(レ)ウエンフェルド氏或ハ筋ノ感傳電氣ニ對スル反應緩慢ナルモ神經ハ反應セザルコト有リ(スチンチング氏)或ハ又筋ノ感傳電氣ニ對スル反應緩慢ナルモ神經ハ速カナルコト有リ

(八)混合性電氣的反應 *Die gemischte elektrische Reaction* トハ筋ノ一部ハ變性スルモ一部ハ尋常ニシテ從テ神經ニ於テモ亦一部ノ纖維ハ健全ナルモ一部ハ變性セル者ニ來ル所ノ電氣的反應ヲ謂フ而シテ如キ者ニ在テハ神經ノ感傳電氣的及平流電氣的興奮性並ニ筋ノ感傳電氣的興奮性ハ減却スルヲ見ルモ決シテ消滅スルコト無シ然レモ筋ノ直達的平流電氣反應ハ之ヲ知ルコト頗ル難キ者ニシテ攣縮ハ全ク短キニ非ズ又全ク緩慢ナルニ非ズ積極閉時攣縮ハ消極閉時攣縮ト異ナラズ是蓋尋常ノ攣縮ト變性反應ト相混ズルニ因ルナリ更ニ困難ナルハ殆ド常ニ興奮性ノ減却セル時ニ在リ故ニ斯ノ如キ場合

各部ノ検査法及其尋常所見

筋強直性反應

ニ於テハ數回ノ検査ヲ經ルニ非ザレバ之ヲ識ルコト能ハザルコト多シ

(乙) 筋強直性反應

筋強直性反應 *Myotonic Reaction* (エルブ氏) ハトムセン氏病一名先天性筋強直症ニ特異ノ徵ト爲ス而シテ本病ニ於テハ筋ハ頗強實(肥大)ニ感傳電氣ニ對スル興奮性著シク充進シ攣縮久シク持續ス又之ニ平流電氣ヲ通ズルモ興奮性増進スレモ只閉時攣縮ヲ起スノミニン收縮ハ極テ緩慢ニテ持續シ一種ノ溝及隆起ヲ形成ス

變性反應ノ所謂器械的變性反應ニ對スル關係ハ肝要ナリ尙後章ニ之ヲ説ク可シ

電氣的検査ノ診斷上價値

變性反應ヲ來ス可キ疾患次ノ如シ

(一) 脊髓灰白前柱神經節細胞(若クハ延髓球ノ運動神經)ノ疾患ニ因スル諸般ノ麻痺

電氣的検査ノ診斷上價値

(二) 前根及末梢神經ノ疾患ニ因スル諸般ノ麻痺即チ中樞ヨリ末梢ニ至ル徑路斷絶セラル、ヲ以テ末梢部ノ神經及筋ハ前角神經節ト分離セラレ榮養ヲ失フ

故ニ變性反應ハ筋ノ變質性萎縮ト密接ノ關係ヲ有ス

是故ニ變性反應ハ急性及慢性脊髓前角炎脊髓性進行性筋萎縮筋萎縮性側索硬化出血或ハ腫瘍等ニ因スル灰白前柱一部ノ損傷延髓球麻痺其他末梢神經ノ外襲性損傷諸般ノ神經炎(復麻質斯性麻痺原發性神經炎其他中毒性麻痺及傳染病後ノ同症等ニ觀ル可シ)

變性反應ノ存在ハ直ニ腦性麻痺脊髓内ニ於ケル錐狀體徑路ノ損傷ニ因スル麻痺筋發性麻痺及官能性(歇斯的里性)麻痺ニ非ザルコトヲ反證ス可シ

不全變性反應ハ診斷上完全變性反應ト同一ノ價値ヲ有スル者ニシテ該反應ハ

(一) 輕症ノ疾患例之ニ輕症ノ復麻質斯性顔面神經麻痺極度ノ壓迫麻痺ニ來リ又

(二) 只筋ノ一部ヲ侵ス所ノ萎縮性麻痺ニ來ル(殊ニ脊髓性進行性筋萎縮筋萎縮性側索硬化多發性神經炎ニ屢之ヲ見ル)故ニ又混合性反應ヲ呈スル者ナリ

變性反應ノ缺如ハ疑似症ニ於テハ斷然脊髓前角或ハ末梢神經ノ疾患ニ非

ザルノ證ト爲ス可カラズ殊ニ散發性ノ疾患ニ於テ然リトス(混合性反應ヲ看ヨ)此他變性反應ハ極テ輕症ノ末梢性麻痺ニハ缺如ス(即チ三四週間ニシテ治スル所ノ甚ク輕度ノ橈骨神經ノ壓迫麻痺ニ於ケルガ如シ)麻痺セザル筋ニ來ル所ノ變性反應ハ間、鉛毒麻痺及外傷性麻痺ニ見タル所ナリ

變性反應ヲ呈セザル興奮性ノ減少(殊ニ神經)ハ主トシテ筋發性進行性筋萎縮關節疾患ニ因スル筋萎縮及脊髓内ニ於ケル錐狀體徑路ノ疾患殊ニ其新發重症ノ者ニ來リ又多發性神經炎、砒素中毒、亞爾個保兒性麻痺、延髓麻痺、筋萎縮性側索硬化症等ニ來ル者ニシテ後者ハ混合性反應ニ屬ス興奮性充進シ消極閉時攣縮及消極閉時痙攣早ク發シ又積極閉時痙攣ヲ來スハ帝答尼ニ最モ肝要ノ徵ナリ又其輕度ノ充進ハ新發ノ腦性麻痺、脊髓性麻痺、神經炎性麻痺、脊髓性進行性筋萎縮等ニ來ル筋強直性反應ニ就テハ上文ヲ觀ル可シ

第五 筋及神經ノ器械的興奮性

筋及神經ノ器械的興奮性

器械的變性反應

筋特發性收縮

手掌ノ尺骨側若クハ打診槌ヲ以テ筋ヲ打敲スルハ短キ收縮ヲ起スコト恰モ弱電流ニ於ケル消極閉時攣縮ヲ見ルガ如シ之ヲ器械的興奮性 *Mechanische Erregbarkeit* ト名ク而シテ此收縮ハ或ハ充進シ或ハ著シク緩徐トナル者ニシテ後者ハ電氣的變性反應ヲ呈スル所ノ筋ニ之ヲ見ル可シ之ヲ器械的變性反應 *Mechanische Entartungsreaction* ト稱ス此反應ノ顯著ナル者ハ電氣的變性反應ト同一視ス可シト雖電氣的變性反應ヲ證明シ得キモ器械的變性反應ハ屢、全ク缺如シ或ハ不明ナルコト有リ器械的反應充進シ筋收縮強ク且持續スル者三十秒時間ニ至ルハトムセン氏病ニ特有ノ徵トス器械的興奮性ノ検査ハ熟練家ニ在テハ價值無キ者ニ非ザレモ未ダ以テ電氣的検査ヲ補フニ足ラズ試ニ筋ヲ打撃スルニ其局部ニ横隆起ヲ生ズルコト有リ之ヲ筋特發性收縮 *Konvulsive Contraction* ト稱ス然レモ未ダ之ヲ診斷上ニ應用スルコト無シ神經ノ器械的興奮性(電氣的刺戟點ニ於テ神經幹ヲ打撃ス)ハ各人甚ク之ヲ異ニスル者ニシテ健體ニ在テハ器械的ノ神經刺戟ニ由テ攣縮ヲ起スコト無シト

筋及神經ノ器械的興奮性

雖帝答尼ニ於テハ(殊ニ顔面神經ノ諸枝ニ於テ)神經ノ器械的興奮性著シク
亢進ス(筋ハ否ラズ)

神經及筋ニ於ケル一種特有ノ興奮性過度ハ重症歇斯的里患者ノ麻睡期ニ
來ル者ニシテシャルコー氏ハ之ヲ本症ニ特有ノ徵ト爲セリ即チ神經或ハ筋ヲ壓
迫スルニ緊縮ヲ來ス

奇性收縮

此他足部ヲ他働的ニ背面ニ向テ屈曲スルニ當リ前脛骨筋ニ二三秒時ヨリ
數分時ニ渉ル強直性攣縮ヲ來シ腿ハ隆起シ足ヲ放ツモ尙屈曲ノ位置ニ留
マルヲ有リ是レ屢腿反射機ノ亢進セル際ニ來ル者ニシテ之ヲ奇性收縮Paradox
Contractionト名ク

第六 共働機

共働機

凡運動ヲ行フニハ一定諸筋ノ多少複雑セル運営ヲ要スル者ナリ例之今手
ヲ以テ一物ヲ握ラントスルニハ管ニ前膊及手指ノ諸筋ノ運動ヲ要スルノ
ミナラズ又其運動ニ先チ膊ヲ支持スルガ爲ニ肩胛ヲ固定セザル可カラズ
又歩行スルニ際シテモ一定諸筋ノ同時ニ働作スルヲ要スル者ニシテ外觀的

共働運動

運動失調

極テ單一ナルガ如キ運動ヲ行フニ當テモ亦其運動ヲ調整スルニ常ニ數多
ノ筋作用ヲ要ス故ニ一定ノ運動ヲ營ムニ當テハ管ニ之ニ要スル所ノ筋ノ
ミ意思ニ隨ハザル可カラザルノミナラズ其運動ヲ調整補翼スル所ノ諸筋
(對働筋)モ亦各之ニ與リテ働作シ其作用ニ増減有ルヲ無ク各筋皆一定度ノ
收縮弛緩ヲ爲シ其時機ヲ過マルヲ無キヲ要ス共働機 Die Coordination
即チ是ナリ而シテ是等ノ諸項悉ク完備シ齊一ノ運動ヲ營爲スルトハ之ヲ共働
運動 Coordinate Bewegungト稱シ之ニ反シテ此運動作用ニ障礙有ルトハ之ヲ
共働機障礙又運動失調 Ataxieト稱ス然レ此際患部ノ力ハ全然保存セラル
ルヲ得可キナリ

手ノ共働運動ヲ檢スルニハ患者ヲノ眼ヲ閉ジ或ハ開キテ一定ノ複雑運動
ヲ行ハシム可シ(例之其眼前ノ物體ヲ把取セシメ或ハ衣鈕ヲ開放セシメ紐
針ヲ取ラシメ指ヲ以テ空中ニ文字ヲ描記セシメ或ハ自己ノ鼻口ヲ指示セ
シムル等)下肢ノ運動ヲ檢スルニハ患者ヲノ(開眼或ハ閉眼セシム)仰臥セシ
メ一脚ヲ舉ゲテ他脚上ニ加ヘシメ或ハ一脚ヲ以テ空中ニ圈線ヲ畫カシメ
又一脚ノ踵端ヲ以テ他脚ノ膝上ニ觸レシム可シ此他患者ヲノ開眼或ハ閉

共働機

眼シテ起立セシメ廻轉セシメ或ハ直行セシメ又退行セシム可シ」健康者ニ在テハ是等ノ運動ハ確實ニ且多少巧ニ行フ者ナレ共働機ニ障礙有ルハ其運動妨害セラレテ確實ナラズ或ハ單ニ拙劣ト爲リ或ハ歩行ニ際シ正道ヲ外レ且身體動搖シテ之ヲ制止スルノ機能缺亡ス故ニ斯ノ如キ患者ニ在テハ起立セシメテ閉眼セシムルキハ身體頻ニ動搖シ動スレバ顛倒セントス(所謂ロムベルグ氏症候(本編四三四頁參照))

共働機障礙ハ(一)腦疾患就中其皮質ノ疾患(麻痺ヲ兼テ一肢或ハ半身ニ限局ス)其他小腦、小腦脚、小腦橋、四疊體其他又時トシテ通常ノ半身不隨ニ來リ又(二)主トシテ脊髄癆ニ來ル者ニシテ共働機障礙ハ本症ニ最モ主要ノ徵候ナリ(即チ患者歩行踏々跟々トシテ足ヲ舉ゲテ弓形ヲ畫シ恰モ足ヲ前方ニ投グルガ如シ)失調性歩行)又時トシテ脊髄ノ橫徑疾患ニ之ヲ見ルル有リ(三)蔓延性ノ末梢性神經炎ニ於テモ輕度ノ共働機障礙ヲ來セテ罕ナリ此他(四)該障礙ハ急性傳染病ノ後ニ來ル者ニシテ(官能)運動失調)罕ニハ甚々高度ナル有リ又患者久シク病牀ニ困臥スルキハ(殊ニ急性ノ疾患ニ於テス)輕快ニ臨ミ共働機障礙ノ痕跡ヲ見ルル罕ナラズ是レ蓋シ共働機一時(只其一部)減失スルニ

因ルナリ

筋ノ官能障礙ニ基ク所ノ言語障礙即チ發語失調及發語不能(吶吃) (Dysarthria) Anarthria)モ亦發語筋ノ共働運動障礙セララル、ニ因ル者トス

第七 痙攣

痙攣

痙攣性及
間代性痙攣

痙攣間代
性痙攣

痙攣 Der Krampfトハ患者ノ意思ニ出ルル無ク或ハ其意思ニ反シ病的ニ起ル筋ノ收縮ニシテ概メ之ヲ痙直性痙攣 Tonischer Krampf及間代性痙攣 Klontischer Krampfノ二種ニ區別ス前者ハ筋ノ收縮久シク(數分時乃至數日)間斷無ク持續スル者ニシテ患肢緊硬スレモ之ニ反シテ間代性痙攣ニ在テハ筋ノ短キ收縮及弛緩速ニ相交代シ患部ハ絶エズ運動シ其運動展、活潑ナル有リ然レモ該兩痙攣ハ常ニ判然タル差別ヲ有セザル者ニシテ間、其合併ヲ來スル有リ之ヲ痙直間代性痙攣 Tonisch-klontischer Krampfト稱ス

凡シ痙攣ハ振戦ノ一、二症ヲ除クノ外ハ神經系統就中多クハ腦皮質、錐狀體、徑路、脊髄前角或ハ末梢神經ヨリ(又筋ヨリ)解綻セラル、所ノ刺戟現象ニシテ病的刺戟ハ多クハ直達的ナルモ又一部ハ反射的ナルト必ズ之有リ或ハ亦

痙攣

痙攣ノ種類

震戰(震

同一種ノ痙攣ニシテ或ハ直達的刺戟ニ因リ或ハ反射的刺戟ニ因テ起サル、
一有リ例之、局所外傷性癱瘓及反射的癱瘓ノ如シ而シテ痙攣ハ或ハ絶エズ同種
ノ運動現象ヲ呈スル一有リ或ハ又諸多ノ運動現象ヲ混合スル一有リ蓋シテ痙
攣ハ一部ハ疾病ノ本體ヲ現スモ亦只或ハ疾病ノ一徵候ニ過ギザル者有リ殊
ニ發作性ニ來ル所ノ或ハ汎發性痙攣ニ在テハ發作時ニ於ケル意識ノ状態ハ
診斷上甚ク肝要ナリ又精神ノ状態如何ヲ觀察ス可シ是レ痙攣ハ精神病學ノ範
圍ニ屬スル者多ケレバナリ
左ニ諸種ノ痙攣ヲ掲グ可シ

震戰(震揚) Zittern, Tremor ハ輕度ノ間代性痙攣ニシテ筋收縮ノ一弛一張甚ク疾速

ニシテ多クハ調節ヲ有シ且平等ナル者ナリ之ヲ檢スルニハ或ハ肢節ヲ安靜
ノ位置ニ保タシメ或ハ之ヲ伸張セシメ或ハ酒盃ヲ把ラシメ或ハ文字ヲ書
セシム而シテ此震揚ハ亦生理的ニハ身體ノ勞働精神ノ興奮ニ來リ又全ク強
健ノ者ニ在テモ間々絶エズ之ヲ存スル者有リ』震戰ノ健常ノ者ニ近シハ老人ニ
來ル者ナリ之ヲ老人震戰 Tremor senilis ト稱ス又酒客ニ於テハ四肢及舌ニ震
揚ヲ來ス一有ル者ニシテ酒精飲料ヲ用ユルハ震戰却テ消滅シ或ハ減却ス

老人震戰

酒精震戰
鉛毒震戰

之ヲ酒精震戰 Tremor alcoholicus ト稱ス又鉛中毒(鉛毒震戰 Tremor saturninus) 莫
爾比涅中毒、拔設度烏氏病其他神經質ノ人ニ見ル所ノ震戰モ皆此輕度ノ震
戰ニ屬ス

震戰麻痺ニ來ル所ノ震戰(殊ニ四肢及頭)ハ平等ノ調節ヲ有スル者ニシテ手
指ハ一種特異ノ狀(執筆スルガ如ク或ハ捻揉スルガ如シ)ヲ有シ且隨意運動
殊ニ強力ノ運動ヲ行ヒ或ハ間々又文字ヲ書スルニ當リテ遏止スルヲ其特徵
トス

企動的震戰
又注意
戰
汞毒性震戰

企動的震戰又注意震戰 Intentionstremor ハ上記ノ者ニ反シ只隨意運動ノ際起ル
者ニシテ運動ノ終リニ臨ミ增強スレバ安靜時ニ於テハ遏止ス是レ多發性電硬化
ニ主要ノ徵候ニシテ又汞毒性震戰 Tremor mercurialis トシテ來ル者ナリ蓋シテ是等ノ
症ハ往々運動失調ト區別シ難キ一有リ

震戰痙攣

「震揚」ト「間代性痙攣」トノ間ニハ明瞭ニ區別ヲ立ツル一能ハザレバ其中間
ニ在ル者ヲ震戰痙攣 Schütterkrampf ト稱ス此他身體ノ厥冷及急劇ノ發熱ニ際
シ發スル所ノ惡寒戰慄モ亦此震戰ニ類スル者ニシテ歇斯の里患者ニ於テモ
亦之ニ似タル状態ヲ目撃スル一有リ

纖維性筋

纖維性筋攣縮 *Fibrillare Muskelzuckungen* ハ二三ノ大或ハ小筋纖維束ニ於ケル小攣縮ニシテ毫モ眞ノ運動作用ヲ呈スルコト無ク只筋ニ就テ之ヲ認ムルノミ此攣縮ハ健體ニ在テハ屢々皮膚ノ冷却ニ由テ來ルコト有レモ各人甚々之ヲ異ニス病的ニ於テハ萎縮性麻痺及殊ニ脊髓性進行性萎縮ニ於テ多ク之ヲ視ル可シ

間代性痙

間代性痙 *Klonischer Krampf* ハ獨立ニ發スルコト罕ニシテ多クハ癲癇及他ノ痙攣發作ノ一分症トシテ來ル者ナリ(下文ヲ看ヨ)又其單獨ニ發スル者ハ時トシテ腦皮質ノ局所的疾患局發性癲癇ヲ看ヨ及爾他ノ腦性痙局疾患ニ略ル所ニシテ其他脊髓橫徑炎ニ於テモ來リ多クハ兩脚ノ屈曲運動ヲ呈ス是恐ク反射的ニ因ル者ナラム

強直性痙

強直性痙 *Tonische Krämpfe* ノ獨立ニ發スル者ハ自働的痙硬(本編四六八頁參照)ノ狀ニ於テ來ルコト最多ニシテ錐狀體徑路ノ疾患及歇斯的里ニ來リ又破傷風ニ於テ見ル所ナリ而シテ後症ニ在テハ其痙攣多少全身ニ廣延シ咀嚼筋ニ於テ最顯著ナル者ナリ牙關緊急 *Trismus* 是ナリ其顔面ニ發スル者之ヲ痙笑 *Risus sardonius* ト云フ又其項筋及背筋ニ來リ爲ニ頭ハ後方ニ屈曲シ脊柱ハ前方

牙關緊急

項強直後弓反張

ニ向テ突隆スルコト有リ項強直 *Nackensteife* 及後弓反張 *Ophthalmismus* 卽チ是ナリ此他強直性痙攣ハ亦トムセン氏病帝答尼ニ來リ又書痙ニ來ルモ後者ニ於テハ多クハ輕度ノ攣縮(震惕)ヲ兼スルコト多シ此他癲癇發作ノ初期ニ於テモ亦此痙攣ヲ見ル

癲癇性痙

眞正ノ癲癇ニ於ケル癲癇性痙攣 *Epileptischer Krampf* ハ多クハ(必常ナラズ)定型性ノ經過ヲ有ス卽チ一定ノ自覺的前驅症(攪風)ヲ呈シタル後或ハ之ヲ呈スルコト無クノ俄然叫ビテ顛仆シ人事不省ニ陥リ次第全身ノ隨意筋ニ強直性痙攣ヲ起シ(痙攣ハ主トシテ軀幹及上下兩肢ノ伸筋ニ來ルモ手掌ハ閉合ス)次第ニ眼筋舌其他全身ノ隨意筋ノ強劇ノ間代性痙攣ヲ發シ二三分時ノ後筋肉漸ク弛緩スルモ人事不省ハ尙ホ持續ス之ヲ癲癇後ノ昏睡 *Postepileptisches Coma* ト稱ス又其發作ノ際ハ屢々舌ノ咬傷ヲ來シ大小兩便失禁シ又呼吸障礙ニ由リ皮膚ニ著シキちあの一せヲ呈ス

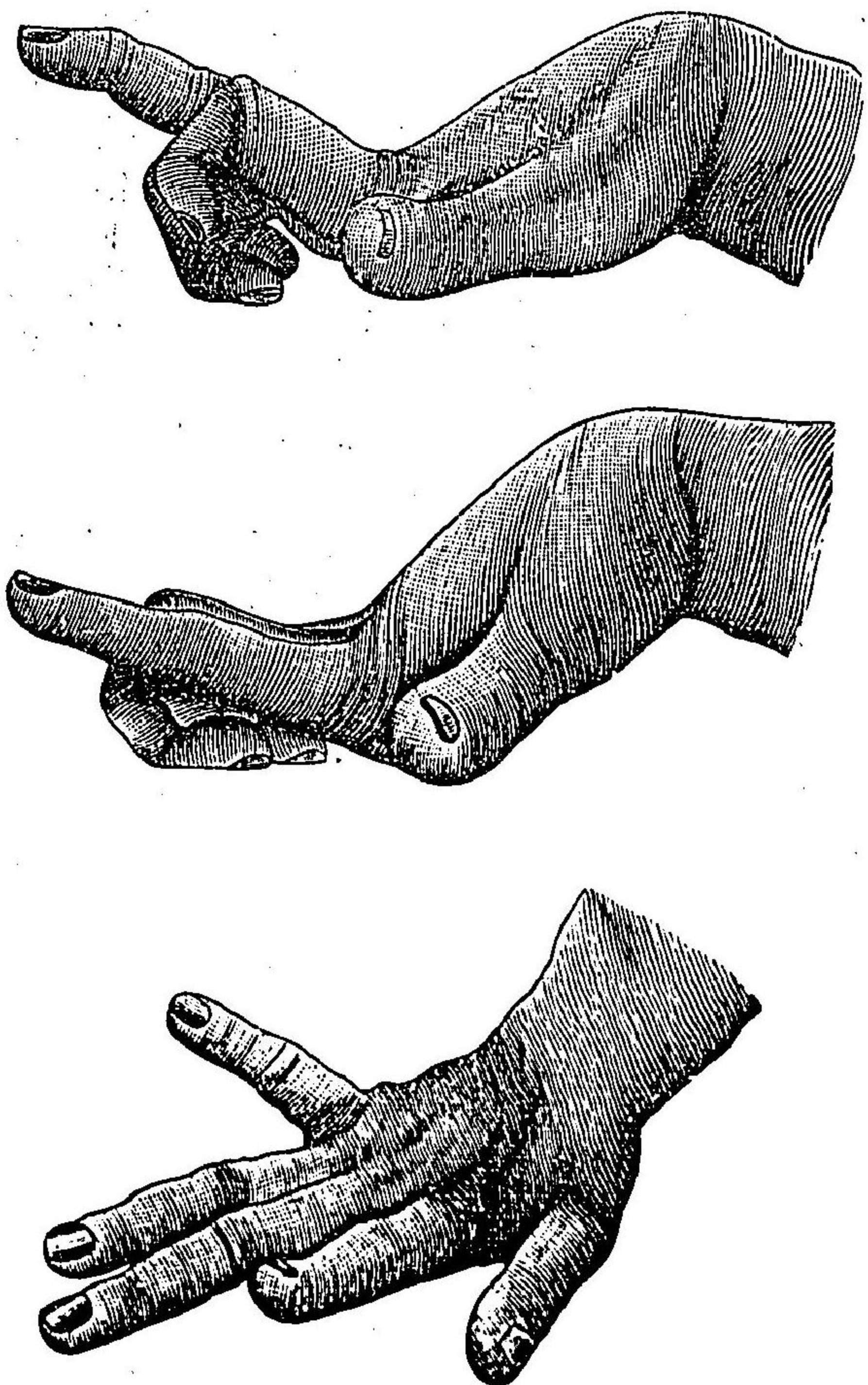
癲癇後昏睡

症候的癲癇

癲癇ニ又症候的ノ者有リ是眞正ノ癲癇ニ甚々類似スルヲ以テ之ガ鑑別ヲ爲スコト最モ肝要ナリトス卽チ症候的癲癇 *Symptomatische Epilepsie* ハ諸般ノ解剖的變化ヲ呈スル腦疾患ニ於テ(腦皮質ノ疾患ニ因ル局發性癲癇ハ下文ニ説ク可

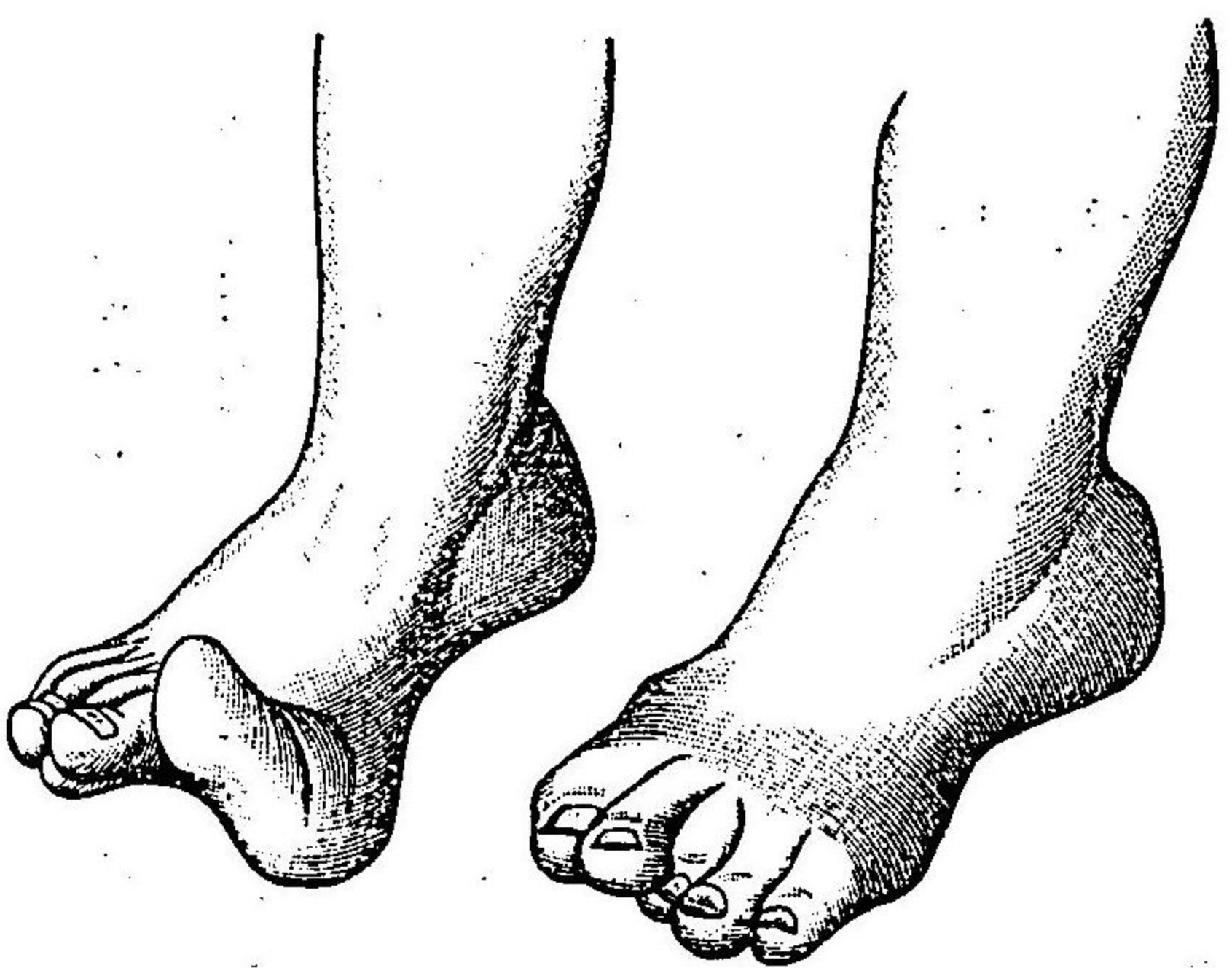
小舞蹈病ハ罕ニ只半身ニ局限スルコト有リ之ヲ偏側舞蹈病ト稱ス偏側ノ舞蹈病狀運動ハ又半身不遂ノ前驅症或ハ其續發症トシテ來リ内囊最後部或ハ神經牀ニ於ケル疾患ノ徵候トス又小兒腦麻痺ニ於テモ屢々舞蹈病狀(或ハあてこし様)運動ヲ呈スルコト有リ

第五百六十八圖
あてこし様運動ニ於ケル指ノ位置



あてこし様運動

第五百九十圖
右側足趾ノあてこし様運動



あてこし様運動 *Choreotische Bewegungen* あてこし様運動ハ固定トハ身體ノ一定部ニ發スル緩慢ニシテ自ラ調節ヲ具フル不隨意運動ニシテ意思ヲ以テ之ヲ制スルコト能ハザル者ヲ謂フ是其本性ノ未ダ明ナラザルあてこし様症ニ見ル所ナリ而シテ該運動ハ偏側或ハ兩側ニ來リ主トシテ指趾ニ於テ見ル所ナレモ(第五百十八及第五百十九圖)亦手腕、肩胛部或ハ其他ノ體部ニ來ル者ニシテ

動稍速ナルモ恰モ舞蹈病狀運動ノ如シ
あてこし様ハ舞蹈病ノ如ク一種ノ疾患ニ名クル者ニシテ其偏側ニ來ル者偏側あてこし様ハ偏側舞蹈病ニ於ケルト同一ノ腦内病竈ニ見ル所ナリ而シテ小兒腦麻痺ニ於テハ偏側舞蹈病ヨリモ本症ヲ發スルヲ多シトス

加答列布
失性強直
又強梗

繼樣
癱瘓
症

共發運動

加答列布失性強直又強梗。Kataleptische Starre, Kataleptie トハ隨意筋緊張ノ一種
 特異ノ亢進ニ筋肉ハ發作時中久シク(一時間或ハ之ヨリ長ク)強直性攣縮
 ラ起シ意思ニ隨ハズ又重力ノ作用ニ抵抗スレモ四肢ハ撓屈シ易ク之ニ一
 定ノ位置ヲ與フレバ久時梗直シテ動搖スルコト無ク其狀宛蠟細工ノ如シ故
 ニ又蠟樣撓屈症 Flexibilitas cerea ノ名有リ而シテ本症ハ解剖的變化ヲ呈スル疾
 患(腦腫瘍、腦膜炎)ニ來ルコト絶々ニ最屢歇斯の里(殊ニ其睡眠態ニ於テス)
 ニ來リ又或精神病(痴癡、鬱悒狂)ニ來ル者ナリ
 茲ニ尙共發運動 *Milbrwegung* ナル者有リ是隨意運動ノ際之ニ關與セザル筋
 ノ異常運動ニ殊ニ腦性麻痺ニ來リ又脊髓性或ハ末梢性麻痺ニ來ル故ニ
 診斷上ニハ價値少シトス該運動ハ又運動ヲ營ム肢部ト同一ノ筋ニ來ル例
 之脚ヲ腹部ニ接近スルニ當リ屢足ノ背面屈曲ヲ來スガ如シ是殊ニ半身不
 遂、痙攣性脊髓麻痺ニ於テ略ル所ナリ

第四章 五器官検査法

第一 視官検査法

視官検査法

視官検査法 Die Untersuchung des Gesichtssinnes ニ就テハ只其一汎診
 斷上ニ主要ナル件ヲ略述スルノミ蓋眼疾ニシテ諸他ノ疾患ニ關係多キ者ハ
 其神經系統ニ關スル疾患ヲ以テ最トス即神經系統ノ諸病ニ於テハ視器ニ
 諸般ノ障碍ヲ來ス者ニシテ或ハ神經若クハ腦疾患ノ直達ノ結果トシテ内外眼
 筋ノ麻痺(罕ニハ痙攣ヲ來シ)或ハ視神經ヨリ皮質中樞ニ至ル感覺的徑路一
 部ノ損傷ニ由テ視力ノ障碍ヲ來シ或ハ又視神經炎ニ於テ視力障碍ヲ來ス
 ガ如シ又神經系統諸病ニ於テ視器ノ障碍ヲ併發スル者有リ即脊髓癆ニ於
 ケル視神經萎縮、シルウキー氏溝動脈血栓ニ於ケル網膜中心動脈ノ血栓或ハ
 腦微毒ニ於ケル微毒性虹彩炎或ハ網膜炎ニ於ケルガ如キ是ナリ
 尙其他ノ疾患ニ於テ視器ノ疾患ヲ併發シ或ハ其繼發症ヲ起スコト有リ前者
 ニ屬スル者ハ急性粟粒結核症ニ於ケル脈絡膜結核、一般出血性素因ヲ有ス
 ル者ニ於ケル網膜出血ニシテ後者ニ屬スル者ハ心臟内膜炎ニ繼發スル網膜
 動脈ノ血栓又間、糖尿病ニ繼發スル内障眼ノ如キ是ナリ

視官検査法

斯ノ如ク視器ノ障礙ハ諸般ノ疾病ニ關係ヲ有スル者ナレモ茲ニハ只其一般検査法ノ大略ヲ述ブルニ止マル可シ
眼ノ検査ニ於テハ先其運動瞳孔ノ狀況其他中心視力色神視野及眼底等ヲ
檢スルヲ要ス

眼運動ノ検査

(一)眼ノ運動ハ外眼筋ノ作用ニ由ル者ニシテ常態ニ在テハ眼筋ノ運動ハ左右同一ノ方向ニ於テスト雖一側ノ眼筋ニ麻痺或ハ痙攣ヲ起スルハ兩眼平等ノ運動ヲ行フニ能ハズ一側ノ視軸ハ他方ニ向フ之ヲ斜視 Strabismus ト稱ス而シテ其斜視痙攣ニ起因スルハ眼ノ位置異ナルモ斜視ヲ失ハザレモ其麻痺ニ起因スル者ニ在テハ其狀況異ナル者ニシテ一筋輕度ノ麻痺ニ在テハ眼球ヲ運轉スルニ非ザレド斜視ヲ呈スルコト無シ然レモ高度ノ麻痺ニ在テハ殆ド常ニ之ヲ存セザルコト無シ又一眼筋或ハ數眼筋ノ經久ナル麻痺ニ在テハハ對働筋ニ攣縮ヲ生ズルヲ以テ常ニ斜視ヲ呈スルコト多シ

複視

斜視眼ノ視軸互ニ開放或ハ集合スルヤニ因リ又之ヲ開散斜視 (Strabismus divergens) 及輻輳斜視 (Strabismus convergens) ニ區別ス
斜視ニ繼テ發スル者ヲ複視 Diplopic トス是ハ一物體ヲ擬視スルニ當リ健眼ニ

眩暈

於テハ其物像正ニ黃斑ニ映ズレモ麻痺眼ニ在テハ斜視ノ輕重及物體ノ距離ニ從ヒ其物像黃斑ニ來ラズ其側傍ニ映ズルニ因ル者ナリ而シテ複視ヲ起スルハ患者物體ノ位置ヲ判定スルニ苦ムヲ以テ物體ヲ把握シ又歩行スルニ障礙ヲ來シ以テ眩暈 (眩暈 Angenschwindel) ヲ起ス殊ニ下方ヲ視ルニ當リ複視ヲ生ズルハ(下直筋上斜筋ノ麻痺ニ因ル)眩暈最モ甚シトス

麻痺性眼球突出

偏眼ノ諸筋悉ク麻痺スルハ眼球突出 (麻痺性眼球突出 Exophthalmus paralyticus) 又動眼神經ノ全麻痺ヲ起スルハ外眼筋ノ麻痺ノ他ニ亦上眼瞼下垂 (上眼瞼下垂 Ptosis) 瞳孔散大及調節機麻痺ヲ來ス者トス(上眼瞼舉筋虹彩括約筋調節筋等ノ麻痺ニ因ル)

上眼瞼下垂

眼筋ノ麻痺ヲ檢スルニハ患者ノ頭首ヲ固定シ眼前ニ指ヲ捧持シテ之ヲ注視セシメ且指ヲ諸方ニ轉移シテ之ヲ逐視セシム可シ稍著明ナル運動障礙有ルハ兩眼ノ運動齊一ナラザルヲ以テ之ニ由テ容易ニ之ヲ檢知スルヲ得可シ其他ノ検査法ハ宜シク眼科書ニ就テ觀ルベシ

眼球振盪症

眼球振盪症 Nystagmus トハ眼球ノ間代性小痙攣狀運動ニシテ多クハ左右ノ方向ニ於テ振盪シ上下ニ振盪スルハ罕ナリ又時トシテハ眼球軸周圍ノ廻旋運

瞳孔ノ検査

瞳孔縮小

動ヲ併發スルコト有リ而シテ本症ハ多クハ小兒期ニ發スル者ニシテ先天性弱視
 或ハ早時ノ後天性弱視ニ繼發シ又初生兒膿漏眼後或ハ内障眼後ニ起リ其
 他卒中後脊髄癆、腦損傷後散在性腦硬化及先天性痴呆等ニ來ル者ナリ
 (二)瞳孔ノ状態ニ就テ茲ニ述ブ可キ者ハ其散大或ハ縮小ニシテ其縮張ハ瞳孔
 括約筋(動眼神經ノ主ドル所)及瞳孔開大筋(交感神經ノ主ドル所)ノ作用ニ由
 ル者トス而シテ其縮小(瞳孔縮小 *Miosis*)ハ健體ニ在テハ睡眠時ニ來リ又老人
 ニ見ル所ナレバ其他ハ常ニ或ハ疾病ノ一徵候トシテ疑ヲ起サシム可キ者トス
 卽チ脊髄癆ニ於テハ殊ニ瞳孔縮小ヲ來スコト多ク(反射的瞳孔強直ヲ看ヨ)
 又進行性麻痺ニ於テモ之ヲ見ル但シ光線ノ射照ハ(其反射的強直ヲ除クノ外)
 瞳孔ノ縮張ニ關係有ルヲ以テ之ヲ檢スルニハ宜シク適度ノ照明ヲ以テス
 ベシ」瞳孔ノ散大(瞳孔散大 *Mydriasis*)ハ高度ノ神識濁劇痛甚シキ恐怖呼
 吸困難其他視神經萎縮、動眼神經麻痺或ハ又間、脊髄癆、進行性麻痺ニ暗ル所
 ナリ
 又藥物ノ作用ニ由テ瞳孔ノ散大(亞篤魯比涅、ゾバイン、古加乙涅或ハ縮小
 (必魯加爾比涅、莫爾比涅)ヲ來スコト有リ

瞳孔散大

瞳孔不同

反射的瞳
孔變化

瞳孔不同 *Ungleichheit der Pupillen* ハ健體ニ於テモ之ヲ見ルコト有リ又兩眼屈折
 機ノ不同ナル者ニ於テ之ヲ見ル可シト雖(近視眼ニ於テハ瞳孔散大ヲ認メ
 遠視眼ニ於テハ其縮小ヲ認ム)爾他ノ場合ニ在テハ亦疑フ可キ一病徵トス
 卽チ其左右不同ナルハ諸般ノ偏側腦疾患(殊ニ硬腦膜ノ血腫ニ於ケルガ如キ
 其一例トス)偏側動眼神經及視神經麻痺(散大)脊髄癆等ニ來ル者ニシテ偏頭痛
 ニ於テモ亦其發作時ニ當リ屢々瞳孔ノ不同ヲ來スコト有リ
 瞳孔ニ就テハ又反射的瞳孔變化 *Reflektorische Pupilleneränderungen* ヲ檢ス可シ
 孔ハ光線ノ射入ニ由リ縮小ス是括約筋ノ收縮ニ因ル者ニシテ其反射徑路ハ
 視神經ヨリ視神經根ヲ經テ恐ク四疊體ノ前部ニ至リ之ヨリ動眼神經ニ達
 ス之ヲ檢スルニハ明室ニ於テ手掌ヲ以テ眼ヲ蔽ヒ次デ俄カニ之ヲ除クカ或
 ハ稍暗キ室ニ於テ燈光ヲ速クニ近接ス可シ而シテ患者ハ此際調節スルコト無ク
 遠方ヲ見ルヲ要ス又之ヲ檢スルニ偏眼ヲ閉鎖シ各眼ヲ各別ニ檢スルヲ最
 良トス
 疼痛例之疼痛性ノ皮膚刺戟ハ開大筋ノ作用ニ由リ瞳孔ヲ散大セシムル者
 ニシテ該反應ハ光線反應ニ比スレバ緩慢ニシテ著明ナラズ

反射的瞳
孔強直

瞳孔若反應ヲ缺如スルハ(就中光線及疼痛刺戟ニ由リ)之ヲ反射的瞳孔強直 *Reflectorische Pupillenstarre* ト稱ス是殊ニ脊髄癆ニ見ル所ニシテ異常ノ瞳孔縮小ヲ伴ヒ瞳孔ハ光線ノ反應ヲ失フモ其視機調節ニ異常ヲ見ザルト尠カ
ラズ進行性麻痺ニ於テモ亦此強直ヲ起セ且前者ニ比スレバ少シトス
此他視神經萎縮及動眼神經ノ全麻痺ニ於テハ光線ノ反應ヲ缺如ス但偏側
ノ視神經萎縮ニ在テハ健眼ヲ照明スルキハ患眼ニ反應ヲ起スモ偏側動眼
神經ノ全麻痺ニ在テハ患眼ニ此反應ヲ起スナシ
又調節筋ノ麻痺ニ於テハ調節ノ際瞳孔ノ縮小ヲ起サザルト有リ是殊ニ急
性病就中實扶的里後ニ最多ク略ル所ナリ

ケレフ
エ氏症候

中心視力

健體ニ在テハ上下回視スルニ上眼瞼ハ毎ニ之ニ伴フテ運動スト雖モ按設度鳥
氏病ニ在テハ此運動減少シ或ハ全ク歇止シ時トノ未ダ眼球ノ著シク突出ヒザ
ル際ニ於テモ亦既ニ其運動障礙ヲ來スコト有リ所謂グレーフエ氏症候 *Criegl'sches
Symptom* 是ナリ

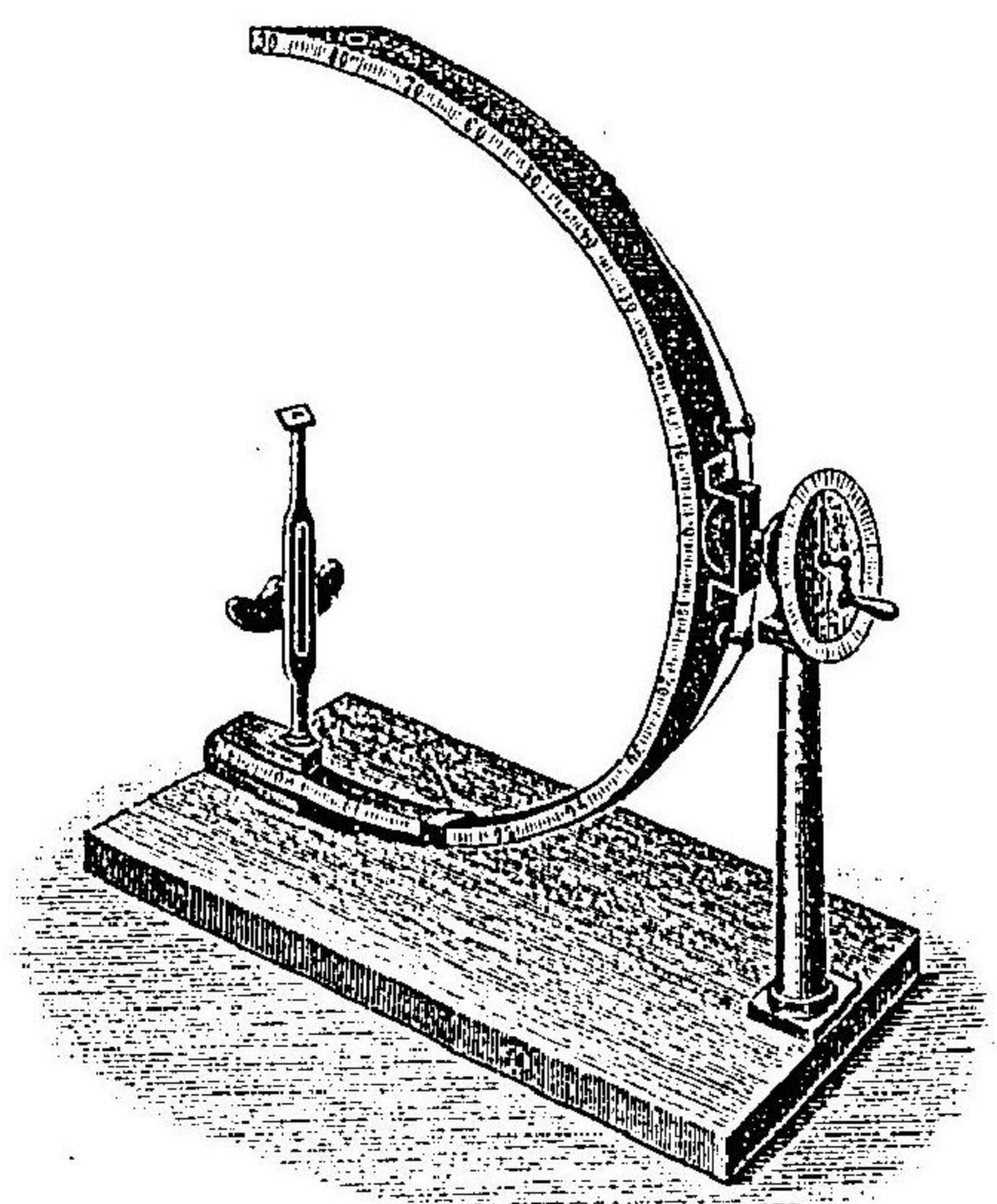
(三)中心視力、視野、色神及檢眼鏡検査
中心視力 *Centrale Sehschärfe* ヲ檢スルニハ(中心視力検査法 *Entoptometric*) 一般ニ

視野(周邊
視力)ノ檢
査

ス○テ○ル○ン○氏○試○視○力○表 *Snellen'sche Sehproubtafel* ヲ賞用スレモ其詳細ニ至テハ
宜シク専門書ニ就テ觀ルベシ

視野 *Gesichtsfeld* 即ち周邊視力 *Periphere Sehschärfe* ヲ檢スルニ(視野検査法 *Peripho-
metrie*) 簡便ナル法ハ患者ノ眼前大約三十仙迷ノ距離ニ示指ヲ保チ檢ス可キ
眼ヲ以テ之ヲ凝視セシメ(他眼ヲ閉ツ)他手ノ示指ヲ上下左右ニ移動シ患者
ノ之ヲ目撃シ得可キ點(即ち視野ノ外界)ヲ定ムルニ在リ然レモ此法タル固ヨ

第 五 百 二 十 計
圖



リ其大概ヲ檢知スルニ過
ギザルヲ以テ精密ノ検査
ヲ行ハント欲セバ宜シク
視野計 *Perimeter* (第五百二十四圖)
ヲ用ユベシ健體ニ在テハ
物體ノ色ニ由リ視野ノ廣
狭ヲ異ニスル者ニモ白色
感覺ニ對スル視野ハ上方
五十五下方七十内方六十

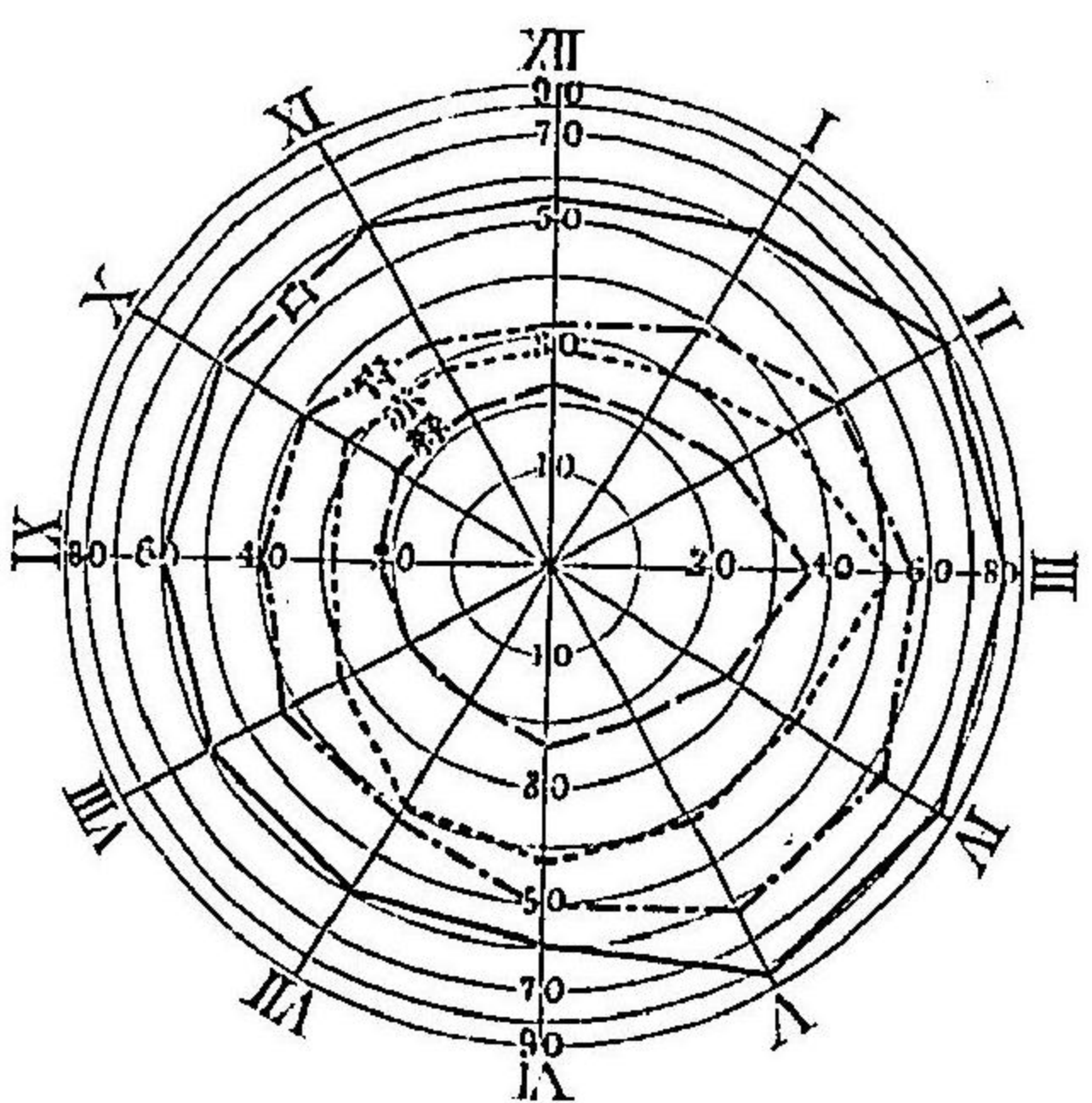
同心狹縮性視野

截痕狀視野中心點

半盲症

半盲性視野缺損

圖一十二百五第 野視ルナ康健



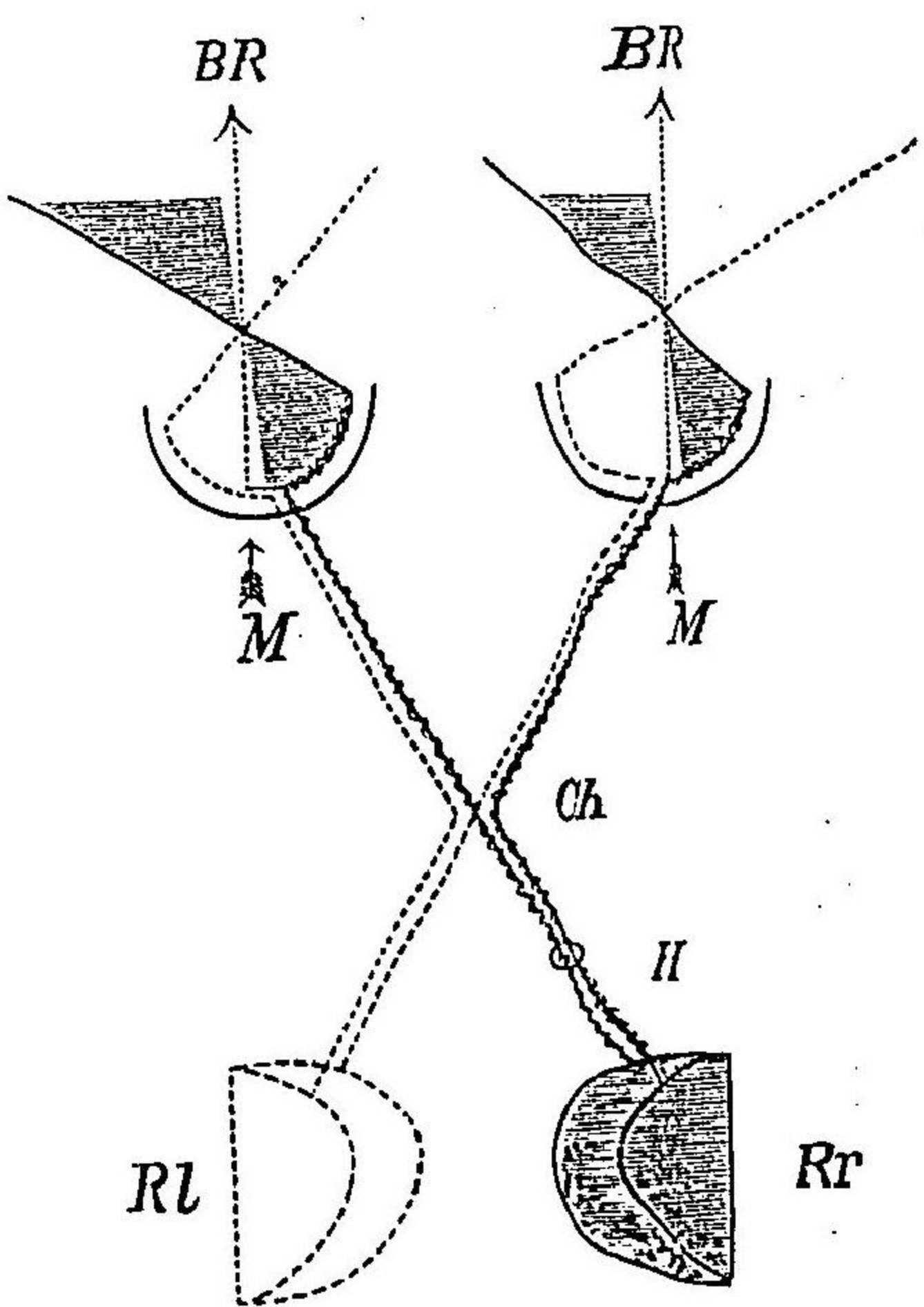
外方八十五ヲ算シ(第五百二十一圖之ヨリ青色赤色及綠色ニ至ルニ從ヒ漸次縮小スル者トス

同心狹縮性視野 *Concentrisch-verringertes Gesichtsfeld* ハ器質的腦疾患(殊ニ散在性腦硬化)ニ於テハ罕ニ之ヲ見ルモ機能神經症ニ於テハ之ヲ見ルコト多ク就中歇斯的里ニ在テハ主要ナル一徵候ト爲ヌ又

視神經萎縮症ニ於テモ中心性視野狹縮ヲ見ルモ截痕狀視野缺損 *Sectorenförmiger Gesichtsfelddefect* ヲ見ルハ稀ナリトス『中心點 *Centrales Seetum* ハ殊ニ亞爾個保兒及煙草中毒ニ視ル所ナリ

視神經纖維ハ其交叉部ニ於テ一部ハ相交又スルヲ無キヲ以テ半盲症又半視症 *Hemianopsie* *od. Hemipisie* ヲ起スヲ有ルハ既ニ上文ニ述ベタリ是レ即半盲性視野缺損 *Hemianopischer Gesichtsfelddefect* ニシテ該症ハ兩眼ニ來ルヲ多ク或ハ

圖二十二百五第 圖略ルヲ解ヲ症盲半及器視



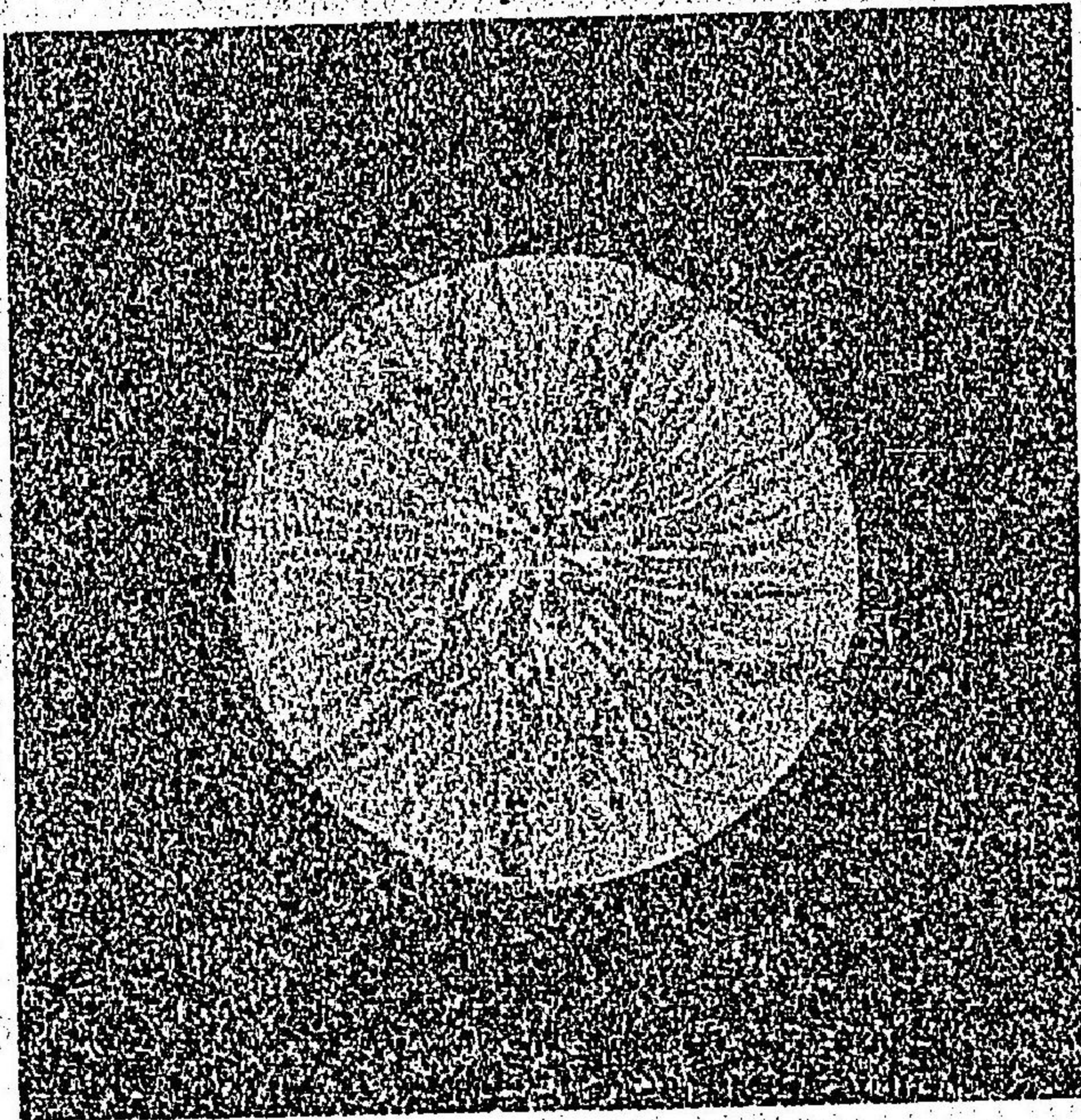
視線(BR)ハ殆ド平行ナリ(遠方ヲ視ル) (V) 黃斑(Ch) 視神經交叉(Ch) 左右ノ後頭皮質(Ch) 中注意ス可キハ交叉部ニ於ケル中交叉及神經纖維ノ網膜上ニ分佈スル狀況ニ皮質ニ影ズル所ノ現像ノ關係ナリ (V) 腦視神經交叉ノ後部ニ在ル病變ヲ示ス者ニ半盲症ヲ起サシム、螺旋狀ノ線及暗影ハ健サレタル部分ヲ示ス

兩眼ニ於テ右半側若クハ左半側ニ起リ或ハ交叉狀ニ發ス而シテ卒然半視症ヲ發スル者ハ多クハ後頭葉ノ卒中ニ因ルモ其徐々ニ發スル者ハ頭蓋底部ノ腫瘍ニ因ルヲ夥多ナリトス

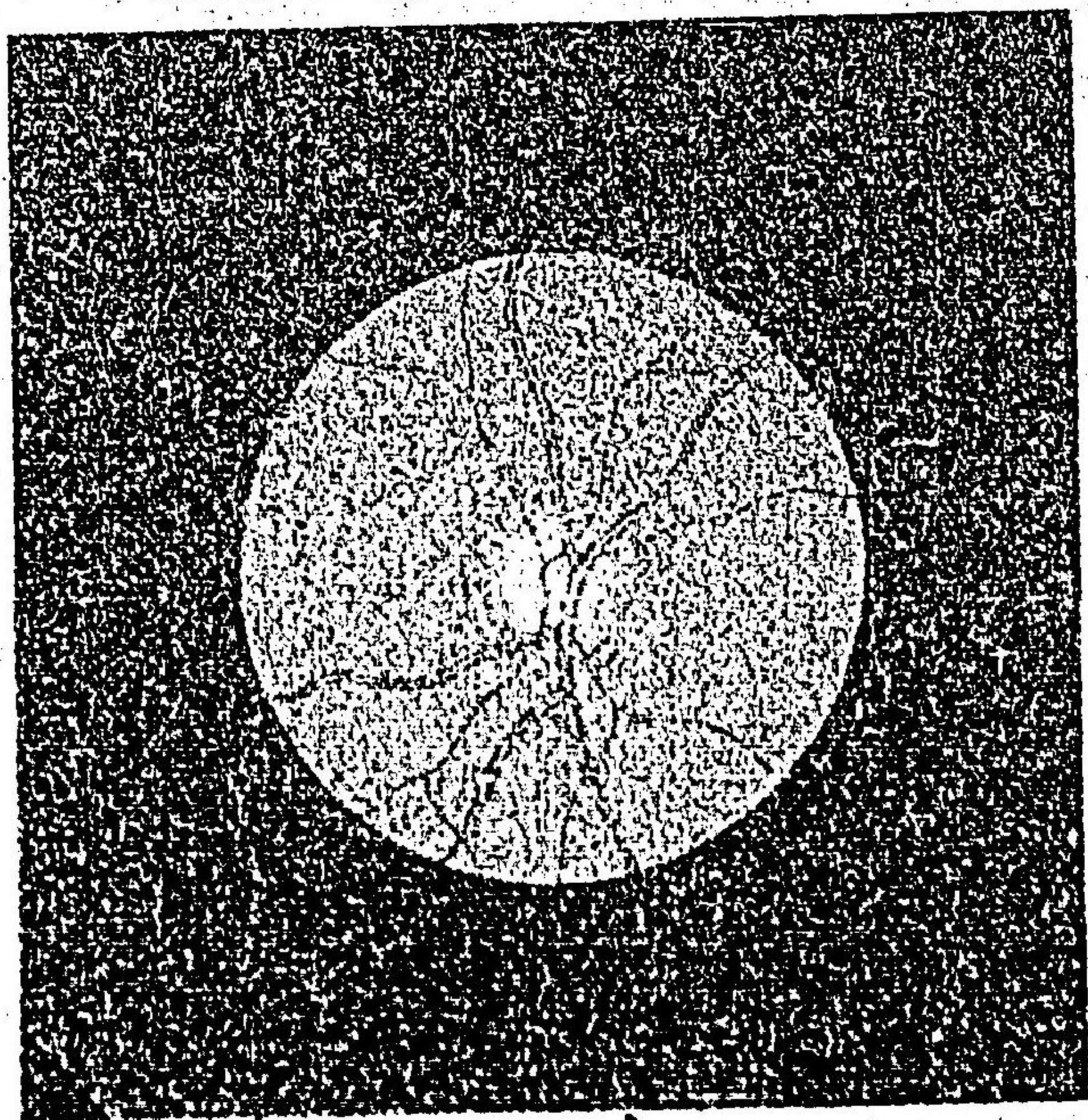
自覺的視覺 *Subjective Gesichtsempfindungen* ハ諸般ノ重症眼疾其他貧血(眼華閃發) 或ハ機能神經症ニ於テ見ル可シ 色神 *Farbensinn* ヲ檢スルニ種々ノ法有レモ多クホルムグレン氏ノ毛絲檢査

自覺的視覺 色神ノ檢査

圖三十二百五第
頭乳血



圖四十二百五第
縮萎頭乳ノ後頭乳血鬱ルケ於ニ腦膜護腦



法眼鏡検査

法 *Waldprobe* ヲ以テス

茲ニ尙主要ナル視官検査ハ眼鏡検査法 *Ophthalmoskopische Untersuchung* ナリ

ト雖其詳細ハ宜シク専門ノ書ニ就テ觀ルベシ茲ニハ只二三ノ主要ナル疾

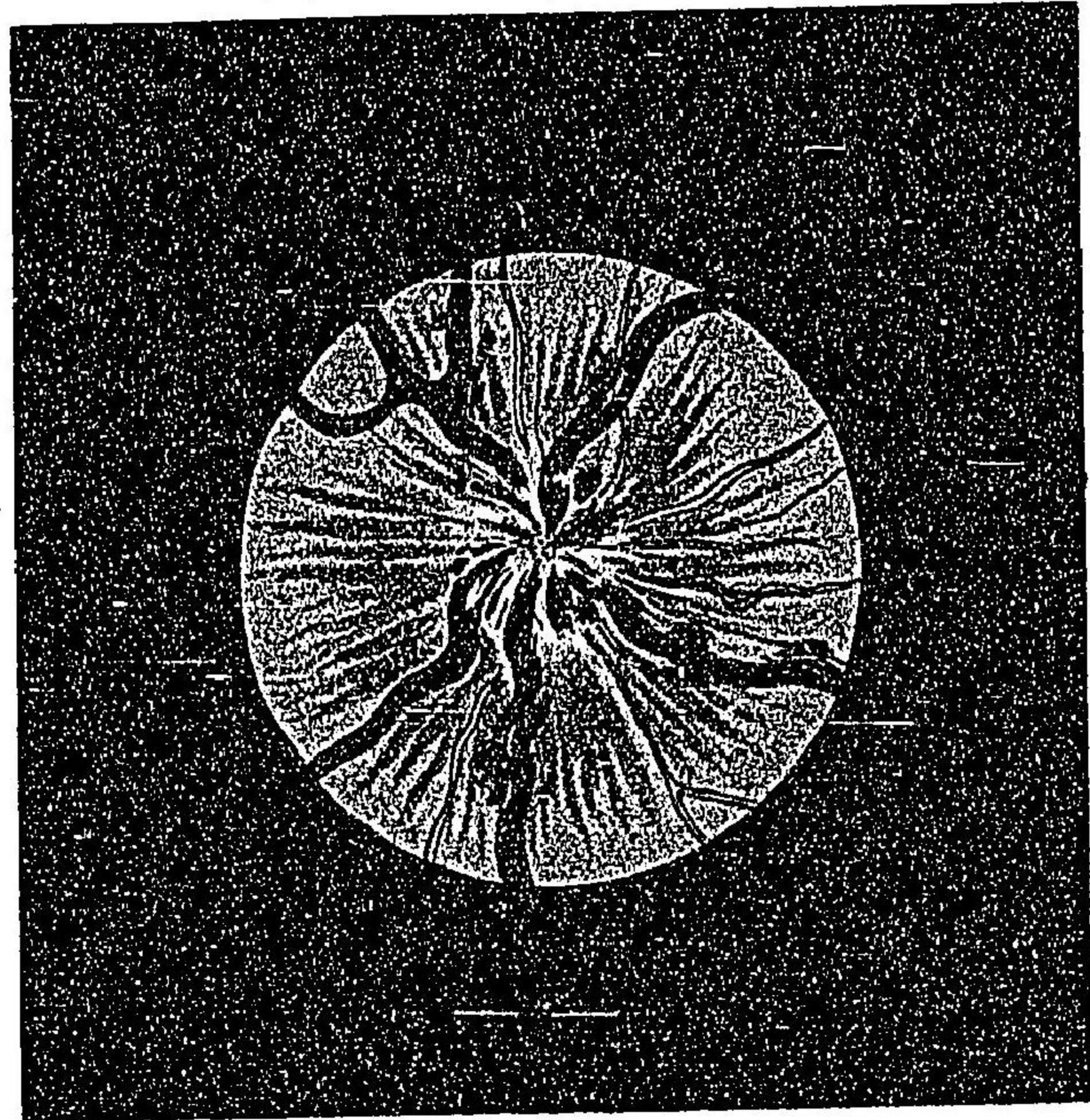
患ト眼底ノ變化トニ關シ診斷上肝要ナル者ヲ述ブルノミ

(一) 神經ノ疾患ニ於ケル眼底ノ變化

凡ソ頭蓋腔内ノ壓力ヲ充進セシムル所ノ疾患ハ兩側ニ鬱血乳頭(視神經炎)(第五百二十三圖)ヲ起サシムルモ亦之ヲ起サザルコト有リ蓋シ鬱血乳頭ノ存在ハ診斷上最モ肝要ナル者ニ殊ニ腦壓迫症頭蓋腔内腫瘍腦膜炎等ノ診斷ニ緊要ナリ寧ニハ腦水腫ニ之ヲ合併スルコト有レモ腦膿瘍ニ之ヲ來スハ甚ク稀ナリトス 偏側ノ鬱血乳頭ハ例之腫瘍有リテ偏側ノ神經ニ局所的壓迫ヲ加フルニ因ル

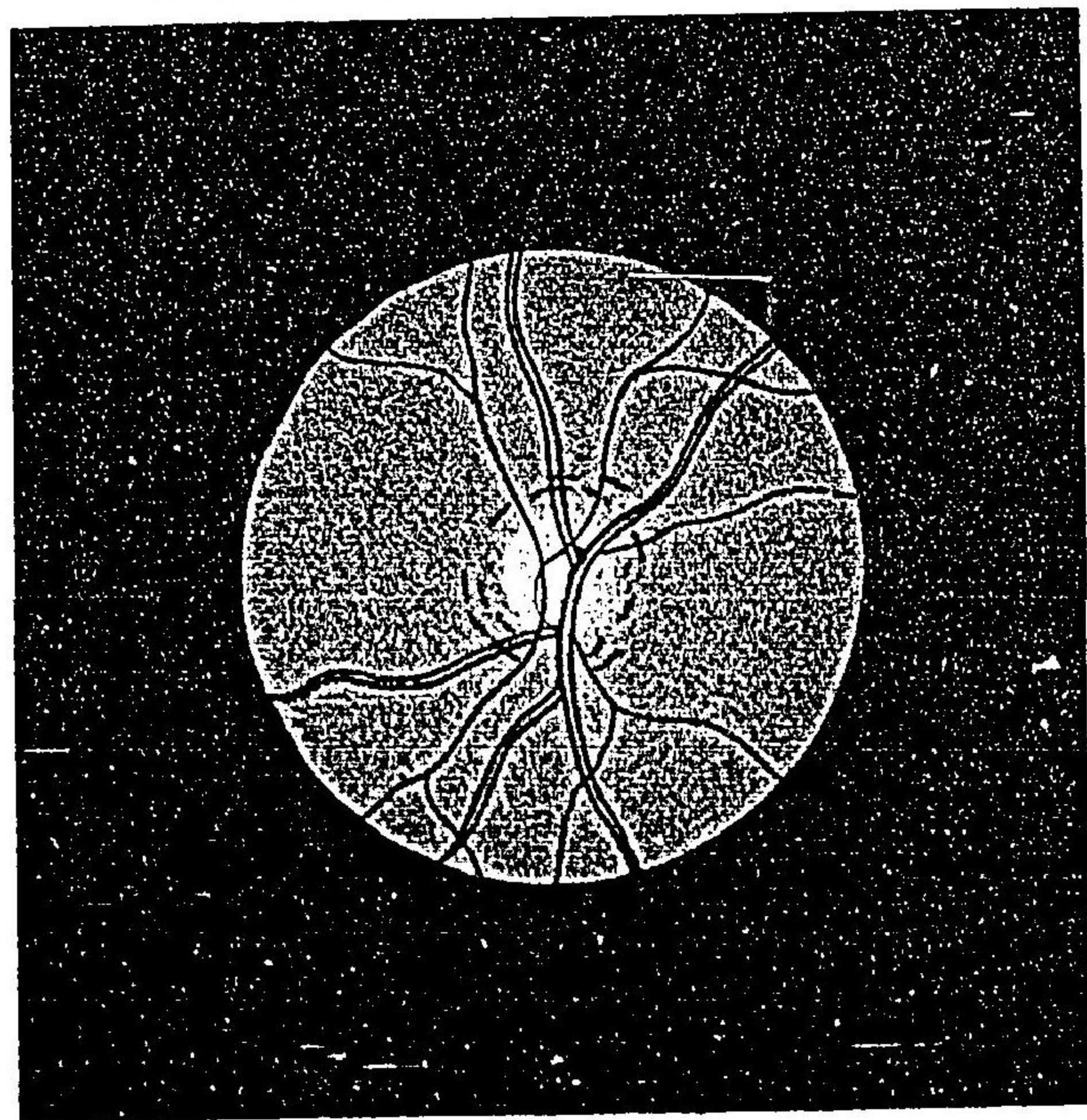
鬱血乳頭ニ於ケル視力障礙ハ甚ク各異ニシテ或ハ全ク或ハ殆ド全ク之ヲ缺如スルコト有リ視神經交叉或ハ視神經ノ起始部ニ局所的壓迫ヲ受クルルハ鬱血乳頭ノ爲ニ速クニ高度ノ視力障礙ヲ來ス又鬱血乳頭ニ兼ヌルニ視神經ノ萎縮ヲ以テスルルハ永久視力ノ障礙ヲ始メ固ヨリ言フ俟タズ(第五百二十四圖)

乳頭炎兼網膜炎ハ腦膜炎ニ於テ殊ニ眼底ニ滲出物ヲ存スル際ニ多ク來ル者ニノ腦髓炎ニ於テモ亦之ヲ見ルコト有ル可シ



第五百二十四圖

腦膜腫ニ於ケル乳頭血後ノ萎縮



法眼鏡検査

神經系統診法

法 *Malpighi* ヲ以テス

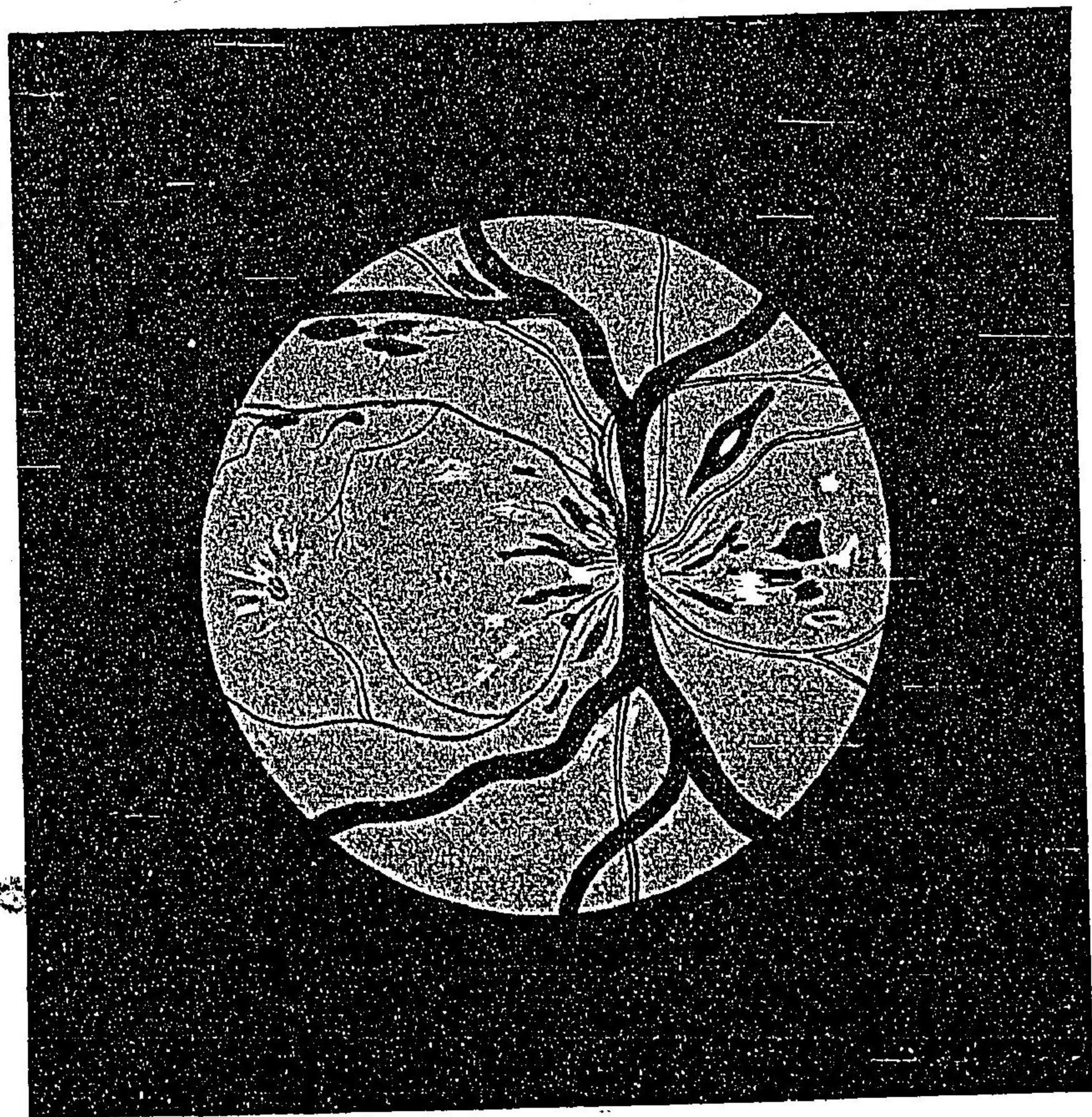
茲ニ尙主要ナル視官検査ハ眼鏡検査法 *Ophthalmoskopische Untersuchung* ナリ
ト雖其詳細ハ宜シク専門ノ書ニ就テ觀ルベシ茲ニハ只二三ノ主要ナル疾
患ト眼底ノ變化トニ關シ診斷上肝要ナル者ヲ述ブルノミ

(一) 神經ノ疾患ニ於ケル眼底ノ變化

凡ソ頭蓋腔内ノ壓力ヲ亢進セシムル所ノ疾患ハ兩側ニ鬱血乳頭(視神經炎) (第百二十三圖) ヲ起サシムルモ亦之ヲ起サザルコト有リ蓋シ鬱血乳頭ノ存在ハ診斷上最モ肝
要ナル者ニ殊ニ腦壓迫症頭蓋腔内腫瘍腦膜炎等ノ診斷ニ緊要ナリ單ニハ腦
水腫ニ之ヲ合併スルコト有レモ腦腫瘍ニ之ヲ來スハ甚ク稀ナリトス 偏側ノ鬱血
乳頭ハ例之腫瘍有リテ偏側ノ神經ニ局所的壓迫ヲ加フルニ因ル
鬱血乳頭ニ於ケル視力障礙ハ甚ク各異ニシテ或ハ全ク或ハ殆ド全ク之ヲ缺如スル
コト有リ視神經交叉或ハ視神經ノ起始部ニ局所的壓迫ヲ受クルルハ鬱血乳頭ノ
爲ニ速クニ高度ノ視力障礙ヲ來ス又鬱血乳頭ニ兼ヌルニ視神經ノ萎縮ヲ以テス
ルルハ永久視力ノ障礙ヲ貽スヤ固ヨリ言テ俟タズ (第百二十四圖)

第五百二十五圖

蛋白尿管網膜炎



原發性視神經萎縮ハ主トノ脊髄癆ニ來リ次デ多發性硬化麻痺狂ニ來リ又視神經交叉ノ壓迫ニ由テ來ル
 網膜出血ハ腦出血ノ前驅症トノ來リ又網膜中心動脈ノ栓塞ハ腦栓塞ノ前驅症トノ來ルヲ見タルヲ有リ
 微毒ニ來ル眼底ノ變化ハ下文ニ述ブ可シ
 結核性腦膜炎ニ於テハ脈絡膜結核症ヲ見タルヲ殆ド之無シト雖急性全身粟粒結核症ニ於テハ之ヲ見タルヲ有リ
 (二爾他ノ疾患ニ於ケル眼底ノ變化
 蛋白尿性網膜炎若クハ乳頭炎兼網膜炎(白斑殊ニ黃斑ノ周圍ニ放線狀ヲ呈スルヲ多ク時トノ融合ス血管壁肥厚シ出血有リ) (五百二十五回)ハ主トノ萎縮腎ニ來ル者ニ又屢慢性腎臟炎ニ來ルモ急性症ニ之ヲ見ルハ甚々罕ナリ而シテ此際視力障礙ハ黃斑ノ侵サル、多少ニ由テ異ナリトス) 尿毒症性黒内障ハ之ト毫モ關係アルヲ無シト雖該患者ニ在テハ網膜炎ヲ見ルヲ甚々多シ
 微毒患者(腦微毒)ニ在テハ間、眼底ニ微毒性變化ヲ來ス即チ微毒性網膜炎、色素性網膜炎、微毒性脈絡膜炎是ナリ
 脈絡膜ノ結核症ハ急性全身粟粒結核症ニ來ルヲ少カラザル者ニノ殊ニ黃斑部ニ發スルモ之ヲ認メ難キヲ多シ

糖尿病ニ於テハ一種特異ノ所謂糖尿性乳頭炎、網膜炎、及萎縮ヲ見、白血病ニ於テハ網膜ノ出血及白色滲出物ヲ見、又惡性貧血或ハ單純ノ重症貧血ニ於テハ出血ヲ見ル可シ

膿毒症殊ニ之ニ因スル心臟内膜炎ニ於テモ亦網膜ノ出血ヲ見ルコト有リ

大動脈瓣閉鎖不全ニ於テハ網膜動脈ノ搏動ヲ認メ、心臟内膜炎ニ於テハ中心動脈ノ栓塞ヲ認メ、又重劇ノ出血殊ニ胃腸及子宮ノ出血ニ由リ俄然内障眼ヲ起ス

コト有ルモ始、眼底ニ變化ヲ見ズ後ニ著シキ視神經萎縮ヲ見ルコト多シ

第二 聽官検査法

聽官検査法

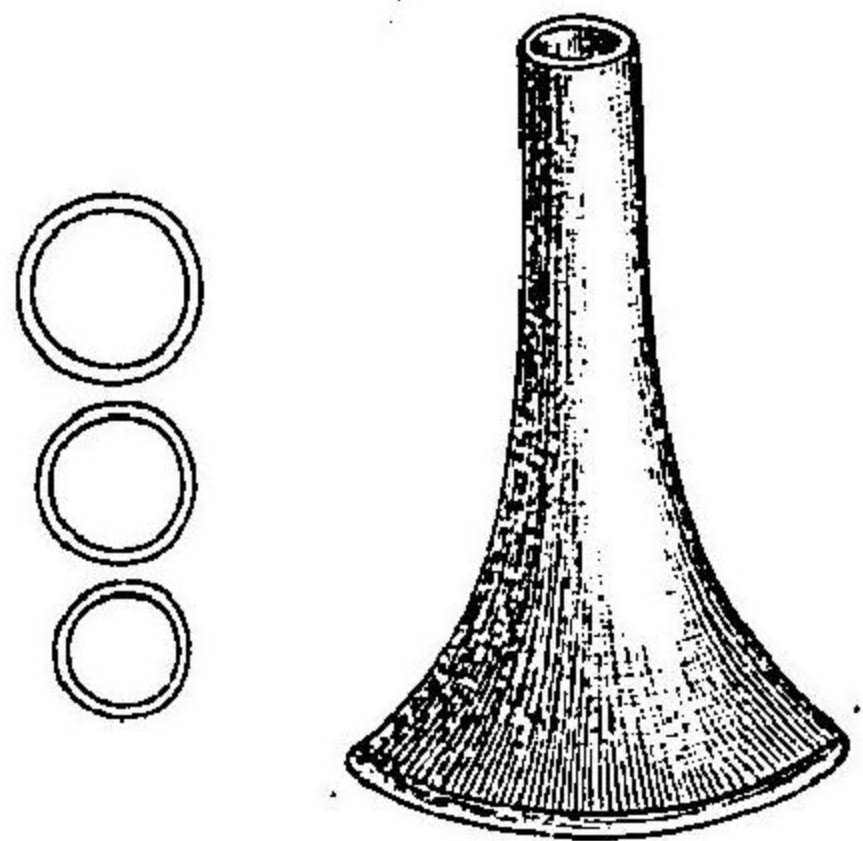
聽距

聽官検査法 Die Untersuchung des Gehörssinnes ヲ行フニハ耳語 *Flütersprache* ヲ以テスルコト有リ即チ検査者ハ一定ノ距離ニ於テ患者ニ向ヒ低聲ニテ耳語シ其之ヲ聽取シ得可キ距離ヲ定ム健耳ニ於ケル中等ノ聽距 *Horizont* ハ他ニ多少雜音ノ聞ユルコト有ルモ耳語ヲ二十乃至二十五迷突ノ距離ニ於テ聽取シ得ル者ナリ或ハ又患者ノ耳前ニ袖時計ヲ近接シ或ハ之ヲ遠ザケ其音ヲ聽取シ得可キ距離ヲ定ム可シ即チ之ヲ行フニハ先健耳ノ聽距ヲ計リ

骨導

難聽及耳

第五百二十六圖 耳鏡 (氏ルエチツリボ)



次デ病耳ニ及ブ可シ而シテ兩者ノ關係ヲ示スニハ分數ヲ以テス即チ分母ハ健耳ノ聽距ニシテ分子ハ病耳ノ聽距ナリ例之今或ル袖時計ヲ以テ計レル健耳ノ聽距ハ二百仙迷ニシテ病耳ノ聽距ハ三十仙迷ナルハ其比例ハ $\frac{30}{200}$ ナルガ如シ又耳ニ觸ル、ニ非ザレバ之ヲ聽クコト能ハザルハ觸 $\frac{30}{200}$ ト記シ之ニ觸ル、モ聽クコト能ハザルハ $\frac{30}{200}$ ト記ス可シ

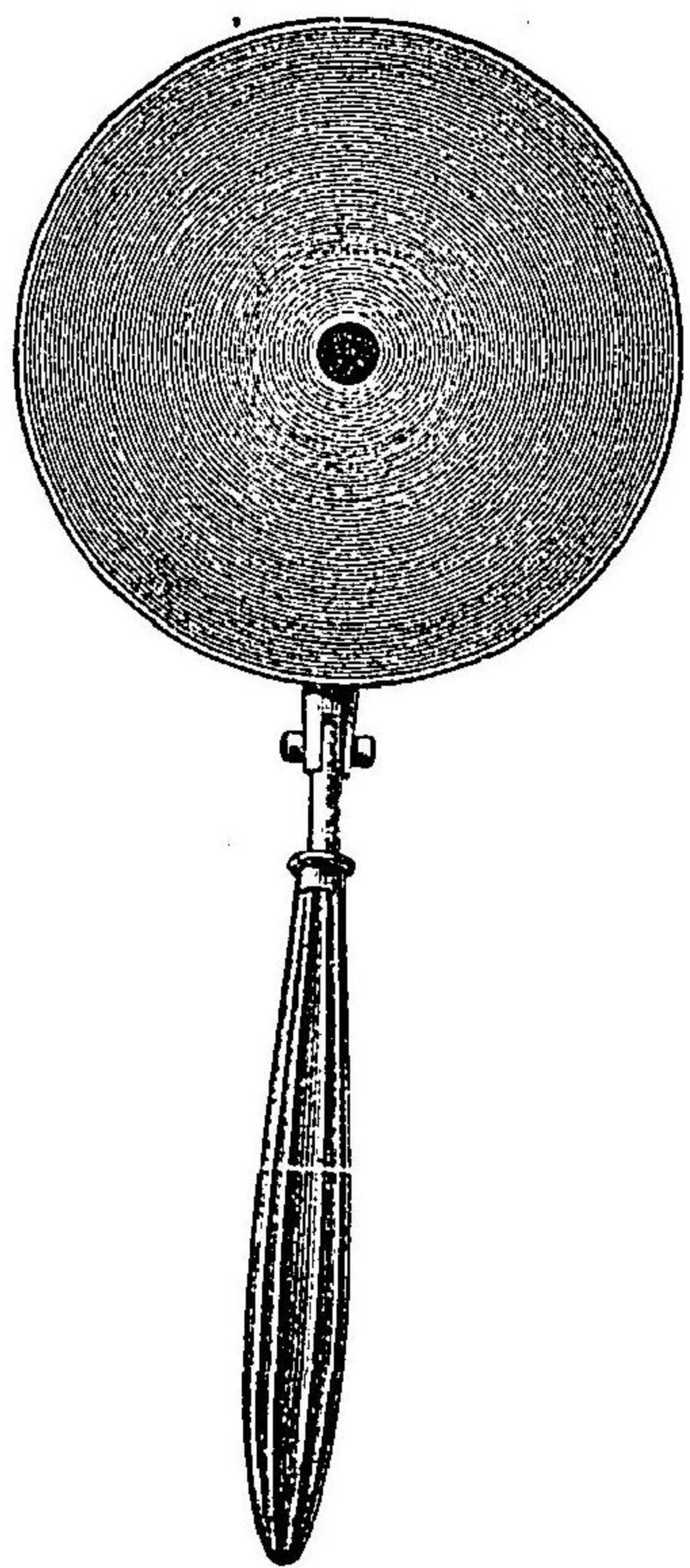
又所謂骨導 *Knochenleitung* ニ由テ聽力ヲ檢スルコト有リ健耳ヲ密閉スルハ其前ニ保持セル振動スル調音又ノ音ヲ聽クコト能ハザルモ之ヲ顛顛骨或ハ乳嘴突起ニ觸ル、ハ能ク之ヲ聽ク可シ外聽道或ハ中耳ノ疾患ニ罹レル患

者ハ健耳ヲ閉サレタル者ノ如ク一定ノ距離ニ於テ調音又ヲ離ル、ハ其音ヲ聽クコト能ハザルコト有レテ骨導ニ由テハ能ク之ヲ聽ク可シ然レテ聽神經ノ疾患(内耳ノ疾患)ニ在テハ骨導ニ由ルモ聽覺減失シ若クハ全ク缺如スルコト有リ

耳鏡検査ヲ行フニハ耳鏡ト反射鏡トヲ以テス(第五百二十六圖及第五百二十七圖)該検査ハ難聽

聽官検査法

第五百二十七圖
反射鏡



Scheuerhörig.
keit若ハク耳
聾。Taubheitノ
神經性ナリ
ヤ或ハ中耳
若クハ外聽
道ノ疾患ニ

起因スルヤヲ鑑別スルニ最モ肝要ナリトス

診斷上聽官ノ疾患ヲ明カニスルハ左ノ諸症ヲ識ルニ要アリ即チ全身病(脈病、結核症ニ於ケル岩様部ノ骨瘍、微毒ニ於ケル内耳炎)其他頭蓋、頭蓋腔及腦ノ局所疾患ニノ聽神經或ハ聽覺ノ求心性傳導ヲ傷害スル者及膜炎、腦膿瘍、顔面神經麻痺等はナリ

自覺的聽覺(耳鳴)

自覺的聽覺 Subjective Gehörsempfindungen 即チ耳鳴 Ohrensusen ハ貧血、機能神經症其他諸般ノ耳疾患ニ來ル者ニノ聽覺傳導ノ障礙ニ於テモ亦之ヲ發スルヲ伴フ者ニノ殊ニ所謂メニエ

耳眩暈

耳眩暈 耳痛ハ間、齒牙ノ疾患ニ因リ齒痛ハ又耳ノ疾患ニ因テ發スルコト有リ
耳痛ハ間、齒牙ノ疾患ニ因リ齒痛ハ又耳ノ疾患ニ因テ發スルコト有リ

第三 嗅官検査法

嗅官検査法

嗅官検査法 Die Untersuchung des Geruchssinnes ヲ行フニハ鼻前ニ強キ香氣ヲ放ツ物質ヲ保チ各鼻孔ヲ各別ニ檢ス可シ即チ之ニ用ユル所ノ物質ハ薔薇水、枸橼油、纈草丁、幾、麝香丁、幾、薄荷油、茴香油、樟腦、阿魏丁、幾等ニシテ安謨尼亞醋酸等ノ如キ鼻粘膜ノ知覺神經纖維ヲ刺戟與奮セシムル物質ハ用ユ可カラズ何者之ニ由テ刺戟症狀ヲ發起シ以テ純正ノ嗅覺ヲ妨グルコト有レバナリ

嗅藥匣

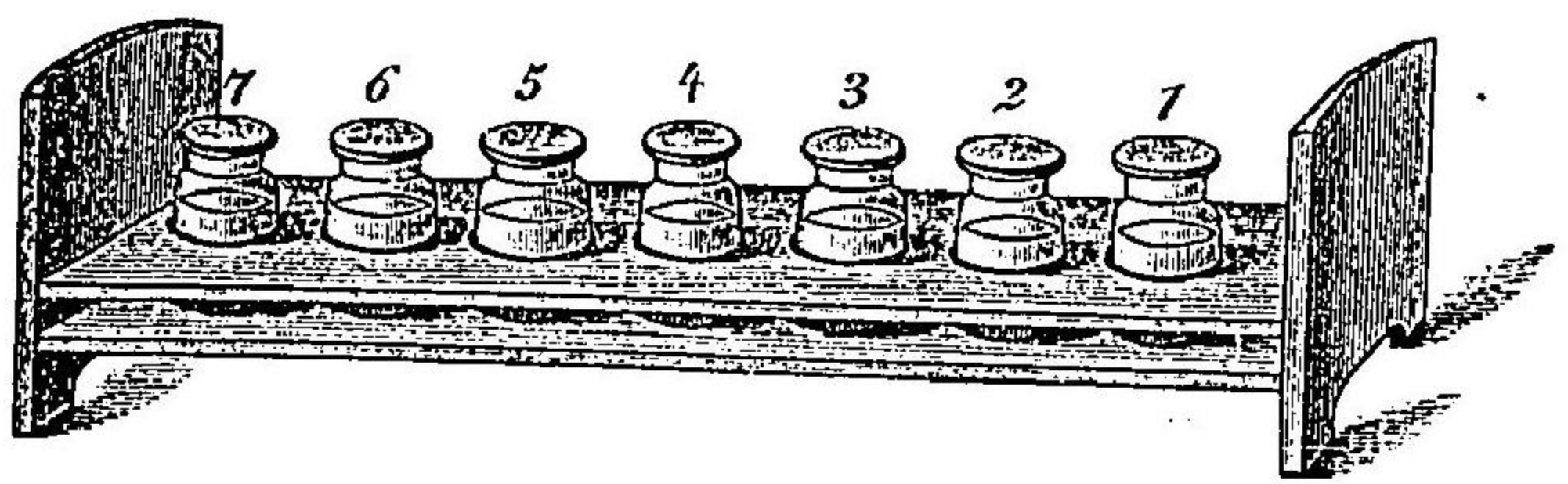
第五百二十八圖ニ示スハ一種ノ嗅藥匣 Geruchskästchen ニシテ之ニ諸種ノ放臭性藥品ヲ容タル小藥瓶數個ヲ備フ而シテ之ヲ用キテ検査ヲ行フニハ一側ノ鼻孔ヲ閉鎖シ他側ノ鼻孔前ニ此藥瓶ヲ接シテ患者ヲシテ其臭氣ヲ嗅ガシメ左右交番ニ検査シテ左右ノ差異ヲ精密ニ觀察ス

嗅官検査法

嗅覺減少
嗅覺脫失

嗅覺ノ減少スル者之ヲ嗅覺減少 *Hyposmie* ト云ヒ其全ク缺亡スル者之ヲ嗅覺脫失 *Anosmie* ト云フ是レ時トノ嗅神經ヲ壓迫スル所ノ前頭蓋窩及前頭腦ノ疾

第五百二十八圖
嗅藥匣



- (1) 枸橼油 (2) 蘇草丁幾
- (3) 麝香 (4) 薄荷油
- (5) 茴香 (6) 樟油 (7) 阿魏丁幾

患(腫瘍腦膜炎)ニ來ル者ニノ腦水腫ニ於テモ亦之ト同一ノ原因ニ由リ本症ヲ來スヲ有リ」偏側ノ嗅覺減少若クハ脫失ハ内囊最後部ノ損傷ニ於テ半身全知覺脫失ノ分症トノ來リ歇斯の里性半身知覺脫失ニ於テモ亦此症ヲ發スルヲ有リ罕ニハ嗅神經球ヨリ出ヅル神經、篩骨ノ骨折ニ由テ損傷ヲ受ケ嗅覺脫失ヲ來スヲ有リ然レモ嗅覺減弱或ハ脫失ノ原因ハ多クハ鼻粘膜ノ疾患ニ在ル者タルヲ忘ル可カラズ」此他老人ニ於テハ間、爾餘ノ病的徵候無クノ嗅覺脫失ヲ來スヲ有リ是レ恐ク嗅神經ノ萎縮ニ因ル者ナラム

嗅覺過敏
嗅覺錯誤

時トノ嗅覺ノ障礙ハ三又神經ノ麻痺ニ歸ス可キヲ有リ是レ其麻痺ニ由テ鼻粘膜ノ乾燥ヲ起スヲ以テナリ
嗅覺過敏 *Hypersmie* 及嗅覺錯誤 *Paresmie* ハ歇斯の里及精神病者其他真正癩痢ノ前驅症トノ來ルヲ有リ

第四 味官検査法

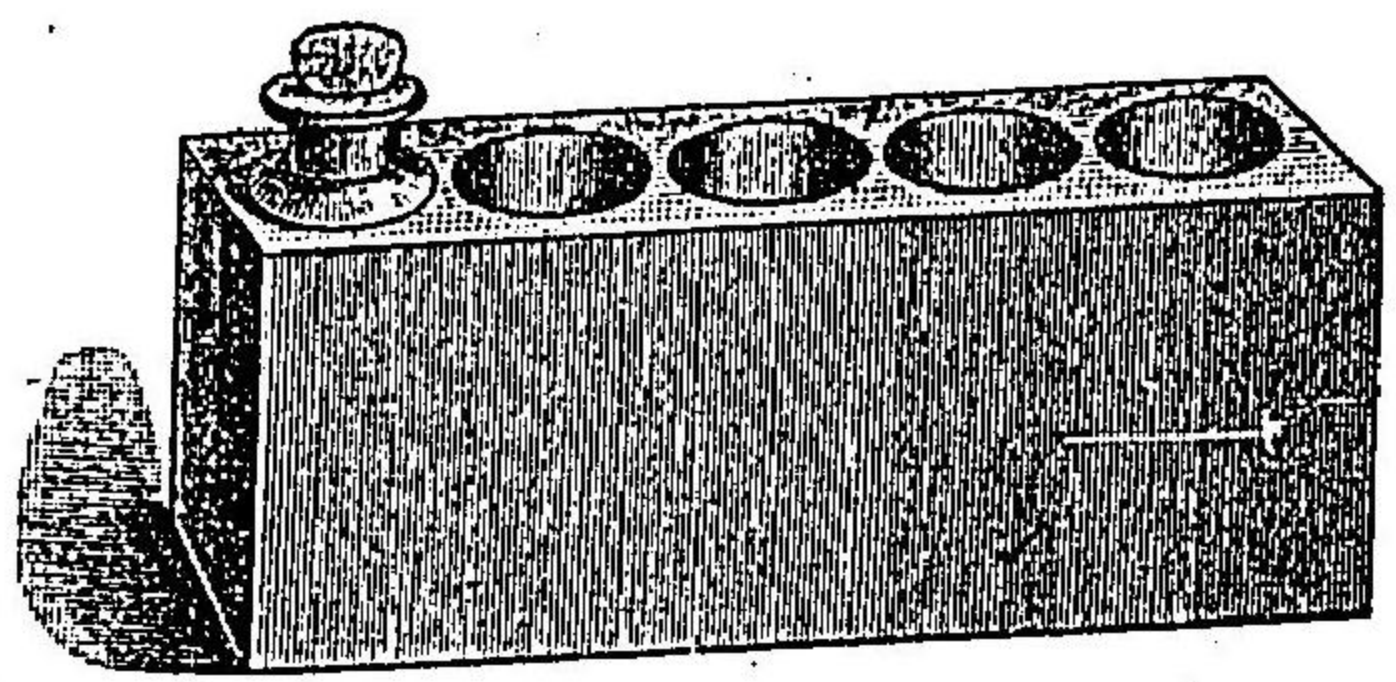
味官検査法

味藥匣

味官検査法 *Die Untersuchung des Geschmackssinnes* ヲ行フニハ患者ヲノ閉眼開口シテ舌ヲ挺出セシメ硝子桿若クハ毛筆ヲ以テ諸味ノ液物ヲ其上ニ滴落シ其如何ノ味ヲ感ズルヤヲ述ベシム可シ而シテ味覺ニ四種有リ甜味鹹味酸味及苦味是ナリ甜味ヲ檢スルニハ通常砂糖ヲ用キ酸味ヲ檢スルニハ枸橼酸鹹味ヲ檢スルニハ食鹽苦味ヲ檢スルニハ規尼涅ヲ用ユ而シテ口内ヲ洗淨セシム可シ味官ノ検査ニモ亦味藥匣 *Geschmackstäbchen* (第五百二十九圖)ナル者ヲ用ユ中ニ食鹽規尼涅枸橼酸砂糖ヲ備フ但シ規尼涅ハ溶解シ難キヲ以テ別ニ溶解シ易キ苦味藥例之健質亞那丁幾ヲ入レタル藥瓶ヲ備フルヲ有リ而シテ検査ノ際ハ甘鹹苦酸ノ四字ヲ小板ニ記

味官検査法

第五百二十九圖
味藥匣



味覺脫失

味覺過敏
味覺錯誤

シ之ヲ患者ノ眼前ニ置キ其味覺ニ入リタル者ハ何等ノ味ナルヤヲ指示セシムルヲ便トス是レ斯ノ如クセバ口答ノ際舌ノ運動ト共ニ試驗藥ノ他部ニ散ズルガ如キ虞無ケレバナリ蓋シ味覺障礙ハ往々局所的ナルコト有レバナリ故ニ各舌半側ハ各別ニ檢査セザル可カラズ

味覺ノ缺亡スル者之ヲ味覺脫失ト云フ而シテ全ク味覺ヲ脱失スル者ハ癩、歇斯の里症ニ略ル所ニシテ偏側ノ味覺脫失ハ半身全麻痺ニ來リ其他舌前部ノ偏側味覺脫失ハ末梢性鼓索神經麻痺ニ來ルコト有リ此他味覺過敏、Hyperaesthesia 及味覺錯誤、Parageusia ナル者有リ共ニ味官ノ障礙ナリ又口内炎、多數ノ胃腸疾患竝ニ熱性病ニ於テ味官ニ障礙ヲ來スハ人ノ普ク知ル所ナリ

第五章 言語障礙

言語障礙

言語障礙 Die Sprachstörungen (Lalopathie) ハ之ヲ二種ニ大別ス可シ即チ一ハ發語ニ要スル諸筋即チ發語筋ノ運動障礙ニ因ル者ニシテ之ヲ發語失調ト稱シ一ハ腦疾患就中左半側腦第三前頭廻轉及第一顛額廻轉ニ在ル所謂言語中樞(Sprachzentrum)ノ疾患ニ因ル者ニシテ概シテ之ヲ失語症ト稱ス

(一) 發語失調及發語不能

發語失調及發語不能

發語失調及發語不能(吃訥) Die Dysarthrie und die Anarthrie トハ言語諸筋ノ運動機能障礙即チ其麻痺、震戰、痙攣其他共働機障礙等ニ因テ發語ニ障礙ヲ來ス者ニシテ其狀態ハ恰モ是等ノ運動障礙ヲ受ケタル肢節ニ來ル運動障礙ニ於ケルガ如シ

言語障礙○發語失調及發語不能

者漸ク之ニ慣テ大ニ恢復スル者トス』兩側ノ麻痺ハ多クハ延髓球ヨリ起ル者ニシテ(球麻痺)若シ核麻痺ナルハ變質性萎縮ヲ來ス可シ罕ニハ兩側ノ言語筋麻痺ハ兩側ノ皮質或ハ錐狀體徑路ノ損傷ニ因ルコト有リ(假性球麻痺)其他兩側ノ舌下神經或ハ顔面神經ノ末梢性麻痺ニ由テ發語障礙ヲ來スレハ稀ナリ』言語筋麻痺ノ状態ニ由リ諸種ノ發語障礙ヲ來ス者ニシテ兩側ノ舌下神經ノ麻痺ニ於テハ子音ヲ發スルニ障礙ヲ來ス之ヲ檢スルニハ子音多キ言語ヲ速クニ發セシム可シ又發語障礙ニ兼ルニ口蓋麻痺ヲ以テスルハ聲音鼻聲ヲ帶ブルコト有リ

隔語

歇斯の里性緘黙

隔語 *Sandrende Sprache* トハ著シク語調ヲ變ジ一語ヲ發シタル後間歇有リテ又俄ニ發語スル者ナリ是トシテトノ多發性硬化ニ認ムル所ナリ
歇斯の里性緘黙 *Hysterische Stummheit* トハ發語及多クハ又全然發音ヲ缺如スル者ニシテ屢々歇斯の里性發作ノ後突然發來シ數日ヨリ數年ノ久シキニ互ルモ又俄ニ消散ス而シテ此際舌ノ運動ニハ毫モ障礙無キ者トス

(二) 失語症

失語症 *Die Aphasie* ハ上文述べタルガ如ク腦髓ニ於ケル病竈殊ニ大腦ノ

失語症

一定部及之ニ近接セル冠狀房束ノ疾患ニ因テ來ル者ニシテ單ニ「失語症」ト稱スルハ則チ只言語ノ障礙ニ止マルコト言フ俟タズト雖其障礙亦屢々書字ノ官能(失書症)讀書ノ作用(失讀症)及容姿ノ状態(失態症)ニ涉リ以テ他人ヲ自家ノ意思ヲ會得セシメ若クハ他人ノ意思ヲ理解スルコト能ハザルニ至ルコト有リ

抑モ失語症ノ由テ起ル所ノ關係ハ甚々複雑ニシテ今爰ニ之ヲ詳論スルコト能ハズト雖其諸種ノ別有ルコトヲ了知セント欲セバ各人ガ漸次言語ヲ習熟スルニ至ルノ狀況ヲ知ルヲ良トス蓋シ小兒ノ言語ヲ學ブヤ始テ先ト他人ノ言語ヲ聽キ直ニ之ヲ模倣センコトヲ試ムルノミニシテ其聽取セル言語ヲ理解スルコト無シ他語ヲ以テ之ヲ云ヘバ即チ小兒ノ聽神經ハ他ノ言語ヲ集取シ之ヲ大脳皮質中樞(音覺中樞 *Lautcentrum*)ニ傳ヘ之ヨリ傳導纖維ニ由テ言語筋ノ中樞ニ達シ以テ漸ク言語中樞ヨリ主宰セラル、所ノ言語筋ノ運動ヲ隨意ニ調節ヲ得セシムルヲ習フ者トス而シテ小兒ハ漸々自働的言語器官ノ時期ヨリ理解的言語ト爲スヲ務ムルニ至リ言語ヲ發スルニハ一定ノ意識ヲ以テシ之ニ由テ他人ノ言語ヲ了解シ又自己ノ思想ヲ言語ニ由テ他人ニ傳ヘ以テ他人ヲ

失語症

ノ之ヲ理解セシムルヲ學ブニ至ルヲ以テ聽神經及言語筋ノ皮質中樞ノ他ニ尙理解中樞 (Beijfschuhum) ヲ形成シ管ニ聽神經ヨリ皮質ノ音覺中樞ニ達シタル音象ヲ理解スルノミナラズ亦皮質ノ發音中樞ニ連絡シテ其理解ヲ言語ニ轉化セシムル者トス

別失語症ノ種

運動性失語症
感覺性失語症

失語症ノ種類甚多シト雖ウエルニケ氏ニ憑リ之ヲ二種ニ大別スルヲ得可シ即チ一ハ言語器官ノ障礙ニ因ル者ニシテ運動性失語症 *Motorische Aphasie* ト稱シ一ハ言語官能ノ感覺的領域ニ屬スル障礙ニシテ之ヲ感覺性失語症 *Sensorische Aphasie* ト稱ス

疾患ノ部位ニ由リ諸種ノ失語症ヲ來ス一次ノ如シ

(一)皮質性言語中樞ニ障礙有ルハ患者聽ク所ノ言語ヲ能ク理解シ命ニ應ジテ舌ヲ挺出シ諸多ノ物體ヲ辨知シ毫モ理解力又ハ言語ノ理解部ニ障礙ヲ存スルヲ無シト雖今之ニ命ジテ言語ヲ模擬セシムルカ或ハ自己ノ思想ヲ言語ニ由テ吐露セシメントスルハ則能ハズ是皮質中樞ノ病變ニ由テ言語筋ノ意識ニ從フノ作用失却スルニ因ル者ニシテ其高度ノ者ニ在テハ單一ノ言語ト雖之ヲ模擬シテ發語スルヲ能ハズ試ニ發語セシムルニ時トシ

偏語症

運動性皮質性失語症

錯語症
語弊症
全失語症

患者常ニ意味無キ片言隻語ヲ發シ發語ニ臨ミ自ラ其誤謬タルヲ知ルモ常ニ同一語ヲ反復ス之ヲ偏語症 *Monophasie* ト云フ而シテ此種ノ失語症ハ所謂運動性皮質性失語症 *Motorische corticale Aphasie* ニシテ古來最人ノ了知セル所ナリ

(二)皮質性音覺中樞ニ障礙有ルハ患者聽ク所ノ語ハ悉ク音響トシ成シ毫モ耳聾ト爲リシニ非ズ然レ其音象ニ至テハ全ク失却シ他人ノ言語ヲ理解スルヲ能ハズ但患者想像ニ由リ聽ク所ノ語ヲ解スルヲ無クシ他ノ命ヲ遂グルヲ有リ宜シク注意スベシ又聽神經ト皮質ノ言語中樞トノ連絡斷絶スルヲ以テ患者聽ク所ノ語ヲ模擬スルヲ能ハザレ自己ノ思想ハ能ク言語ヲ以テ吐露シ得可シ然レ其語屢不整ニシ或ハ鳴ルガ如キ言語ヲ發シ又屢言語ヲ誤ルヲ有リ是所謂錯語症 (迷語症) *Paraphasie* ニシテ此種ノ失語症ヲクイスマウエル氏ハ語弊症 *Worttauhheit* ト名ケウエルニケ氏ハ皮質性感覺性失語症 *Corticale sensorische Aphasie* ト名ケタリ

言語中樞ニ廣大ノ損傷有リテ皮質言語筋竝ニ音覺中樞共ニ其官能ヲ障礙セラルハ患者人言ヲ解スル能ハズ又自ラ語ルヲ能ハザルナリ之ヲ全失語症 *Totale Aphasie* ト稱ス

健忘性失語症

(三)皮質ノ言語筋中樞ト理解中樞トノ間ニ在ル傳導纖維斷絶セラレハ患者悉ク言語ヲ失忘シ或ハ只其一部ヲ失忘シ或ハ物體ノ名稱ヲ知ラザルモ其何者タルヤハ能ク辨識シ得可シ故ニ之ニ其名稱ヲ告グルルハ之ニ擬シテ口述スルヲ得可シ之ヲ健忘性失語症 Amnesic Aphasia ト稱ス而シテ此失語症ハ甚ク其度ニ不同有リテ言語ト理解ノ關係親密ナルニ從ヒ益々記憶ヲ失ヒ易シ故ニ固有名詞並ニ物體ノ如キハ最モ忘レ易キモ替詞俚諺ノ如キハ自ラ發語シ得ル者屢之有リトス

傳導性失語症

(四)皮質音覺中樞ト言語筋中樞トノ間ニ在ル傳導纖維障礙セラレハ患者聽ク所ノ語ヲ解シ又隨意ニ談話シ得ルト雖聽ク所ノ語ヲ模擬スルヲ能ハズ但シ理解中樞健全ナルガ爲ニ多少此障礙ヲ補償シ得可シト雖モ多クハ錯語症ヲ來シ隨意ノ談話ニ際シ屢々言語ヲ誤ル者ナリ之ヲ傳導性失語症 Transcortical Aphasia ト稱ス

失語症ヲ來ス部位

失語症ヲ發スル部位ニ就キ吾人ノ信ズル所ニ據レバ運動性失語症ヲ發スル部ハ第三前頭廻轉ニ在リ又感覺性失語症並ニ恐ク亦健忘性失語症ヲ發スル部ハ第一顳額廻轉ニ在リ然レモ是等ノ失語症ハ皆左半側腦ノ疾病ニ於テノミ來ル者ニシテ右側ノ疾病ニ於テハ之ヲ來スル者無ク只左利者ニ之ヲ見ルヲ有ルノミ

腦疾患ノ蔓延スル狀ハ脊髓ニ於ケルガ如ク纖維ノ系統ヲ追ハズ專ラ血管配布ノ狀ニ關係スル者ナルヲ以テ皮質言語中樞ノ變化ヲ受クルモ亦多クハシルウヰ氏溝動脈ノ疾患ニ基因スル者ニシテ實驗ニ徵スルニ該動脈ノ栓塞及血塞ニ由テ腦實質ニ軟化ヲ起スハ失語症ニ最多ノ原因ナリトス然レモ該症ハ血管ノ配布ニ關セズ亦直ニ皮質言語中樞ヲ侵ス所ノ疾患ニ由テ發スルヲ有ルハ固ヨリ言ヲ俟タズ
失語症ハ通常持久的疾患ニシテ只言語ノ演習ニ由リ他側腦皮質ノ同一ノ作用ヲ有スル部漸次言語機能ヲ習フ者ニ於テ輕快若クハ治癒ヲ望ム可シト雖時トシテ其症狀徐々ニ消散スルヲ有リ是蓋シ中樞部真正ノ障礙ヲ受ルニ非ズ只浮腫壓迫等ノ爲ニ一時其官能ヲ妨ゲラル、ニ由ルナリ此他又速ニ經過シテ失語症ヲ略ルヲ有リ即歇斯の里癲癇發作後舞蹈病強梗腸蟲便秘等ニ發スル者ニシテ是又經久ノ解剖的變化ニ因ラズ只一時血液循環ノ障礙

ニ基因スル者ナリ

書字讀書及容姿ノ障礙

失書症及失讀症

運動性失書症

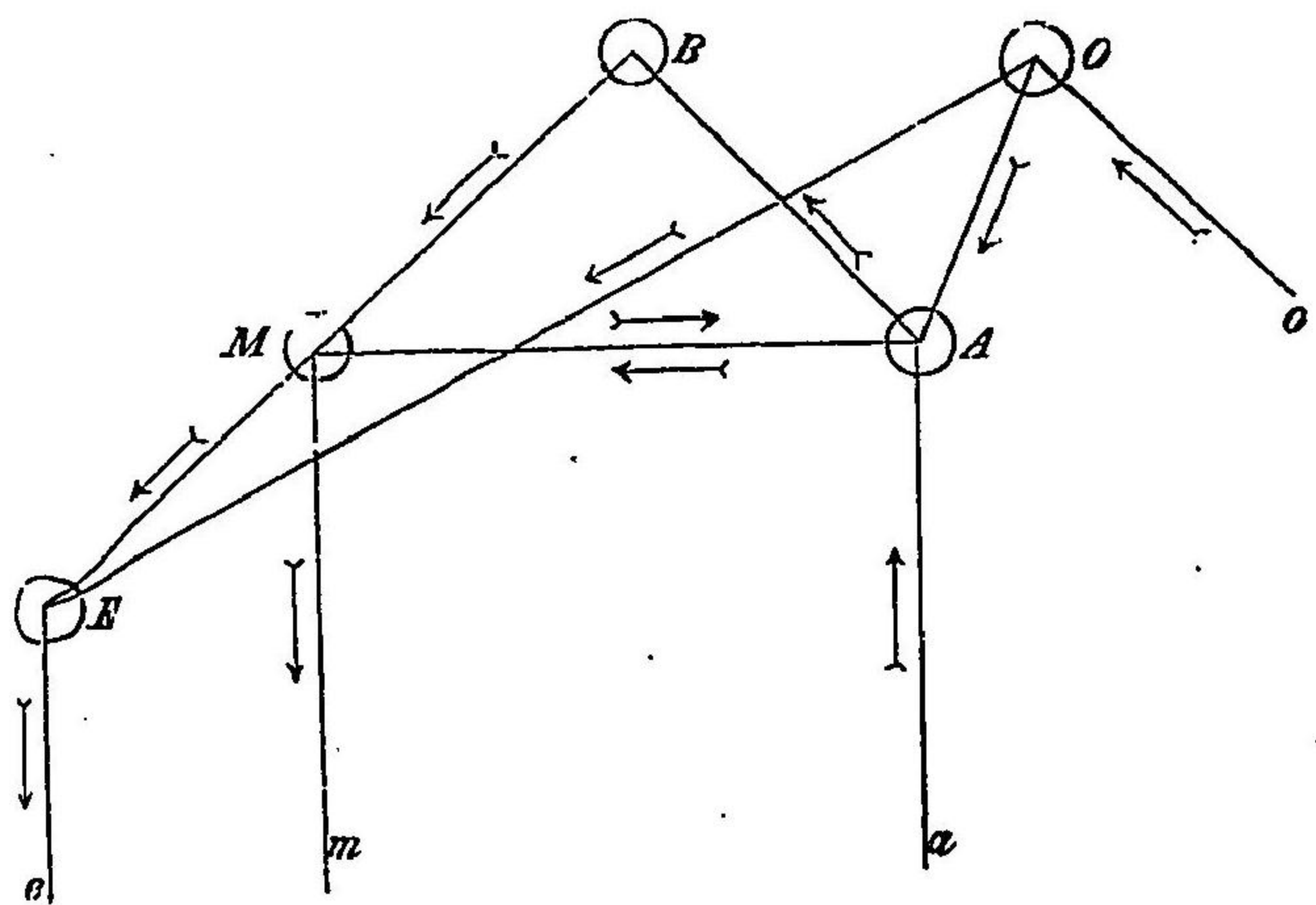
健忘性失書症

精神盲

言語障礙ニ於ケルト齊シク大腦皮質及之ニ接スル髓線ノ疾病ハ亦書字讀書及容姿ノ作用ニ障礙ヲ來ス即チ失書症失讀症及失態症是ナリ

失書症及失讀症 *Agaphie & Almie* ハ失語症ニ併發スルコト甚多キ者ニシテ皮質ノ音覺中樞ニ障礙有ルキハ管ニ語聲症ヲ來スノミナラズ又筆記スル能ハズ又視覺ノ中樞ニ障礙ヲ受クルキハ患者他ノ書字ヲ模擬スルコト能ハザルナリ而シテ是等ノ障礙ハ恰モ言語障礙ニ於ケルト均シク言語筋ハ一定ノ中樞ヨリ其調節的動作ヲ營ムガ如ク書字ノ筋ニ於テハ亦之ト同一ノ關係ヲ有シ若シ其中樞ニ障礙有ルキハ運動性失書症 *Motorische Agaphie* ヲ來シ又理解中樞ト書字筋ノ皮質中樞間ニ在ル所ノ聯合纖維斷絶スルキハ患者自己ノ考フル所ヲ書スル能ハズノ所謂健忘性失書症 *Amnesische Agaphie* ヲ來ス可シ後頭葉ニ於ケル視神經ノ皮質纖維消失スルキハ恰モ語聲症ニ適スル失讀症ヲ來シ患者書字ヲ略ルコト得ルモ之ヲ會得スルコト能ハズ以テ精神盲 *Seelenblindheit* ト爲ル而シテ此皮質性視覺中樞ハ聯合纖維ニ由テ皮質ノ言語筋

第五百三十三圖
リヒトハイム氏ノ言語想像像圖



(O) 音覺中樞 (A) 運動性失書症
 (B) 視覺中樞 (M) 言語筋中樞
 (E) 遠心性運動性傳道 (E) 書字運動性傳道 (E) 其運動性傳道 (E) 理解中樞
 圖中ノ矢ハ神經作用ノ方向ヲ示ス

中樞ニ聯絡ス然ラザレバ書字ヲ音讀スルコト能ハザルナリ是故ニ皮質ノ言語筋中樞ニ障礙有ルキハ運動性失語症ノ他ニ亦運動性失讀症 *Motorische Almie* ヲ來シ患者其書字ヲ理解スルモ之ヲ音讀スルコト能ハザル者トス

失語症狀ヲ了解シ易カラシメンガ爲メ四種ノ中樞各自ト理解中樞トヲ聯絡シタル模圖ヲ作リタリ (ウエルニツケ、ク、スマウル、シャルコ、リヒトハイム等ノ諸氏) 茲ニ先ツリヒトハイム氏ノ言語想像像圖

- (イ) 言語ノ模倣
- (ロ) 書字ノ理解 尋常
- (ハ) 磨寫
- (ニ) 錯語症
- (ホ) 誤寫症(失意ノ書字ニ於テモ同一ノ障礙有リ)
- 左項ニ於テモ同種ノ障礙有リ
- (ヘ) 言語ノ模倣
- (ト) 音讀
- (チ) 筆記
- (四) $A B C D$ 間ノ斷絶(運動性失語症ノ一種)
- (イ) 隨意ノ發語 消失ス(運動性失語症ニ於ケルガ如シ)
- (ロ) 隨意ノ書字
- (ハ) 言語ノ理解
- (ニ) 書字ノ理解 音ニ尋常ナルノミナラズ
- (ホ) 磨寫
- (ヘ) 言語ノ模倣

- (ト) 筆記
- (チ) 音讀
- (五) $A B C D$ 間ノ斷絶(運動性失語症ノ一種)
- 總テ言語ヲ消失スルモ其他尋常ナリ
- (六) $A B C D$ 間ノ斷絶
- (イ) 言語ノ理解 消失ス
- (ロ) 書字ノ理解
- (ハ) 隨意ノ言語障礙セラル(錯言症)
- (ニ) 隨意ノ書字
- (ホ) 言語ノ模倣 保存ス
- (ヘ) 音讀
- (ト) 筆記
- (七) $A B C D$ 間ノ斷絶
- (イ) 言語ノ理解
- (ロ) 言語ノ模倣 消失ス
- (ハ) 筆記

失態症

- (二) 隨意ノ言語
- (ホ) 隨意ノ書字
- (ハ) 書字ノ理解保存ス
- (ト) 音讀
- (チ) 謄寫

又患者自己ノ容姿ヲ表示スルコト能ハザルコト有リ所謂失態症 *Imbecility* 是ナリ而シテ本症ニ在テハ亦他人ノ容姿ヲ理解スルコト能ハズ蓋シ是等諸般ノ障礙ハ多クハ皆合併シ來ル者ニシテ其各自ニ來ル者ノ如キハ罕ナリト雖上記ノ如キ諸種ノ症狀ヲ呈スル者ニ在テハ固有ノ腦力ニ障礙ヲ免カル、ヲ以テ高度ノ失語症ヲ呈スル者ニ在テモ尙智力ノ能ク發達スルヲ睹ルコト多シ

神經ノ疾患ニ於ケル植物性系統ノ障礙

神經ノ疾患ニ於ケル植物性系統ノ障礙

該障礙ニ就テハ其最モ肝要ナル點ヲ掲グ可シ

(一) 一般症狀

一般症狀

所謂卒○中○性○體○質○(頸短厚ニシテ胸廓膨隆シ脂肪肥滿ニシテ顔面潮紅ス)ハ多ク腦出血ノ素因ヲ有スレトシ蒲柳ノ質ニシテ貧血性ノ者モ亦腦出血ヲ來スコト寡カラズ爾他一般ノ體質ニシテ神經ノ疾患ニ素因ヲ有スル者無シ身體ノ榮○養○ハ神經ノ疾患ニ由テ影響ヲ受クルコト各異ニシテ或ハ甚久シク障礙ヲ受ケザルコト有リ或ハ著シキ障礙ヲ來スコト有リ是レ皆之ニ伴フ植物性官能ノ障礙即チ熱瘧瘡其他次ニ述ブルガ如キ内臟諸器ノ障礙ノ有無ニ關ス腦ノ竈局疾患或ハ腦膜炎ノ結核性ナルコトハ(肺結核症、腺病消耗熱等ヲ指キ)榮養ノ著シク不良ナルニ由テ推知ス可シ癩腫ニ於ケルモ亦然リ神經系統ノ疾患ニシテ熱ヲ發スル者次ノ如シ即チ(一)其疾患自己ガ炎症性ノ者ナルカ或ハ傳染性ノ者ナル時(二)癩瘡、膀胱炎等ノ如キ熱ヲ起サシムル所ノ植物性官能障礙ヲ來ス時其他(三)體溫ノ昇騰ハ神經的作用ニ基因スルコト有リ即チ進行性麻痺致死ニ至ラザル頸髓ノ損傷(此際高熱攝氏四十四度或ハ其以上ニ達スルコト有リ)破傷風重症ノ癩癇發作ニ於ケルガ如キ是ナリ體溫ノ下降モ亦主トシテ進行性麻痺及頸髓ノ損傷ニ睹ル所ナリ

(二) 呼吸器系ノ障礙

神經ノ疾患ニ於ケル植物性系統ノ障礙

呼吸器系ノ
障礙

鼻ノ或ハ疾患(即チ鼻茸、海綿組織ノ肥厚、慢性加答兒等)ハ諸般ノ機能神經症殊ニ氣管枝喘息、神經性心臟疾患ト一種特異ノ關係ヲ有スル者ニシテ亦屢之ガ原因ト爲ルコト有リ又鼻ハ篩骨ニ由テ直ニ腦ト其境域ヲ接スルヲ以テ炎症之ニ波及スルキハ爲ニ腦膜炎或ハ腦膿瘍ヲ起サシムルコト有リ

喉頭。其麻痺及知覺不仁ハ先之ヲ主宰スル神經若クハ其中樞ノ障礙ニ歸ス可キ者ニシテトシテ歇斯の里症ニ於テモ亦之ヲ來スコト有リ又神經性咳嗽ハ單ニ神經質ノ者或ハ歇斯の里患者ニ略ル所ナリ此他氣管枝腺腫ニ由リ迷走神經ヲ刺衝スル際竝ニ脊髓癆及歇斯の里ニ於テ輕キハ只刺戟咳嗽ヨリ重キハ恰モ痙攣ニ於ケルガ如キ一種神經性ノ咳嗽發作ヲ來スコト有リ

呼吸困難ハ喘息、尿毒症(慢性尿毒症)ニ於テハ時トシテ其著シキ症候タルコト有リ及糖尿病ニ來リ又呼吸筋ノ官能的及真正麻痺ニ來ル(後者ニ在テハ神經ノ徑路及中樞殊ニ延髓球ニ於ケル呼吸中樞ニ著目ス可シ)其他強直性痙攣及頻發スル間代性痙攣ニ於テハ必ズ呼吸困難ヲ來ス可シ又歇斯の里患者ニ於テハ諸般ノ呼吸狀態ヲ略ル即チ其非常ニ疾速ニシテ而シテ淺表ノ者有リ或ハ甚ク努力シテ深キ呼吸ヲ爲ス者有リ或ハ一時呼吸ヲ停止スル者有リ

循環器系ノ
障礙

所謂シヤインストック氏ノ呼吸現象ニ就テハ既ニ上文ニ述べタリ(前編一七八頁)也

肺及喀痰ニ就テハ二様ノ觀察ヲ要ス即チ一ハ結核ヲ確定センガ爲メ、一ハ近時ノ發見ニ憑レバ腐敗性氣管枝炎、肺膿瘍若クハ肺壞疽及膿胸ト化膿性腦膜炎及腦膿瘍トハ關係ヲ有スレバナリ

(三) 循環器系ノ障礙

心臟ハ腦ノ出血及栓塞性軟化ニ頗ル重大ノ關係ヲ有ス即チ其左室ノ肥大ハ腦出血ノ發生ヲ催ガシ(萎縮腎)又心瓣膜ノ炎症或ハ心臟衰弱ニ由テ生ズル血塞ハ腦栓塞ヲ起サシム血管ノあてろしむ性變化モ亦腦血管ノ出血栓塞及血壁ヲ來ス者ナリ然レモ身體ニ血管ノあてろしむ性變化ヲ發見スルコト無キモ最小ノ腦動脈ニハ屢々出血ヲ起サシムル所ノ動脈瘤ヲ視ルコト有リ是故ニ人事不省ニ陥リタル者殊ニ卒中患者竝ニ腦ニ關係有ル麻痺症ヲ起セル者ニ就テハ須ラク先ニ心臟及血管ヲ精密ニ検査スルヲ最モ肝要トス

心跳及煩悶胸窄ハ心臟ノ器質的疾患ニ來ルモ亦單ニ神經性ノ者(心臟機能神經症)歇斯的里拔設度烏氏病にこちん中毒等ニ來ルコト有リ

脈搏數ニ就テハ既ニ上文ニ述べタリ(前編四三八頁)脈搏ノ一時亢進シ或ハ持